User's Manual

CS+

統合開発環境

ユーザーズマニュアル CC-RX ビルド・ツール操作編

対象デバイス

RX ファミリ

本資料に記載の全ての情報は発行時点のものであり、ルネサス エレクトロニクスは、
予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。
ルネサス エレクトロニクスのホームページなどにより公開される最新情報をご確認ください。

ルネサス エレクトロニクス
www.renesas.com

Rev.1.12　2024.11

ご注意書き

1. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合、お客様の責任において、お客様の機器・システムを設計ください。これらの使用に起因して生じた損害（お客様または第三者いずれに生じた損害も含みます。以下同じです。）に関し、当社は、一切その責任を負いません。
2. 当社製品または本資料に記載された製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズム、応用回路例等の情報の使用に起因して発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権に対する侵害またはこれらに関する紛争について、当社は、何らの保証を行うものではなく、また責任を負うものではありません。
3. 当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
4. 当社製品を組み込んだ製品の輸出入、製造、販売、利用、配布その他の行為を行うにあたり、第三者保有の技術の利用に関するライセンスが必要となる場合、当該ライセンス取得の判断および取得はお客様の責任において行ってください。
5. 当社製品を、全部または一部を問わず、改造、改変、複製、リバースエンジニアリング、その他、不適切に使用しないでください。かかる改造、改変、複製、リバースエンジニアリング等により生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
6. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」および「高品質水準」に分類しており、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使用されることを意図しております。

   標準水準：　コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット等

   高品質水準：輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通制御（信号）、大規模通信機器、金融端末基幹システム、各種安全制御装置等

   当社製品は、データシート等により高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、直接生命・身体に危害を及ぼす可能性のある機器・システム（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの等）、もしくは多大な物的損害を発生させるおそれのある機器・システム（宇宙機器と、海底中継器、原子力制御システム、航空機制御システム、プラント基幹システム、軍事機器等）に使用されることを意図しておらず、これらの用途に使用することは想定していません。たとえ、当社が想定していない用途に当社製品を使用したことにより損害が生じても、当社は一切その責任を負いません。
7. あらゆる半導体製品は、外部攻撃からの安全性を 100%保証されているわけではありません。当社ハードウェア／ソフトウェア製品にはセキュリティ対策が組み込まれているものもありますが、これによって、当社は、セキュリティ脆弱性または侵害（当社製品または当社製品が使用されているシステムに対する不正アクセス・不正使用を含みますが、これに限りません。）から生じる責任を負うものではありません。当社は、当社製品または当社製品が使用されたあらゆるシステムが、不正な改変、攻撃、ウイルス、干渉、ハッキング、データの破壊または窃盗その他の不正な侵入行為（「脆弱性問題」といいます。）によって影響を受けないことを保証しません。当社は、脆弱性問題に起因しまたはこれに関連して生じた損害について、一切責任を負いません。また、法令において認められる限りにおいて、本資料および当社ハードウェア／ソフトウェア製品について、商品性および特定目的との合致に関する保証ならびに第三者の権利を侵害しないことの保証を含め、明示または黙示のいかなる保証も行いません。
8. 当社製品をご使用の際は、最新の製品情報（データシート、ユーザーズマニュアル、アプリケーションノート、信頼性ハンドブックに記載の「半導体デバイスの使用上の一般的な注意事項」等）をご確認の上、当社が指定する最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他指定条件の範囲内でご使用ください。指定条件の範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障、誤動作の不具合および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めていますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は、データシート等において高信頼性、Harsh environment 向け製品と定義しているものを除き、耐放射線設計を行っておりません。仮に当社製品の故障または誤動作が生じた場合であっても、人身事故、火災事故その他社会的損害等を生じさせないよう、お客様の責任において、冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、お客様の機器・システムとしての出荷保証を行ってください。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様の機器・システムとしての安全検証をお客様の責任で行ってください。
10. 当社製品の環境適合性等の詳細につきましては、製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。かかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関して、当社は、一切その責任を負いません。
11. 当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器・システムに使用することはできません。当社製品および技術を輸出、販売または移転等する場合は、「外国為替及び外国貿易法」その他日本国および適用される外国の輸出管理関連法規を遵守し、それらの定めるところに従い必要な手続きを行ってください。
12. お客様が当社製品を第三者に転売等される場合には、事前に当該第三者に対して、本ご注意書き記載の諸条件を通知する責任を負うものといたします。
13. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを禁じます。
14. 本資料に記載されている内容または当社製品についてご不明な点がございましたら、当社の営業担当者までお問合せください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびルネサス エレクトロニクス株式会社が直接的、間接的に支配する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

(Rev.5.0-1 2020.10)

本社所在地

〒 135-0061 東京都江東区豊洲 3-2-24（豊洲フォレシア）

www.renesas.com

お問合せ窓口

弊社の製品や技術、ドキュメントの最新情報、最寄の営業お問合せ窓口に関する情報などは、弊社ウェブサイトをご覧ください。

www.renesas.com/contact/

商標について

ルネサスおよびルネサスロゴはルネサス エレクトロニクス株式会社の商標です。すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

© 2024 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.

このマニュアルの使い方

このマニュアルは，RX ファミリ用アプリケーション・システムを開発する際の統合開発環境である CS+ について説明します。

CS+ は，RX ファミリの統合開発環境（ソフトウエア開発における，設計，実装，デバッグなどの各開発フェーズに必要なツールをプラットフォームである IDE に統合）です。統合することで，さまざまなツールを使い分ける必要がなく，本製品のみを使用して開発のすべてを行うことができます。

対象者	このマニュアルは，CS+ を使用してアプリケーション・システムを開発するユーザを対象としています。
目的	このマニュアルは，CS+ の持つソフトウエア機能をユーザに理解していただき，これらのデバイスを使用するシステムのハードウエア，ソフトウエア開発の参照用資料として役立つことを目的としています。
構成	このマニュアルは，大きく分けて次の内容で構成しています。 1. 概　　説 2. 機　　能 A. ウインドウ・リファレンス
読み方	このマニュアルを読むにあたっては，電気，論理回路，マイクロコンピュータに関する一般知識が必要となります。 凡例　データ表記の重み　：左が上位桁，右が下位桁 アクティブ・ロウの表記　：XXX （端子，信号名称に上線） 注　：本文中についた注の説明 注意　：気をつけて読んでいただきたい内容 備考　：本文中の補足説明 数の表記　：10 進数 ... XXXX 16 進数 ... 0xXXXX

目次

1. 概　説 6
1.1 概　要 6
1.2 特　長 6
2. 機　能 7
2.1 概　要 7
2.1.1 ロード・モジュールを作成する 7
2.1.2 ユーザ・ライブラリを作成する 8
2.2 ビルドを高速化する 9
2.2.1 一括ビルドを行う 9
2.2.2 パラレル・ビルド（並列ビルド）を行う 10
2.3 出力ファイルの種類を設定する 11
2.3.1 出力ファイル名を変更する 12
2.3.2 アセンブル・リストを出力する 15
2.3.3 マップ情報を出力する 15
2.3.4 ライブラリ情報を出力する 16
2.4 コンパイル・オプションを設定する 18
2.4.1 コード・サイズを優先した最適化を行う 18
2.4.2 実行性能を優先した最適化を行う 18
2.4.3 インクルード・パスを追加する 18
2.4.4 マクロ定義を設定する 19
2.5 アセンブル・オプションを設定する 21
2.5.1 インクルード・パスを追加する 21
2.5.2 マクロ定義を設定する 22
2.6 リンク・オプションを設定する 24
2.6.1 ユーザ・ライブラリを追加する 24
2.6.2 オーバーレイ・セクションの選択機能を使用するための準備をする 25
2.7 ヘキサ出力オプションを設定する 34
2.7.1 ヘキサ・ファイルの出力を設定する 34
2.7.2 空き領域を充てんする 35
2.8 ライブラリアン・オプションを設定する 38
2.8.1 ライブラリ・ファイルの出力を設定する 38
2.9 ライブラリ・ジェネレート・オプションを設定する 39
2.9.1 標準ライブラリ・ファイルの出力を設定する 39
2.10 PIC/PID 機能を使用するための準備をする 41
2.11 個別にビルド・オプションを設定する 42
2.11.1 プロジェクト単位でビルド・オプションを設定する 42
2.11.2 ファイル単位でコンパイル／アセンブル・オプションを設定する 42

2.12 スタックを見積もる. 44

A. ウインドウ・リファレンス 45

A.1 説 明. 45

改訂記録 . . . . . C - 1

1. 概　　説

この章では，CC-RX のビルド・ツール・プラグインの概要について説明します。

1.1 概　　要

ビルド・ツール・プラグインでは，ロード・モジュール，またはユーザ・ライブラリを作成するためのビルド・オプションを設定することができます。

1.2 特　　長

以下に，ビルド・ツール・プラグインの特長を示します。

- ビルド・オプション設定
  ほとんどのビルド・オプションを GUI（Graphical User Interface）上で設定することができます。
- ビルド高速化
  ビルドを高速化する機能として，一括ビルドとパラレル・ビルドの 2 種類を提供しています。
  一括ビルドは 1 回のビルド・コマンド呼び出しでファイルを一括してコンパイル／アセンブルを行い，パラレル・ビルドは複数のビルド・コマンドを並列に実行することにより，ビルド時間を短縮することができます。

2. 機　　能

この章では，CS+ を使用したビルドの手順，およびビルドに関する主な機能について説明します。

2.1 概　　要

ここでは，ロード・モジュール，およびユーザ・ライブラリの作成手順について説明します。

2.1.1 ロード・モジュールを作成する

ロード・モジュールの作成手順を以下に示します。

備考　(1)，(2)，(3)，(7)，(8) についての詳細は，「CS+ 統合開発環境 ユーザーズマニュアル プロジェクト操作編」を参照してください。

(1) プロジェクトの作成／読み込み
プロジェクトの新規作成，または既存のプロジェクトの読み込みを行います。

(2) ビルド対象プロジェクトの設定
ビルド対象とするプロジェクトを設定します。

(3) ビルド対象ファイルの設定
ビルド対象ファイルの追加／削除，依存関係の更新などを行います。

(4) ビルド高速化の設定
必要に応じて，ビルド高速化機能の設定を行います（「2.2 ビルドを高速化する」参照）。

(5) 出力ファイルの種類の設定
生成するロード・モジュールの種類を設定します（「2.3 出力ファイルの種類を設定する」参照）。

(6) ビルド・オプションの設定
コンパイラ，アセンブラ，リンカなどに対するオプションを設定します（「2.4 コンパイル・オプションを設定する」，「2.5 アセンブル・オプションを設定する」，「2.6 リンク・オプションを設定する」など参照）。

(7) ビルドの実行
ビルドを実行します。

備考　ビルド処理前，およびビルド処理後に実行したいコマンドがある場合は，プロパティ パネルの［共通オプション］タブの［その他］カテゴリにおいて，［ビルド前に実行するコマンド］プロパティ，および［ビルド後に実行するコマンド］プロパティを設定してください。
ファイル単位でビルド処理前，およびビルド処理後に実行したいコマンドがある場合は，［個別コンパイル・オプション (C)］タブ（C ソース・ファイルの場合），［個別コンパイル・オプション (C++)］タブ（++C ソース・ファイルの場合），および［個別アセンブル・オプション］タブ（アセンブリ・ソース・ファイルの場合）において設定することができます。

注意　ビルド・ツールがコンパイラを起動するとき，環境変数 TMP_RX に，常に Windows の一時フォルダのパスが設定されます。

(8) プロジェクトの保存
プロジェクトの設定内容をプロジェクト・ファイルに保存します。

2.1.2 ユーザ・ライブラリを作成する

ユーザ・ライブラリの作成手順を以下に示します。

備考　(1)，(2)，(3)，(6)，(7) についての詳細は，「CS+ 統合開発環境 ユーザーズマニュアル プロジェクト操作編」を参照してください。

(1) プロジェクトの作成／読み込み
プロジェクトの新規作成，または既存のプロジェクトの読み込みを行います。
プロジェクトを新規作成する際は，ライブラリ用のプロジェクトを設定します。

(2) ビルド対象プロジェクトの設定
ビルド対象とするプロジェクトを設定します。

(3) ビルド対象ファイルの設定
ビルド対象ファイルの追加／削除，依存関係の更新などを行います。

(4) ビルド高速化の設定
必要に応じて，ビルド高速化機能の設定を行います（「2.2 ビルドを高速化する」参照）。

(5) ビルド・オプションの設定
コンパイラ，アセンブラ，ライブラリアンに対するオプションを設定します（「2.4 コンパイル・オプションを設定する」，「2.5 アセンブル・オプションを設定する」，「2.8 ライブラリアン・オプションを設定する」参照）。

(6) ビルドの実行
ビルドを実行します。

備考　ビルド処理前，およびビルド処理後に実行したいコマンドがある場合は，プロパティ パネルの［共通オプション］タブの［その他］カテゴリにおいて，［ビルド前に実行するコマンド］プロパティ，および［ビルド後に実行するコマンド］プロパティを設定してください。
ファイル単位でビルド処理前，およびビルド処理後に実行したいコマンドがある場合は，［個別コンパイル・オプション (C)］タブ（C ソース・ファイルの場合），［個別コンパイル・オプション (C++)］タブ（++C ソース・ファイルの場合），および［個別アセンブル・オプション］タブ（アセンブリ・ソース・ファイルの場合）において設定することができます。

注意　ビルド・ツールがコンパイラを起動するとき，環境変数 TMP_RX に，常に Windows の一時フォルダのパスが設定されます。

(7) プロジェクトの保存
プロジェクトの設定内容をプロジェクト・ファイルに保存します。

2.2 ビルドを高速化する

ここでは，本ビルド・ツールが持つビルド高速化の機能について説明します。

ビルド高速化の機能には，次の種類があります。

一括ビルド	1 回のビルド・コマンド呼び出しで複数のファイルを一括で渡します。 一括ビルドの詳細については，「2.2.1 一括ビルドを行う」を参照してください。
パラレル・ビルド	複数のビルド・コマンドを並列に実行します。 パラレル・ビルドの詳細については，「2.2.2 パラレル・ビルド（並列ビルド）を行う」を参照してください。

2.2.1 一括ビルドを行う

一括ビルドとは，ビルド対象ファイルが複数存在する場合，ccrx コマンド 1 回の呼び出しでファイルを一括してコンパイル／アセンブルを行う機能です。

ccrx コマンドの呼び出しイメージを以下に示します。

例　　ビルド対象ファイルが aaa.c，bbb.c，ccc.c の場合

- 一括ビルドを行う場合

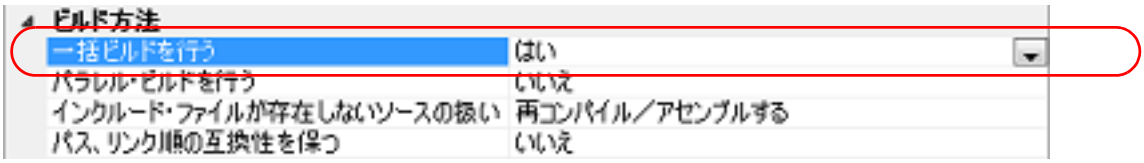
```
>ccrx aaa.c bbb.c ccc.c          ← aaa.obj，bbb.obj，ccc.obj を生成
>rlink aaa.obj bbb.obj ccc.obj ← aaa.abs を生成
```

- 一括ビルドを行わない場合

```
>ccrx aaa.c                      ← aaa.obj を生成
>ccrx bbb.c                      ← bbb.obj を生成
>ccrx ccc.c                      ← ccc.obj を生成
>rlink aaa.obj bbb.obj ccc.obj ← aaa.abs を生成
```

一括ビルドを行うかどうかは，プロパティで設定します。
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［共通オプション］タブを選択します。
［ビルド方法］カテゴリの［一括ビルドを行う］プロパティで，［はい］を選択してください。

図 2.1　　［一括ビルドを行う］プロパティ



備考 1.　　個別オプションを設定しているファイル，およびビルド前実行の対象となっているファイルは，一括ビルドの対象外となります。
一括ビルドの対象外となったファイルについては，個別にビルドを行います。

備考 2.　　ソース・ファイルが，生成するオブジェクト・ファイル，および関連するプロパティやプロジェクトなどより古い場合は，ソース・ファイルではなく，オブジェクト・ファイルがビルド対象となります。

ビルド高速化の機能としては，ほかにパラレル・ビルドがあります。
パラレル・ビルドについての詳細は，「2.2.2 パラレル・ビルド（並列ビルド）を行う」を参照してください。

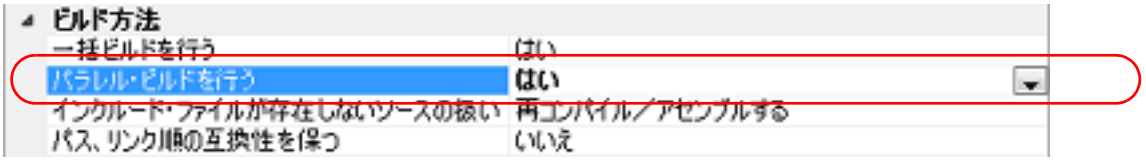
2.2.2 パラレル・ビルド（並列ビルド）を行う

パラレル・ビルド（並列ビルド）とは，ビルド時に複数のソース・ファイルを並列にビルドし，ビルド時間を短縮できる機能です。
パラレル・ビルドは，ホストマシンの論理 CPU 数に応じて複数個同時にビルドを行うため，CPU コア数が多いマシン上においてより高い効果があります。

パラレル・ビルドの機能は 2 種類あります。それぞれの処理，およびその設定方法を以下に示します。

(1) ソース・ファイル間パラレル・ビルド
プロジェクトに登録されている複数のソース・ファイル間のパラレル・ビルドを行う場合は，プロパティ パネルの［共通オプション］タブの［パラレル・ビルドを行う］プロパティにて設定します。

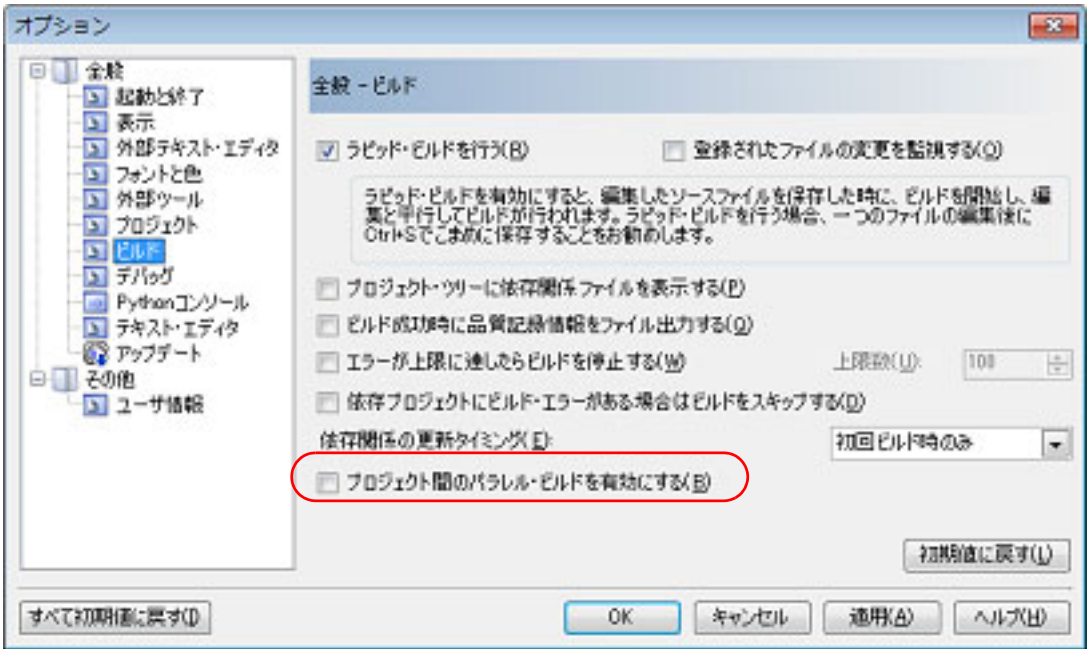
図 2.2　［パラレル・ビルドを行う］プロパティ



備考　ビルド高速化機能としては，ほかに一括ビルドがあります。
これは複数のソース・ファイルを一度にビルド・コマンド処理する機能であり，その性質上，パラレル・ビルドと同時に指定することでの効果はありません。一般的に，ご使用のホストマシンの CPU コア数が多いほど，またプロジェクトに登録されているソース・ファイル数が多いほど，パラレル・ビルドのほうがより高速となります。
ただし，大域最適化など，一括ビルドと組み合わせて使う必要があるプロパティもありますので，状況に応じて使い分けてください。
一括ビルドについての詳細は，「2.2.1 一括ビルドを行う」を参照してください。

(2) プロジェクト間パラレル・ビルド
メイン・プロジェクト，およびサブプロジェクト間のパラレル・ビルドを行う場合は，オプション ダイアログの［全般 - ビルド］カテゴリの［プロジェクト間のパラレル・ビルドを有効にする］にて設定します。

図 2.3　オプション ダイアログ（［全般 - ビルド］カテゴリ）



また，プロパティ パネルの［共通オプション］タブの［パラレル・ビルドを行う］プロパティで［はい］を選択してください。

備考　プロジェクト間に依存関係がある場合は，パラレル・ビルド機能を使用する前に，プロジェクトの依存関係を正しく設定してください。依存関係の設定がされない状態でメイン・プロジェクト，およびサブプロジェクトのパラレル・ビルドを行うと，プロジェクトのビルド順に関係なく，並列にビルドが行われてしまいます。

プロジェクトの依存関係の設定については，「CS+ 統合開発環境 ユーザーズマニュアル プロジェクト操作編」を参照してください。

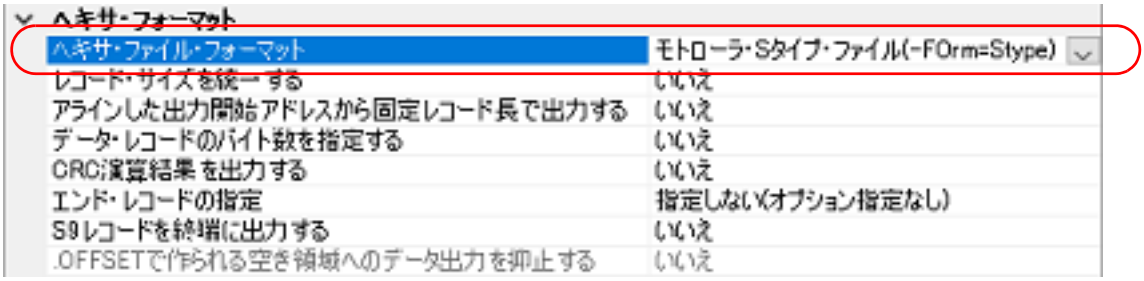
2.3 出力ファイルの種類を設定する

ビルドの生成物として出力するファイルの種類を設定します。

(1) アプリケーション用のプロジェクト
ロード・モジュール・ファイルを出力します。
ロード・モジュール・ファイルがデバッグ対象となります。
ビルドの生成物として，ロード・モジュール・ファイルのほかに出力するファイルの種類を選択します。

プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ヘキサ出力オプション］タブを選択します。［ヘキサ・フォーマット］カテゴリの［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティにおいて，ファイルの種類を選択してください。

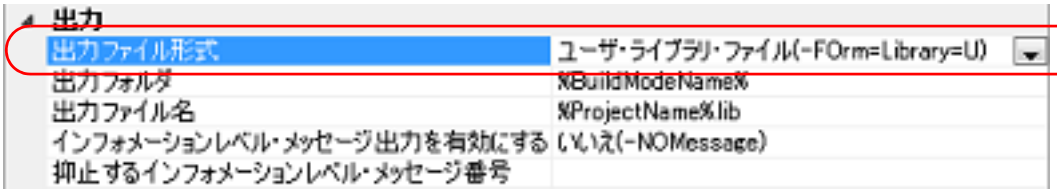
図 2.4　［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティ



- ［ヘキサ・ファイル（-FOrm=Hexadecimal)］を選択した場合
ロード・モジュール・ファイルから，ヘキサ・ファイルを出力します。
- ［S レコード・ファイル（-FOrm=Stype)］を選択した場合（デフォルト）
ロード・モジュール・ファイルから，モトローラ S フォーマット・ファイルを出力します。
- ［バイナリ・データ・ファイル（-FOrm=Binary)］を選択した場合
ロード・モジュール・ファイルから，バイナリ・データ・ファイルを出力します。

(2) ライブラリ用のプロジェクト
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ライブラリアン・オプション］タブを選択します。［出力］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティにおいて，ファイルの種類を選択してください。

図 2.5　［出力ファイル形式］プロパティ



- ［ユーザ・ライブラリ・ファイル（-FOrm=Library=U)］を選択した場合（デフォルト）
ユーザ・ライブラリ・ファイルを出力します。
- ［システム・ライブラリ・ファイル（-FOrm=Library=S)］を選択した場合
システム・ライブラリ・ファイルを出力します。
- ［リロケータブル・モジュール・ファイル（-FOrm=Relocate)］を選択した場合
リロケータブル・モジュール・ファイルを出力します。

出力ファイルの拡張子が変更される場合，以下のメッセージ ダイアログがオープンします。

図 2.6 メッセージ ダイアログ

ダイアログ上で［はい］をクリックすると，ファイルの拡張子を出力ファイルの種類に応じた拡張子に置き換えます。［いいえ］をクリックすると，現在のファイルの拡張子を置き換えません。

2.3.1 出力ファイル名を変更する

ビルド・ツールが出力するロード・モジュール・ファイル，ヘキサ・ファイル，S レコード・ファイル，バイナリ・データ・ファイル，リロケータブル・モジュール・ファイル，ライブラリ・ファイルのファイル名は，デフォルトで次の名前が設定されています。

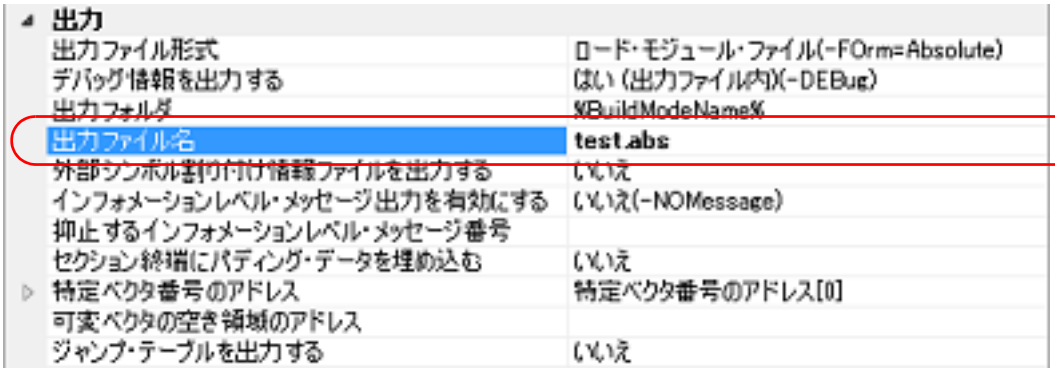
ロード・モジュール・ファイル名	:	%ProjectName%.abs
ヘキサ・ファイル名	:	%ProjectName%.hex
S レコード・ファイル名	:	%ProjectName%.mot
バイナリ・データ・ファイル名	:	%ProjectName%.bin
リロケータブル・モジュール・ファイル名	:	%ProjectName%.rel
ライブラリ・ファイル名	:	%ProjectName%.lib

備考 “%ProjectName%” はプレースホルダで，プロジェクト名に置換します。

これらのファイル名の変更方法を，以下に示します。

(1) ロード・モジュール・ファイル名を変更する場合
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［リンク・オプション］タブを選択します。［出力］カテゴリの［出力ファイル名］プロパティにおいて，変更するファイル名を入力してください。

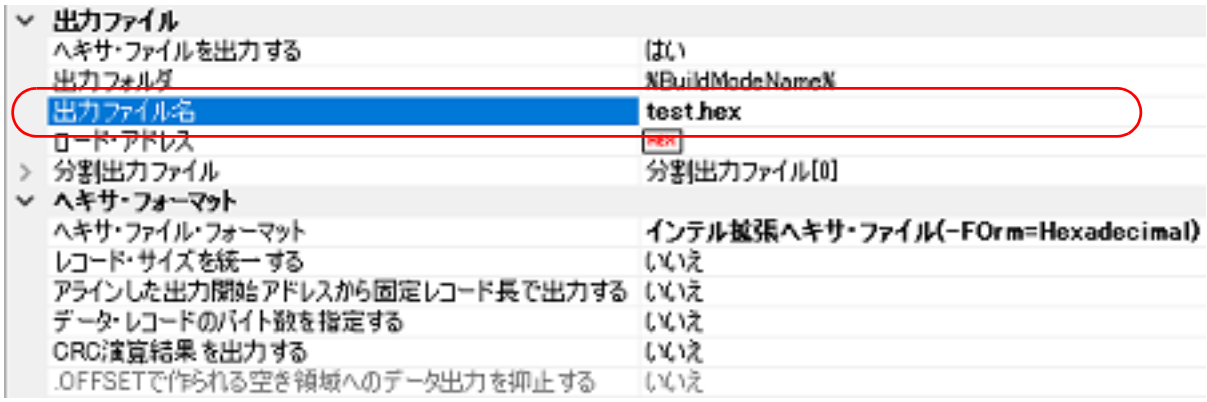
図 2.7 ［出力ファイル名］プロパティ（ロード・モジュール・ファイルの場合）



本プロパティは，次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectName% : アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% : ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectName% : メイン・プロジェクト名に置換します。
%ProjectName% : プロジェクト名に置換します。

(2) ヘキサ・ファイル名を変更する場合
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ヘキサ出力オプション］タブを選択します。［出力ファイル］カテゴリの［出力ファイル名］プロパティにおいて，変更するファイル名を入力してください。

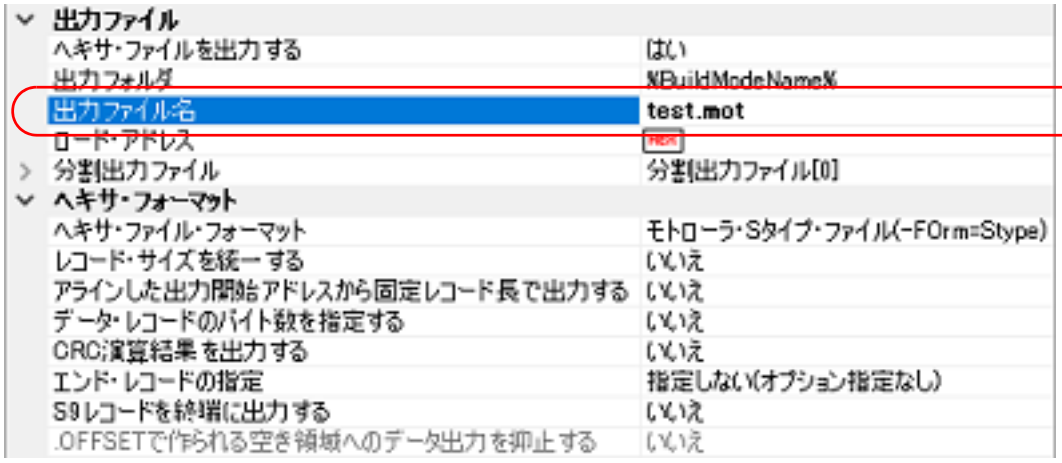
図 2.8 ［出力ファイル名］プロパティ（ヘキサ・ファイルの場合）



本プロパティは，次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectName% ： アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectName% ： メイン・プロジェクト名に置換します。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。

(3) S レコード・ファイル名を変更する場合
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ヘキサ出力オプション］タブを選択します。［出力ファイル］カテゴリの［出力ファイル名］プロパティにおいて，変更するファイル名を入力してください。

図 2.9 ［出力ファイル名］プロパティ（S レコード・ファイルの場合）



本プロパティは，次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectName% ： アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectName% ： メイン・プロジェクト名に置換します。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。

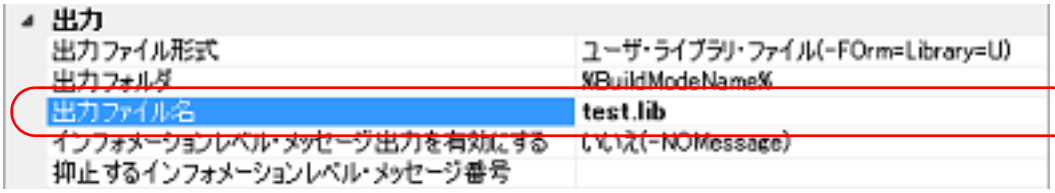
(4) バイナリ・データ・ファイル名を変更する場合
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ヘキサ出力オプション］タブを選択します。［出力ファイル］カテゴリの［出力ファイル名］プロパティにおいて，変更するファイル名を入力してください。

図 2.10 ［出力ファイル名］プロパティ（バイナリ・データ・ファイルの場合）

本プロパティは，次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectName% ： アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectName% ： メイン・プロジェクト名に置換します。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。

(5) ユーザ・ライブラリ・ファイル名を変更する場合
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ライブラリアン・オプション］タブを選択します。［出力］カテゴリの［出力ファイル名］プロパティにおいて，変更するファイル名を入力してください。

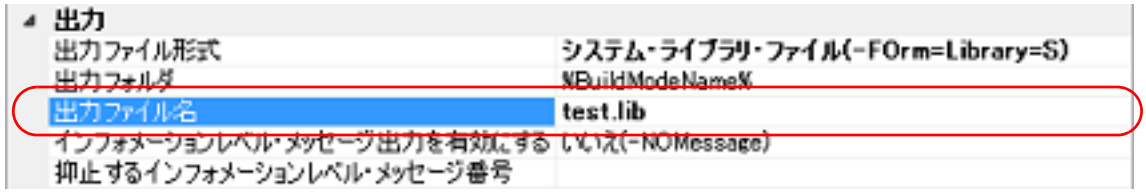
図 2.11 ［出力ファイル名］プロパティ（ユーザ･ライブラリ・ファイルの場合）



本プロパティは，次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectName% ： アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectName% ： メイン・プロジェクト名に置換します。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。

(6) システム・ライブラリ・ファイル名を変更する場合
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ライブラリアン・オプション］タブを選択します。［出力］カテゴリの［出力ファイル名］プロパティにおいて，変更するファイル名を入力してください。

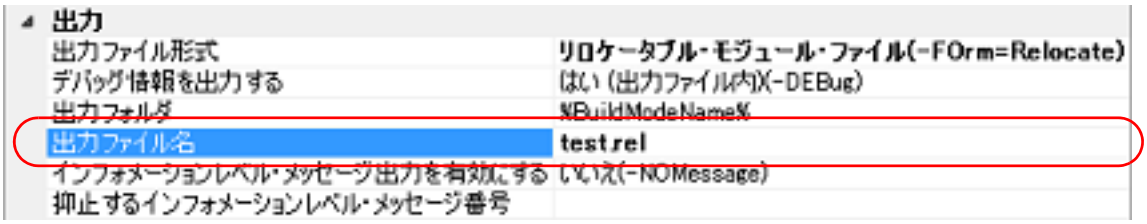
図 2.12 ［出力ファイル名］プロパティ（システム・ライブラリ・ファイルの場合）



本プロパティは，次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectName% ： アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectName% ： メイン・プロジェクト名に置換します。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。

(7) リロケータブル・モジュール・ファイル名を変更する場合
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ライブラリアン・オプション］タブを選択します。［出力］カテゴリの［出力ファイル名］プロパティにおいて，変更するファイル名を入力してください。

図 2.13 ［出力ファイル名］プロパティ（リロケータブル・モジュール・ファイルの場合）



本プロパティは，次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectName% ： アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectName% ： メイン・プロジェクト名に置換します。

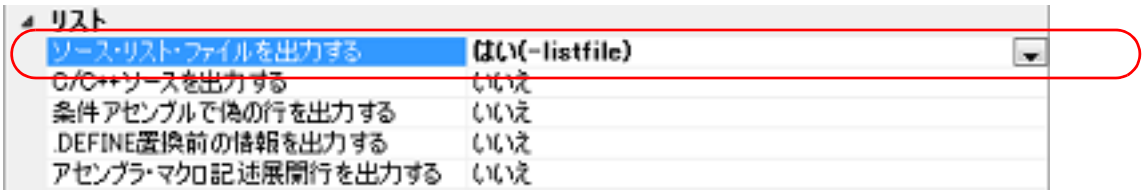
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。

2.3.2 アセンブル・リストを出力する

アセンブル結果はアセンブル・リスト・ファイルに出力されます。

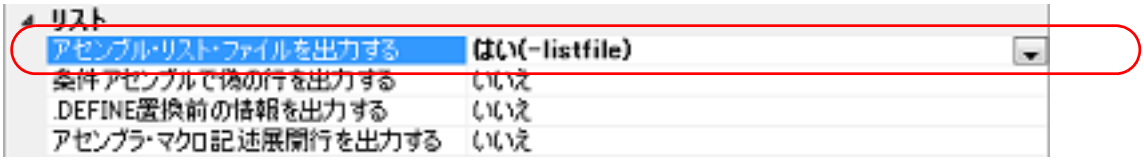
(1) C ソース・ファイル／C++ ソース・ファイルの場合
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［コンパイル・オプション］タブを選択します。
アセンブル・リストを出力するには，［リスト］カテゴリの［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile)］を選択してください。

図 2.14 ［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティ



(2) アセンブラ・ソース・ファイルの場合
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［アセンブル・オプション］タブを選択します。
アセンブル・リストを出力するには，［リスト］カテゴリの［アセンブル・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile)］を選択してください。

図 2.15 ［アセンブル・リスト・ファイルを出力する］プロパティ



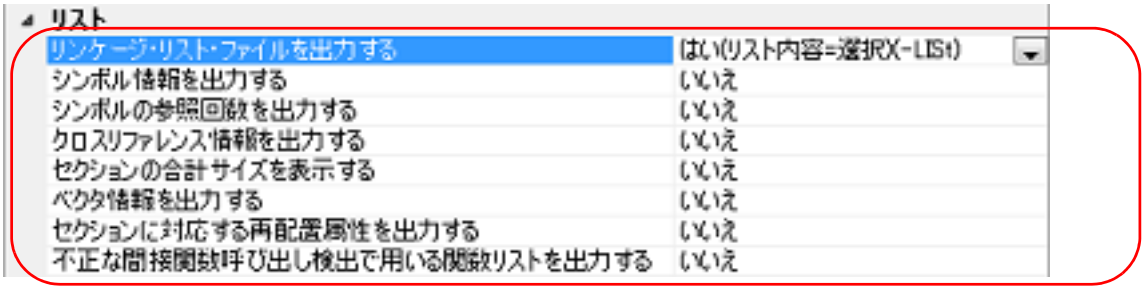
備考 アセンブル・リスト・ファイルについての詳細は，「CC-RX コンパイラ ユーザーズマニュアル」を参照してください。

2.3.3 マップ情報を出力する

マップ情報（リンク結果の情報）は，リンケージ・リスト・ファイルに出力します。

(1) ロード・モジュール・ファイルの場合
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［リンク・オプション］タブを選択します。
リンケージ・リスト・ファイルの出力の設定は，［リスト］カテゴリで行います。

図 2.16 ［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティ



リンケージ・リスト・ファイルの出力の設定は，［リスト］カテゴリの［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LIST)］を選択してください。
リンケージ・リスト・ファイルを出力する場合，リンカが出力するリンケージ・リスト・ファイルの内容を選択することができます。

(a) シンボル情報の出力設定
［シンボル情報を出力する］プロパティで［はい (-SHow=SYmbol)］を選択してください。

(b) シンボルの参照回数の出力設定
［シンボルの参照回数を出力する］プロパティで［はい (-SHow=Reference)］を選択してください。

(c) クロスリファレンス情報の出力設定
［クロスリファレンス情報を出力する］プロパティで［はい (-SHow=Xreference)］を選択してください。

(d) セクションの合計サイズの出力設定
［セクションの合計サイズを表示する］プロパティで［はい (-SHow=Total_size)］を選択してください。

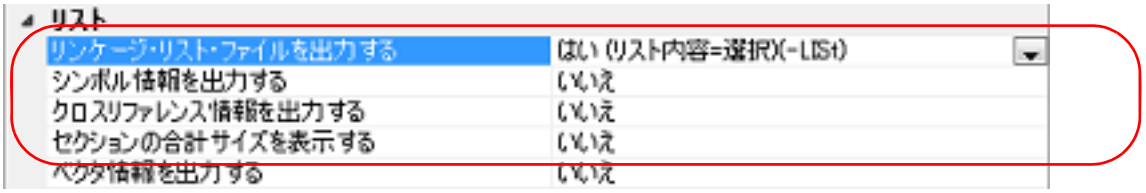
(e) ベクタ情報の出力設定
［ベクタ情報を出力する］プロパティで［はい (-SHow=VECTOR)］を選択してください。

(f) セクションに対応する再配置属性の出力設定
［セクションに対応する再配置属性を出力する］プロパティで［はい (-SHow=RELOCATION_ATTRIBUTE)］を選択してください。

(g) 不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストの出力設定
［不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを出力する］プロパティで［はい (-SHow=CFI)］を選択してください。

(2) リロケータブル・モジュール・ファイルの場合
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ライブラリアン・オプション］タブを選択します。
リンケージ・リスト・ファイルの出力の設定は，［リスト］カテゴリで行います。

図 2.17 ［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティ



リンケージ・リスト・ファイルの出力の設定は，［リスト］カテゴリの［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)］を選択してください。
リンケージ・リスト・ファイルを出力する場合，リンカが出力するリンケージ・リスト・ファイルの内容を選択することができます。

(a) シンボル情報の出力設定
［シンボル情報を出力する］プロパティで［はい (-SHow=SYmbol)］を選択してください。

(b) クロスリファレンス情報の出力設定
［クロスリファレンス情報を出力する］プロパティで［はい (-SHow=Xreference)］を選択してください。

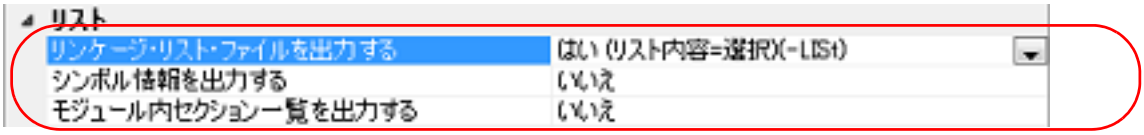
(c) セクションの合計サイズの出力設定
［セクションの合計サイズを表示する］プロパティで［はい (-SHow=Total_size)］を選択してください。

備考 リンケージ・リスト・ファイルについての詳細は，「CC-RX コンパイラ ユーザーズマニュアル」を参照してください。

2.3.4 ライブラリ情報を出力する

ライブラリ情報（リンク結果の情報）は，ライブラリ・リスト・ファイルに出力します。
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ライブラリアン・オプション］タブを選択します。
ライブラリ・リスト・ファイルの出力の設定は，［リスト］カテゴリで行います。

図 2.18 ［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティ



ライブラリ・リスト・ファイルを出力するには，［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)］を選択してください。
ライブラリ・リスト・ファイルを出力する場合，リンカが出力するライブラリ・リスト・ファイルの内容を選択することができます。

(1) モジュール内シンボル名一覧の出力設定
［シンボル情報を出力する］プロパティで［はい (-SHow=SYmbol)］を選択してください。

(2) 各モジュール内セクション名／シンボル名一覧の出力設定
［モジュール内セクション一覧を出力する］プロパティで［はい (-SHow=SEction)］を選択してください。

備考　ライブラリ・リスト・ファイルについての詳細は，「CC-RX コンパイラ ユーザーズマニュアル」を参照してください。

2.4 コンパイル・オプションを設定する

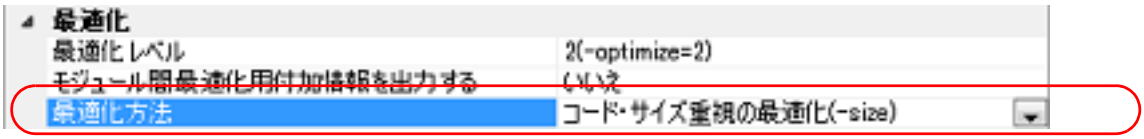
コンパイル・フェーズに対するオプションを設定するには，プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［コンパイル・オプション］タブを選択してください。
タブ上で各プロパティを設定することにより，対応するコンパイル・オプションを設定することができます。

備考　　よく使うオプションについては，［共通オプション］タブの［よく使うオプション（コンパイル）］カテゴリにまとめられています。

2.4.1 コード・サイズを優先した最適化を行う

プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［コンパイル・オプション］タブを選択します。
コード・サイズを優先した最適化を行うには，［最適化］カテゴリの［最適化方法］プロパティで［コード・サイズ重視の最適化 (-size)］を選択してください。

図 2.19　［最適化方法］プロパティ（コード・サイズ優先の場合）

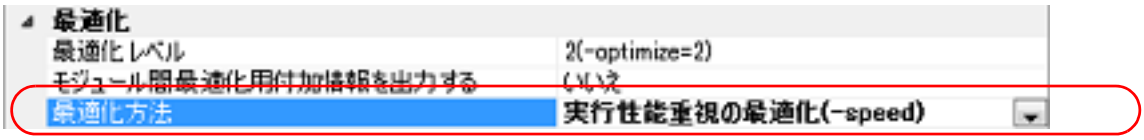


備考　　［共通オプション］タブの［よく使うオプション（コンパイル）］カテゴリの［最適化方法］プロパティでも，同様に設定することができます。

2.4.2 実行性能を優先した最適化を行う

プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［コンパイル・オプション］タブを選択します。
実行性能を優先した最適化を行うには，［最適化］カテゴリの［最適化方法］プロパティで［実行性能重視の最適化 (-speed)］を選択してください（デフォルトでは，［コード・サイズ重視の最適化 (-size)］が選択されています）。

図 2.20　［最適化方法］プロパティ（実行性能優先の場合）

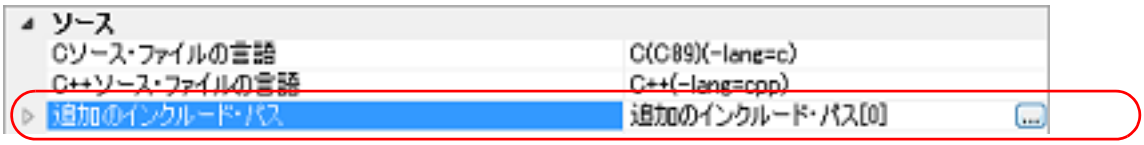


備考　　［共通オプション］タブの［よく使うオプション（コンパイル）］カテゴリの［最適化方法］プロパティでも，同様に設定することができます。

2.4.3 インクルード・パスを追加する

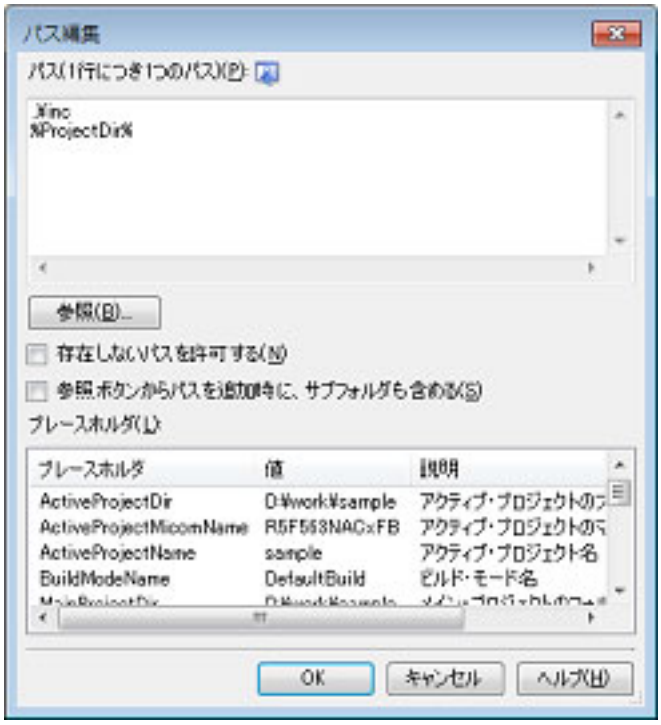
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［コンパイル・オプション］タブを選択します。
インクルード・パスの設定は，［ソース］カテゴリの［追加のインクルード・パス］プロパティで行います。

図 2.21　［追加のインクルード・パス］プロパティ



［...］ボタンをクリックすると，パス編集 ダイアログがオープンします。

図 2.22 パス編集 ダイアログ



［パス (1 行につき 1 つのパス)］にインクルード・パスを 1 行に 1 つずつ入力します。
1 行に 247 文字まで指定可能です。

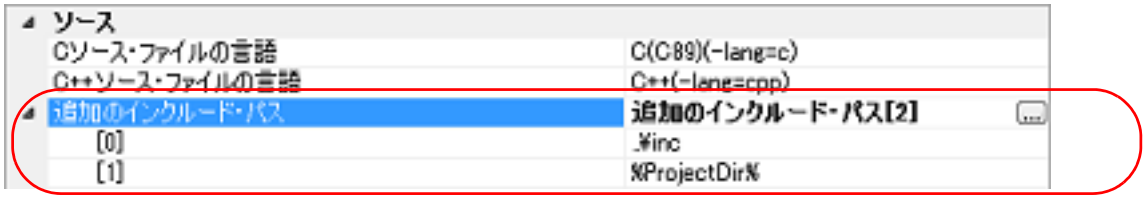
備考 1. インクルード・パスは，以下のいずれかの方法で指定することも可能です。

- エクスプローラなどからフォルダのドラッグ・アンド・ドロップ
- ［参照 ...］ボタンをクリックし，フォルダの参照 ダイアログによるフォルダの選択
- ［プレースホルダ］において行をダブルクリック

備考 2. ［参照ボタンからパスを追加時に、サブフォルダも含める］をチェックしたのち，［参照 ...］ボタンからパスの指定を行うと，指定したパスとそのサブフォルダ 5 階層分までのパスが［パス (1 行につき 1 つのパス)］に追加されます。

［OK］ボタンをクリックすると，入力したインクルード・パスがサブプロパティとして表示します。

図 2.23 ［追加のインクルード・パス］プロパティ（インクルード・パス追加後）



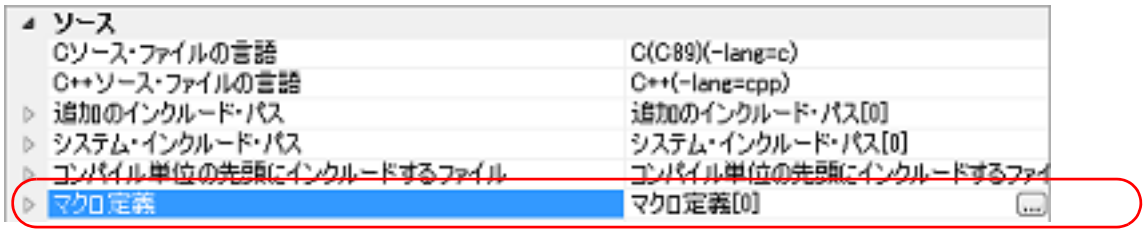
インクルード・パスの変更は，［...］ボタン，またはサブプロパティのテキスト・ボックスへの直接入力により行うことができます。
また，プロジェクト・ツリーにインクルード・ファイルを追加すると，そのインクルード・パスをサブプロパティの一番最初に自動で追加します。

備考 ［共通オプション］タブの［よく使うオプション（コンパイル）］カテゴリの［追加のインクルード・パス］プロパティでも，同様に設定することができます。

2.4.4 マクロ定義を設定する

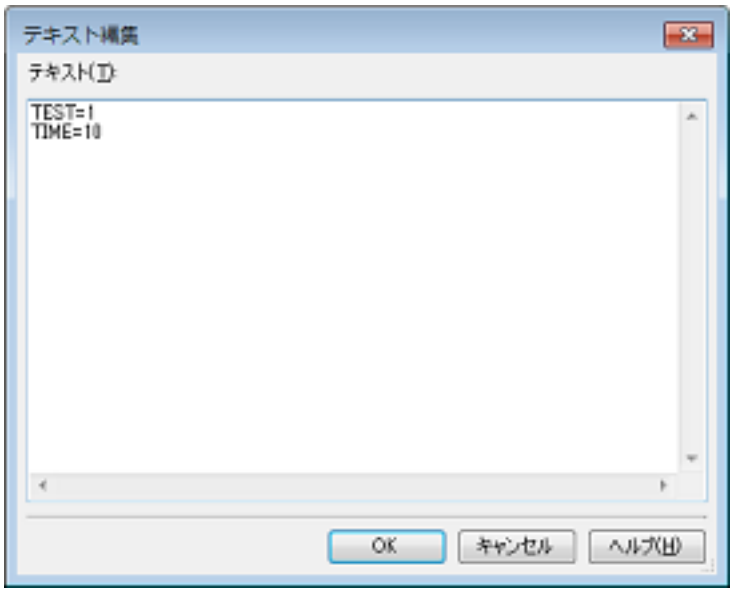
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［コンパイル・オプション］タブを選択します。
マクロ定義の設定は，［ソース］カテゴリの［マクロ定義］プロパティで行います。

図 2.24 ［マクロ定義］プロパティ



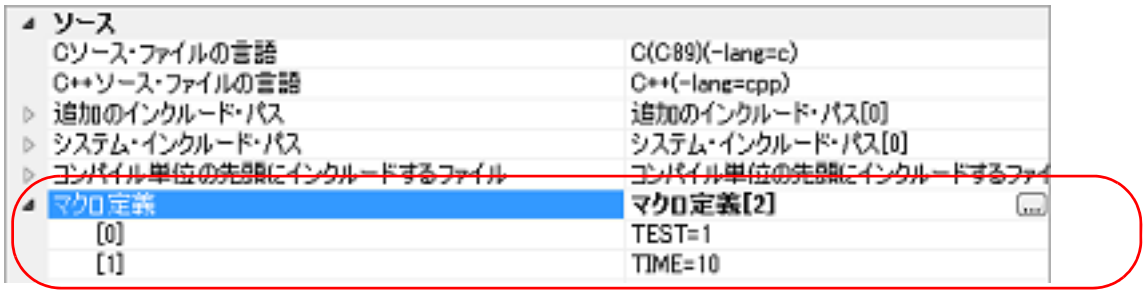
［...］ボタンをクリックすると，テキスト編集 ダイアログがオープンします。

図 2.25 テキスト編集 ダイアログ



［テキスト］にマクロ定義を「*マクロ名* = *文字列*」の形式で 1 行に 1 つずつ入力します。
1 行に 32767 文字まで，65535 行まで指定可能です。
「= *文字列*」の部分は省略可能で，省略した場合，そのマクロ名が定義されたものと仮定します。
［OK］ボタンをクリックすると，入力したマクロ定義をサブプロパティとして表示します。

図 2.26 ［マクロ定義］プロパティ（マクロ定義設定後）



マクロ定義の変更は，［...］ボタン，またはサブプロパティのテキスト・ボックスへの直接入力により行うことができます。

備考 ［共通オプション］タブの［よく使うオプション（コンパイル）］カテゴリの［マクロ定義］プロパティでも，同様に設定することができます。

2.5 アセンブル・オプションを設定する

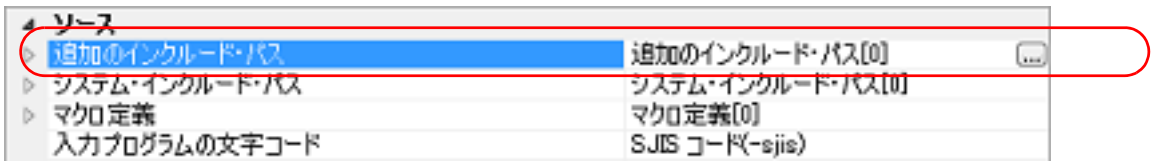
アセンブル・フェーズに対するオプションを設定するには，プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［アセンブル・オプション］タブを選択してください。
タブ上で各プロパティを設定することにより，対応するアセンブル・オプションを設定することができます。

備考　　よく使うオプションについては，［共通オプション］タブの［よく使うオプション（アセンブル）］カテゴリにまとめられています。

2.5.1 インクルード・パスを追加する

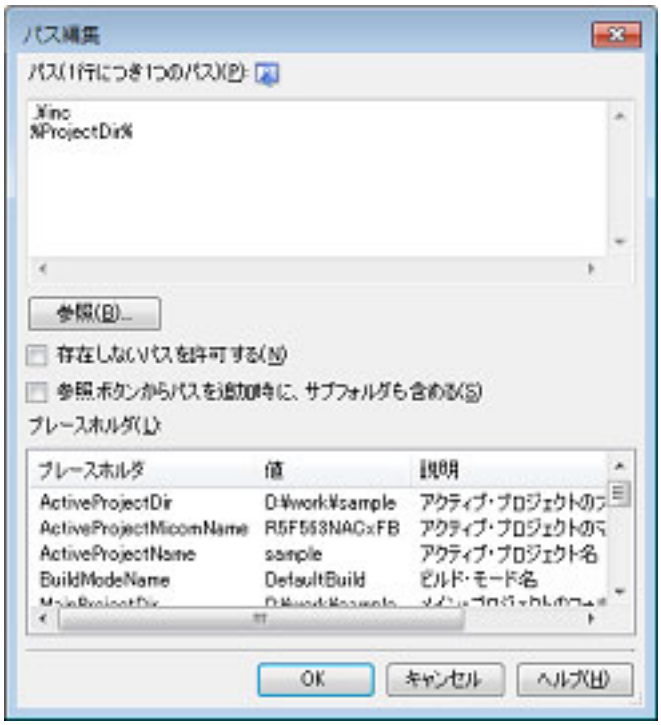
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［アセンブル・オプション］タブを選択します。
インクルード・パスの設定は，［ソース］カテゴリの［追加のインクルード・パス］プロパティで行います。

図 2.27　［追加のインクルード・パス］プロパティ



［...］ボタンをクリックすると，パス編集 ダイアログがオープンします。

図 2.28　パス編集 ダイアログ



［パス (1 行につき 1 つのパス)］にインクルード・パスを 1 行に 1 つずつ入力します。
1 行に 247 文字まで指定可能です。

備考 1.　　インクルード・パスは，以下のいずれかの方法で指定することも可能です。

- エクスプローラなどからフォルダのドラッグ・アンド・ドロップ
- ［参照 ...］ボタンをクリックし，フォルダの参照 ダイアログによるフォルダの選択
- ［プレースホルダ］において行をダブルクリック

備考 2.　　［参照ボタンからパスを追加時に、サブフォルダも含める］をチェックしたのち，［参照 ...］ボタンからパスの指定を行うと，指定したパスとそのサブフォルダ 5 階層分までのパスが［パス (1 行につき 1 つのパス)］に追加されます。

［OK］ボタンをクリックすると，入力したインクルード・パスがサブプロパティとして表示します。

図 2.29　　［追加のインクルード・パス］プロパティ（インクルード・パス追加後）

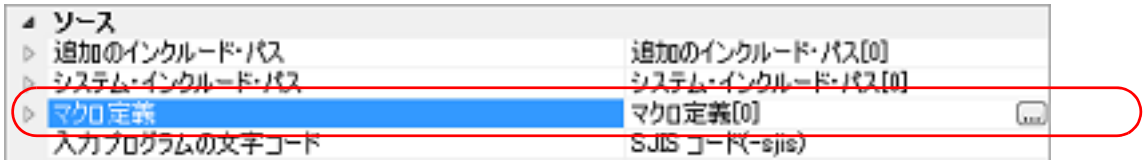
インクルード・パスの変更は，［...］ボタン，またはサブプロパティのテキスト・ボックスへの直接入力により行うことができます。
また，プロジェクト・ツリーにインクルード・ファイルを追加すると，そのインクルード・パスをサブプロパティの一番最初に自動で追加します。

備考　　［共通オプション］タブの［よく使うオプション（アセンブル）］カテゴリの［追加のインクルード・パス］プロパティでも，同様に設定することができます。

2.5.2 マクロ定義を設定する

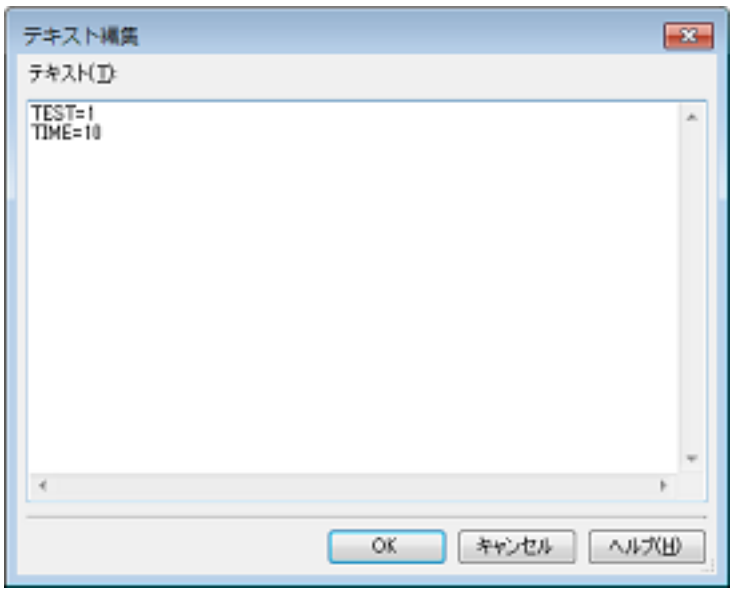
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［アセンブル・オプション］タブを選択します。
マクロ定義の設定は，［ソース］カテゴリの［マクロ定義］プロパティで行います。

図 2.30　　［マクロ定義］プロパティ



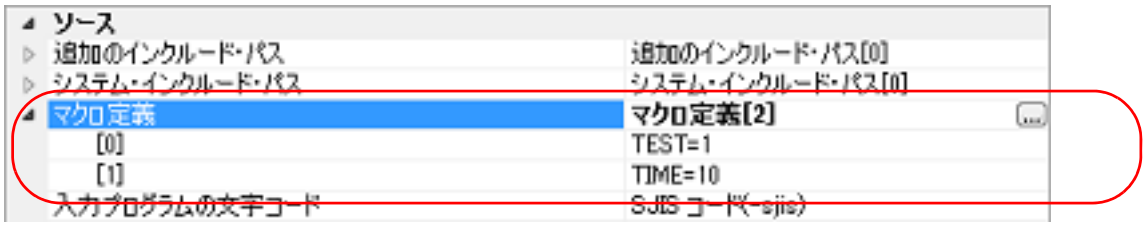
［...］ボタンをクリックすると，テキスト編集 ダイアログがオープンします。

図 2.31　　テキスト編集 ダイアログ



［テキスト］にマクロ定義を「*マクロ名 = 文字列*」の形式で 1 行に 1 つずつ入力します。
1 行に 32767 文字まで，65535 行まで指定可能です。
［OK］ボタンをクリックすると，入力したマクロ定義をサブプロパティとして表示します。

図 2.32 ［マクロ定義］プロパティ（マクロ定義設定後）



マクロ定義の変更は，［...］ボタン，またはサブプロパティのテキスト・ボックスへの直接入力により行うことができます。

備考 ［共通オプション］タブの［よく使うオプション（アセンブル）］カテゴリの［マクロ定義］プロパティでも，同様に設定することができます。

2.6 リンク・オプションを設定する

リンク・フェーズに対するオプションを設定するには，プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［リンク・オプション］タブを選択してください。
タブ上で各プロパティを設定することにより，対応するリンク・オプションを設定することができます。

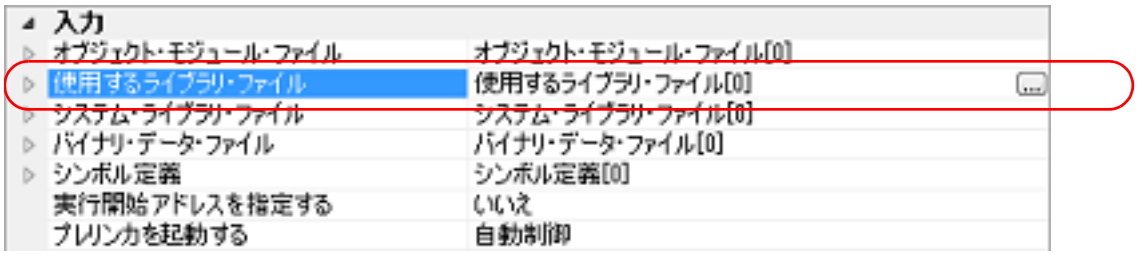
注意　本タブは，ライブラリ用のプロジェクトの場合は表示しません。

備考　よく使うオプションについては，［共通オプション］タブの［よく使うオプション（リンク）］カテゴリにまとめられています。

2.6.1 ユーザ・ライブラリを追加する

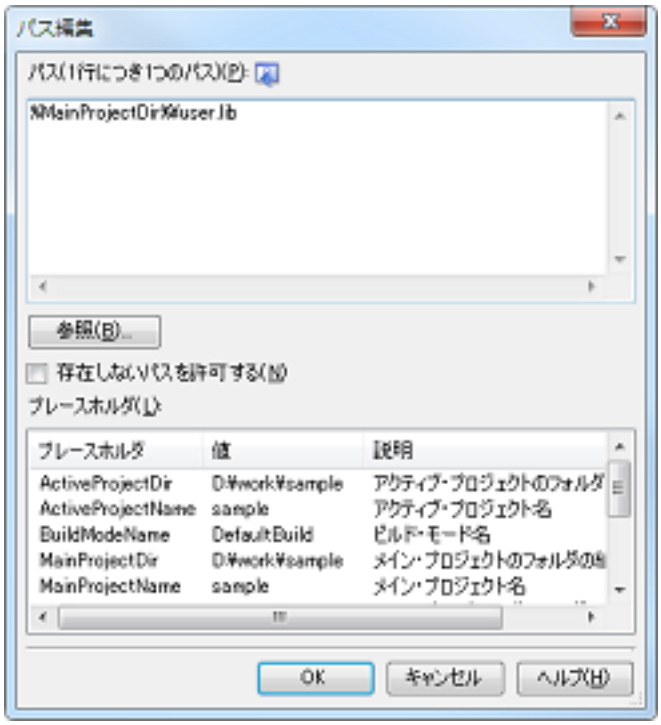
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［リンク・オプション］タブを選択します。
ユーザ・ライブラリの追加は，［入力］カテゴリの［使用するライブラリ・ファイル］プロパティで行います。

図 2.33　［ライブラリ・ファイル］プロパティ



［...］ボタンをクリックすると，パス編集 ダイアログがオープンします。

図 2.34　パス編集 ダイアログ



［パス (1 行につき 1 つのパス)］にライブラリ・ファイル（パスを含む）を 1 行に 1 つずつ入力します。
1 行に 259 文字まで，65536 行まで指定可能です。

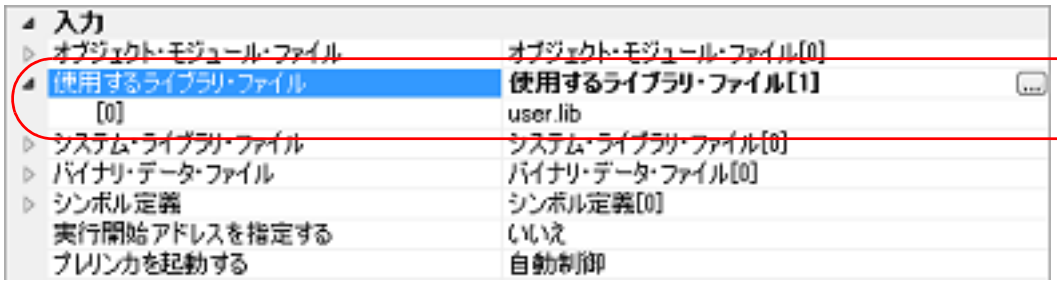
備考 1.　本プロパティは，プレースホルダに対応しています。
［プレースホルダ］において行をダブルクリックすると，プレースホルダが［パス (1 行につき 1 つのパス)］に反映されます。

備考 2.　ライブラリ・ファイルは，以下のいずれかの方法で指定することも可能です。

- エクスプローラなどからフォルダをドラッグ・アンド・ドロップ
- ［参照 ...］ボタンをクリックし，使用するライブラリ・ファイルを指定 ダイアログによるフォルダの選択
- ［プレースホルダ］において行をダブルクリック

［OK］ボタンをクリックすると，入力したライブラリ・ファイルがサブプロパティとして表示されます。

図 2.35 ［使用するライブラリ・ファイル］プロパティ（ライブラリ・ファイル追加後）



ライブラリ・ファイルの変更は，［...］ボタン，またはサブプロパティのテキスト・ボックスへの直接入力により行うことができます。

備考 ［共通オプション］タブの［よく使うオプション（リンク）］カテゴリの［使用するライブラリ・ファイル］プロパティでも，同様に設定することができます。

2.6.2 オーバーレイ・セクションの選択機能を使用するための準備をする

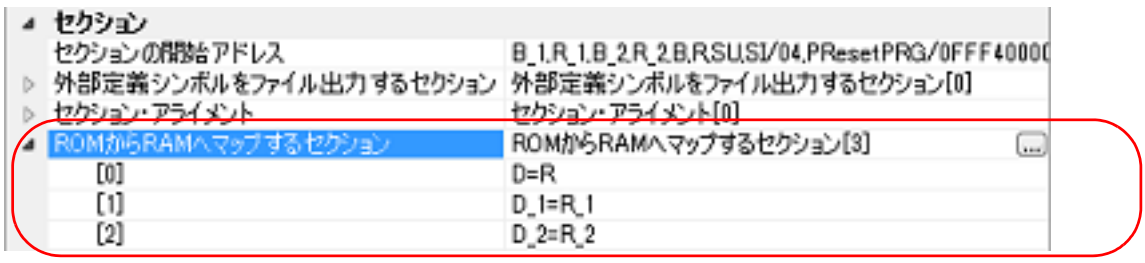
CC-RX が使用する最適化リンカ（rlink）では，プログラム中に定義した複数のセクションを同じアドレスに割り付けることができます。このように割り付けられたセクションを“オーバーレイ・セクション”と呼びます。
同じアドレスに割り付けられたセクションのうち，デバッグ対象とするオーバーレイ・セクション（優先セクション）を選択する機能をデバッグ・ツールが提供しています。この機能を“オーバーレイ・セクションの選択機能”と呼びます。
オーバーレイ・セクションを設定したロード・モジュールは，プログラム実行前に優先セクションを切り替えてデバッグすることが可能になります。
オーバーレイ・セクションの選択機能を実現するための，ロード・モジュールの作成方法を以下に示します。

(1) ROM 領域の内容を RAM にコピー
ROM 領域の内容を RAM 領域にコピーすることにより，コードやデータを RAM 上へ展開します。

(2) ビルド・オプションの設定
オーバーレイ・セクションの選択機能に対応するため，ROM から RAM へマップするセクション，およびオーバーレイ・セクションを設定します。
プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［リンク・オプション］タブを選択します。

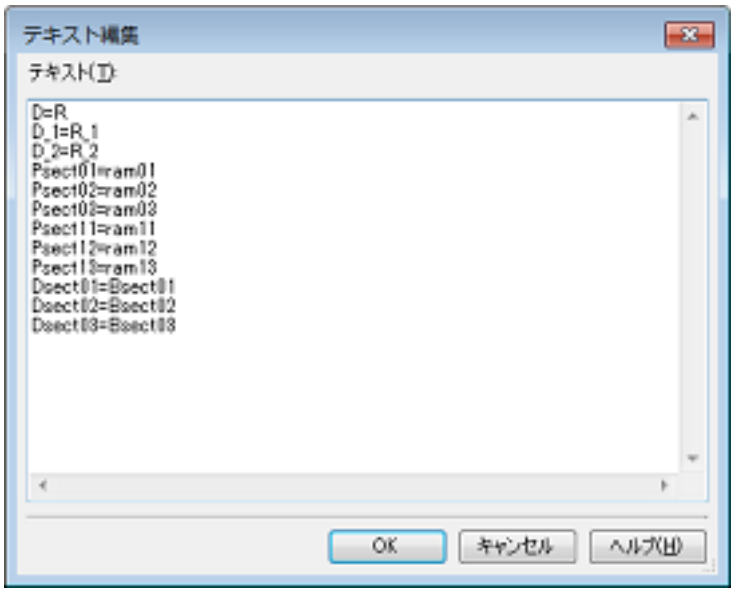
(a) ROM から RAM へマップするセクションの設定
ROM から RAM へマップするセクションの設定は，［セクション］カテゴリの［ROM から RAM へマップするセクション］プロパティで行います。
これにより，ROM セクションと同サイズの RAM セクションを確保し，ROM セクション内定義シンボルを RAM セクション上のアドレスでリロケーションします。

図 2.36 ［ROM から RAM へマップするセクション］プロパティ



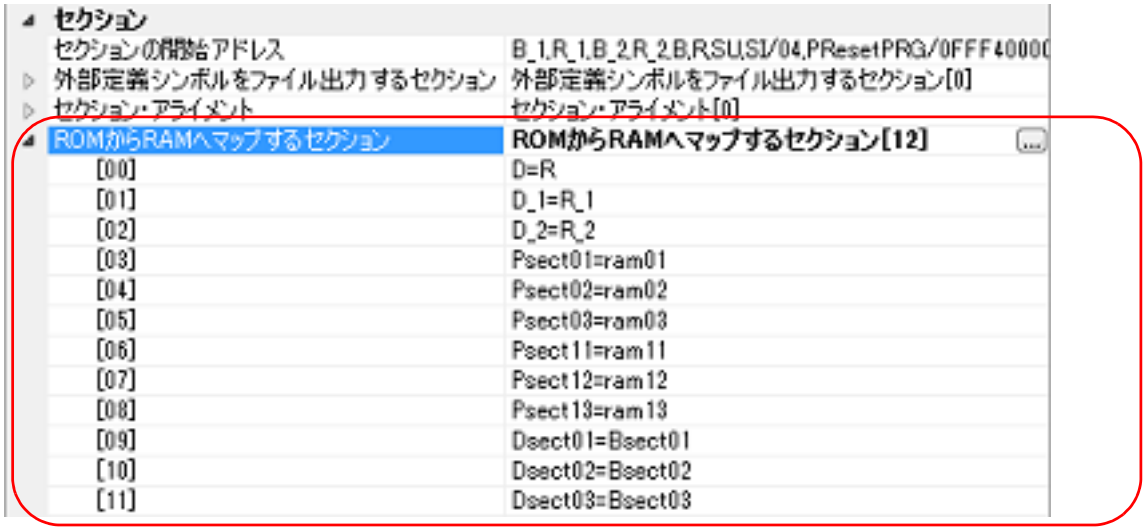
［...］ボタンをクリックすると，テキスト編集 ダイアログがオープンします。

図 2.37 テキスト編集 ダイアログ



［テキスト］にセクション名を「*ROM セクション名=RAM セクション名*」の形式で 1 行に 1 つずつ入力します。
1 行に 32767 文字まで，65535 行まで指定可能です。
［OK］ボタンをクリックすると，入力したセクション名がサブプロパティとして表示されます。

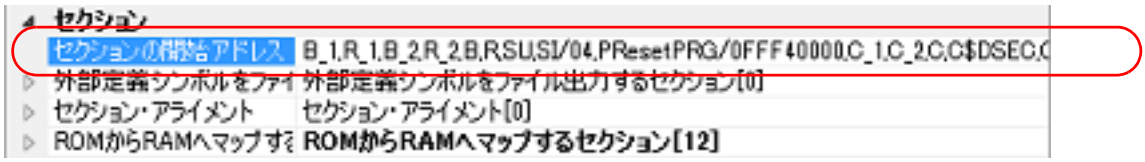
図 2.38 ［ROM から RAM へマップするセクション］プロパティ（セクション設定後）



セクション名の変更は，［...］ボタン，またはサブプロパティのテキスト・ボックスへの直接入力により行うことができます。

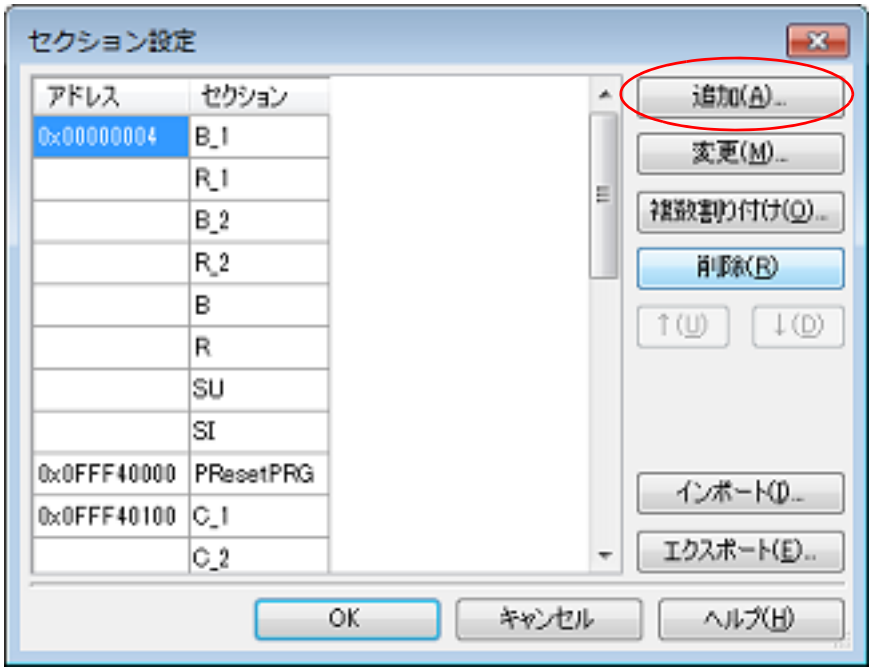
(b) ROM セクション，RAM セクション（オーバーレイ・セクション）の設定
セクションの設定は，［セクション］カテゴリの［セクションの開始アドレス］プロパティで行います。

図 2.39 ［セクションの開始アドレス］プロパティ



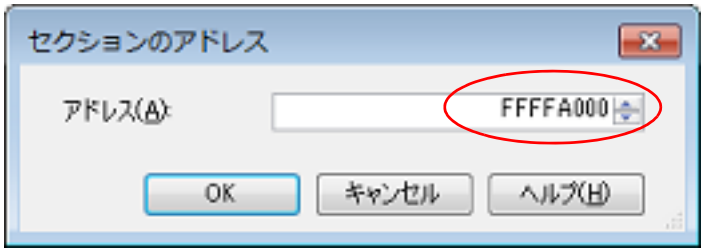
<1> ROM セクションの設定
[...] ボタンをクリックすると，セクション設定 ダイアログがオープンします。

図 2.40 セクション設定 ダイアログ



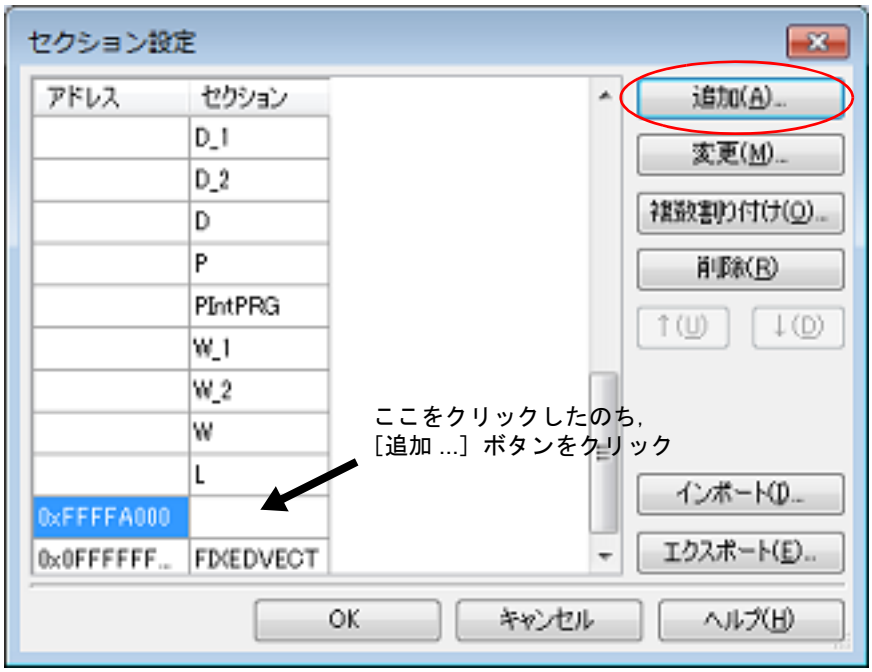
[追加 ...] ボタンをクリックすると，セクションのアドレス ダイアログがオープンします。

図 2.41 セクションのアドレス ダイアログ



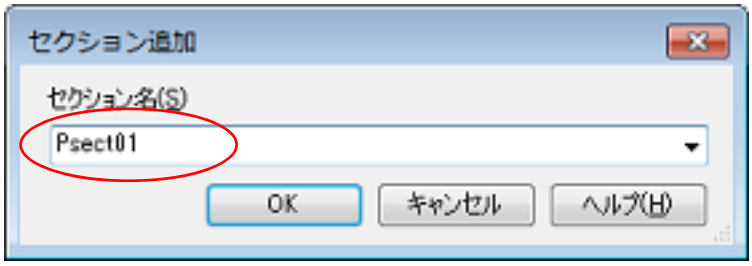
[アドレス] に追加したい ROM セクションのアドレスを入力し，[OK] ボタンをクリックすると，入力したアドレスがセクション設定 ダイアログの［アドレス］に追加されます。

図 2.42　　セクション設定 ダイアログ（ROM セクションのアドレス追加後）



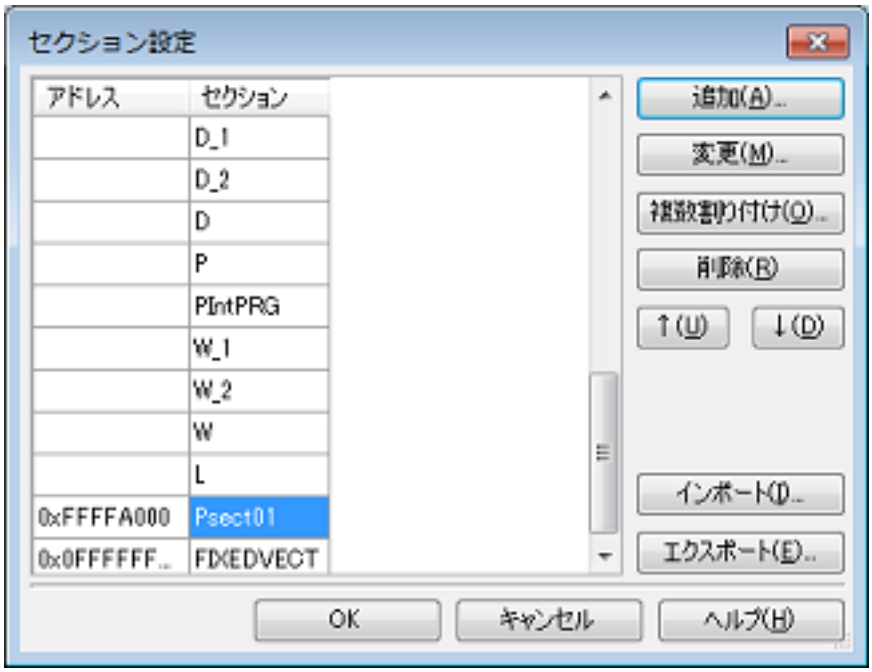
追加されたアドレス行のセクション欄をクリックしたのち，［追加 ...］ボタンをクリックすると，セクション追加 ダイアログがオープンします。

図 2.43　　セクション追加 ダイアログ



［セクション名］に追加したい ROM セクション名を入力し，［OK］ボタンをクリックすると，入力したセクションがセクション設定 ダイアログの［セクション］に追加されます。

図 2.44 セクション設定 ダイアログ（ROM セクション追加後）



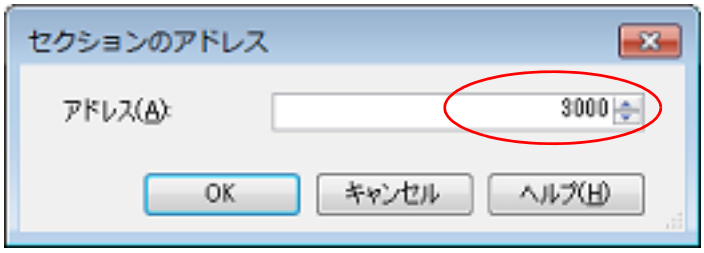
他の ROM セクションについても同様に，アドレスとセクション名の設定を行います。

備考 アドレス欄をクリックしたのち，［追加 ...］ボタンをクリックすると，セクションのアドレス ダイアログがオープンし，新しいアドレスを追加することができます。

図 2.45 セクション設定 ダイアログ（複数 ROM セクション追加後）

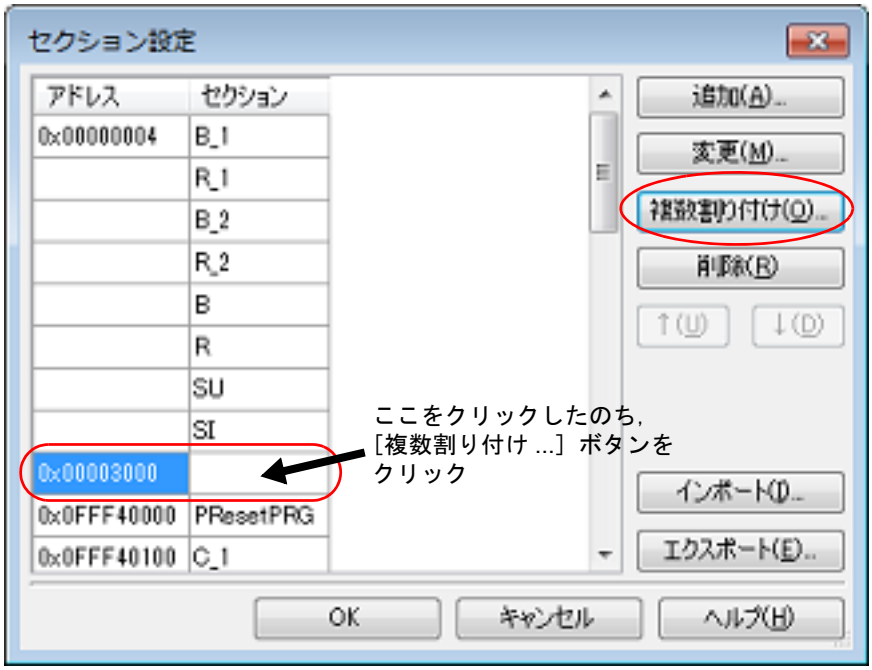
<2> RAM セクション（オーバーレイ・セクション）の設定
追加済みのアドレスをクリックしたのち，［追加］ボタンをクリックすると，セクションのアドレス ダイアログがオープンします。

図 2.46 セクションのアドレス ダイアログ



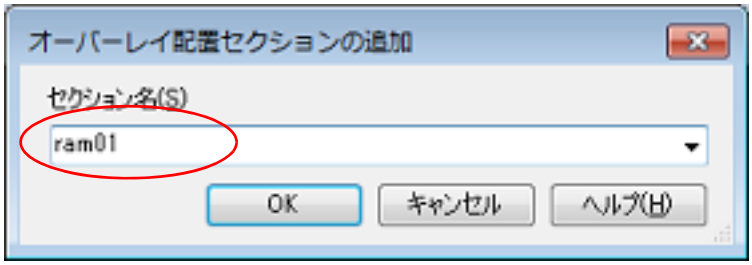
［アドレス］に追加したい RAM セクションのアドレスを入力し，［OK］ボタンをクリックすると，入力したアドレスがセクション設定 ダイアログの［アドレス］に追加されます。

図 2.47 セクション設定 ダイアログ（RAM セクションのアドレス追加後）



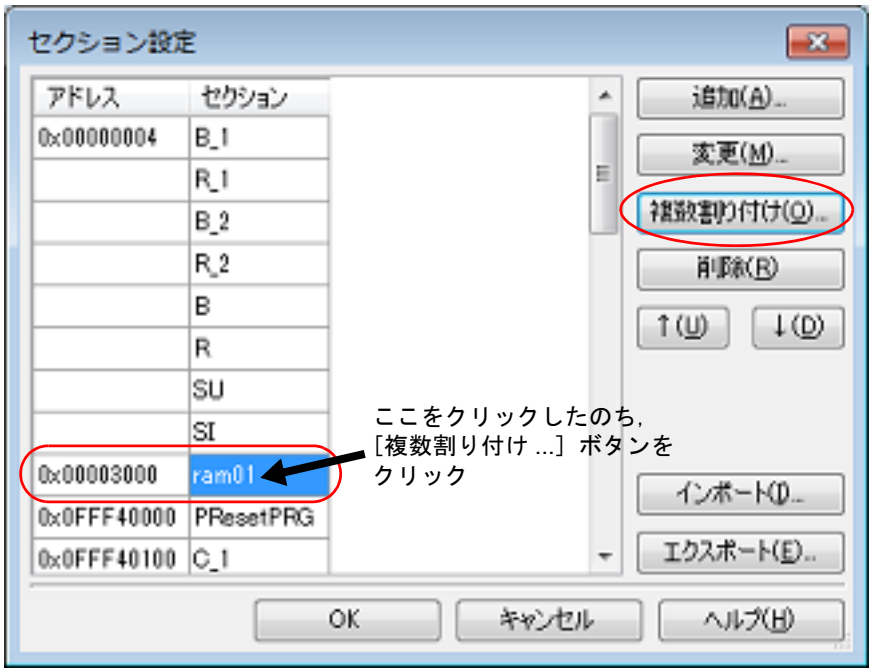
追加されたアドレス行（アドレス欄，またはセクション欄）をクリックしたのち，［複数割り付け ...］ボタンをクリックすると，オーバーレイ配置セクションの追加 ダイアログがオープンします。

図 2.48 オーバーレイ配置セクションの追加 ダイアログ



［セクション名］に追加したい RAM セクション名を入力し，［OK］ボタンをクリックすると，入力したセクションがセクション設定 ダイアログの［セクション］に追加されます。

図 2.49 セクション設定 ダイアログ（RAM セクション追加後）



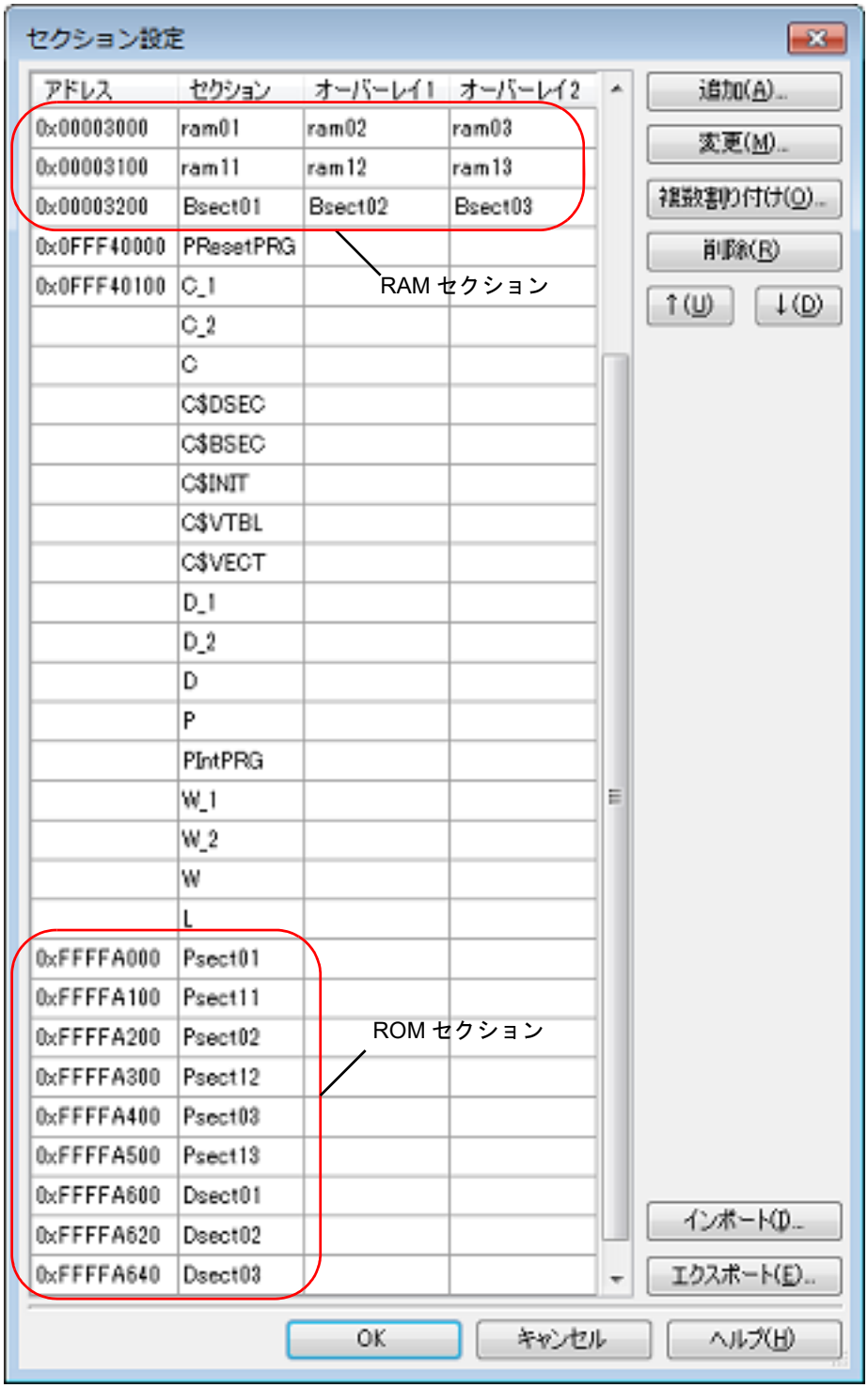
同一アドレスに配置するセクションについても同様に，［複数割り付け ...］ボタンで追加します。
追加したセクションは，［オーバーレイ *n*］（*n* : 1 で始まる数字）に表示されます。

図 2.50 セクション設定 ダイアログ（オーバーレイ・セクション追加後）

他の RAM セクションについても同様に，アドレスとセクション名の設定を行います。

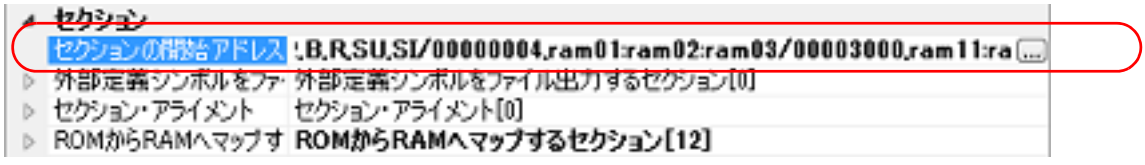
備考 アドレス欄をクリックしたのち，［追加 ...］ボタンをクリックすると，セクションのアドレス ダイアログがオープンし，新しいアドレスを追加することができます。

図 2.51 セクション設定 ダイアログ（複数 RAM セクション追加後）



［OK］ボタンをクリックすると，設定した ROM セクション，RAM セクション（オーバーレイ・セクション）がテキスト・ボックスに表示されます。

図 2.52 ［セクションの開始アドレス］プロパティ（セクション設定後）



(3)　プロジェクトのビルドの実行
プロジェクトのビルドを実行します。
オーバーレイ・セクションの選択機能を実現するためのロード・モジュール・ファイルが生成されます。

2.7 ヘキサ出力オプションを設定する

ヘキサ出力フェーズに対するオプションを設定するには，プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ヘキサ出力オプション］タブを選択してください。
タブ上で各プロパティを設定することにより，対応するヘキサ出力オプションを設定することができます。

注意 1. 本タブは，ライブラリ用のプロジェクトの場合は表示しません。

注意 2. 本タブは，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。
コンパイラ・パッケージのバージョンが V2.00.00 未満の場合，本タブのプロパティは［リンク・オプション］タブの［ロード・モジュール・ファイル変換］カテゴリに含まれます。詳細は，「A. ウインドウ・リファレンス」の「プロパティ パネル」を参照してください。

備考 よく使うオプションについては，［共通オプション］タブの［よく使うオプション（ヘキサ出力）］カテゴリにまとめられています。

2.7.1 ヘキサ・ファイルの出力を設定する

プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ヘキサ出力オプション］タブを選択します。

(1) ヘキサ・ファイルの出力設定
ヘキサ・ファイルの出力設定は，［出力ファイル］カテゴリの［ヘキサ・ファイルを出力する］プロパティで行います。
ヘキサ・ファイルを出力する場合は［はい］，出力しない場合は［いいえ］を選択してください。

図 2.53　［ヘキサ・ファイルを出力する］プロパティ

ヘキサ・ファイルを出力する場合，出力フォルダ，および出力ファイル名を設定することができます。

(a) 出力フォルダの設定
［出力フォルダ］プロパティにおいて，テキスト・ボックスへの直接入力，または［...］ボタンにより行います。
テキスト・ボックスには 247 文字まで指定可能です。
本プロパティは，次のプレースホルダに対応しています。

%ActiveProjectDir% ： アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ： アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ： メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ： メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ： プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ： テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ： Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。

デフォルトでは，“%BuildModeName%” を設定しています。

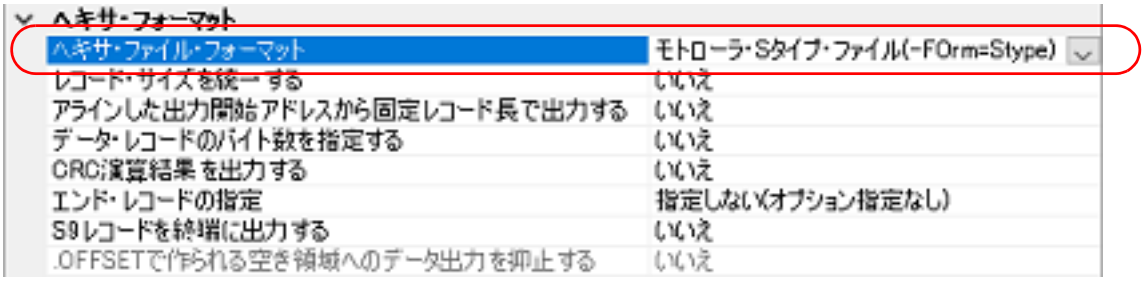
(b) 出力ファイル名の設定
［出力ファイル名］プロパティにおいて，テキスト・ボックスへの直接入力により行います。
テキスト・ボックスには 259 文字まで指定可能です。
本プロパティは，次のプレースホルダに対応しています。

%ActiveProjectName% ： アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%MainProjectName% ： メイン・プロジェクト名に置換します。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。

デフォルトでは，“%ProjectName%.mot” を設定しています。

(2) ヘキサ・ファイル・フォーマットの設定
［ヘキサ・フォーマット］カテゴリの［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティで，フォーマットを選択してください。

図 2.54 ［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティ



以下のフォーマットを選択することができます。

フォーマット	説明
インテル拡張ヘキサ・ファイル (-FOrm=Hexadecimal)	インテル拡張ヘキサ・ファイルを出力します。
モトローラ・S タイプ・ファイル (-FOrm=Stype)	モトローラ・S タイプ・ファイルを出力します。
バイナリ・ファイル (-FOrm=Binary)	バイナリ・ファイルを出力します。

備考 インテル拡張ヘキサ・ファイル，およびモトローラ・S タイプ・ファイルについての詳細は，「CC-RX コンパイラ ユーザーズマニュアル」を参照してください。

2.7.2 空き領域を充てんする

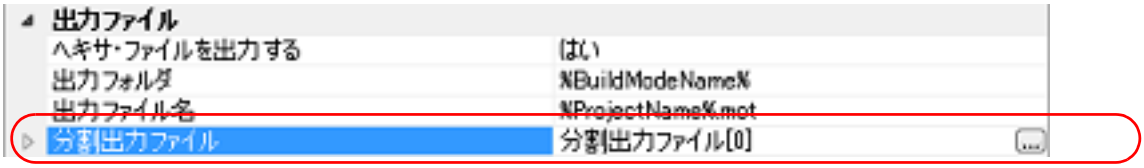
空き領域の充てんを行うには，ヘキサ・ファイルの出力範囲を設定する必要があります。なお，空き領域の充てんを行うためのプロパティは，ヘキサ・ファイルの出力範囲を設定すると表示されます。
設定は以下の手順で行います。

- ヘキサ・ファイルの出力範囲設定
- 空き領域の充てん方法設定

プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ヘキサ出力オプション］タブを選択します。

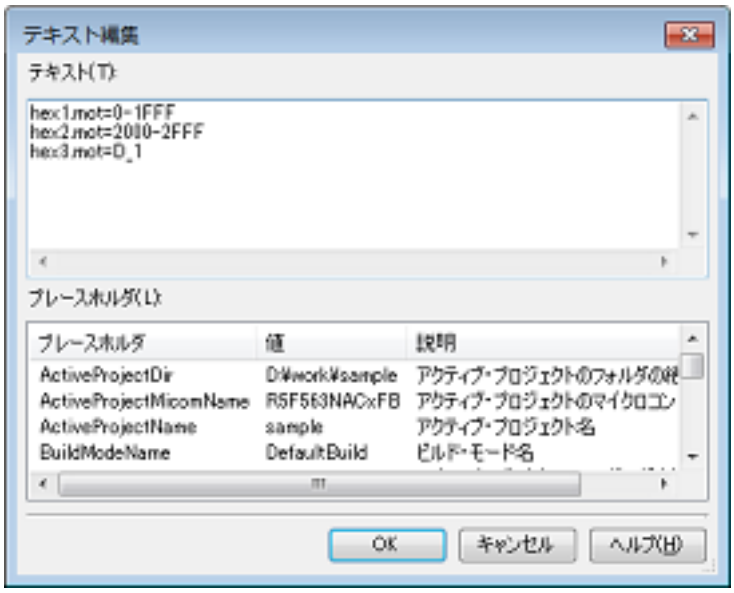
(1) ヘキサ・ファイルの出力範囲設定
ヘキサ・ファイルの出力範囲の設定は，［出力ファイル］カテゴリの［分割出力ファイル］プロパティで行います。

図 2.55 ［分割出力ファイル］プロパティ



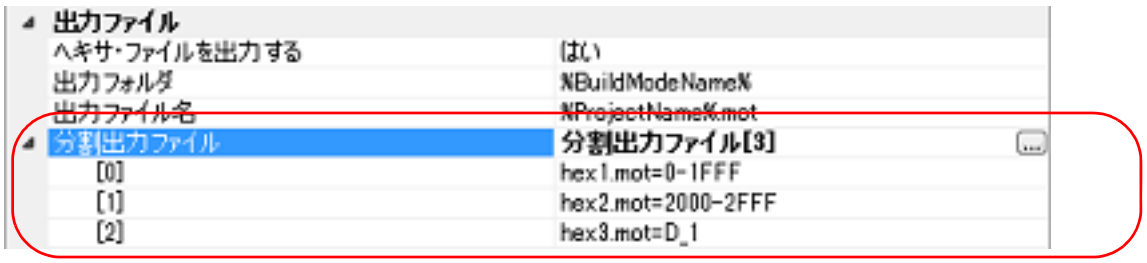
[...] ボタンをクリックすると，テキスト編集 ダイアログがオープンします。

図 2.56 テキスト編集 ダイアログ



［テキスト］に分割出力ファイル名を「*ファイル名 = 先頭アドレス - 終了アドレス*」（*先頭アドレス*，*終了アドレス*：出力範囲の先頭アドレス，終了アドレス），または「*ファイル名 = セクション名*」（*セクション名*：出力するセクション名）の形式で 1 行に 1 つずつ入力します。
セクション名を複数指定する場合は，「*ファイル名 = セクション名* : *セクション名*」のように，コロンで区切って入力します。
先頭アドレス，終了アドレスは 16 進数で指定します。
1 行に 259 文字まで，65535 行まで指定可能です。
［OK］ボタンをクリックすると，入力した分割出力ファイル名がサブプロパティとして表示されます。

図 2.57 ［分割出力ファイル］プロパティ（分割出力ファイル名設定後）

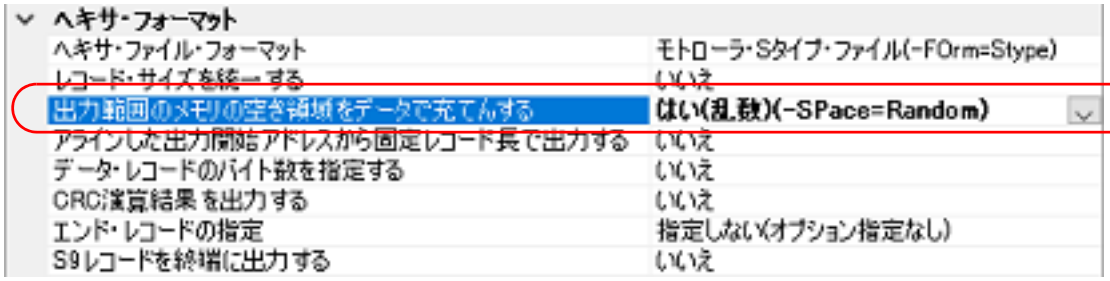


分割出力ファイル名の変更は，［...］ボタン，またはサブプロパティのテキスト・ボックスへの直接入力により行うことができます。

(2) 空き領域の充てん方法設定
出力範囲の空き領域の充てん方法を設定します。

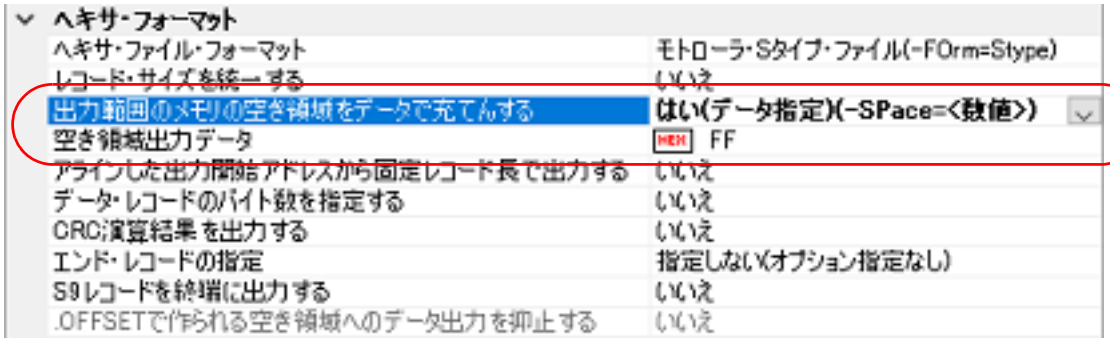
(a) 空き領域を乱数で充てんする場合
［ヘキサ・フォーマット］カテゴリの［出力範囲のメモリの空き領域をデータで充てんする］プロパティで［はい (乱数)(-SPace=Random)］を選択してください。

図 2.58 ［出力範囲のメモリの空き領域をデータで充てんする］プロパティ



(b) 空き領域を充てんするデータを指定する場合
［ヘキサ・フォーマット］カテゴリの［出力範囲のメモリの空き領域をデータで充てんする］プロパティで［はい (データ指定)(-SPace=< 数値 >)］を選択すると，［空き領域出力データ］プロパティを表示します。

図 2.59 ［出力範囲のメモリの空き領域をデータで充てんする］，および［空き領域出力データ］プロパティ



テキスト・ボックスに空き領域の充てん値を直接入力してください。
指定可能な値の範囲は 0 ～ FFFFFFFF（16 進数）です。
デフォルトでは，“FF” を設定しています。

2.8 ライブラリアン・オプションを設定する

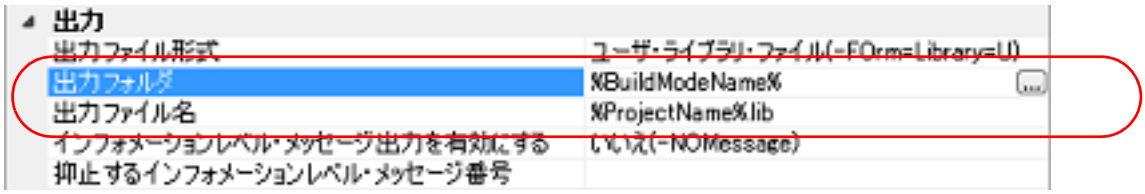
リンク・フェーズに対するオプションを設定するには，プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ライブラリアン・オプション］タブを選択してください。
タブ上で各プロパティを設定することにより，対応するライブラリアン・オプションを設定することができます。

注意　　本タブは，アプリケーション用のプロジェクトの場合は表示しません。

2.8.1 ライブラリ・ファイルの出力を設定する

プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ライブラリアン・オプション］タブを選択します。
ライブラリ・ファイルの出力の設定は，［出力］カテゴリで行います。

図 2.60　　［出力］カテゴリ



(1)　出力フォルダの設定
［出力フォルダ］プロパティにおいて，テキスト・ボックスへの直接入力，または［...］ボタンにより行います。
テキスト・ボックスには 247 文字まで指定可能です。
本プロパティは，次のプレースホルダに対応しています。

%ActiveProjectDir%　：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName%　：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName%　：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir%　：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName%　：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath%　：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir%　：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName%　：プロジェクト名に置換します。
%TempDir%　：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir%　：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。

デフォルトでは，“%BuildModeName%” を設定しています。

(2)　出力ファイル名の設定
［出力ファイル名］プロパティにおいて，テキスト・ボックスへの直接入力により行います。
テキスト・ボックスには 259 文字まで指定可能です。
本プロパティは，次のプレースホルダに対応しています。

%ActiveProjectName%　：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName%　：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectName%　：メイン・プロジェクト名に置換します。
%ProjectName%　：プロジェクト名に置換します。

デフォルトでは，“%ProjectName%.lib” を設定しています。

2.9 ライブラリ・ジェネレート・オプションを設定する

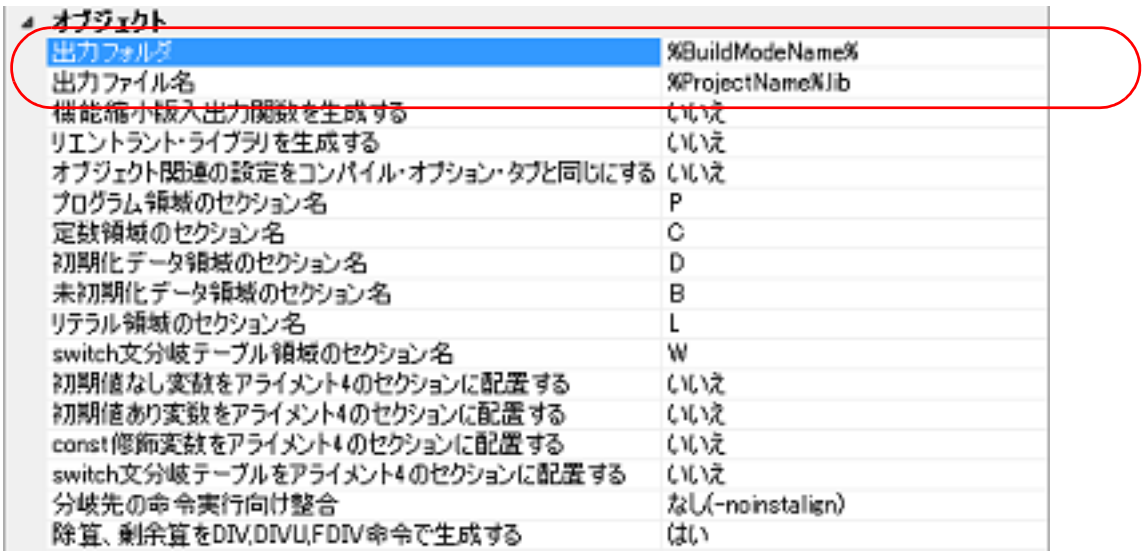
ライブラリ・ジェネレータに対するオプションを設定するには，プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ライブラリ・ジェネレート・オプション］タブを選択してください。
タブ上で各プロパティを設定することにより，対応するライブラリ・ジェネレート・オプションを設定することができます。

注意　　本タブは，ライブラリ用のプロジェクトの場合は表示しません。

2.9.1 標準ライブラリ・ファイルの出力を設定する

プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［ライブラリ・ジェネレート・オプション］タブを選択します。
標準ライブラリ・ファイルの出力の設定は，［オブジェクト］カテゴリで行います。

図 2.61　　［オブジェクト］カテゴリ



(1)　出力フォルダの設定
［出力フォルダ］プロパティにおいて，テキスト・ボックスへの直接入力，または［...］ボタンにより行います。
テキスト・ボックスには 247 文字まで指定可能です。
本プロパティは，次のプレースホルダに対応しています。

%ActiveProjectDir%　：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName%　：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName%　：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir%　：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName%　：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath%　：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir%　：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName%　：プロジェクト名に置換します。
%TempDir%　：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir%　：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。

デフォルトでは，“%BuildModeName%” を設定しています。

(2)　出力ファイル名の設定
［出力ファイル名］プロパティにおいて，テキスト・ボックスへの直接入力により行います。
テキスト・ボックスには 259 文字まで指定可能です。
本プロパティは，次のプレースホルダに対応しています。

%ActiveProjectName%　：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName%　：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectName%　：メイン・プロジェクト名に置換します。
%ProjectName%　：プロジェクト名に置換します。

デフォルトでは，“%ProjectName%.lib” を設定しています。

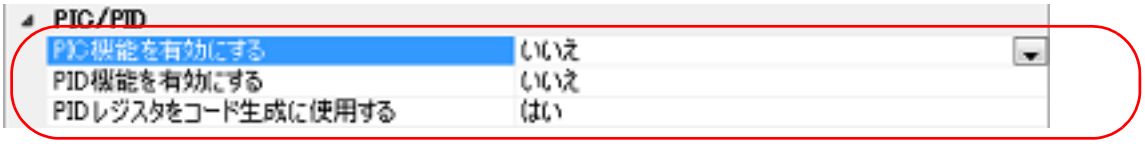
2.10 PIC/PID 機能を使用するための準備をする

PIC/PID 機能では，ROM 上のコードやデータを PIC や PID にしたプログラムをアプリケーション，アプリケーションを実行させるのに必要なプログラムをマスタと呼びます。
マスタやアプリケーションをビルドするときは，構成するオブジェクト間で PIC/PID 機能に関係するビルド・オプションの指定を合わせておく必要があります。
アプリケーションおよびマスタのビルド・オプションの設定方法を以下に示します。

備考　　PIC/PID 機能の内容，オプションの組み合わせ，マスタやアプリケーションのスタートアップの作成方法については，「CC-RX コンパイラ ユーザーズマニュアル」を参照してください。

(1)　ビルド・オプションの設定
PIC/PID 機能のビルド・オプションの設定は，プロジェクト・ツリーで，マスタまたはアプリケーションのビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルの［共通オプション］タブの［PIC/PID］カテゴリで行います。

図 2.62　　［PIC/PID］カテゴリ



(a)　マスタのビルド・オプションの設定
［PIC 機能を有効にする］プロパティで［いいえ］を選択します（デフォルト）。
［PID 機能を有効にする］プロパティで［いいえ］を選択します（デフォルト）。
［PID レジスタをコード生成に使用する］プロパティで［はい］を選択します（デフォルト）。

(b)　アプリケーションのビルド・オプションの設定
［PIC 機能を有効にする］プロパティで［はい（-pic）］を選択します。
［PID 機能を有効にする］プロパティで［はい（オフセットの最大幅：16 ビット）（-pid=16）］，または［はい（オフセットの最大幅：制限なし）（-pid=32）］を選択します。

2.11 個別にビルド・オプションを設定する

ビルド・オプションの設定は，プロジェクト単位，またはファイル単位で行います。

- プロジェクト単位　→　「2.11.1 プロジェクト単位でビルド・オプションを設定する」参照
- ファイル単位　　→　「2.11.2 ファイル単位でコンパイル／アセンブル・オプションを設定する」参照

2.11.1 プロジェクト単位でビルド・オプションを設定する

プロジェクト（メイン・プロジェクト，またはサブプロジェクト）に対するビルド・オプションを設定するには，プロジェクト・ツリーでビルド・ツール・ノードを選択し，プロパティ パネルを表示します。
コンポーネントに対する各タブを選択し，必要なプロパティを設定することにより，ビルド・オプションを設定することができます。

コンパイル・フェーズ	→［コンパイル・オプション］タブ
アセンブル・フェーズ	→［アセンブル・オプション］タブ
リンク・フェーズ（アプリケーション・プロジェクト）	→［リンク・オプション］タブ
ヘキサ出力フェーズ	→［ヘキサ出力オプション］タブ
リンク・フェーズ（ライブラリ・プロジェクト）	→［ライブラリアン・オプション］タブ
ライブラリ・ジェネレート・フェーズ	→［ライブラリ・ジェネレート・オプション］タブ

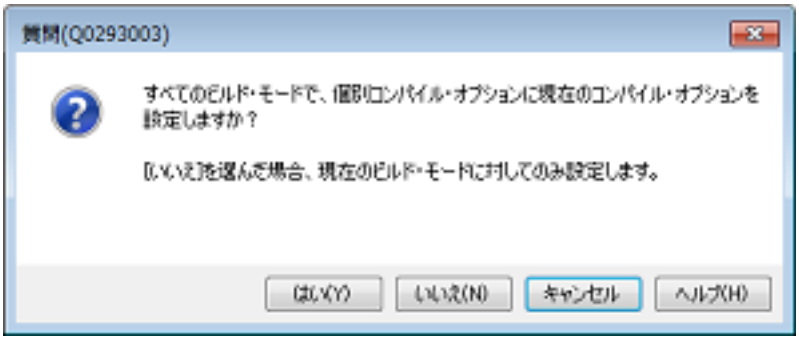
2.11.2 ファイル単位でコンパイル／アセンブル・オプションを設定する

プロジェクトに追加している各ソース・ファイルに対して，コンパイル・オプション，またはアセンブル・オプションを個別に設定することができます。

(1) C ソース・ファイルにコンパイル・オプションを設定する場合
プロジェクト・ツリー で C ソース・ファイルを選択し，プロパティ パネルの［ビルド設定］タブを選択します。［ビルド］カテゴリの［個別コンパイル・オプションを設定する］プロパティで［はい］を選択すると，「メッセージ ダイアログ」がオープンします。

図 2.63　［個別コンパイル・オプションを設定する］プロパティ

図 2.64　メッセージ ダイアログ

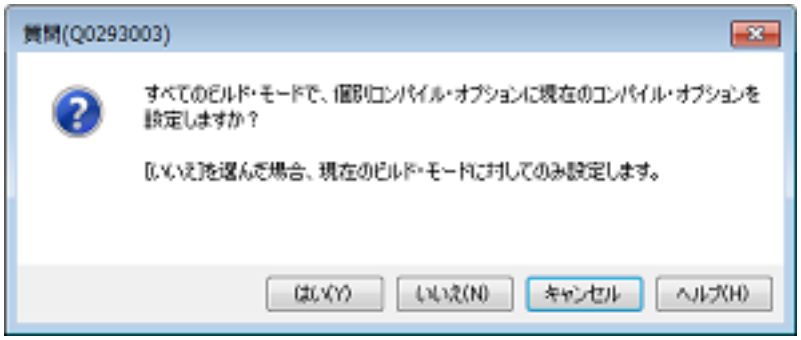


ダイアログ上で［はい］をクリックすると，［個別コンパイル・オプション (C)］タブが表示されます。
タブ上で必要なプロパティを設定することにより，C ソース・ファイルに対するコンパイル・オプションを設定することができます。なお，本タブは，デフォルトでは［コンパイル・オプション］タブの設定内容を継承します。

(2) C++ ソース・ファイルにコンパイル・オプションを設定する場合
プロジェクト・ツリー で C++ ソース・ファイルを選択し，プロパティ パネルの［ビルド設定］タブを選択します。［ビルド］カテゴリの［個別コンパイル・オプションを設定する］プロパティで［はい］を選択すると，「メッセージ ダイアログ」がオープンします。

図 2.65　［個別コンパイル・オプションを設定する］プロパティ

図 2.66　メッセージ ダイアログ

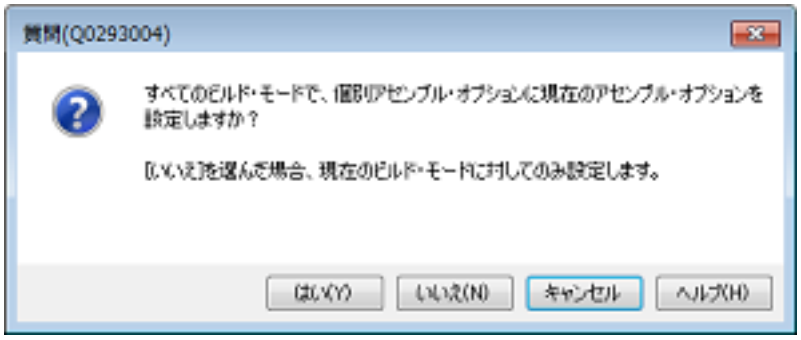


ダイアログ上で［はい］をクリックすると，［個別コンパイル・オプション (C++)］タブが表示されます。
タブ上で必要なプロパティを設定することにより，C++ ソース・ファイルに対するコンパイル・オプションを設定することができます。なお，本タブは，デフォルトでは［コンパイル・オプション］タブの設定内容を継承します。

(3)　アセンブラ・ソース・ファイルにアセンブル・オプションを設定する場合
プロジェクト・ツリー でアセンブラ・ソース・ファイルを選択し，プロパティ パネルの［ビルド設定］タブを選択します。［ビルド］カテゴリの［個別アセンブル・オプションを設定する］プロパティで［はい］を選択すると，「メッセージ ダイアログ」がオープンします。

図 2.67　［個別アセンブル・オプションを設定する］プロパティ

図 2.68　メッセージ ダイアログ



ダイアログ上で［はい］をクリックすると，［個別アセンブル・オプション］タブが表示されます。
タブ上で必要なプロパティを設定することにより，アセンブラ・ソース・ファイルに対するアセンブル・オプションを設定することができます。なお，本タブは，デフォルトでは［アセンブル・オプション］タブの設定内容を継承します。

2.12 スタックを見積もる

スタックを見積もるには，Call Walker を使用します。

Call Walker では，静的に解析処理を行うことにより，シンボルの呼び出し関係をツリー形式で表示すると伴に，シンボル単位のスタック情報（シンボル名，属性，アドレス，サイズ，スタック・サイズ，ファイル名）をリスト形式で表示します。

Call Walker の起動は，［ツール］メニュー→［スタック見積もりツールの起動］を選択することにより行います。

また，Call Walker の終了は，Call Walker の［File］メニュー→［Exit］を選択することにより行います。

操作手順については，Call Walker の［Help］メニュー→［Help Topics］を参照してください。

A. ウインドウ・リファレンス

ここでは，ビルド・ツールに関するパネル／ダイアログについての詳細を説明します。

A.1 説　　明

以下に，ビルド・ツールに関するパネル／ダイアログの一覧を示します。

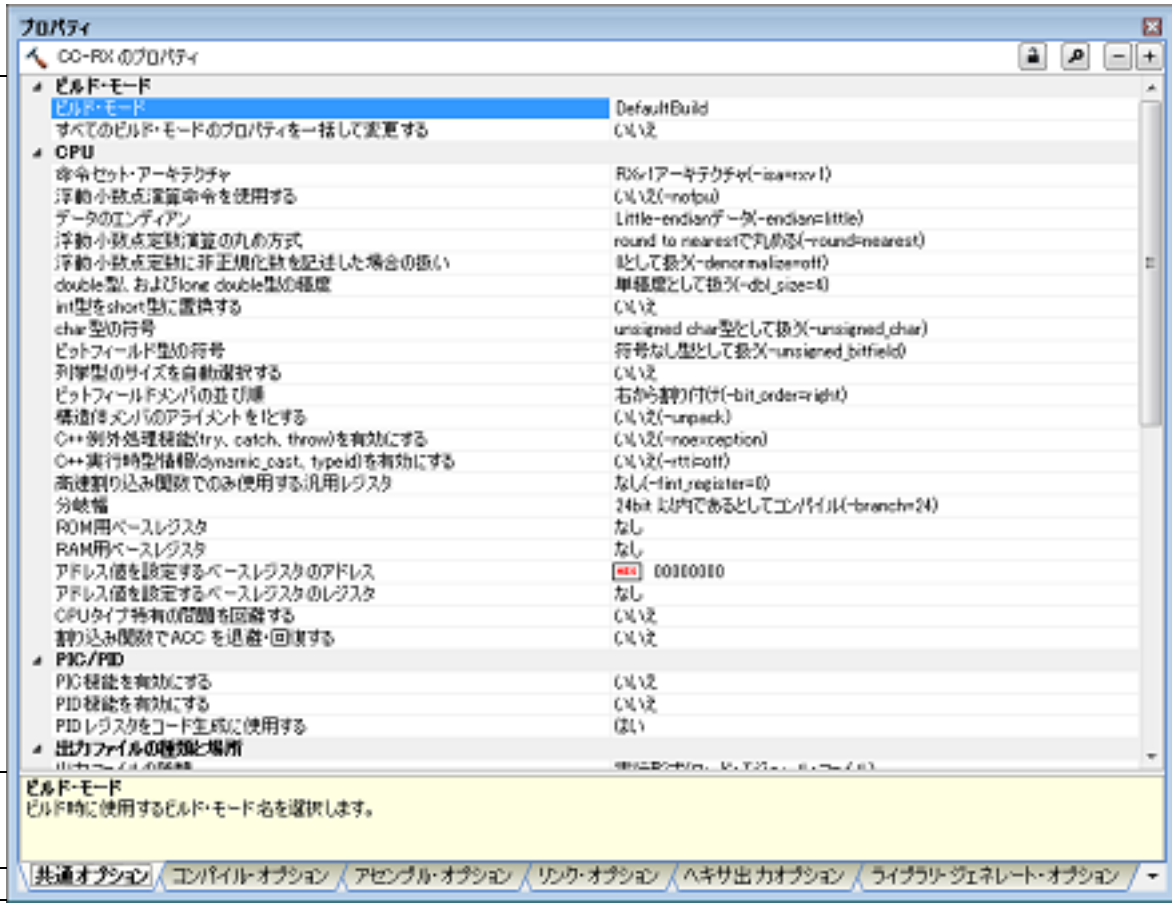
表 A.1　　パネル／ダイアログ一覧

パネル／ダイアログ名	機能概要
プロパティ パネル	プロジェクト・ツリー パネルで選択しているビルド・ツール・ノード，ファイルについて，詳細情報を表示，および設定を変更
システム・インクルード・パス順設定 ダイアログ	コンパイラに対して指定するシステム・インクルード・パスを参照，および指定順を設定
ルール番号の指定 ダイアログ	本ダイアログの呼び出し元に設定する MISRA-C ルール番号を選択
セクション設定 ダイアログ	セクションを追加，変更，削除
セクション追加 ダイアログ セクション編集 ダイアログ オーバーレイ配置セクションの追加 ダイアログ	セクションの追加，編集，複数割り付けを行う際のセクション名を設定
セクションのアドレス ダイアログ	セクションの追加，または変更時のアドレスを設定
削除するセクション ダイアログ	セクションを削除
無効化するマクロの指定 ダイアログ	本ダイアログの呼び出し元に設定する無効化するプリデファインド・マクロを選択
CRC 演算 ダイアログ	CRC 演算の設定を追加，変更，削除

プロパティ パネル

プロジェクト・ツリー パネルで選択しているビルド・ツール・ノード，ファイルについて，カテゴリ別に詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

図 A.1 プロパティ パネル



ここでは，次の項目について説明します。

- ［オープン方法］
- ［各エリアの説明］
- ［［編集］メニュー（プロパティ パネル専用部分）］
- ［コンテキスト・メニュー］

［オープン方法］

- プロジェクト・ツリー パネルにおいて，ビルド・ツール・ノード，ファイルを選択したのち，［表示］メニュー→［プロパティ］を選択，またはコンテキスト・メニュー→［プロパティ］を選択

備考 すでにプロパティ パネルがオープンしている場合，プロジェクト・ツリー パネルにおいて，ビルド・ツール・ノード，ファイルを選択することで，選択した項目の詳細情報を表示します。

［各エリアの説明］

(1) 詳細情報表示／変更エリア
プロジェクト・ツリー パネルで選択しているビルド・ツール・ノード，ファイルの詳細情報を，カテゴリ別のリスト形式で表示し，設定の変更を直接行うことができるエリアです。

マークは，そのカテゴリ内に含まれているすべての項目を展開表示していることを示し，また，マークは，カテゴリ内の項目を折りたたみ表示していることを示します。展開／折りたたみ表示の切り替えは，このマークのクリック，またはカテゴリ名のダブルクリックにより行うことができます。
HEXマークは，そのプロパティのテキスト・ボックスが 16 進数入力専用であることを示します。
カテゴリ，およびそれに含まれる項目の表示内容／設定方法についての詳細は，該当するタブの項を参照してください。

(2) タブ選択エリア
タブを選択することにより，詳細情報を表示するカテゴリが切り替わります。
本パネルには，次のタブが存在します（各タブ上における表示内容／設定方法についての詳細は，該当するタブの項を参照してください）。

備考 プロジェクト・ツリー パネルで複数の構成要素を選択している場合は，その構成要素に共通するタブのみ表示します。
プロパティの値の変更は，選択している複数の構成要素に共通に反映します。

(a) プロジェクト・ツリー パネルでビルド・ツール・ノードを選択している場合

- ［共通オプション］タブ
- ［コンパイル・オプション］タブ
- ［アセンブル・オプション］タブ
- ［リンク・オプション］タブ
- ［ヘキサ出力オプション］タブ
- ［ライブラリアン・オプション］タブ
- ［ライブラリ・ジェネレート・オプション］タブ

(b) プロジェクト・ツリー パネルでファイルを選択している場合

- ［ビルド設定］タブ（C ソース・ファイル，C++ ソース・ファイル，アセンブリ・ソース・ファイル，オブジェクト・ファイル，ライブラリ・ファイルの場合）
- ［個別コンパイル・オプション (C)］タブ（C ソース・ファイルの場合）
- ［個別コンパイル・オプション (C++)］タブ（C++ ソース・ファイルの場合）
- ［個別アセンブル・オプション］タブ（アセンブリ・ソース・ファイルの場合）
- ［ファイル情報］タブ注

注 ［ファイル情報］タブについての詳細は，「CS+ 統合開発環境 ユーザーズマニュアル プロジェクト操作編」を参照してください。

［［編集］メニュー（プロパティ パネル専用部分）］

元に戻す	直前に行ったプロパティの値の編集作業を取り消します。
切り取り	プロパティの値を編集中の場合，選択している文字列を切り取ってクリップ・ボードに移動します。
コピー	選択しているプロパティの値文字列をクリップ・ボードにコピーします。
貼り付け	プロパティの値を編集中の場合，クリップ・ボードの内容を挿入します。
削除	プロパティの値を編集中の場合，選択している文字列を削除します。
すべて選択	プロパティの値を編集中の場合，選択しているプロパティの値文字列をすべて選択します。

［コンテキスト・メニュー］

元に戻す	直前に行ったプロパティの値の編集作業を取り消します。
切り取り	プロパティの値を編集中の場合，選択している文字列を切り取ってクリップ・ボードに移動します。

コピー	選択しているプロパティの値文字列をクリップ・ボードにコピーします。
貼り付け	プロパティの値を編集中の場合，クリップ・ボードの内容を挿入します。
削除	プロパティの値を編集中の場合，選択している文字列を削除します。
すべて選択	プロパティの値を編集中の場合，選択しているプロパティの値文字列をすべて選択します。
デフォルトに戻す	選択している項目の設定値をプロジェクトに設定しているデフォルト値に戻します。 ただし，［個別コンパイル・オプション (C)］タブ，［個別コンパイル・オプション (C++)］タブ，［個別アセンブル・オプション］タブにおいては，全体オプションの設定値に戻します。
すべてデフォルトに戻す	現在表示しているタブの設定値をすべてプロジェクトに設定しているデフォルト値に戻します。 ただし，［個別コンパイル・オプション (C)］タブ，［個別コンパイル・オプション (C++)］タブ，［個別アセンブル・オプション］タブにおいては，全体オプションの設定値に戻します。

［共通オプション］タブ

本タブでは，ビルド・ツールに対して，次に示すカテゴリごとに詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

(1) ［ビルド・モード］
(2) ［CPU］
(3) ［PIC/PID］
(4) ［出力ファイルの種類と場所］
(5) ［よく使うオプション（コンパイル）］
(6) ［よく使うオプション（アセンブル）］
(7) ［よく使うオプション（リンク）］
(8) ［よく使うオプション（ヘキサ出力）］
(9) ［よく使うオプション（ライブラリアン）］
(10) ［ビルド方法］
(11) ［バージョン選択］
(12) ［記録］
(13) ［その他］

備考　［よく使うオプション］カテゴリのプロパティを変更した場合，それらに対応するタブの同名のプロパティの値も連動して変更されます。

［共通オプション］タブのカテゴリ	対応するタブ
［よく使うオプション（コンパイル）］カテゴリ	［コンパイル・オプション］タブ
［よく使うオプション（アセンブル）］カテゴリ	［アセンブル・オプション］タブ
［よく使うオプション（リンク）］カテゴリ	［リンク・オプション］タブ
［よく使うオプション（ヘキサ出力）］カテゴリ	［ヘキサ出力オプション］タブ
［よく使うオプション（ライブラリアン）］カテゴリ	［ライブラリアン・オプション］タブ

［各カテゴリの説明］

(1)　［ビルド・モード］

ビルド・モードに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

ビルド・モード	ビルド時に使用するビルド・モードを選択します。 なお，コンテキスト・メニューの［すべてデフォルトに戻す］は，本プロパティには適用されません。		
	デフォルト	DefaultBuild	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	DefaultBuild	プロジェクトの新規作成時にデフォルトで設定されるビルド・モードでビルドを行います。
		プロジェクトに登録しているビルド・モード（DefaultBuild 以外）	プロジェクトに登録しているビルド・モード（DefaultBuild 以外）でビルドを行います。

すべてのビルド・モードのプロパティを一括して変更する	プロパティに値を設定する際，設定した値をすべてのビルド・モードに反映するかどうかを選択します。 設定した値が他のビルド・モードの値として適していない可能性もあるため，充分ご注意ください。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	プロパティに値を設定する際，設定した値をすべてのビルド・モードに反映します。
		いいえ	プロパティに値を設定する際，設定した値を他のビルド・モードに反映しません。

(2) ［CPU］

CPU に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

命令セット・アーキテクチャ	命令セット・アーキテクチャを選択します。 コンパイラ，アセンブラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -isa に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.01.00 以上をインストールした環境において，［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.01.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	プロジェクト作成時に選択した CPU の品種に従います。	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	RXv1 アーキテクチャ (-isa=rxv1)	RXv1 命令セットアーキテクチャ向けの命令コードを生成します。
		RXv2 アーキテクチャ (-isa=rxv2)	RXv2 命令セットアーキテクチャ向けの命令コードを生成します。
		RXv3 アーキテクチャ (-isa=rxv3)	RXv3 命令セットアーキテクチャ向けの命令コードを生成します。
		なし	［マイコン種別］プロパティの設定を用います。
マイコン種別	マイコン種別を選択します。 コンパイラ，アセンブラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -cpu に相当します。 命令セット・アーキテクチャの項目で［なし］を選択した場合だけ選択できます。		
	デフォルト	RX600 シリーズ (-cpu=rx600)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	RX600 シリーズ (-cpu=rx600)	RX600 向けの命令コードを生成します。
		RX200 または RX100 シリーズ (-cpu=rx200)	RX200 向けの命令コードを生成します。

単精度浮動小数点処理命令を使用する	単精度浮動小数点処理命令を使用するかどうかを選択します。 コンパイラ，アセンブラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -fpu，-nofpu に相当します。 本プロパティは，CC-RX V2.01.00 以上をインストールした環境において，［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.01.00 以上を選択した場合に表示します。 なお，V2.01.00 未満の場合は［コンパイル・オプション］タブに表示します。		
	デフォルト	- ［命令セット・アーキテクチャ］プロパティで，［なし］を選択した場合 マイコン種別オプションに依存する - ［命令セット・アーキテクチャ］プロパティで，［なし］以外を選択した場合 ターゲット・デバイス固有の値	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	マイコン種別オプションに依存する	［マイコン種別］プロパティに従います。 ［命令セット・アーキテクチャ］プロパティで［なし］以外を選択した場合は非表示となります。
		はい (-fpu)	FPU 命令を使用したコード生成を行います。 なお，本項目は，［マイコン種別］プロパティで［RX200 (-cpu=rx200)］を選択した場合は，選択できません。
		いいえ (-nofpu)	FPU 命令を使用せず，実行時ルーチン呼び出しによるコード生成を行います。
倍精度浮動小数点処理命令を使用する	倍精度浮動小数点処理命令を使用するかどうかを選択します。 コンパイラ，アセンブラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -dpfpu に相当します。 本プロパティは，CC-RX V3.01.00 以上をインストールした環境において，［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.01.00 以上を選択した場合に表示します。 指定可能値はデバイスにより異なります。		
	デフォルト	デバイスにより異なります。 ただし以下のプロジェクトの種類の場合，デフォルトは［いいえ］です。 - アプリケーション (RI600V4,CC-RX) - アプリケーション (RI600PX,CC-RX)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-dpfpu)	倍精度浮動小数点処理命令を使用したコード生成を行います。 なお，本項目は，［単精度浮動小数点処理命令を使用する］プロパティで［いいえ (-nofpu)］を選択した場合は，選択できません。
		いいえ	倍精度浮動小数点処理命令を使用したコード生成を行いません。

データのエンディアン	データのエンディアンを選択します。 コンパイラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -endian，アセンブラのオプション -endian に相当します。		
	デフォルト	Little-endian データ (-endian=little)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	Big-endian データ (-endian=big)	データのバイト並びが big endian になります。
		Little-endian データ (-endian=little)	データのバイト並びが little endian になります。
浮動小数点定数演算の丸め方式	浮動小数点定数演算の丸め方式を選択します。 本オプションでは，実行時の浮動小数点演算における丸め方式を変更することはできません。 コンパイラ，およびライブラリ・ジェネレータのオプション -round に相当します。		
	デフォルト	round to nearest で丸める (-round=nearest)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	round to zero で丸める (-round=zero)	round to zero で丸めます。
		round to nearest で丸める (-round=nearest)	round to nearest で丸めます。
浮動小数点定数に非正規化数を記述した場合の扱い	浮動小数点定数に非正規化数を記述した場合の扱いを選択します。 本オプションでは，実行時の浮動小数点演算における非正規化数の扱いを変更することはできません。 コンパイラ，およびライブラリ・ジェネレータのオプション -denormalize に相当します。		
	デフォルト	0 として扱う (-denormalize=off)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	0 として扱う (-denormalize=off)	非正規化数を 0 として扱います。
		非正規化数として扱う (-denormalize=on)	非正規化数を非正規化数として扱います。
double 型、および long double 型の精度	double 型，および long double 型の精度を選択します。 コンパイラ，およびライブラリ・ジェネレータのオプション -dbl_size に相当します。		
	デフォルト	単精度として扱う (-dbl_size=4)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	単精度として扱う (-dbl_size=4)	double 型，および long double 型を単精度として扱います。
		倍精度として扱う (-dbl_size=8)	double 型，および long double 型を倍精度として扱います。

int 型を short 型に置換する	int 型を short 型に置換するかどうかを選択します。 コンパイラ，およびライブラリ・ジェネレータのオプション -int_to_short に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-int_to_short)	int を short に，unsigned int を unsigned short に置換します。
		いいえ	int を short に，unsigned int を unsigned short に置換しません。
char 型の符号	符号指定のない char 型の符号を選択します。 コンパイラ，およびライブラリ・ジェネレータのオプション -signed_char，-unsigned_char に相当します。		
	デフォルト	unsigned char 型として扱う (-unsigned_char)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	signed char 型として扱う (-signed_char)	char 型を signed char 型として扱います。
		unsigned char 型として扱う (-unsigned_char)	char 型を unsigned char 型として扱います。
ビットフィールド型の符号	符号指定のないビットフィールド型の符号を選択します。 コンパイラ，およびライブラリ・ジェネレータのオプション -signed_bitfield，-unsigned_bitfield に相当します。		
	デフォルト	符号なし型として扱う (-unsigned_bitfield)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	符号付き型として扱う (-signed_bitfield)	ビットフィールドの符号を符号付き型として扱います。
		符号なし型として扱う (-unsigned_bitfield)	ビットフィールドの符号を符号なし型として扱います。
列挙型のサイズを自動選択する	列挙型データのサイズを自動選択するかどうかを選択します。 コンパイラ，およびライブラリ・ジェネレータのオプション -auto_enum に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-auto_enum)	enum 宣言した列挙型のデータを，列挙値が収まる最小型として処理します。
		いいえ	列挙型サイズを signed long 型として処理します。
ビットフィールドメンバの並び順	ビットフィールドメンバの並び順を選択します。 コンパイラ，およびライブラリ・ジェネレータのオプション -bit_order に相当します。		
	デフォルト	右から割り付け (-bit_order=right)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	左から割り付け (-bit_order=left)	上位ビットからメンバを割り付けます。
		右から割り付け (-bit_order=right)	下位ビットからメンバを割り付けます。

構造体メンバのアライメントを 1 とする	構造体メンバ，クラスメンバのアライメント数を 1 とするかどうかを選択します。 コンパイラ，およびライブラリ・ジェネレータのオプション -pack，-unpack に相当します。		
	デフォルト	いいえ (-unpack)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-pack)	構造体メンバ，クラスメンバのアライメント数を 1 とします。
		いいえ (-unpack)	データのアライメントに従います。
C++ 例外処理機能 (try, catch, throw) を有効にする	C++ 例外処理機能（try，catch，throw）を有効にするかどうかを選択します。 コンパイラ，およびライブラリ・ジェネレータのオプション -exception，-noexception に相当します。		
	デフォルト	いいえ (-noexception)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-exception)	例外処理機能を有効にします。
		いいえ (-noexception)	例外処理機能を無効にします。
C++ 実行時型情報 (dynamic_cast, typeid) を有効にする	C++ 実行時型情報（dynamic_cast，typeid）を有効にするかどうかを選択します。 コンパイラ，およびライブラリ・ジェネレータのオプション -rtti に相当します。		
	デフォルト	いいえ (-rtti=off)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-rtti=on)	dynamic_cast，typeid を有効にします。
		いいえ (-rtti=off)	dynamic_cast，typeid を無効にします。
高速割り込み関数でのみ使用する汎用レジスタ	高速割り込み関数でのみ使用する汎用レジスタを選択します。 ［ROM 用ベースレジスタ］プロパティ，［RAM 用ベースレジスタ］プロパティ，［アドレス値を設定するベースレジスタのレジスタ］プロパティで指定したレジスタを本オプションで指定した場合，エラーとなります。 コンパイラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -fint_register，アセンブラのオプション -fint_register に相当します。		
	デフォルト	なし (-fint_register=0)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	なし (-fint_register=0)	高速割り込み専用のレジスタを使用しません。
		R13 (-fint_register=1)	R13 を高速割り込み専用で使用します。
		R12, R13 (-fint_register=2)	R13 ～ R12 を高速割り込み専用で使用します。
		R11 ～ R13 (-fint_register=3)	R13 ～ R11 を高速割り込み専用で使用します。
		R10 ～ R13 (-fint_register=4)	R13 ～ R10 を高速割り込み専用で使用します。

分岐幅	分岐幅を選択します。 コンパイラ，およびライブラリ・ジェネレータのオプション -branch に相当します。		
	デフォルト	24bit 以内であるとしてコンパイル (-branch=24)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	16bit 以内であるとしてコンパイル (-branch=16)	分岐幅のサイズが 16bit 以内であるとしてコンパイルします。
		24bit 以内であるとしてコンパイル (-branch=24)	分岐幅のサイズが 24bit 以内であるとしてコンパイルします。
		指定しない (-branch=32)	分岐幅のサイズを限定しません。
ROM 用ベースレジスタ	プログラム全体で，ベースアドレスとして固定で使用する汎用レジスタを指定します。 「base=rom= *レジスタ A*」を指定した場合は，const 変数のアクセスはすべて指定した「*レジスタ A*」相対で行います。 ただし，定数領域セクション全体の大きさが 64KB ～ 256KB 以内でなければなりません。 コンパイラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -base，アセンブラのオプション -base に相当します。 また，本プロパティは，［PIC/PID］カテゴリの［PID 機能を有効にする］プロパティが［いいえ］のときに表示します。		
	デフォルト	なし	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	なし	ROM 用ベースレジスタを指定しません。
		R8 (-base=rom=R8)	R8 を ROM 用ベースレジスタに指定します。
		R9 (-base=rom=R9)	R9 を ROM 用ベースレジスタに指定します。
		R10 (-base=rom=R10)	R10 を ROM 用ベースレジスタに指定します。
		R11 (-base=rom=R11)	R11 を ROM 用ベースレジスタに指定します。
		R12 (-base=rom=R12)	R12 を ROM 用ベースレジスタに指定します。
		R13 (-base=rom=R13)	R13 を ROM 用ベースレジスタに指定します。

RAM 用ベースレジスタ	プログラム全体で，ベースアドレスとして固定で使用する汎用レジスタを指定します。 「base=ram= *レジスタ B*」を指定した場合は，初期化変数および未初期化変数のアクセスはすべて指定した「*レジスタ B*」相対で行います。 ただし，RAM データ全体の大きさが 64KB ～ 256KB 以内でなければなりません。 コンパイラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -base，アセンブラのオプション -base に相当します。		
	デフォルト	なし	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	なし	RAM 用ベースレジスタを指定しません。
		R8 (-base=ram=R8)	R8 を RAM 用ベースレジスタに指定します。
		R9 (-base=ram=R9)	R9 を RAM 用ベースレジスタに指定します。
		R10 (-base=ram=R10)	R10 を RAM 用ベースレジスタに指定します。
		R11 (-base=ram=R11)	R11 を RAM 用ベースレジスタに指定します。
		R12 (-base=ram=R12)	R12 を RAM 用ベースレジスタに指定します。
		R13 (-base=ram=R13)	R13 を RAM 用ベースレジスタに指定します。
アドレス値を設定するベースレジスタのアドレス	アドレス値を設定するベースレジスタのアドレスを指定します。 コンパイラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -base，アセンブラのオプション -base に相当します。		
	デフォルト	00000000（16 進数）	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	0 ～ FFFFFFFF（16 進数）	

アドレス値を設定するベースレジスタのレジスタ	プログラム全体で，ベースアドレスとして固定で使用する汎用レジスタを指定します。 「*アドレス値* = *レジスタ C*」を指定した場合は，コンパイル時に割り付けアドレスが確定している領域のうち，アドレス値から 64KB ～ 256KB 以内の領域のアクセスを，指定した「*レジスタ C*」相対で行います。 コンパイラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -base，アセンブラのオプション -base に相当します。 なお，本プロパティは，［PIC/PID］カテゴリの［PID 機能を有効にする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	なし	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	なし	アドレス値を設定するベースレジスタを指定しません。
		R8 (-base=< アドレス値 >=R8)	R8 をアドレス値を設定するベースレジスタに指定します。
		R9 (-base=< アドレス値 >=R9)	R9 をアドレス値を設定するベースレジスタに指定します。
		R10 (-base=< アドレス値 >=R10)	R10 をアドレス値を設定するベースレジスタに指定します。
		R11 (-base=< アドレス値 >=R11)	R11 をアドレス値を設定するベースレジスタに指定します。
		R12 (-base=< アドレス値 >=R12)	R12 をアドレス値を設定するベースレジスタに指定します。
		R13 (-base=< アドレス値 >=R13)	R13 をアドレス値を設定するベースレジスタに指定します。
CPU タイプ特有の問題を回避する	CPU タイプ特有の問題を回避するかどうかを選択します。 コンパイラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -patch，アセンブラのオプション -patch に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	いいえ	組み込み関数 set_ipl の呼び出しに対する生成コードは，MVTIPL 命令を含んだものとなります。
		はい (RX610 グループ向け) (-patch=rx610)	MVTIPL 命令を生成コードに使用しません（RX610 グループ向け）。
割り込み関数で ACC を退避・回復する	割り込み関数でアキュムレータ（ACC）を退避・回復するかどうかを選択します。 生成される退避・回復コードは，#pragma interrupt に acc を選択したときに生成されるコードと同じものです。 コンパイラ，およびライブラリ・ジェネレータのオプション -save_acc オプションに相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-save_acc)	割り込み関数で ACC を退避・回復します。
		いいえ	割り込み関数で ACC を退避・回復しません。

(3) ［PIC/PID］

PIC/PID 機能に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

PIC 機能を有効にする	PIC（位置独立コード）機能を有効にするかどうかを選択します。 PIC においては，関数呼び出しはすべて BSR または BRA 命令を用いて行い，また関数のアドレスを取得するときは PC からの相対アドレスを用いるようにします。これによって，PIC はリンク後に任意のアドレスに配置することができます。 コンパイラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -pic，アセンブラのオプション -pic に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-pic)	PIC 機能を有効にします。
		いいえ	PIC 機能を無効にします。
PID 機能を有効にする	PID（位置独立データ）機能を有効にするかどうかを選択します。 定数領域セクション C，C_2 および C_1，リテラルセクション L と switch 文分岐テーブルセクション W，W_2 および W_1 を PID（位置独立データ）とします。 PID のアクセスは，すべて PID レジスタからの相対アドレスで行います。 コンパイラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -pid，アセンブラのオプション -pid に相当します。 なお，本プロパティは，［CPU］カテゴリの［ROM 用ベースレジスタ］プロパティで［なし］，および［PID レジスタをコード生成に使用する］プロパティで［はい］，を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (オフセットの最大幅：16 ビット) (-pid=16)	PID 機能を有効にします。 16 ビット（64KB ～ 256KB）のアドレッシングに対応します。
		はい (オフセットの最大幅：制限なし) (-pid=32)	PID 機能を有効にします。 32 ビット（4GB）のアドレッシングに対応します。
		いいえ	PID 機能を無効にします。
PID レジスタをコード生成に使用する	PID レジスタをコード生成に使用するかどうかを選択します。 PID 機能が有効なアプリケーションプログラムから呼び出されるマスタプログラムは，本オプションでコンパイル／アセンブルする必要があります。 コンパイラおよびライブラリ・ジェネレータのオプション -nouse_pid_register，アセンブラのオプション -nouse_pid_register に相当します。 なお，本プロパティは，［PID 機能を有効にする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	はい	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	PID レジスタをコード生成に使用します。
		いいえ (-nouse_pid_register)	PID レジスタをコード生成に使用しません。

(4) ［出力ファイルの種類と場所］

コンパイル時によく使うオプションに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

<table>
<tr><td rowspan="5">出力ファイルの種類</td><td colspan="3">ビルド時に生成するファイルの種類を選択します。
ここで設定したファイルの種類がデバッグ対象になります。
なお，ライブラリ用のプロジェクト以外の場合は［実行形式（ロード・モジュール・ファイル)］，［実行形式（ヘキサ・ファイル)］のみを表示します。ただし，［よく使うオプション（ヘキサ出力)］カテゴリの［ヘキサ・ファイルを出力する］プロパティで［いいえ］を選択した場合，［実行形式 (ヘキサ・ファイル)］を表示しません。
ライブラリ用のプロジェクトの場合は［ライブラリ形式］のみを表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">- ライブラリ用のプロジェクト以外の場合
実行形式（ロード・モジュール・ファイル）
- ライブラリ用のプロジェクトの場合
ライブラリ形式</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指定可能値</td><td>実行形式 (ロード・モジュール・ファイル)</td><td>ロード・モジュール・ファイルをデバッグ対象にします。</td></tr>
<tr><td>実行形式 (ヘキサ・ファイル)</td><td>ヘキサ・ファイルをデバッグ対象にします。</td></tr>
<tr><td>ライブラリ形式</td><td>デバッグ対象に設定しません。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>中間ファイル出力フォルダ</td><td>中間ファイルを出力するフォルダを指定します。
相対パスで指定した場合は，メイン・プロジェクト，またはサブプロジェクトのフォルダを基点とします。
絶対パスで指定した場合は，メイン・プロジェクト，またはサブプロジェクトのフォルダを基点とした相対パスに変換します（ドライブが異なる場合を除く）。
次のプレースホルダに対応しています。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
空欄の場合は，プロジェクトのフォルダを指定したものとみなします。
なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。
本プロパティの設定は，以下のファイルの出力先に影響します。
- オブジェクト・ファイル（*.obj）
- 前処理済みソース・ファイル（*.p *.pp）
- アセンブリ・ソース・ファイル (-output=src または -asm_path オプション指定時)（*.src）
- アセンブル・リスト・ファイル（*.lst）
- コンパイラ用のサブコマンド・ファイル（*.cca）
- アセンブラ用のサブコマンド・ファイル（*.cas）
- 最適化リンカ用のサブコマンド・ファイル（ライブラリ用のプロジェクト以外）（*.clnk）
- 最適化リンカ用のサブコマンド・ファイル（ライブラリ用のプロジェクト）（*.ccl）

コンパイラ，アセンブラ用のサブコマンド・ファイルは，コンパイラ，またはアセンブラのオプションをスペース区切りで記載したものです。コンパイラ，またはアセンブラのコマンドラインが長い場合のみ出力されます。
最適化リンカ用のサブコマンド・ファイルは，最適化リンカのオプションを CR+LF 区切りで記載したものです。
サブコマンド・ファイルは CS+ が内部的に使用しているもので，ビルド時にすでに存在する場合，上書きされます。
<table>
<tr><td>デフォルト</td><td>%BuildModeName%</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td>テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，フォルダの参照 ダイアログによる編</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>247 文字までの文字列</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

(5) ［よく使うオプション（コンパイル）］

コンパイル時によく使うオプションに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

<table>
<tr><td rowspan="4">追加のインクルード・パス</td><td colspan="3">インクルード・ファイルの存在するパス名を指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
なお，パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。
コンパイラのオプション -include に相当します。
指定したインクルード・パスはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">追加のインクルード・パス [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">247 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">システム・インクルード・パス</td><td colspan="3">コンパイル時にシステムが設定するインクルード・パスの指定順を変更します。
コンパイラのオプション -include に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">システム・インクルード・パス [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，システム・インクルード・パス順設定 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td rowspan="4">マクロ定義</td><td colspan="3">定義したいマクロ名を指定します。
「マクロ名 = 文字列」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。
「= 文字列」の部分は省略可能で，省略した場合，そのマクロ名が定義されたものと仮定します。
コンパイラのオプション -define に相当します。
指定したマクロはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">マクロ定義 [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">32767 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">デバッグ情報を出力する</td><td colspan="3">デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力するかどうかを選択します。
コンパイラのオプション -debug，-nodebug に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ (-nodebug)</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-debug)</td><td>デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力します。</td></tr>
<tr><td>いいえ (-nodebug)</td><td>デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力しません。</td></tr>
</table>

最適化レベル	最適化レベルを選択します。 コンパイラのオプション -optimize に相当します。		
	デフォルト	2 (-optimize=2)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	0 (-optimize=0)	最適化を実施しません。
		1 (-optimize=1)	自動変数のレジスタ割り付け，関数出口ブロックの統合，統合可能な複数命令の統合など，一部最適化を実施します。
		2 (-optimize=2)	全般的に最適化を実施します。
		Max (-optimize=max)	実施可能な最適化を最大限に行います。
モジュール間最適化用付加情報を出力する	モジュール間最適化用付加情報を出力するかどうかを選択します。 本オプションを指定したファイルは，リンク時にモジュール間最適化の対象になります。 コンパイラのオプション -goptimize に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-goptimize)	モジュール間最適化用付加情報を出力します。
		いいえ	モジュール間最適化用付加情報を出力しません。
最適化方法	最適化方法を選択します。 コンパイラのオプション -speed，-size に相当します。		
	デフォルト	コード・サイズ重視の最適化 (-size)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	実行性能重視の最適化 (-speed)	実行性能重視の最適化を実施します。
		コード・サイズ重視の最適化 (-size)	コードサイズ重視の最適化を実施します。
ソース・リスト・ファイルを出力する	ソース・リスト・ファイルを出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -listfile，-nolistfile に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-listfile)	ソース・リスト・ファイルを出力します。
		いいえ (-nolistfile)	ソース・リスト・ファイルを出力しません。

C/C++ ソースを出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 C/C++ ソースを出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=source)	C/C++ ソースを出力します。
		いいえ	C/C++ ソースを出力しません。
条件アセンブルで偽の行を出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 条件アセンブルで偽の行を出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=conditionals)	条件アセンブルで偽の行を出力します。
		いいえ	条件アセンブルで偽の行を出力しません。
.DEFINE 置換前の情報を出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 .DEFINE 置換前の情報を出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=definitions)	.DEFINE 置換前の情報を出力します。
		いいえ	.DEFINE 置換前の情報を出力しません。
アセンブラ・マクロ記述展開行を出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 アセンブラ・マクロ記述展開行を出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=expansions)	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力します。
		いいえ	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力しません。

(6) ［よく使うオプション（アセンブル）］

アセンブル時によく使うオプションに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

<table>
<tr><td rowspan="4">追加のインクルード・パス</td><td colspan="3">インクルード・ファイルの存在するパス名を指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
なお，パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。
アセンブラのオプション -include に相当します。
指定したインクルード・パスはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">追加のインクルード・パス [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">247 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">システム・インクルード・パス</td><td colspan="3">アセンブル時にシステムが設定するインクルード・パスの指定順を変更します。
アセンブラのオプション -include に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">システム・インクルード・パス [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，システム・インクルード・パス順設定 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td rowspan="3">マクロ定義</td><td colspan="3">定義したいマクロ名を指定します。
「マクロ名 = 文字列」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。
アセンブラのオプション -define に相当します。
指定したマクロはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">マクロ定義 [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td rowspan="3">デバッグ情報を出力する</td><td colspan="3">デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力するかどうかを選択します。
アセンブラのオプション -debug，-nodebug に相当します。
なお，本プロパティは，［ビルド方法］カテゴリの［一括ビルドを行う］プロパティで［いいえ］を選択した場合に表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ (-nodebug)</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-debug)</td><td>デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力します。</td></tr>
<tr><td>いいえ (-nodebug)</td><td>デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力しません。</td></tr>
</table>

モジュール間最適化用付加情報を出力する	モジュール間最適化用付加情報を出力するかどうかを選択します。 本オプションを指定したファイルは，リンク時にモジュール間最適化の対象になります。 アセンブラのオプション -goptimize に相当します。 なお，本プロパティは，［ビルド方法］カテゴリの［一括ビルドを行う］プロパティで［いいえ］を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-goptimize)	モジュール間最適化用付加情報を出力します。
		いいえ	モジュール間最適化用付加情報を出力しません。
アセンブル・リスト・ファイルを出力する	アセンブル・リスト・ファイルを出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -listfile，-nolistfile に相当します。 なお，本プロパティは，［ビルド方法］カテゴリの［一括ビルドを行う］プロパティで［いいえ］を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ (-nolistfile)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-listfile)	アセンブル・リスト・ファイルを出力します。
		いいえ (-nolistfile)	アセンブル・リスト・ファイルを出力しません。
条件アセンブルで偽の行を出力する	アセンブル・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 条件アセンブルで偽の行を出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［アセンブル・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=conditionals)	条件アセンブルで条件が偽となった行を出力します。
		いいえ	条件アセンブルで条件が偽となった行を出力しません。
.DEFINE 置換前の情報を出力する	アセンブル・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 .DEFINE 置換前の情報を出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［アセンブル・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=definitions)	.DEFINE 置換前の情報を出力します。
		いいえ	.DEFINE 置換前の情報を出力しません。

アセンブラ・マクロ記述展開行を出力する	アセンブル・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 アセンブラ・マクロ記述展開行を出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［アセンブル・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=expansions)	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力します。
		いいえ	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力しません。

(7) ［よく使うオプション（リンク）］

リンク時によく使うオプションに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。
なお，本カテゴリは，ライブラリ用のプロジェクトの場合は表示しません。

使用するライブラリ・ファイル	ライブラリ・ファイルを指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。 %ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 リンカのオプション -library に相当します。 ライブラリ・ファイル名はサブプロパティとして表示します。		
	デフォルト	ライブラリ・ファイル [*定義数*]	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	
デバッグ情報を出力する	デバッグ情報を出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -debug，-sdebug，および -nodebug に相当します。		
	デフォルト	はい (出力ファイル内) (-DEBug)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (出力ファイル内) (-DEBug)	デバッグ情報を出力します（出力ファイル内）。
		はい (デバッグ情報ファイル出力) (-SDebug)	デバッグ情報ファイルを出力します。
		いいえ (-NODEBug)	デバッグ情報を出力しません。

最適化方法	最適化方法を選択します。 リンカのオプション -nooptimize，および -optimize に相当します。		
	デフォルト	しない (-NOOPtimize)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	しない (-NOOPtimize)	モジュールの最適化を行いません。
		すべて (-OPtimize)	すべての最適化を行います。
		スピード重視 (-OPtimize=SPeed)	スピード重視の最適化を行います。
		安全な最適化 (-OPtimize=SAFe)	安全な最適化を行います。
		カスタム	指定した項目の最適化を行います。
未参照シンボルを削除する	未参照シンボルを削除するかどうかを選択します。 リンカのオプション -optimize に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化方法］プロパティで［カスタム］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-OPtimize=Symbol_delete)	未参照シンボルを削除します。
		いいえ	未参照シンボルを削除しません。
複数の同一命令列をサブルーチン化する	複数の同一命令列をサブルーチン化するかどうかを選択します。 リンカのオプション -optimize に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化方法］プロパティで［カスタム］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-OPtimize=SAMe_code)	複数の同一命令列をサブルーチン化します。
		いいえ	複数の同一命令列をサブルーチン化しません。
最小コードサイズ	共通コード統合最適化で，最適化対象となる最小コードサイズを指定します。 リンカのオプション -optimize に相当します。 なお，本プロパティは，［複数の同一命令列をサブルーチン化する］プロパティで［はい (-OPtimize=SAMe_code)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	1E（16 進数）	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	8 ～ 7FFF（16 進数）	

コードサイズがより小さくなる命令に置き換える	コードサイズがより小さくなる命令に置き換えるかどうかを選択します。 リンカのオプション -optimize に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化方法］プロパティで［カスタム］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-OPtimize=SHort_format)	コードサイズがより小さくなる命令に置き換えます。
		いいえ	コードサイズがより小さくなる命令に置き換えません。
分岐命令サイズを最適化する	プログラムの配置情報に基づいて，分岐命令サイズを最適化するかどうかを選択します。 リンカのオプション -optimize に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化方法］プロパティで［カスタム］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-OPtimize=Branch)	プログラムの配置情報に基づいて，分岐命令サイズを最適化します。
		いいえ	分岐命令サイズを最適化しません。
セクションの開始アドレス	セクションの開始アドレスを指定します。 リンカのオプション -start に相当します。		
	デフォルト	ターゲット・デバイス固有の値	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，セクション設定 ダイアログによる編集	
	指定可能値	1022 文字までの文字列	

(8) ［よく使うオプション（ヘキサ出力）］

ヘキサ出力時によく使うオプションに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。
なお，本カテゴリは，ライブラリ用のプロジェクトの場合は表示しません。

ヘキサ・ファイルを出力する	ヘキサ・ファイルを出力するかどうかを選択します。		
	デフォルト	はい	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	ヘキサ・ファイルを出力します。
		いいえ	ヘキサ・ファイルを出力しません。
ヘキサ・ファイル・フォーマット	出力するヘキサ・ファイルのフォーマットを選択します。 リンカのオプション -form に相当します。		
	デフォルト	モトローラ・S タイプ・ファイル (-Form=Stype)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	インテル拡張ヘキサ・ファイル (-Form=Hexadecimal)	インテル拡張ヘキサ・ファイルを出力します。
		モトローラ・S タイプ・ファイル (-Form=Stype)	モトローラ・S タイプ・ファイルを出力します。
		バイナリ・ファイル (-Form=Binary)	バイナリ・ファイルを出力します。

<table>
<tr><td>出力フォルダ</td><td colspan="2">ヘキサ・ファイルの出力フォルダを指定します。
相対パスで指定した場合は，メイン・プロジェクト，またはサブプロジェクトのフォルダを基点とします。
絶対パスで指定した場合は，メイン・プロジェクト，またはサブプロジェクトのフォルダを基点とした相対パスに変換します (ドライブが異なる場合を除く)
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
空欄の場合は，プロジェクト・フォルダを指定したものとみなします。
リンカのオプション -output に相当します。
なお，本プロパティは，［ヘキサ・ファイルを出力する］プロパティで［はい］を選択した場合のみ表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td>%BuildModeName%</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td>テキスト・ボックスによる直接入力，または [...] ボタンをクリックし，フォルダの参照ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td>247 文字までの文字列</td></tr>
<tr><td>出力ファイル名</td><td colspan="2">ヘキサ・ファイル名をを指定します。
拡張子を省略した場合は，［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティの選択に依存して，自動的に付加します。
［インテル拡張ヘキサ・ファイル (-Form=Hexadecimal)］を選択している場合：.hex
［モトローラ・S タイプ・ファイル (-Form=Stype)］を選択している場合：.mot
［バイナリ・ファイル (-Form=Binary)］を選択している場合：.bin
次のプレースホルダに対応しています。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
リンカのオプション -output に相当します。
なお，本プロパティは，［ヘキサ・ファイルを出力する］プロパティで［はい］を選択した場合のみ表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td>%ProjectName%.abs</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td>テキスト・ボックスによる直接入力</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td>259 文字までの文字列</td></tr>
</table>

分割出力ファイル	分割出力ファイルを指定します。 「*ファイル名 = 先頭アドレス - 終了アドレス*」，または「*ファイル名 = セクション名*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 セクション名を複数指定する場合は，「*ファイル名 = セクション名 : セクション名*」のように，コロンで区切って指定します (例 : file1.mot=sec1:sec2)。 アドレスは 16 進数で指定します (例 : file2.mot=400-4ff) 拡張子を省略した場合は，［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティの選択に依存して，自動的に付加します。 ［インテル拡張ヘキサ・ファイル (-Form=Hexadecimal)］を選択している場合 : .hex ［モトローラ・S タイプ・ファイル (-Form=Stype)］を選択している場合 : .mot ［バイナリ・ファイル (-Form=Binary)］を選択している場合 : .bin 次のプレースホルダに対応しています。 %ActiveProjectDir% : アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ActiveProjectName% : アクティブ・プロジェクト名に置換します。 %BuildModeName% : ビルド・モード名に置換します。 %MainProjectDir% : メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %MainProjectName% : メイン・プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath% : 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %OutputDir% : 出力フォルダの絶対パスに置換します。 %OutputFile% : 出力ファイルの絶対パスに置換します。 %ProjectDir% : プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% : プロジェクト名に置換します。 %TempDir% : テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。 %WinDir% : Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。 空欄の場合は，プロジェクト・フォルダを指定したものとみなします。 リンカのオプション -output に相当します。 分割出力ファイル名はサブプロパティとして表示します。 なお，本プロパティは，［ヘキサ・ファイルを出力する］プロパティで［はい］を選択した場合のみ表示します	
	デフォルト	分割出力ファイル［*定義数*］
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	255 文字までの文字列 65536 個まで指定可能

(9) ［よく使うオプション（ライブラリアン）］

ライブラリ生成時によく使うオプションに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。
なお，本カテゴリは，ライブラリ用プロジェクトの場合で，［ライブラリアン・オプション］タブの［出力］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティが［リロケータブル・モジュール・ファイル (-Form=Relocate)］の時のみ表示します。

デバッグ情報を出力する	デバッグ情報を出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -nodebug，-debug に相当します。		
	デフォルト	はい (出力ファイル内) (-DEBug)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (出力ファイル内) (-DEBug)	デバッグ情報を出力します（出力ファイル内）。
		いいえ (-NODEBug)	デバッグ情報を出力しません。

(10) ［ビルド方法］

ビルド方法に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

一括ビルドを行う	複数のファイルを同時にコンパイル／アセンブル／リンクしてロード・モジュール・ファイルを生成するかどうかを選択します。 ただし，個別オプションを設定しているファイル，およびビルド前実行の対象となっているファイルは，一括ビルドの対象から除きます。 一括ビルドについての詳細は「2.2.1 一括ビルドを行う」を参照してください。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	プロジェクト作成時のコンパイラ・パッケージのバージョンにより異なります。	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	複数のファイルを同時にコンパイル／アセンブル／リンクします。
		いいえ	ファイル単位でコンパイル／アセンブル／リンクを行います。
パラレル・ビルドを行う	パラレル・ビルド機能を有効にするかどうかを選択します。 パラレル・ビルド機能により，CS+ はコンピュータが搭載しているすべてのプロセッサを使用してパラレルに複数のソース・ファイルをコンパイル／アセンブルします。これにより，より速くコンパイル／アセンブルすることができます。 さらに，プロジェクト間のパラレル・ビルドは，［ツール］メニュー→［オプション］を選択し，オプション ダイアログの［全般 - ビルド］カテゴリにて設定することができます。 パラレル・ビルドの詳細については，「2.2.2 パラレル・ビルド（並列ビルド）を行う」を参照してください。		
	デフォルト	プロジェクト作成時のコンパイラ・パッケージのバージョンにより異なります。	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	パラレル・ビルドを有効にします。
		いいえ	パラレル・ビルドを無効にします。
パラレル・ビルドでメッセージを各ソース・ファイル／ターゲット毎にグループ化する	パラレル・ビルドでメッセージを各ソース・ファイル／ターゲット毎にグループ化するかどうかを選択します。 ［はい］を選択した場合，メッセージの出力タイミングを各ソース・ファイルのコンパル／アセンブル等の終了タイミングと同期します。 なお，本プロパティは［パラレル・ビルドを行う］プロパティで［はい］を選択した場合に表示します。 **注意** オプション ダイアログの［全般 - ビルド］で［プロジェクト間のパラレル・ビルドを有効にする］がチェックされている場合，グループ化は行われません。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	パラレル・ビルドでメッセージを各ソース・ファイル／ターゲット毎にグループ化します。
		いいえ	パラレル・ビルドでメッセージを各ソース・ファイル／ターゲット毎にグループ化しません。

インクルード・ファイルが存在しないソースの扱い	ソース・ファイルがインクルードしているファイルが存在しない場合，そのソース・ファイルを再コンパイル／アセンブルするかどうかを選択します。		
	デフォルト	再コンパイル／アセンブルする	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	再コンパイル／アセンブルする	インクルード・ファイルが存在しない場合，ソース・ファイルを再コンパイル／アセンブルします。
		再コンパイル／アセンブルしない	インクルード・ファイルが存在しない場合，ソース・ファイルを再コンパイル／アセンブルしません。
パス、リンク順の互換性を保つ	High-performance Embedded Workshop のパス指定，リンク順と互換性を保つかどうかを選択します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	High-performance Embedded Workshop の仕様に則った，パス指定，リンク順になります。
		いいえ	本製品の仕様に則った，パス指定，リンク順になります。

(11) ［バージョン選択］
ビルド・ツールのバージョン選択に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

使用するコンパイラ・パッケージのインストール・フォルダ	使用するコンパイラ・パッケージがインストールしているフォルダを表示します。		
	デフォルト	インストール・フォルダ名	
	変更方法	変更不可	
使用するコンパイラ・パッケージのバージョン	使用するコンパイラ・パッケージのバージョンを選択します。 この設定はすべてのビルド・モードで共通です。		
	デフォルト	常にインストール済みの最新版	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	常にインストール済みの最新版	インストールしているコンパイラ・パッケージの内，最新バージョンを使用します。
		インストールしているコンパイラ・パッケージのバージョン	選択したバージョンのコンパイラ・パッケージを使用します。
インストール済みのコンパイラ・パッケージの最新バージョン	［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］を選択した場合に使用するコンパイラ・パッケージのバージョンを表示します。 この設定はすべてのビルド・モードで共通です。 なお，本プロパティは，［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	インストールしているコンパイラ・パッケージの最新バージョン	
	変更方法	変更不可	

(12) ［記録］
記録に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

メモ	このビルド・ツールにメモを追加します。 1 行に 1 項目ずつ指定します。 この設定はすべてのビルド・モードで共通です。 追加したメモはサブプロパティとして表示します。	
	デフォルト	メモ [*項目数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	256 文字までの文字列 256 個まで指定可能です。

(13) ［その他］

ビルド・ツールに関するその他の詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

出力メッセージ・フォーマット	ビルド中のメッセージのフォーマットを指定します。 対象となるのは，使用するビルド・ツール，およびプラグインによって追加されたコマンドの出力メッセージです。 ［ビルド前に実行するコマンド］プロパティ，および［ビルド後に実行するコマンド］プロパティなどで指定したコマンドの出力メッセージは対象外です。 次のプレースホルダに対応しています。 %Program% ： 実行中のプログラム名に置換します。 %Options% ： ビルド実行時のコマンド・ライン・オプションに置換します。 %TargetFiles% ： ビルド中のファイル名に置換します。 空欄の場合は，%Program% %Options% を自動的に設定します。		
	デフォルト	%TargetFiles%	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力（256 文字までの文字列），またはドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	%TargetFiles%	出力メッセージにファイル名を表示します。
		%TargetFiles%: %Options%	出力メッセージにファイル名とコマンド・ライン・オプションを表示します。
		%Program% %Options%	出力メッセージにプログラム名とコマンド・ライン・オプションを表示します。
ビルド・オプション一覧表示フォーマット	ビルド・オプション一覧の表示フォーマットを指定します。 対象となるのは，使用するビルド・ツール，およびプラグインによって追加されたコマンドのオプションです。 ［ビルド前に実行するコマンド］プロパティ，および［ビルド後に実行するコマンド］プロパティなどで指定したコマンドのオプションは対象外です。 次のプレースホルダに対応しています。 %Program% ： 実行中のプログラム名に置換します。 %Options% ： ビルド実行時のコマンド・ライン・オプションに置換します。 %TargetFiles% ： ビルド中のファイル名に置換します。 空欄の場合は，%TargetFiles% : %Program% %Options% を自動的に設定します。		
	デフォルト	%TargetFiles% : %Program% %Options%	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	256 文字までの文字列	

<table>
<tr><td>ビルド前に実行するコマンド</td><td>ビルド処理前に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，ビルド処理前に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。
<table><tr><td>デフォルト</td><td>ビルド前に実行するコマンド [定義数]</td></tr><tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr><tr><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>ビルド後に実行するコマンド</td><td>ビルド処理後に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，ビルド処理後に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。
<table><tr><td>デフォルト</td><td>ビルド後に実行するコマンド [定義数]</td></tr><tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr><tr><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr></table></td></tr>
</table>

その他の追加オプション	その他に追加するオプションを入力します。 なお，ここで設定したオプションは，コンパイラのオプション群の最後に付加します。 **注意** ［ビルド方法］カテゴリの［一括ビルドを行う］プロパティで［はい］が選択されている，かつプロジェクトにアセンブリ・ソース・ファイルがある場合，本プロパティにはオプションを 1 個のみ指定できます。	
	デフォルト	空欄
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または [...] ボタンをクリックし，文字列入力ダイアログによる編集
	指定可能値	259 文字までの文字列

［コンパイル・オプション］タブ

本タブでは，コンパイル・フェーズに対して，次に示すカテゴリごとに詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

(1)［ソース］
(2)［オブジェクト］
(3)［品質向上関連］
(4)［リスト］
(5)［最適化］
(6)［出力ファイル］
(7)［MISRA C ルール検査］
(8)［その他］

［各カテゴリの説明］

(1) ［ソース］

ソースに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

C ソース・ファイルの言語	C ソース・ファイルの言語を選択します。 コンパイラのオプション -lang に相当します。		
	デフォルト	C(C89) (-lang=c)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	C(C89) (-lang=c)	C(C89) 言語ソースファイルとしてコンパイルします。
		C99 (-lang=c99)	C(C99) 言語ソースファイルとしてコンパイルします。
C++ ソース・ファイルの言語	C++ ソース・ファイルの言語を選択します。 コンパイラのオプション -lang に相当します。		
	デフォルト	C++ (-lang=cpp)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	C++ (-lang=cpp)	C++ 言語ソースファイルとしてコンパイルします。
		EC++ (-lang=ecpp)	EC++ 言語ソースファイルとしてコンパイルします。

<table>
<tr><td rowspan="4">追加のインクルード・パス</td><td colspan="2">インクルード・ファイルの存在するパス名を指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
なお，パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。
コンパイラのオプション -include に相当します。
指定したインクルード・パスはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td>追加のインクルード・パス [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>247 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">システム・インクルード・パス</td><td colspan="2">コンパイル時にシステムが設定するインクルード・パスの指定順を変更します。
コンパイラのオプション -include に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td>システム・インクルード・パス [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，システム・インクルード・パス順設定 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>変更不可（インクルード・パスの設定順の変更のみ可能）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">コンパイル単位の先頭にインクルードするファイル</td><td colspan="2">コンパイル単位の先頭にインクルードするファイルを指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
なお，パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。
コンパイラのオプション -preinclude に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td>コンパイル単位の先頭にインクルードするファイル [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>259 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
</table>

マクロ定義	定義したいマクロ名を指定します。 「*マクロ名* = *文字列*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 「= *文字列*」の部分は省略可能で，省略した場合，そのマクロ名が定義されたものと仮定します。 コンパイラのオプション -define に相当します。 指定したマクロはサブプロパティとして表示します。		
	デフォルト	マクロ定義 [*定義数*]	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	
無効化するプリデファインド・マクロ	無効化するプリデファインド・マクロを指定します。 複数指定する場合は，マクロ名をカンマで区切って指定します（例：__DBL4,__SCHAR）。 コンパイラのオプション -undefine に相当します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，無効化するマクロの指定 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする	インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にするかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -message，および -nomessage に相当します。		
	デフォルト	いいえ (-nomessage)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-message)	インフォメーション・レベル・メッセージを有効にします。
		いいえ (-nomessage)	インフォメーション・レベル・メッセージを無効にします。
抑止するインフォメーションレベル・メッセージ番号	抑止するインフォメーション・レベル・メッセージ番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -nomessage に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーション・レベル・メッセージを抑止する］プロパティで［いいえ (-nomessage)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	

表示させないメッセージ	表示させないインフォメーション，ウォーニングレベルのメッセージの番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -no_warning に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更する	ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-change_message=information)	すべてのウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-change_message=information=< エラー番号 >)	ウォーニングレベルの指定エラー番号のみインフォメーションレベルに変更します。
		いいえ	ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更しません。
ウォーニングレベルのエラー番号	ウォーニングレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-change_message=information=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	

インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更する	インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-change_message=warning)	すべてのインフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-change_message=warning=< エラー番号 >)	インフォメーションレベルの指定エラー番号のみウォーニングレベルに変更します。
		いいえ	インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更しません。
インフォメーションレベルのエラー番号	インフォメーションレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-change_message=warning=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
インフォメーション、ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更する	インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-change_message=error))	すべてのインフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-change_message=error=< エラー番号 >)	インフォメーション，ウォーニングレベルの指定エラー番号のみエラーレベルに変更します。
		いいえ	インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更しません。

インフォメーション、ウォーニングレベルのエラー番号	インフォメーション，ウォーニングレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーション、ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-change_message=error=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
ファイル間インライン展開ファイル取り込み先フォルダ	ファイル間インライン展開ファイル取り込み先フォルダを指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。 %BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。 %MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。 %TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。 %WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。 なお，パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。 コンパイラのオプション -file_inline_path に相当します。 指定したインクルード・パスはサブプロパティとして表示します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	ファイル間インライン展開ファイル取り込み先フォルダ [*定義数*]	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	247 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	
コメント (/* */) のネストを許す	コメント (/* */) のネストを許すかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -comment に相当します。		
	デフォルト	いいえ (-comment=nonest)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-comment=nest)	コメント (/* */) のネストを許します。
		いいえ (-comment=nonest)	コメント (/* */) のネストを許しません。

既存プログラムとの互換性をチェックする	既存プログラムとの互換性をチェックするかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -check に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (NC コンパイラ) (-check=nc)	R8C,M16C ファミリ用 C コンパイラとの互換性をチェックします。
		はい (H8 コンパイラ) (-check=ch38)	H8,H8S,H8SX ファミリ用 C/C++ コンパイラとの互換性をチェックします。
		はい (SH コンパイラ) (-check=sh)	SuperH ファミリ用 C/C++ コンパイラとの互換性をチェックします。
		いいえ	既存プログラムとの互換性をチェックしません。
入力プログラムの文字コード	入力プログラムの文字コードを選択します。 [繁体中国語 (-big5)] と [簡体中国語 (-gb2312)] に関しては，[オブジェクト] カテゴリの [出力アセンブリ言語ファイルの文字コード] プロパティの値と同期します。 コンパイラのオプション -euc，-sjis，-latin1，-utf8，-big5，-gb2312 に相当します。 なお，[繁体中国語 (-big5)]，および [簡体中国語 (-gb2312)] は，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，[共通オプション] タブの [バージョン選択] カテゴリの [使用するコンパイラ・パッケージのバージョン] プロパティで [常にインストール済みの最新版] または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。 また，[UTF-8 コード (-utf8)] は，以下の場合は選択することができません。 - CC-RX V2.04.00 未満をインストールした環境において，[使用するコンパイラ・パッケージのバージョン] プロパティで [常にインストール済みの最新版] または V2.04.00 未満を選択した場合 - [C ソース・ファイルの言語] プロパティで [C(C89) (-lang=c)] を選択した場合		
	デフォルト	SJIS コード (-sjis)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	EUC コード (-euc)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を EUC で扱います。
		SJIS コード (-sjis)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を SJIS で扱います。
		ISO-Latin1 コード (-latin1)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を ISO-Latin1 で扱います。
		UTF-8 コード (-utf8)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を UTF-8 で扱います。
		繁体中国語 (-big5))	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を繁体中国語で扱います。
		簡体中国語 (-gb2312)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を簡体中国語で扱います。

(2) [オブジェクト]

オブジェクトに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

出力ファイル形式	出力ファイル形式を選択します。 コンパイラのオプション -output に相当します。		
	デフォルト	オブジェクト・モジュール・ファイル (-output=obj)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	オブジェクト・モジュール・ファイル (-output=obj)	オブジェクト・モジュール・ファイルを出力します。
		プリプロセッサ展開後のソース・ファイル (-output=prep)	プリプロセッサ展開後のソースファイルを出力します。
		プリプロセッサ展開後のソース・ファイル (#line 出力抑止) (-output=prep -noline)	プリプロセッサ展開時に #line 出力を抑止します。
出力フォルダ	出力フォルダを指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% : ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath% : 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% : プロジェクト名に置換します。 空欄の場合は，プロジェクト・フォルダを指定したものとみなします。 コンパイラのオプション -output に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	%BuildModeName%	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，フォルダの参照 ダイアログによる編集	
	指定可能値	247 文字までの文字列	
デバッグ情報を出力する	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力するかどうかを選択します。コンパイラのオプション -debug，-nodebug に相当します。		
	デフォルト	はい (-debug)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-debug)	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力します。
		いいえ (-nodebug)	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力しません。
最適化時のデバッグ情報強化を行う	最適化時のデバッグ情報強化を行うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -g_line に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合に表示します。 - CC-RX V3.02.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.02.00 以上を選択した場合 -［デバッグ情報を出力する］プロパティで［はい (-debug)］を選択した場合		
	デフォルト	はい (-g_line)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-g_line)	最適化時のデバッグ情報強化を行います。
		いいえ	最適化時のデバッグ情報強化を行いません。

プログラム領域のセクション名	プログラム領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	P	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
定数領域のセクション名	定数領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	C	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
初期化データ領域のセクション名	初期化データ領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	D	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
未初期化データ領域のセクション名	未初期化データ領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	B	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
リテラル領域のセクション名	リテラル領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	L	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
switch 文分岐テーブル領域のセクション名	switch 文分岐テーブル領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	W	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置する	初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=B)	初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置しません。

初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置する	初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=D)	初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置しません。
const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置する	const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=C)	const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置しません。
switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置する	switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=W)	switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置しません。

分岐先の命令実行向け整合	分岐先の命令実行向け整合を選択します。 コンパイラのオプション -noinstalign，-instalign4，-instalign8 に相当します。		
	デフォルト	なし (-noinstalign)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	なし (-noinstalign)	分岐先を命令実行向け整合をしません。
		4 バイト整合 (-instalign4)	分岐先を 4 バイトで命令実行向け整合します。
		4 バイト整合 (各ループの先頭含む) (-instalign4=loop)	分岐先を 4 バイトで命令実行向け整合します (各ループの先頭含む)。
		4 バイト整合 (各最内周ループの先頭含む) (-instalign4=inmostloop)	分岐先を 4 バイトで命令実行向け整合します (各最内周ループの先頭含む)。
		8 バイト整合 (-instalign8)	分岐先を 8 バイトで命令実行向け整合します。
		8 バイト整合 (各ループの先頭含む) (-instalign8=loop)	分岐先を 8 バイトで命令実行向け整合します (各ループの先頭含む)。
		8 バイト整合 (各最内周ループの先頭含む) (-instalign8=inmostloop)	分岐先を 8 バイトで命令実行向け整合します (各最内周ループの先頭含む)。
ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整する	ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整するかどうかを選択します。 ストリング操作命令のデータ・プリフェッチで 4 バイト境界を跨ぐ読み出しを防止します。 コンパイラの -avoid_cross_boundary_prefetch オプションに相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.07.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.07.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-avoid_cross_boundary_prefetch)	ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整します。
		いいえ	ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整しません。
除算、剰余算を DIV,DIVU,FDIV 命令で生成する	除算，剰余算を DIV,DIVU,FDIV,DDIV 命令で生成するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nouse_div_inst に相当します。		
	デフォルト	はい	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	除算，剰余算に DIV,DIVU,FDIV,DDIV 命令を使ったコードを生成します。
		いいえ (-nouse_div_inst)	除算，剰余算に DIV,DIVU,FDIV,DDIV 命令を使わないコードを生成します。

<table>
<tr><td rowspan="4">消費電流測定用の NOP 命令挿入を使用する</td><td colspan="3">消費電流測定用の NOP 命令挿入を使用するかどうかを選択します。
コンパイラのオプション -insert_nop_with_label に相当します。
なお，本プロパティは，CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合に表示します。

注意 ［はい (-insert_nop_with_label)］選択時に［デバッグ情報を出力する］プロパティが［いいえ (-nodebug)］の場合，警告を出力して -debug オプションを自動的に付加します。警告を出力しないようにするには，［デバッグ情報を出力する］プロパティで［はい (-debug)］を選択してください。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>はい (-insert_nop_with_label)</td><td>消費電流測定用の NOP 命令挿入を使用します。</td></tr>
<tr><td></td><td>いいえ</td><td>消費電流測定用の NOP 命令挿入を使用しません。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">消費電流測定用 NOP 命令挿入のパラメータ</td><td colspan="3">消費電流測定用 NOP 命令挿入のパラメータを表示します。
NOP を出力する位置の設定はエディタ パネルで行います。
本プロパティには，コンテキスト・メニュー→［すべてデフォルトに戻す］は適用されません。
コンパイラのオプション -insert_nop_with_label に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合
- ［消費電流測定用の NOP 命令挿入を使用する］プロパティで［はい (-insert_nop_with_label)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">消費電流測定用 NOP 命令挿入のパラメータ [定義数]</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">変更不可</td></tr>
</table>

出力アセンブリ言語ファイルの文字コード	出力アセンブリ言語ファイルの文字コードを選択します。 ［繁体中国語 (-outcode=big5)］と［簡体中国語 (-outcode=gb2312)］に関しては，［ソース］カテゴリの［入力プログラムの文字コード］プロパティの値と同期します。 コンパイラのオプション -outcode に相当します。 なお，［繁体中国語 (-big5)］，および［簡体中国語 (-gb2312)］は，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。 また，［UTF-8 コード (-outcode=utf8)］は，以下の場合は選択することができません。 - CC-RX V2.04.00 未満をインストールした環境において，［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 未満を選択した場合 - ［ソース］カテゴリの［C ソース・ファイルの言語］プロパティで［C(C89) (-lang=c)］を選択した場合		
	デフォルト	SJIS コード (-outcode=sjis)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	EUC コード (-outcode=euc)	文字列，文字定数内の文字を EUC で出力します。
		SJIS コード (-outcode=sjis)	文字列，文字定数内の文字を SJIS で出力します。
		UTF-8 コード (-outcode=utf8)	文字列，文字定数内の文字を UTF-8 で出力します。
		繁体中国語 (-outcode=big5)	文字列，文字定数内の文字を繁体中国語で出力します。
		簡体中国語 (-outcode=gn2312)	文字列，文字定数内の文字を簡体中国語で出力します。

(3) ［品質向上関連］

品質向上関連に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

スタック破壊検出を行う	スタック破壊検出を行うかどうかを選択します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 スタック破壊検出は，関数に入る前に有効なスタック領域の外に値を書き込み，関数から出る前に値が書き換えられていないかをチェックする機能です。検出時，ユーザ定義の __stack_chk_fail() 関数を呼び出します。 ［はい (-stack_protector)］，［はい (すべて)(-stack_protector_all)］の違いについては，「CC-RX コンパイラ ユーザーズマニュアル」を参照してください。 コンパイラの -stack_protector と -stack_protector_all オプションに相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.04.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ (オプション指定なし)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-stack_protector)	スタック破壊検出を行います。
		はい (すべて)(-stack_protector_all)	すべての関数に対して，スタック破壊検出を行います。
		いいえ (オプション指定なし)	スタック破壊検出を行いません。

スタック破壊検出用の埋め込み値	スタック破壊検出用の埋め込み値を指定します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 コンパイラの -stack_protector と -stack_protector_all オプションに相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合に表示します。 - CC-RX V2.04.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 以上を選択した場合 -［スタック破壊検出を行う］プロパティで［いいえ (オプション指定なし)］以外を選択した場合		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	0 ～ 4294967295（10 進数）	
不正な間接関数呼び出しを検出する	不正な間接関数呼び出しを検出するコードを出力するかどうかを選択します。 間接関数呼び出しの分岐先アドレスをチェックする機能です。 問題の検出時，ユーザ定義の __control_flow_chk_fail() 関数を呼び出します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 コンパイラの -control_flow_integrity オプションに相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-control_flow_integrity)	不正な間接関数呼び出しを検出するコードを出力します。
		いいえ	不正な間接関数呼び出しを検出するコードを出力しません。

(4) ［リスト］

リストに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

ソース・リスト・ファイルを出力する	ソース・リスト・ファイルを出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -listfile，-nolistfile に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-listfile)	ソース・リスト・ファイルを出力します。
		いいえ (-nolistfile)	ソース・リスト・ファイルを出力しません。
C/C++ ソースを出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 C/C++ ソースを出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=source)	C/C++ ソースを出力します。
		いいえ	C/C++ ソースを出力しません。

条件アセンブルで偽の行を出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 条件アセンブルで偽の行を出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=conditionals)	条件アセンブルで偽の行を出力します。
		いいえ	条件アセンブルで偽の行を出力しません。
.DEFINE 置換前の情報を出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 .DEFINE 置換前の情報を出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=definitions)	.DEFINE 置換前の情報を出力します。
		いいえ	.DEFINE 置換前の情報を出力しません。
アセンブラ・マクロ記述展開行を出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 アセンブラ・マクロ記述展開行を出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=expansions)	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力します。
		いいえ	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力しません。

(5) ［最適化］

最適化に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

最適化レベル	最適化レベルを選択します。 コンパイラのオプション -optimize に相当します。		
	デフォルト	2 (-optimize=2)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	0 (-optimize=0)	最適化を実施しません。
		1 (-optimize=1)	自動変数のレジスタ割り付け，関数出口ブロックの統合，統合可能な複数命令の統合など，一部最適化を実施します。
		2 (-optimize=2)	全般的に最適化を実施します。
		Max (-optimize=max)	実施可能な最適化を最大限に行います。

モジュール間最適化用付加情報を出力する	モジュール間最適化用付加情報を出力するかどうかを選択します。 本オプションを指定したファイルは，リンク時にモジュール間最適化の対象になります。 コンパイラのオプション -goptimize に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-goptimize)	モジュール間最適化用付加情報を出力します。
		いいえ	モジュール間最適化用付加情報を出力しません。
最適化方法	最適化方法を選択します。 コンパイラのオプション -speed，-size に相当します。		
	デフォルト	コード・サイズ重視の最適化 (-size)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	実行性能重視の最適化 (-speed)	実行性能重視の最適化を実施します。
		コード・サイズ重視の最適化 (-size)	コードサイズ重視の最適化を実施します。
ループ展開	ループ文 (for, while, do-while) を展開するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -loop に相当します。		
	デフォルト	最適化レベル，最適化方法オプションに依存する	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベル，最適化方法オプションに依存する	［最適化レベル］，［最適化方法］プロパティの指定に従います。
		展開する (-loop=< 数値 >)	ループ文 (for, while, do-while) を展開します。
最大展開数	最大で何倍の展開を行うかを指定します。 コンパイラのオプション -loop に相当します。 なお，本プロパティは，［ループ展開］プロパティで［展開する (-loop=< 数値 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	2（10 進数）	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	1 ～ 32（10 進数）	
自動インライン展開を行う	自動インライン展開を行うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -inline，-noinline に相当します。		
	デフォルト	最適化レベル，最適化方法オプションに依存する	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベル，最適化方法オプションに依存する	［最適化レベル］，［最適化方法］プロパティの指定に従います。
		はい (-inline=< 数値 >)	自動インライン展開を行います。
		いいえ (-noinline)	自動インライン展開を行いません。

<table>
<tr><td rowspan="4">関数サイズの最大増加率</td><td colspan="3">関数サイズの最大増加率を指定します。
たとえば，100 を指定した場合，関数サイズが 100% 増加するまで（2 倍まで）インライン展開を行います。
コンパイラのオプション -inline に相当します。
なお，本プロパティは，［自動インライン展開を行う］プロパティで［はい (-inline=< 数値 >)］を選択した場合のみ表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">100（10 進数）</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">0 ～ 65535（10 進数）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ファイル間インライン展開を行うファイル</td><td colspan="3">ファイル間インライン展開を行うファイルを指定します。
inline オプション，または #pragma inline を指定した場合のみ有効となります。
次のプレースホルダに対応しています。
%BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
コンパイラのオプション -file_inline に相当します。
ファイル名はサブプロパティとして表示します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
- ［オブジェクト］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［オブジェクト・モジュール・ファイル (-output=obj)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">ファイル間インライン展開を行うファイル [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログをオープン
→［参照］ボタンをクリックし，インライン展開ファイル追加 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">259 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">switch 文のコード展開方式</td><td colspan="3">switch 文のコード展開方式を選択します。
コンパイラのオプション -case に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイラが自動選択 (-case=auto)</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指定可能値</td><td>if_then 方式 (-case=ifthen)</td><td>switch 文を if_then 方式で展開します。</td></tr>
<tr><td>テーブル・ジャンプ方式 (-case=table)</td><td>switch 文をテーブル方式で展開します。</td></tr>
<tr><td>コンパイラが自動選択 (-case=auto)</td><td>if_then 方式，テーブル方式いずれかをコンパイラが自動的に選択します。</td></tr>
</table>

外部変数を volatile 化する	すべての外部変数を volatile 宣言したものとして扱うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -volatile，-novolatile に相当します。		
	デフォルト	いいえ (-novolatile)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-volatile)	すべての外部変数を volatile 宣言したものとして扱います。
		いいえ (-novolatile)	volatile 修飾のない外部変数に対して最適化を行います。
volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスする	volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスするかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -type_size_access_to_volatile に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V3.04.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.04.00 以上を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-type_size_access_to_volatile)	volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスします。
		いいえ	volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスしません。
const 宣言された外部変数の定数伝播を実施する	const 宣言された外部変数の定数伝播を実施するかどうかを選択します。 C++ 言語ソースファイルの const 修飾型変数については，本オプションで制御することはできません（常に定数伝播されます）。 コンパイラのオプション -const_copy，-noconst_copy に相当します。		
	デフォルト	最適化レベルオプションに依存する	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティの指定に従います。
		はい (-const_copy)	const 修飾型外部変数についても定数伝播を行います。
		いいえ (-noconst_copy)	const 修飾型外部変数の定数伝播を抑止します。
整数型定数による除算および剰余算の変換方法	整数型定数による除算および剰余算の変換方法を選択します。 コンパイラのオプション -const_div，-noconst_div に相当します。		
	デフォルト	最適化方法オプションに依存する	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化方法オプションに依存する	［最適化方法］プロパティに従います。
		乗算を用いた命令列に変換 (-const_div)	ソースファイル中の整数型定数による除算および剰余算を，乗算を用いた命令列に変換します。
		除算を用いた命令列に変換 (-noconst_div)	ソースファイル中の整数型定数による除算および剰余算を，除算を用いた命令列に変換します。

RX 命令に展開可能なライブラリ関数の実行方法	RX 命令に展開可能なライブラリ関数の実行方法を選択します。 コンパイラのオプション -library に相当します。		
	デフォルト	RX 命令に展開 (-library=intrinsic)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	関数呼び出し (-library=function)	ライブラリ関数を関数呼び出しします。
		RX 命令に展開 (-library=intrinsic)	abs() を ABS 命令に置き換えるなど，ライブラリ関数に対応する機能を持つ RX 命令に置き換えます。
三角関数演算器が利用可能なライブラリ関数の実行方法	三角関数演算器が利用可能なライブラリ関数の実行方法を選択します。 コンパイラのオプション -tfu に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.01.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.01.00 以上を選択した場合 - 三角関数演算器を持つデバイスの場合		
	デフォルト	三角関数演算器を利用しない (-tfu=intrinsic)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	三角関数演算器を利用しない (-tfu=intrinsic)	数学ライブラリ関数の呼び出しを，三角関数演算器を利用するコードに置き換えません。
		三角関数演算器を利用する (-tfu=intrinsic,mathlib)	数学ライブラリ関数の呼び出しを，三角関数演算器を利用するコードに置き換えます。
最適化範囲を複数に分割してコンパイルする	サイズの大きい関数について，最適化範囲を複数に分割してコンパイルするかどうかを指定します。 コンパイラのオプション -scope，-noscope に相当します。		
	デフォルト	最適化レベルオプションに依存する	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティの指定に従います。
		はい (-scope)	コンパイルの前にサイズの大きい関数について，最適化範囲を複数に分割します。
		いいえ (-noscope)	コンパイルの前に最適化範囲を分割しません。
パイプライン処理を考慮した命令並べ替えを行う	パイプライン処理を考慮した命令並べ替えを行うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -schedule，-noschedule に相当します。		
	デフォルト	最適化レベルオプションに依存する	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティの指定に従います。
		はい (-schedule)	パイプライン処理を考慮した命令並べ替えを行います。
		いいえ (-noschedule)	命令並べ替えを行いません。

<table>
<tr><td rowspan="5">外部変数アクセス最適化を行う</td><td colspan="3">外部変数アクセス最適化を行うかどうかを選択します。
コンパイラのオプション -nomap，-smap，-map に相当します。
ライブラリ・プロジェクトの場合，［はい (モジュール間で最適化)(-map)］は表示されません。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">- ［最適化レベル］プロパティで，［Max (-optimize=max)］を選択した場合
はい (モジュール間で最適化) (-map)
- 上記以外の場合
いいえ (-nomap)</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指定可能値</td><td>はい (モジュール内で最適化) (-smap)</td><td>コンパイル対象ファイル内で定義された外部変数もしくは静的変数についてベースアドレスを設定し，アクセスをベースアドレス相対で行うコードを生成します。</td></tr>
<tr><td>はい (モジュール間で最適化) (-map)</td><td>最適化リンケージエディタが生成する外部シンボル割り付け情報を元にベースアドレスを設定し，外部変数もしくは静的変数のアクセスをベースアドレス相対で行うコードを生成します。</td></tr>
<tr><td>いいえ (-nomap)</td><td>外部変数アクセス最適化を行いません。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">大域最適化を行う</td><td colspan="3">大域最適化 (関数の統合など) を行うレベルを指定します。
［共通オプション］タブの［ビルド方法］カテゴリの［一括ビルドを行う］プロパティで［いいえ］を選択した場合は［はい (レベル 1)(最適化を行う (-ip_optimize))］，および［いいえ］のみ表示します。
コンパイラのオプション -whole_program，-merge_files，-ip_optimize に相当します。
なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="4">指定可能値</td><td>はい (レベル 3)(入力ソースがプログラム全体として最適化する)(-whole_program)</td><td>ソース・ファイルがプログラム全体であることを仮定して，大域最適化を行います。ただし，前提条件を満たさなかった場合の動作は保証しません。
前提条件の詳細については，「CC-RX コンパイラ ユーザーズマニュアル」を参照してください。</td></tr>
<tr><td>はい (レベル 2)(複数ファイルをマージして最適化する)(-merge_files, -ip_optimize)</td><td>複数の C ソース・ファイルをマージした上で，大域最適化を行います。</td></tr>
<tr><td>はい (レベル 1)(最適化を行う)(-ip_optimize)</td><td>ソースファイル毎に，大域最適化を行います。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>大域最適化を行いません。</td></tr>
</table>

浮動小数点定数除算の乗算化を行う	浮動小数点定数除算を，定数の逆数の乗算に変換するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -approxdiv に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-approxdiv)	浮動小数点定数除算を，定数の逆数の乗算に変換します。
		いいえ	浮動小数点定数除算を，定数の逆数の乗算に変換しません。
register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付ける	register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付けるかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -enable_register に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合 -［オブジェクト］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［オブジェクト・モジュール・ファイル (-output=obj)］を選択した場合		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-enable_register)	register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付けます。
		いいえ	register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付けません。
浮動小数点型 <-> 符号無し整数型の範囲チェックを省略する	浮動小数点型 <-> 符号無し整数型の範囲チェックを省略するかどうかを選択します。 “ はい ” を選択した時，該当する型変換の処理に対するコード性能は向上しますが，変換結果が C,C++ 言語規格と異なる場合がありますので，ご注意ください。 コンパイラのオプション -simple_float_conv に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-simple_float_conv)	浮動小数点型の型変換処理の一部を省略します。
		いいえ	浮動小数点型の型変換処理の一部を省略しません。

ポインタ指示先の型を考慮した最適化を実施する	ポインタ指示先の型を考慮した最適化を実施するかどうかを選択します。 “ はい ” を指定した場合，一般には，alias=noansi を指定した場合よりもオブジェクト性能が向上しますが，alias=ansi と alias=noansi とで実行結果が異なる場合があります。 コンパイラのオプション -alias に相当します。		
	デフォルト	最適化レベルオプションに依存する	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティの指定に従います。
		はい (-alias=ansi)	ANSI 規格に基づき，ポインタ指示先の型を考慮した最適化を行います。
		いいえ (-alias=noansi)	ANSI 規格に基づくポインタ指示先の型を考慮した最適化を行いません。
浮動小数点式の演算順序変更の最適化を行う	浮動小数点演算式の演算順序変更の最適化を行うかどうかを選択します。 “ はい ” を指定した場合，一般には，-float_order を指定しない場合よりもオブジェクト性能が向上しますが，演算の精度が -float_order を指定しなかった場合と異なることがあります。 コンパイラのオプション -float_order に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合 - ［最適化レベル］プロパティで［2 (-optimize=2)］または［Max (-optimize=max)］を選択した場合		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-float_order)	浮動小数点演算式の演算順序変更の最適化を行います。
		いいえ	浮動小数点演算式の演算順序変更の最適化を行いません。

相対分岐命令のコードサイズを削減する	相対分岐命令のコードサイズを削減するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -branch_chaining，-nobranch_chaining に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.03.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.03.00 以上を選択した場合 -［最適化レベル］プロパティで［2(-optimize=2)］または［Max(-optimize=max)］を選択した場合 -［最適化方法］プロパティで［コード・サイズ重視の最適化 (-size)］を選択した場合		
	デフォルト	最適化レベル，最適化方法オプションに依存する	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベル，最適化方法オプションに依存する	［最適化レベル］，［最適化方法］プロパティの指定に従います。
		はい (-branch_chaining)	相対分岐命令のコードサイズを削減します。
		いいえ (-nobranch_chaining)	相対分岐命令のコードサイズを削減しません。

(6) ［出力ファイル］
出力ファイルに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

アセンブリ・ソース・ファイルを出力する	C ソースのコンパイル結果のアセンブリ・ソース・ファイルを出力するかどうかを選択します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	C ソースのコンパイル結果のアセンブリ・ソース・ファイルを出力します。
		いいえ	C ソースのコンパイル結果のアセンブリ・ソース・ファイルを出力しません。
プリプロセス処理したソースを出力する	ソース・ファイルに対して，プリプロセス処理を実行した結果をファイルに出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -output，-noline に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-output=prep)	ソースファイルに対して，プリプロセス処理を実行した結果をファイルに出力します。
		はい (#line 出力抑止)(-output=prep -noline)	ソースファイルに対して，プリプロセス処理 (#line 出力抑止) を実行した結果をファイルに出力します。
		いいえ	ソースファイルに対して，プリプロセス処理を実行した結果をファイルに出力しません。

(7) ［MISRA C ルール検査］
MISRA C ルール検査に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。
以下の表中の「20*XX*」は，具体的には「2012」，または「2004」が相当します。

MISRA-C 規格	MISRA-C の規格を選択します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.04.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	MISRA-C 2012	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	MISRA-C 2012	以下のプロパティで，MISRA-C 2012 の設定を行います。
		MISRA-C 2004	以下のプロパティで，MISRA-C 2004 の設定を行います。
適用するルール	適用する MISRA C ルールを選択します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 misra2012 の場合，かつ CC-RX V2.05.00 またはそれ以前の場合は，［C ソース・ファイルの言語］プロパティで［C99(-lang=c99)］が選択されている場合でも，C89 の仕様の範囲内で MISRA C チェックを行います。 コンパイラのオプション -misra20*XX* に相当します。		
	デフォルト	適用ルールなし	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	すべてのルールを適用 (-misra20*XX*=all)	サポートしているすべてのルールをチェック対象とします。
		指定したルール番号を適用 (-misra20*XX*=apply)	サポートしているルールのうち，指定されたルール番号をチェック対象とします。
		指定したルール番号を除外 (-misra20*XX*=ignore)	サポートしているルールのうち，指定されたルール番号以外のルールをチェック対象とします。
		必須ルールを適用 (-misra20*XX*=required)	サポートしているルールのうち，ルールの分類が “required” になっているルールをチェック対象とします。
		必須ルールと指定したルールを適用 (-misra20*XX*=required_add)	サポートしているルールのうち，ルールの分類が “required” になっているルールと指定されたルール番号をチェック対象とします。
		必須ルールから指定したルール番号を除外 (-misra20*XX*=required_remove)	サポートしているルールのうち，ルールの分類が “required” になっているルールから指定されたルール番号を除いたルール番号をチェック対象とします。
		指定ファイルに記載されたルール番号を適用 (-misra20*XX*=< ファイル名 >)	サポートしているルールのうち，指定されたファイル名に記載されたルール番号をチェック対象とします。
		適用ルールなし	MISRA C ルールを適用しません。

ルール番号記載ファイル	ルール番号記載ファイル (misra20*XX* ルール・ファイル) を指定します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 misra2012 の場合のみ，ルール番号（13.6 17.3 17.4，CC-RX V2.06.00 以上は 9.1 17.6 も，CC-RX V2.07.00 以上は 12.5 21.13 も）は指定にかかわらず常にチェックします。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。 コンパイラのオプション -misra20*XX* に相当します。 なお，本プロパティは，［適用するルール］プロパティで［指定ファイルに記載されたルール番号を適用 (-misra20*XX*=< ファイル名 >)］を選択した場合のみ表示します。	
	デフォルト	空欄
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，Misra20*XX* ルール・ファイルの指定 ダイアログによる編集
	指定可能値	259 文字までの文字列
ルール番号	ルール番号を指定します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 misra2012 の場合のみ，ルール番号（13.6 17.3 17.4，CC-RX V2.06.00 以上は 9.1 17.6 も，CC-RX V2.07.00 以上は 12.5 21.13 も）は指定にかかわらず常にチェックします。 ルール番号は，必ず 10 進数値で 1 つ以上指定してください。 コンパイラのオプション -misra20*XX* に相当します。 なお，本プロパティは，［適用するルール］プロパティで［指定したルール番号を適用 (-misra20*XX*=apply］を選択した場合のみ表示します。	
	デフォルト	空欄
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，ルール番号の指定 ダイアログによる編集
	指定可能値	259 文字までの文字列
除外するルール番号	除外するルール番号を指定します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 misra2012 の場合のみ，ルール番号（13.6 17.3 17.4，CC-RX V2.06.00 以上は 9.1 17.6 も，CC-RX V2.07.00 以上は 12.5 21.13 も）は指定にかかわらず常にチェックします。 ルール番号は，必ず 10 進数値で 1 つ以上指定してください。 コンパイラのオプション -misra20*XX* に相当します。 なお，本プロパティは，［適用するルール］プロパティで［指定したルール番号を除外 (-misra20*XX*=ignore)］を選択した場合のみ表示します。	
	デフォルト	空欄
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，ルール番号の指定 ダイアログによる編集
	指定可能値	259 文字までの文字列

必須ルールの他にチェックするルール番号	必須ルールの他にチェックするルール番号を指定します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 misra2012 の場合のみ，ルール番号（13.6 17.3 17.4，CC-RX V2.06.00 以上は 9.1 17.6 も，CC-RX V2.07.00 以上は 12.5 21.13 も）は指定にかかわらず常にチェックします。 ルール番号は，必ず 10 進数値で 1 つ以上指定してください。 コンパイラのオプション -misra20*XX* に相当します。 なお，本プロパティは，［必須ルールと指定したルールを適用 (-misra20*XX*=required_add)］を選択した場合のみ表示します。	
	デフォルト	空欄
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，ルール番号の指定 ダイアログによる編集
	指定可能値	259 文字までの文字列
必須ルールから除外するルール番号	必須ルールから除外したいルール番号を指定します。 misra2012 の場合のみ，ルール番号（13.6 17.3 17.4，CC-RX V2.06.00 以上は 9.1 17.6 も，CC-RX V2.07.00 以上は 12.5 21.13 も）は指定にかかわらず常にチェックします。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 ルール番号は，必ず 10 進数値で 1 つ以上指定してください。 コンパイラのオプション -misra20*XX* に相当します。 なお，本プロパティは，［適用するルール］プロパティで［必須ルールから指定したルール番号を除外 (-misra20*XX*=required_remove)］を選択した場合のみ表示します。	
	デフォルト	空欄
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，ルール番号の指定 ダイアログによる編集
	指定可能値	259 文字までの文字列
ルール・チェック対象外のファイル	MISRA-C のルール・チェック対象外のファイルを指定します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。 コンパイラのオプション -ignore_files_misra に相当します。 なお，本プロパティは，［適用するルール］プロパティで［適用ルールなし］を選択した場合は表示されません。	
	デフォルト	ルール・チェック対象外のファイル [定義数]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログをオープン →［参照］ボタンをクリックし，対象外ファイルの追加 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	259 文字までの文字列 65535 個まで指定可能

拡張キーワードや拡張仕様をメッセージ出力する	拡張キーワードや拡張仕様をメッセージ出力するかどうかを選択します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 コンパイラのオプション -check_language_extension に相当します。 なお，本プロパティは，［適用するルール］プロパティで［適用ルールなし］を選択した場合は表示されません。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-check_language_extension)	C/C++ 言語規格から独自に拡張した言語仕様が有効な場合に一部抑止される，MISRA-C ルールチェックを有効にします。
		いいえ	C/C++ 言語規格から独自に拡張した言語仕様が有効な場合に一部抑止される，MISRA-C ルールチェックを無効にします。
複数ファイルにまたがる検査を有効にする	複数ファイルにまたがる検査を有効にするかどうかを選択します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 コンパイラのオプション -misra_intermodule に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.01.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.01.00 以上を選択した場合 -［MISRA-C 規格］プロパティで［MISRA-C 2012］を選択した場合 -［適用するルール］プロパティで［適用ルールなし］以外を選択した場合 **注意** ［はい (-misra_intermodule)］選択中に，プロジェクトの C ソース・ファイルを削除またはリネームした場合，複数ファイルにまたがる検査用の情報がクリアされます。 正しい検査を行うにはプロジェクトをリビルドしてください。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-misra_intermodule)	複数ファイルにまたがる検査を有効にします。
		いいえ	複数ファイルにまたがる検査を有効にしません。

(8) ［その他］

コンパイルに関するその他の詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

コピーライトを出力する	コピーライトを出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nologo に相当します。		
	デフォルト	いいえ (-nologo)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-logo)	コピーライトを出力します。
		いいえ (-nologo)	コピーライトの出力を抑止します。

<table>
<tr><td rowspan="4">クロス・リファレンス情報を出力する</td><td colspan="3">クロス・リファレンス情報を出力するかどうかを選択します。
本オプションを変更するには，「プログラム解析」のプロパティの設定を変更する必要があります。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>はい</td><td>クロス・リファレンス情報を出力します。</td></tr>
<tr><td></td><td>いいえ</td><td>クロス・リファレンス情報を出力しません。</td></tr>
<tr><td>コンパイル前に実行するコマンド</td><td colspan="3">コンパイル処理前に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%CompiledFile% ：コンパイル時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%InputFile% ：コンパイル対象ファイルの絶対パスに置換します（ただし，一括ビルドの場合は置換しません）。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，コンパイル処理前に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル前に実行するコマンド [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>コンパイル後に実行するコマンド</td><td colspan="2">コンパイル処理後に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%CompiledFile% ：コンパイル時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%InputFile% ：コンパイル対象ファイルの絶対パスに置換します（ただし，一括ビルドの場合は置換しません）。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，コンパイル処理後に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td>コンパイル後に実行するコマンド [定義数]</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td>その他の追加オプション</td><td colspan="2">その他に追加するコンパイル・オプションを入力します。
なお，ここで設定したオプションは，コンパイル・オプション群の最後に付加されます。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td>空欄</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td>テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td>259 文字までの文字列</td></tr>
</table>

コマンド・ライン	指定されているオプションを表示します。	
	デフォルト	コマンド・ライン [*定義数*]
	変更方法	変更不可

［アセンブル・オプション］タブ

本タブでは，アセンブル・フェーズに対して，次に示すカテゴリごとに詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

(1)［ソース］
(2)［オブジェクト］
(3)［リスト］
(4)［最適化］
(5)［その他］

［各カテゴリの説明］

(1) ［ソース］

ソースに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

追加のインクルード・パス	インクルード・ファイルの存在するパス名を指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。 %BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。 %MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。 %TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。 %WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。 なお，パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。 アセンブラのオプション -include に相当します。 指定したインクルード・パスはサブプロパティとして表示します。	
	デフォルト	追加のインクルード・パス [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	247 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。
システム・インクルード・パス	アセンブル時にシステムが設定するインクルード・パスの指定順を変更します。 アセンブラのオプション -include に相当します。	
	デフォルト	システム・インクルード・パス [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，システム・インクルード・パス順設定 ダイアログによる編集
	指定可能値	変更不可（インクルード・パスの設定順の変更のみ可能）
マクロ定義	定義したいマクロ名を指定します。 「*マクロ名* = *文字列*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 アセンブラのオプション -define に相当します。 指定したマクロはサブプロパティとして表示します。	
	デフォルト	マクロ定義 [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。

入力プログラムの文字コード	入力プログラムの文字コードを選択します。 アセンブラのオプション -euc，-sjis，-latin1，-big5，-gb2312 に相当します。 なお，［繁体中国語 (-big5)］，および［簡体中国語 (-gb2312)］は，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。 また，［UTF-8 コード (-utf8)］は，CC-RX V2.04.00 以上をインストールした環境において，［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	SJIS コード (-sjis)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	EUC コード (-euc)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を EUC で扱います。
		SJIS コード (-sjis)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を SJIS で扱います。
		ISO-Latin1 コード (-latin1)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を ISO-Latin1 で扱います。
		UTF-8 コード (-utf8)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を UTF-8 で扱います。
		繁体中国語 (-big5)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を繁体中国語で扱います。
		簡体中国語 (-gb2312)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を簡体中国語で扱います。

(2) ［オブジェクト］

オブジェクトに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

出力フォルダ	出力フォルダを指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。 空欄の場合は，プロジェクト・フォルダを指定したものとみなします。 アセンブラのオプション -output に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合に表示します。	
	デフォルト	%BuildModeName%
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，フォルダの参照 ダイアログによる編集
	指定可能値	247 文字までの文字列

デバッグ情報を出力する	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -debug，-nodebug に相当します。 なお，本プロパティは，［共通オプション］タブの［ビルド方法］カテゴリの［一括ビルドを行う］プロパティで［いいえ］を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	はい (-debug)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-debug)	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力します。
		いいえ (-nodebug)	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力しません。
.OFFSET で作られる空き領域へのデータ出力を抑止する	.OFFSET で作られる空き領域へのデータ出力を抑止するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -create_unfilled_area に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.03.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.03.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-create_unfilled_area)	.OFFSET で作られる空き領域へのデータ出力を抑止します。
		いいえ	.OFFSET で作られる空き領域へのデータ出力を抑止しません。

(3) ［リスト］

リストに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。
なお，本カテゴリは，［共通オプション］タブの［ビルド方法］カテゴリの［一括ビルドを行う］プロパティで［いいえ］を選択した場合に表示します。

アセンブル・リスト・ファイルを出力する	アセンブル・リスト・ファイルを出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -listfile，-nolistfile に相当します。		
	デフォルト	いいえ (-nolistfile)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-listfile)	アセンブル・リスト・ファイルを出力します。
		いいえ (-nolistfile)	アセンブル・リスト・ファイルを出力しません。
条件アセンブルで偽の行を出力する	アセンブル・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 条件アセンブルで偽の行を出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［アセンブル・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=conditionals)	条件アセンブルで条件が偽となった行を出力します。
		いいえ	条件アセンブルで条件が偽となった行を出力しません。

.DEFINE 置換前の情報を出力する	アセンブル・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 .DEFINE 置換前の情報を出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［アセンブル・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=definitions)	.DEFINE 置換前の情報を出力します。
		いいえ	.DEFINE 置換前の情報を出力しません。
アセンブラ・マクロ記述展開行を出力する	アセンブル・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 アセンブラ・マクロ記述展開行を出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［アセンブル・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=expansions)	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力します。
		いいえ	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力しません。

(4) ［最適化］

最適化に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。
なお，本カテゴリは，［共通オプション］タブの［ビルド方法］カテゴリの［一括ビルドを行う］プロパティで［いいえ］を選択した場合に表示します。

モジュール間最適化用付加情報を出力する	モジュール間最適化用付加情報を出力するかどうかを選択します。 本オプションを指定したファイルは，リンク時にモジュール間最適化の対象になります。 アセンブラのオプション -goptimize に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-goptimize)	モジュール間最適化用付加情報を出力します。
		いいえ	モジュール間最適化用付加情報を出力しません。

(5) ［その他］

アセンブルに関するその他の詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

特権命令をチェックする	特権命令をチェックするかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -chkpm に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-chkpm)	特権命令をチェックします。
		いいえ	特権命令をチェックしません。

単精度浮動小数点処理命令をチェックする	単精度浮動小数点処理命令をチェックするかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -chkfpu に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-chkfpu)	単精度浮動小数点処理命令をチェックします。
		いいえ	単精度浮動小数点処理命令をチェックしません。
倍精度浮動小数点処理命令をチェックする	倍精度浮動小数点処理命令をチェックするかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -chkdpfpu に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V3.01.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.01.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-chkdpfpu)	倍精度浮動小数点処理命令をチェックします。
		いいえ	倍精度浮動小数点処理命令をチェックしません。
DSP 機能命令をチェックする	DSP 機能命令をチェックするかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -chkdsp に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-chkdsp)	DSP 機能命令をチェックします。
		いいえ	DSP 機能命令をチェックしません。
コピーライトを出力する	コピーライトを出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -logo，-nologo に相当します。		
	デフォルト	いいえ (-nologo)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-logo)	コピーライトを出力します。
		いいえ (-nologo)	コピーライトの出力を抑止します。

<table>
<tr><td>アセンブル前に実行するコマンド</td><td>アセンブル処理前に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%AssembledFile% ：アセンブル時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%InputFile% ：アセンブル対象ファイルの絶対パスに置換します（ただし，一括ビルドの場合は置換しません）。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，アセンブル処理前に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。
<table><tr><td>デフォルト</td><td>アセンブル前に実行するコマンド [定義数]</td></tr><tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr><tr><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>アセンブル後に実行するコマンド</td><td colspan="2">アセンブル処理後に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%AssembledFile% ：アセンブル時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%InputFile% ：アセンブル対象ファイルの絶対パスに置換します（ただし，一括ビルドの場合は置換しません）。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，アセンブル処理後に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td>アセンブル後に実行するコマンド [定義数]</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td>その他の追加オプション</td><td colspan="2">その他に追加するアセンブラのオプションを入力します。
なお，ここで設定したオプションは，アセンブラのオプション群の最後に付加されます。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
注意 ［共通オプション］タブの［ビルド方法］カテゴリの［一括ビルドを行う］プロパティで［はい］が選択されている場合，本プロパティにはオプションを 1 個のみ指定できます。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td>空欄</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td>テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td>259 文字までの文字列</td></tr>
</table>

コマンド・ライン	指定されているオプションを表示します。	
	デフォルト	コマンド・ライン [*定義数*]
	変更方法	変更不可

［リンク・オプション］タブ

本タブでは，リンク・フェーズに対して，次に示すカテゴリごとに詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

(1)［入力］
(2)［出力］
(3)［ロード・モジュール・ファイル変換］
(4)［リスト］
(5)［最適化］
(6)［セクション］
(7)［ベリファイ］
(8)［その他］

注意 本タブは，ライブラリ用のプロジェクトの場合は表示しません。

［各カテゴリの説明］

(1) ［入力］

入力ファイルに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

オブジェクト・モジュール・ファイル	オブジェクト・モジュール・ファイルを指定します。 1 行に 1 ファイルずつ指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。 リンカのオプション -Input に相当します。 指定したファイル名はサブプロパティとして表示します。	
	デフォルト	オブジェクト・モジュール・ファイル [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。
使用するライブラリ・ファイル	ライブラリ・ファイルを指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。 リンカのオプション -library に相当します。 ライブラリ・ファイル名はサブプロパティとして表示します。	
	デフォルト	ライブラリ・ファイル [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	259 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。
システム・ライブラリ・ファイル	リンク時にシステムが設定するシステム・ライブラリ・ファイルを表示します。 リンカのオプション -library に相当します。	
	デフォルト	システム・ライブラリ・ファイル [*定義数*]
	指定可能値	変更不可

バイナリ・データ・ファイル	バイナリ・データ・ファイルを指定します。 「*ファイル名* (*セクション名* : *アライメント数* / *セクション属性* , *シンボル名*)」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 「: *アライメント数*」,「/ *セクション属性*」,「, *シンボル名*」の部分は省略可能です。 「*アライメント数*」は，1，2，4，8，16，または 32 になります。 省略した場合は，定義値を 1 とします。 「*セクション属性*」は，CODE または DATA になります。 省略した場合は，書き込み，読み取り，実行，すべての属性が有効になります。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。 リンカのオプション -binary に相当します。 バイナリ・データ・ファイル名はサブプロパティとして表示します。		
	デフォルト	バイナリ・データ・ファイル指定 [*定義数*]	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	
シンボル定義	シンボルを定義します。 「*シンボル名* = *シンボル名*」，または「*シンボル名* = *数値*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 数値は 16 進数で指定します。 リンカのオプション -define に相当します。		
	デフォルト	シンボル定義 [*定義数*]	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	
実行開始アドレスを指定する	実行開始アドレスを外部定義シンボルまたはアドレスで指定するかどうかを選択します。リンカのオプション -entry に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-ENTry)	実行開始アドレスを外部定義シンボルまたはアドレスで指定します。
		いいえ	実行開始アドレスを外部定義シンボルまたはアドレスで指定しません。
実行開始アドレス	実行開始アドレスを指定します。 「*シンボル名*」または「*アドレス*」の形式で指定します。 アドレスは 16 進数で指定します。 リンカのオプション -entry に相当します。 なお，本プロパティは，［実行開始アドレスを指定する］プロパティで［はい (-ENTry)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	

プレリンカを起動する	プレリンカ（C++ テンプレート・インスタンスの自動生成）を起動するかどうかを選択します。 リンカのオプション -noprelink に相当します。		
	デフォルト	自動制御	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	自動制御	リンカの入力ファイルに ii ファイルがなければ，プレリンカの起動を抑止します。
		はい	プレリンカを起動します。
		いいえ (-NOPRElink)	プレリンカの起動を抑止します。

(2) ［出力］

出力ファイルに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

出力ファイル形式	出力ファイル形式を表示します。 リンカのオプション -form に相当します。		
	デフォルト	ロード・モジュール・ファイル (-FOrm=Absolute)	
	変更方法	変更不可	
デバッグ情報を出力する	デバッグ情報を出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -debug，-sdebug，および -nodebug に相当します。		
	デフォルト	はい (出力ファイル内) (-DEBug)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (出力ファイル内) (-DEBug)	デバッグ情報を出力します（出力ファイル内）。
		はい (デバッグ情報ファイル出力) (-SDebug)	デバッグ情報ファイルを出力します。
		いいえ (-NODEBug)	デバッグ情報を出力しません。
ロード・モジュール・ファイルを分割する	ロード・モジュール・ファイルを分割するかどうかを選択します。 リンカのオプション -output に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	ロード・モジュール・ファイルを分割します。
		いいえ	ロード・モジュール・ファイルを分割しません。

<table>
<tr><td rowspan="4">出力フォルダ</td><td colspan="3">出力フォルダを指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
空欄の場合は，プロジェクト・フォルダを指定したものとみなします。
リンカのオプション -output に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">%BuildModeName%</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，フォルダの参照 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">247 文字までの文字列</td></tr>
<tr><td rowspan="4">出力ファイル名</td><td colspan="3">出力ファイル名を指定します。
拡張子を省略した場合は，.abs を自動的に付加します。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectName% ： アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectName% ： メイン・プロジェクト名に置換します。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。
空欄の場合は，%ProjectName%.abs を指定したものとみなします。
リンカのオプション -output に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">%ProjectName%.abs</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">259 文字までの文字列</td></tr>
<tr><td rowspan="5">外部シンボル割り付け情報ファイルを出力する</td><td colspan="3">外部シンボル割り付け情報ファイルを出力するかどうかを選択します。
リンカのオプション -map に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">- ［コンパイル・オプション］タブの［最適化］カテゴリの［外部変数アクセス最適化を行う］プロパティで，［はい (モジュール間で最適化) (-map)］を選択した場合
はい (-Map)
- 上記以外の場合
いいえ</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-Map)</td><td>外部シンボル割り付け情報ファイルを出力します。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>外部シンボル割り付け情報ファイルを出力しません。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする</td><td colspan="3">インフォメーションレベル・メッセージの出力を有効にするかどうかを選択します。
リンカのオプション -message，-nomessage に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ (-NOMessage)</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-Message)</td><td>インフォメーション・レベル・メッセージを出力します。</td></tr>
<tr><td>いいえ (-NOMessage)</td><td>インフォメーション・レベル・メッセージを抑止します。</td></tr>
</table>

参照されない定義シンボルの通知	参照されない定義シンボルの通知を行うかどうかを選択します。 リンカのオプション -msg_unused に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする］プロパティで［はい (-Message)］を選択した場合，または［インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする］プロパティで［いいえ (-NOMessage)］を選択し，かつ［抑止するインフォメーションレベル・メッセージ番号］プロパティの番号に 400 を含まない場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-MSg_unused)	参照されない定義シンボルの通知を行います。
		いいえ	参照されない定義シンボルの通知を行いません。
抑止するインフォメーションレベル・メッセージ番号	抑止するインフォメーションレベル・メッセージ番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 リンカのオプション -nomessage に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする］プロパティで［いいえ (-NOMessage)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
セクション終端にパディング・データを埋め込む	セクション終端にパディング・データを埋め込むかどうかを選択します。 リンカのオプション -padding に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-PADDING)	セクション終端にパディング・データを埋め込みます。
		いいえ	セクション終端にパディング・データを埋め込みません。
特定ベクタ番号のアドレス	特定ベクタ番号のアドレスを指定します。 「*ベクタ番号* = *シンボル*」または「*ベクタ番号* = *アドレス*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 「*ベクタ番号*」は，10 進数で 0 ～ 255 の範囲で指定します。 「*シンボル*」は，対象関数の外部名で指定します。 アドレスは 16 進数で指定します。 リンカのオプション -vectn に相当します。		
	デフォルト	特定ベクタ番号のアドレス [*定義数*]	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	

可変ベクタの空き領域のアドレス	特定のベクタ番号の空き領域のアドレスを指定します。 「*シンボル*」または「*アドレス*」の形式で指定します。 「*シンボル*」は，対象関数の外部名で指定します。 アドレスは 16 進数で指定します。 リンカのオプション -vect に相当します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
ジャンプ・テーブルを出力する	ジャンプ・テーブルを出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -jump_entries_for_pic に相当します。		
	デフォルト	なし	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-JUMP_ENTRIES_FOR_PIC)	ジャンプ・テーブルを出力します。
		いいえ	ジャンプ・テーブルを出力しません。
外部定義シンボルへ分岐するジャンプ・テーブルを出力するセクション	外部定義シンボルへ分岐するジャンプ・テーブルを出力するセクションを指定します。 「*セクション名*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 リンカのオプション -jump_entries_for_pic に相当します。 なお，本プロパティは，［ジャンプ・テーブルを出力する］プロパティで［はい (-JUMP_ENTRIES_FOR_PIC)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	外部定義シンボルへ分岐するジャンプテーブルを出力するセクション［*定義数*］	
	変更方法	［...］ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	
不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを生成する	不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを生成するかどうかを選択します。 ［コンパイル・オプション］タブの［品質向上関連］カテゴリの［不正な間接関数呼び出しを検出する］プロパティで［はい (-control_flow_integrity)］を選択した場合，本プロパティは［はい (-CFI)］となります。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 リンカのオプション -CFI に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-CFI)	不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを生成します。
		いいえ	不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを生成しません。

<table>
<tr><td rowspan="4">関数リストに追加する関数シンボルまたはアドレス</td><td colspan="2">不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストに追加する関数シンボル，またはアドレスを指定します。
不正な間接関数呼び出し検出では，安全な呼び出し先のリストを作成し，ロード・モジュールに埋め込み，実行時に参照します。リストはリンカの入力から自動的に作成されますが，そこに任意の関数シンボル，またはアドレスを追加したい場合は，本プロパティで設定してください。
「関数シンボル | アドレス [,...]」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。
本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。
リンカのオプション -CFI_ADD_Func に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合
-［不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを生成する］プロパティで［はい (-CFI)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td>関数リストに追加する関数シンボルまたはアドレス [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td>［...］ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>32767 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">関数リストから除外するモジュール</td><td colspan="2">不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストから除外するモジュールを指定します。
不正な間接関数呼び出し検出では，安全な呼び出し先のリストを作成し，ロード・モジュールに埋め込み，実行時に参照します。リストはリンカの入力から自動的に作成されますが，その入力から除外したいモジュールがある場合は，本プロパティで設定してください。
「オブジェクト・ファイル名 [,...]」，または「ライブラリ・ファイル名 [(< ライブラリ内モジュール名 >[,< ライブラリ内モジュール名 >]...)][,...]」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。
なお，ライブラリ・ファイル名は CC-RX V3.00.00 以上の場合のみ指定可能です。
指定したオブジェクト・ファイルまたはライブラリ内モジュールに含まれる全関数が関数リストから除外されます。
本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。
リンカのオプション -CFI_IGNORE_Module に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合
-［不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを生成する］プロパティで［はい (-CFI)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td>関数リストから除外するモジュール [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td>［...］ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>32767 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
</table>

ベクタ・テーブル・セクションの分割生成	ベクタ・テーブル・セクションをベクタ番号別に生成するかどうかを選択します。 リンカのオプション -SPLIT_VECT に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.00.00 以上を選択した場合 -［可変ベクタの空き領域のアドレス］プロパティが空欄の場合		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-SPLIT_VECT)	ベクタ・テーブル・セクションを分割生成します。
		いいえ	ベクタ・テーブル・セクションを分割生成しません。

(3) ［ロード・モジュール・ファイル変換］

ロード・モジュール・ファイル変換に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

ロード・モジュール・ファイル変換形式	ロード・モジュール・ファイルの変換形式を選択します。 リンカのオプション -form に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合 -［出力］カテゴリの［ロード・モジュール・ファイルを分割する］プロパティで［いいえ］を選択した場合		
	デフォルト	S レコード・ファイル (-FOrm=Stype)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	変換しない	出力ファイルを変換しません。
		ヘキサ・ファイル (-FOrm=Hexadecimal)	ヘキサ・ファイルを出力します。
		S レコード・ファイル (-FOrm=Stype)	モトローラ S フォーマット・ファイルを出力します。
		バイナリ・データ・ファイル (-FOrm=Binary)	バイナリ・データ・ファイルを出力します。

レコードサイズを統一する	アドレス範囲に関係なく，一定のデータレコードで出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -record に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合 -［ロード・モジュール・ファイル変換形式］プロパティで［ヘキサ・ファイル (-FOrm=Hexadecimal)］を選択した場合		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	いいえ	アドレスに合わせて混在したデータレコードを出力します。
		はい (インテル HEX レコード) (-REcord=H16)	インテル HEX レコードを出力します。
		はい (インテル拡張 HEX レコード) (-REcord=H20)	インテル拡張 HEX レコードを出力します。
		はい (インテル 32bitHEX レコード) (-REcord=H32)	インテル 32bitHEX レコードを出力します。
レコードサイズを統一する	アドレス範囲に関係なく，一定のデータレコードで出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -record に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合 -［ロード・モジュール・ファイル変換形式］プロパティで［S レコード・ファイル (-FOrm=Stype)］を選択した場合		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	いいえ	アドレスに合わせて混在したデータレコードを出力します。
		はい (S1 レコード) (-REcord=S1)	S1 レコードを出力します。
		はい (S2 レコード) (-REcord=S2)	S2 レコードを出力します。
		はい (S3 レコード) (-REcord=S3)	S3 レコードを出力します。

<table>
<tr><td rowspan="4">変換ファイルを分割する</td><td colspan="3">変換ファイルを分割するかどうかを選択します。
リンカのオプション -output に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［ロード・モジュール・ファイル変換形式］プロパティで［変換しない］以外を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい</td><td>変換ファイルを分割します。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>変換ファイルを分割しません。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">変換ファイル出力フォルダ</td><td colspan="3">変換ファイル出力フォルダを指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
空欄の場合は，プロジェクト・フォルダを指定したものとみなします。
リンカのオプション -output に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［変換ファイルを分割する］プロパティで［いいえ］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">%BuildModeName%</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，フォルダの参照 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">247 文字までの文字列</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">変換ファイル名</td><td colspan="2">変換ファイル名を指定します。
拡張子を省略した場合は，［ロード・モジュール・ファイル変換形式］プロパティに依存し自動的に付加します。
“ ヘキサ・ファイル (-FOrm=Hexadecimal)”：.hex
“S レコード・ファイル (-FOrm=Stype)”：.mot
“ バイナリ・データ・ファイル (-FOrm=Binary)”：.bin
次のプレースホルダに対応しています。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。
リンカのオプション -output に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［変換ファイルを分割する］プロパティで［いいえ］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td>-［ロード・モジュール・ファイル変換形式］プロパティで，［ヘキサ・ファイル (-FOrm=Hexadecimal)］を選択した場合
%ProjectName%.hex
-［ロード・モジュール・ファイル変換形式］プロパティで，［S レコード・ファイル (-FOrm=Stype)］を選択した場合
%ProjectName%.mot
-［ロード・モジュール・ファイル変換形式］プロパティで，［バイナリ・データ・ファイル (-FOrm=Binary)］を選択した場合
%ProjectName%.bin</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td>テキスト・ボックスによる直接入力</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>259 文字までの文字列</td></tr>
<tr><td rowspan="4">分割変換ファイル</td><td colspan="2">変換ファイルを指定します。
「ファイル名 = 先頭アドレス - 終了アドレス」または「ファイル名 = セクション名」の形式で，1 行に 1 つずつ指定します。
アドレスは 16 進数で指定します（例：file2.mot=400-ffff）。
「セクション名」を複数指定する場合は，「ファイル名 = セクション名 : セクション名」のように，コロンで区切って指定します（例：file1.mot=stack:istack）。
拡張子を省略した場合は，［ロード・モジュール・ファイル変換形式］プロパティに依存し自動的に付加します。
“ ヘキサ・ファイル (-FOrm=Hexadecimal)” ：.hex
“S レコード・ファイル (-FOrm=Stype)” ：.mot
“ バイナリ・データ・ファイル (-FOrm=Binary)” ：.bin
次のプレースホルダに対応しています。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
リンカのオプション -output に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［変換ファイルを分割する］プロパティで［はい］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td>分割変換ファイル［定義数］</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>32767 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="5">出力範囲のメモリの空き領域をデータで充填する</td><td colspan="3">出力範囲のメモリの空き領域をデータで充填するかどうかを選択します。
リンカのオプション -space に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［ロード・モジュール・ファイル変換形式］プロパティで［変換しない］以外を選択した場合，および［分割変換ファイル］プロパティで変換ファイル名を指定した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指定可能値</td><td>はい (乱数) (-SPace=Random)</td><td>空きエリアに乱数を出力します。</td></tr>
<tr><td>はい (データ指定) (-SPace=< 数値 >)</td><td>空きエリアに指定した 16 進数の数値を出力します。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>空きエリアにデータを出力しません。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">空きエリア出力データ</td><td colspan="3">空きエリアへの出力データを指定します。
リンカのオプション -space に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［出力範囲のメモリの空き領域をデータで充填する］プロパティで［はい (データ指定) (-SPace=< 数値 >)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">FF（16 進数）</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">0 ～ FFFFFFFF（16 進数）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">データ・レコードのバイト数を指定する</td><td colspan="3">データ・レコードのバイト数を指定するかどうかを選択します。
リンカのオプション -byte_count に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［ロード・モジュール・ファイル変換形式］プロパティで［ヘキサ・ファイル (-FOrm=Hexadecimal)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-BYte_count)</td><td>データ・レコードのバイト数を指定します。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>データ・レコードのバイト数を指定しません。</td></tr>
</table>

データ・レコードのバイト数最大値	データ・レコードのバイト数の最大値を指定します。 リンカのオプション -byte_count に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合 -［データ・レコードのバイト数を指定する］プロパティで［はい (-BYte_count)］を選択した場合		
	デフォルト	FF（16 進数）	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	1 ～ FF（16 進数）	
CRC 演算結果を出力する	CRC 演算結果の出力を選択します。 リンカのオプション -crc に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合 -［ロード・モジュール・ファイル変換形式］プロパティで［ヘキサ・ファイル (-Form=Hexadecimal)］，または［S レコード・ファイル (-Form=Stype)］を選択した場合		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (多項式 =CRC-CCITT，エンディアン = 自動) (-CRc)	多項式に CRC-CCITT を選択します。
		はい (多項式 =CRC-CCITT，エンディアン =Big-endian データ) (-CRc)	多項式に CRC-CCITT，エンディアンに BIG を選択します。
		はい (多項式 =CRC-CCITT，エンディアン =Little-endian データ) (-CRc)	多項式に CRC-CCITT，エンディアンに LITTLE を選択します。
		はい (多項式 =CRC-16，エンディアン = 自動) (-CRc)	多項式に CRC-16 を選択します。
		はい (多項式 =CRC-16，エンディアン =Big-endian データ) (-CRc)	多項式に CRC-16，エンディアンに BIG を選択します。
		はい (多項式 =CRC-16，エンディアン =Little-endian データ) (-CRc)	多項式に CRC-16，エンディアンに LITTLE を選択します。
		いいえ	CRC コードを出力しません。

<table>
<tr><td>出力アドレス</td><td colspan="3">CRC コードの出力位置のアドレスを指定します。
アドレスは 16 進数で指定します。
リンカのオプション -crc に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［CRC 演算結果を出力する］プロパティで［いいえ］以外を選択した場合</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">0</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td colspan="2">0 ～ FFFFFFFE（16 進数）</td></tr>
<tr><td>計算範囲</td><td colspan="3">CRC 計算範囲を指定します。
「先頭アドレス - 終了アドレス」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。
アドレスは 16 進数で指定します（例：400-ffff）。
リンカのオプション -crc に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［CRC 演算結果を出力する］プロパティで［いいえ］以外を選択した場合</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">計算範囲 [定義数]</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td colspan="2">32767 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td>S9 レコードを終端に出力する</td><td colspan="3">S9 レコードを終端に出力するかどうかを選択します。
リンカのオプション -s9 に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［ロード・モジュール・ファイル変換形式］プロパティで［S レコード・ファイル (-FOrm=Stype)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td></td><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-S9)</td><td>S9 レコードを終端に出力します。</td></tr>
<tr><td></td><td>いいえ</td><td>S9 レコードを終端に出力しません。</td></tr>
</table>

(4) ［リスト］
リストに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

リンケージ・リスト・ファイルを出力する	リンケージ・リスト・ファイルを出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -list，-show に相当します。		
	デフォルト	はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (リスト内容 = 指定なし) (-LISt -SHow)	リンケージ・リスト・ファイルに出力形式に従った情報を出力します。
		はい (リスト内容 = すべて) (-LISt -SHow=ALL)	リンケージ・リスト・ファイルに出力形式に従ったすべての情報を出力します。
		はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)	リンケージ・リスト・ファイルに指定した情報を出力します。
		いいえ	リンケージ・リスト・ファイルを出力しません。
シンボル情報を出力する	シンボル情報を出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	はい (-SHow=SYmbol)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-SHow=SYmbol)	シンボル情報を出力します。
		いいえ	シンボル情報を出力しません。
シンボルの参照回数を出力する	シンボルの参照回数を出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-SHow=Reference)	シンボルの参照回数を出力します。
		いいえ	シンボルの参照回数を出力しません。
クロスリファレンス情報を出力する	クロスリファレンス情報を出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-SHow=Xreference)	クロスリファレンス情報を出力します。
		いいえ	クロスリファレンス情報を出力しません。

セクションの合計サイズを表示する	セクションの合計サイズを表示するかどうかを選択します。 リンカのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	はい (-SHow=Total_size)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-SHow=Total_size)	ROM 配置対象，RAM 配置対象ごとに，セクションの合計サイズを表示します。
		いいえ	セクションの合計サイズを表示しません。
構造体 / 共用体のメンバ情報を出力する	構造体 / 共用体のメンバ情報を出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V2.03.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.03.00 以上を選択した場合 - ［最適化］カテゴリの［最適化方法］プロパティで［しない (-NOOPtimize)］／［安全な最適化 (-OPtimize=SAFe)］を選択した場合，または［最適化方法］プロパティで［カスタム］かつ［未参照シンボルを削除する］プロパティで［いいえ］を選択した場合 - ［その他］カテゴリの［デバッグ情報を圧縮する］プロパティで［いいえ (-NOCOmpress)］を選択した場合 - ［その他］カテゴリの［ローカルシンボル名情報を消去する］プロパティで［いいえ］を選択した場合 - ［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)］を選択した場合		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-SHow=STRUCT)	構造体 / 共用体のメンバ情報を出力します。
		いいえ	構造体 / 共用体のメンバ情報を出力しません。
ベクタ情報を出力する	ベクタ情報を出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-SHow=VECTOR)	ベクタ情報を出力します。
		いいえ	ベクタ情報を出力しません。

<table>
<tr><td rowspan="4">セクションに対応する再配置属性を出力する</td><td colspan="3">セクションに対応する再配置属性を出力するかどうかを選択します。
リンカのオプション -show に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合に表示します。
- CC-RX V2.07.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.07.00 以上を選択した場合
-［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択)(-LISt)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>はい (-SHow=RELOCATION_ATTRIBUTE)</td><td>セクションに対応する再配置属性を出力します。</td></tr>
<tr><td></td><td>いいえ</td><td>セクションに対応する再配置属性を出力しません。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを出力する</td><td colspan="3">不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを出力するかどうかを選択します。
リンカのオプションの -SHow=CFI に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合
-［出力］カテゴリの［不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを生成する］プロパティで［はい (-CFI)］を選択した場合
-［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択)(-LISt)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>はい (-SHow=CFI)</td><td>不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを出力します。</td></tr>
<tr><td></td><td>いいえ</td><td>不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを出力しません。</td></tr>
</table>

(5) ［最適化］

最適化に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

最適化方法	最適化方法を選択します。 コンパイル，アセンブル時に -goptimize を付加したモジュールに対し，モジュール間最適化を行います。 リンカのオプション -nooptimize，および -optimize に相当します。 備考　リンク時最適化を行うには，予め［コンパイル・オプション］タブの (5)［最適化］，または［アセンブル・オプション］タブの (4)［最適化］の［モジュール間最適化用付加情報を出力する］プロパティで［はい (-goptimize)］を選択してコンパイル／アセンブルしてください。（個別コンパイル／アセンブル・オプションタブの同名プロパティも同様。）		
	デフォルト	しない (-NOOPtimize)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	しない (-NOOPtimize)	モジュールの最適化を行いません。
		すべて (-OPtimize)	すべての最適化を行います。
		スピード重視 (-OPtimize=SPeed)	スピード重視の最適化を行います。
		安全な最適化 (-OPtimize=SAFe)	安全な最適化を行います。
		カスタム	指定した項目の最適化を行います。
未参照シンボルを削除する	未参照シンボルを削除するかどうかを選択します。 リンカのオプション -optimize に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化方法］プロパティで［カスタム］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-OPtimize=Symbol_delete)	未参照シンボルを削除します。
		いいえ	未参照シンボルを削除しません。
複数の同一命令列をサブルーチン化する	複数の同一命令列をサブルーチン化するかどうかを選択します。 リンカのオプション -optimize に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化方法］プロパティで［カスタム］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-OPtimize=SAMe_code)	複数の同一命令列をサブルーチン化します。
		いいえ	複数の同一命令列をサブルーチン化しません。
最小コードサイズ	最適化対象となる最小コードサイズを指定します。 リンカのオプション -samesize に相当します。 なお，本プロパティは，［複数の同一命令列をサブルーチン化する］プロパティで［はい (-OPtimize=SAMe_code)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	1E（16 進数）	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	8 ～ 7FFF（16 進数）	

コードサイズがより小さくなる命令に置き換える	コードサイズがより小さくなる命令に置き換えるかどうかを選択します。 リンカのオプション -optimize に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化方法］プロパティで［カスタム］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-OPtimize=SHort_format)	コードサイズがより小さくなる命令に置き換えます。
		いいえ	コードサイズがより小さくなる命令に置き換えません。
分岐命令サイズを最適化する	プログラムの配置情報に基づいて，分岐命令サイズを最適化するかどうかを選択します。 リンカのオプション -optimize に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化方法］プロパティで［カスタム］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-OPtimize=Branch)	プログラムの配置情報に基づいて，分岐命令サイズを最適化します。
		いいえ	分岐命令サイズを最適化しません。
実行開始シンボルより前に配置されている領域を最適化の対象にする	実行開始シンボルより前に配置されている領域を最適化の対象にするかどうかを選択します。 -ENTRY オプションで指定したシンボルより前方アドレスの領域を最適化の対象とします。-ENTRY オプションでアドレスを指定している場合，本オプションは無効となります。 リンカのオプション -ALLOW_OPTIMIZE_ENTRY_BLOCK に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.06.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.06.00 以上を選択した場合 -［最適化方法］プロパティが［しない (-NOOPtimize)］以外の場合 -［実行開始アドレスを指定する］プロパティが［はい (-ENTry)］の場合 -［実行開始アドレス］プロパティが空欄以外の場合		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-ALLOW_OPTIMIZE_ENTRY_BLOCK)	実行開始シンボルより前に配置されている領域を最適化の対象にします。
		いいえ	実行開始シンボルより前に配置されている領域を最適化の対象にしません。

最適化による削除を抑止する未参照シンボル	最適化による削除を抑止する未参照シンボルを指定します。 「*シンボル名*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 リンカのオプション -symbol_forbid に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化方法］プロパティで［しない (-NOOPtimize)］を選択した場合は表示しません。	
	デフォルト	最適化による削除を抑止する未参照シンボル [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。
最適化で統合を抑止する共通コード	最適化で統合を抑止する共通コードを指定します。 「*関数名*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 リンカのオプション -samecode_forbid に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化方法］プロパティで［しない (-NOOPtimize)］を選択した場合は表示しません。	
	デフォルト	最適化で統合を抑止する共通コード [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。
最適化を抑止するセクション	最適化を抑止するセクションを指定します。 「*ファイル名 (セクション名 [,…])*」，または「*モジュール名 (セクション名 [,…])*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 「*ファイル名*」または「*モジュール名*」の部分は省略可能です。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。 リンカのオプション -section_forbid に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化方法］プロパティで［しない (-NOOPtimize)］を選択した場合は表示しません。	
	デフォルト	最適化を抑止するセクション [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。
最適化を抑止するアドレス範囲	最適化を抑止するアドレス範囲を指定します。 「*アドレス + サイズ*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 「*+ サイズ*」の部分は省略可能です。 アドレスとサイズは 16 進数で指定します。 リンカのオプション -absolute_forbid に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化方法］プロパティで［しない (-NOOPtimize)］を選択した場合は表示しません。	
	デフォルト	最適化を抑止するアドレス範囲 [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。

(6) ［セクション］
セクションに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

セクションの開始アドレス	セクションの開始アドレスを指定します。 リンカのオプション -start に相当します。	
	デフォルト	ターゲット・デバイス固有の値
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，セクション設定 ダイアログによる編集
	指定可能値	1022 文字までの文字列
外部定義シンボルをファイル出力するセクション	外部定義シンボルをファイル出力するセクションを指定します。 「*セクション名*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 リンカのオプション -fsymbol に相当します。	
	デフォルト	外部定義シンボルをファイル出力するセクション [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。
セクション・アライメント	アライメント数を 0x10 bytes に変更するセクション名を指定します。 「*セクション名*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 リンカのオプション -aligned_section に相当します。	
	デフォルト	セクション・アライメント [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。
ROM から RAM へマップするセクション	初期化データ領域の ROM 用，RAM 用領域を確保し，ROM セクション内定義シンボルを RAM セクション内アドレスになるようリロケーションします。 「*ROM セクション名 =RAM セクション名*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 リンカのオプション -rom に相当します。	
	デフォルト	ROM から RAM へマップするセクション [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65535 個まで指定可能です。

(7) ［ベリファイ］
ベリファイに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

セクションの割り付けアドレスをチェックする	セクションの割り付けアドレスをチェックするかどうかを選択します。 リンカのオプション -cpu に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-CPu)	セクションの割り付けアドレスをチェックします。
		いいえ	セクションの割り付けアドレスをチェックしません。

メモリ種別のアドレス範囲	メモリ種別のアドレス範囲を指定します。 「*メモリ種別* = *先頭アドレス* - *終了アドレス*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 「*メモリ種別*」は，ROm，RAm，または FIX を指定します。 アドレスは 16 進数で指定します。 リンカのオプション -cpu に相当します。 なお，本プロパティは，［セクションの割り付けアドレスをチェックする］プロパティで［はい (-CPu)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	メモリ種別のアドレス範囲 [*定義数*]	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	
次の同メモリ種別に配置、または、分割して配置する	同メモリ種別の領域にセクションを分割するかどうかを選択します。 リンカのオプション -cpu に相当します。 なお，本プロパティは，［メモリ種別のアドレス範囲］プロパティでメモリ種別のアドレス範囲を指定した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-CPu=stride)	同メモリ種別の領域にセクションを分割します。
		いいえ	同メモリ種別の領域にセクションを分割しません。
分割対象外セクション	分割対象外セクションを指定します。 「*セクション名*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 リンカのオプション -contiguous_section に相当します。 なお，本プロパティは，［次の同メモリ種別に配置，または，分割して配置する］プロパティで［はい (-CPu=stride)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	

(8) ［その他］

リンクに関するその他の詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

スタック使用量情報ファイルを出力する	スタック使用量情報ファイルを出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -stack に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-STACk)	スタック使用量情報ファイルを出力します。
		いいえ	スタック使用量情報ファイルを出力しません。

デバッグ情報を圧縮する	デバッグ情報を圧縮するかどうかを選択します。 リンカのオプション -compress，および -nocompress に相当します。		
	デフォルト	いいえ (-NOCOmpress)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-Compress)	デバッグ情報を圧縮します。
		いいえ (-NOCOmpress)	デバッグ情報を圧縮しません。
メモリ使用量を削減する	メモリ使用量を削減するかどうかを選択します。 リンカのオプション -memory に相当します。 なお，本プロパティは，以下を選択した場合は表示しません。 - ［出力］カテゴリの［外部シンボル割り付け情報ファイルを出力する］プロパティで［はい (-Map)］ - ［リスト］カテゴリの［シンボルの参照回数を出力する］プロパティで［はい (-SHow=Reference)］，［クロスリファレンス情報を出力する］プロパティで［はい (-SHow=Xreference)］ - ［ベリファイ］カテゴリの［次の同メモリ種別に配置，または，分割して配置する］プロパティで［はい (-CPu=stride)］，［スタック使用量情報ファイル出力する］プロパティで［はい (-STACk)］，［デバッグ情報を圧縮する］プロパティで［はい (-Compress)］		
	デフォルト	いいえ (-MEMory=High)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-MEMory=Low)	メモリ使用量を削減します。
		いいえ (-MEMory=High)	メモリ使用量を削減しません。
ウォーニング、エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更する	ウォーニング，エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更するかどうかを選択します。 リンカのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-CHange_message=information)	すべてのウォーニング，エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-CHange_message=information=< エラー番号 >)	ウォーニング，エラーレベルの指定エラー番号のみインフォメーションレベルに変更します。
		いいえ	ウォーニング，エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更しません。

ウォーニング、エラーレベルのエラー番号	ウォーニング，エラーレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 リンカのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［ウォーニング、エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-CHange_message=information=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
インフォメーション、エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更する	インフォメーション，エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更するかどうかを選択します。 リンカのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-CHange_message=warning)	すべてのインフォメーション，エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-CHange_message=warning=< エラー番号 >)	インフォメーション，エラーレベルの指定エラー番号のみウォーニングレベルに変更します。
		いいえ	インフォメーション，エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更しません。
インフォメーショ、エラーンレベルのエラー番号	インフォメーション，エラーレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 リンカのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーション、エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-CHange_message=warning=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	

インフォメーション、ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更する	インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更するかどうかを選択します。 リンカのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-CHange_message=error))	すべてのインフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-CHange_message=error=< エラー番号 >)	インフォメーション，ウォーニングレベルの指定エラー番号のみエラーレベルに変更します。
		いいえ	インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更しません。
インフォメーション、ウォーニングレベルのエラー番号	インフォメーション，ウォーニングレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 リンカのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-CHange_message=error=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
ローカルシンボル名情報を消去する	ローカルシンボル名の情報を消去するかどうかを選択します。 リンカのオプション -hide に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-Hide)	ローカルシンボル名の情報を消去します。
		いいえ	ローカルシンボル名の情報を消去しません。
合計セクション・サイズを表示する	合計セクション・サイズを表示するかどうかを選択します。 リンカのオプション -total_size に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-Total_size)	合計セクション・サイズを表示します。
		いいえ	合計セクション・サイズを表示しません。

コピーライト情報を表示する	コピーライト情報を表示するかどうかを選択します。 リンカのオプション -logo，-nologo に相当します。		
	デフォルト	いいえ (-NOLOgo)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-LOgo)	コピーライト情報を表示します。
		いいえ (-NOLOgo)	コピーライト情報の表示を抑止します。
リンク前に実行するコマンド	リンク処理前に実行するコマンドを指定します。 バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。 次のプレースホルダに対応しています。 %ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。 %BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。 %LinkedFile% ：リンク処理時の出力ファイルの絶対パスに置換します。 %MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。 %OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。 %Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。 %ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。 %TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。 %WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。 先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，リンク処理前に Python コンソールで実行します。 なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。 指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。		
	デフォルト	リンク前に実行するコマンド [*定義数*]	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	1023 文字までの文字列 64 個まで指定可能です。	

<table>
<tr><td>リンク後に実行するコマンド</td><td colspan="2">リンク処理後に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%LinkedFile% ：リンク処理時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，リンク処理後に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td>リンク後に実行するコマンド [定義数]</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td>その他の追加オプション</td><td colspan="2">その他に追加するリンカのオプションを入力します。
ここで設定したオプションは，リンカのオプション群の最後に付加されます。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td>空欄</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td>テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td>259 文字までの文字列</td></tr>
</table>

その他の追加オプション(Hex/S record/Binary data)	その他に追加するリンカのオプションを入力します。 ここで設定したオプションは，リンカのオプション群の最後に付加されます。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合 -［ロード・モジュール・ファイル変換］の［ロード・モジュール・ファイル変換形式］プロパティで［変換しない］以外を選択した場合	
	デフォルト	空欄
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集
	指定可能値	259 文字までの文字列
コマンド・ライン	指定されているオプションを表示します。	
	デフォルト	コマンド・ライン [*定義数*]
	変更方法	変更不可

［ヘキサ出力オプション］タブ

本タブでは，ヘキサ出力フェーズに対して，次に示すカテゴリごとに詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

(1)［出力ファイル］
(2)［ヘキサ・フォーマット］
(3)［その他］

注意 1. 本タブは，ライブラリ用のプロジェクトの場合は表示しません。

注意 2. 本タブは，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。
コンパイラ・パッケージのバージョンが V2.00.00 未満の場合，本タブのプロパティは［リンク・オプション］タブの［ロード・モジュール・ファイル変換］カテゴリに含まれます。

［各カテゴリの説明］

(1) ［出力ファイル］
出力ファイルに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

ヘキサ・ファイルを出力する	ヘキサ・ファイルを出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -form に相当します。	
	デフォルト	はい
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択
	指定可能値	はい
		いいえ
出力フォルダ	ヘキサ・ファイルの出力フォルダを指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。 空欄の場合は，プロジェクト・フォルダを指定したものとみなします。 リンカのオプション -output に相当します。 なお，本プロパティは，［ヘキサ・ファイルを出力する］プロパティで［はい］を選択した場合のみ表示します。	
	デフォルト	%BuildModeName%
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，フォルダの参照 ダイアログによる編集
	指定可能値	247 文字までの文字列

出力ファイル名	出力ファイル名を指定します。 拡張子を省略した場合は，［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティの選択に依存して，自動的に付加します。 ［インテル拡張ヘキサ・ファイル (-Form=Hexadecimal)］を選択している場合：.hex ［モトローラ・S タイプ・ファイル (-Form=Stype)］を選択している場合：.mot ［バイナリ・ファイル (-Form=Binary)］を選択している場合：.bin 次のプレースホルダに対応しています。 %ActiveProjectName% ： アクティブ・プロジェクト名に置換します。 %BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。 %MainProjectName% ： メイン・プロジェクト名に置換します。 %ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。 空欄の場合は，%ProjectName%.abs を指定したものとみなします。 リンカのオプション -output に相当します。 なお，本プロパティは，［ヘキサ・ファイルを出力する］プロパティで［はい］を選択した場合のみ表示します。	
	デフォルト	%ProjectName%.mot
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力
	指定可能値	255 文字までの文字列
ロード・アドレス	ヘキサ・ファイルのロード・アドレスを 16 進数で指定します。 リンカのオプション -OUtput に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.00.00 以上を選択した場合 - ［ヘキサ・フォーマット］カテゴリの［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティで［バイナリ・ファイル (-FOrm=Binary)］以外を選択した場合	
	デフォルト	空欄
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力
	指定可能値	0 ～ FFFFFFFF（16 進数），または空欄

分割出力ファイル	分割出力ファイルを指定します。 「*ファイル名 = 先頭アドレス - 終了アドレス* [*/ ロード・アドレス*]」，または「*ファイル名 = セクション名* [*/ ロード・アドレス*]」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 セクション名を複数指定する場合は，「*ファイル名 = セクション名 : セクション名*」のように，コロンで区切って指定します（例：file1.abs=sec1:sec2）。 なお，[*/ ロード・アドレス*] は CC-RX V3.00.00 以上の場合，かつ［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティで［バイナリ・ファイル (-FOrm=Binary)］以外を選択した場合のみ指定可能です。 アドレスは 16 進数で指定します（例：file2.abs=400-4ff）。 拡張子を省略した場合は，［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティに依存して，自動的に付加します。 “ インテル拡張ヘキサ・ファイル (-Form=Hexadecimal)”：.hex “ モトローラ・S タイプ・ファイル (-Form=Stype)”：.mot “ バイナリ・ファイル (-Form=Binary)”：.bin 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName%　：ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath%　：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName%　：プロジェクト名に置換します。 リンカのオプション -output に相当します。 なお，本プロパティは，［ヘキサ・ファイルを出力する］プロパティで［はい］を選択した場合のみ表示します。 **注意**　出力ファイルが 1 つのみで，先頭アドレスおよび終了アドレス，またはセクション名の指定を行わない場合は，本プロパティの設定を削除し，［出力フォルダ］，および［出力ファイル名］プロパティを使用してください。	
	デフォルト	分割出力ファイル［*定義数*］
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	255 文字までの文字列 65536 個まで指定可能

(2)　［ヘキサ・フォーマット］

ヘキサ・ファイルのフォーマットに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

ヘキサ・ファイル・フォーマット	ヘキサ・ファイルのフォーマットを選択します。 リンカのオプション -form に相当します。 なお，本プロパティは，［出力ファイル］カテゴリの［ヘキサ・ファイルを出力する］プロパティで［はい］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	モトローラ・S タイプ・ファイル (-FOrm=Stype	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	インテル拡張ヘキサ・ファイル (-FOrm=Hexadecimal)	インテル拡張ヘキサ・ファイルを出力します。
		モトローラ・S タイプ・ファイル (-FOrm=Stype)	モトローラ・S タイプ・ファイルを出力します。
		バイナリ・ファイル (-FOrm=Binary)	バイナリ・ファイルを出力します。

レコードサイズを統一する	アドレス範囲に関係なく，一定のデータレコードで出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -record に相当します。 なお，本プロパティは，［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティで［インテル拡張ヘキサ・ファイル (-FOrm=Hexadecimal)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (インテル HEX レコード) (-REcord=H16)	インテル HEX レコードを出力します。
		はい (インテル拡張 HEX レコード) (-REcord=H20)	インテル拡張 HEX レコードを出力します。
		はい (インテル 32bitHEX レコード) (-REcord=H32)	インテル 32bitHEX レコードを出力します。
		いいえ	アドレスに合わせて混在したデータレコードを出力します。
レコードサイズを統一する	アドレス範囲に関係なく，一定のデータレコードで出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -record に相当します。 なお，本プロパティは，［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティで［モトローラ・S タイプ・ファイル (-FOrm=Stype)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (S1 レコード) (-REcord=S1)	S1 レコードを出力します。
		はい (S2 レコード) (-REcord=S2)	S2 レコードを出力します。
		はい (S3 レコード) (-REcord=S3)	S3 レコードを出力します。
		いいえ	アドレスに合わせて混在したデータレコードを出力します。
出力範囲のメモリの空き領域をデータで充てんする	出力範囲のメモリの空き領域をデータで充てんするかどうかを選択します。 リンカのオプション -space に相当します。 なお，本プロパティは，以下のいずれかの場合に表示します。 - ［出力ファイル］カテゴリの［分割出力ファイル］プロパティで出力ファイル名を指定している場合 - ［アラインした出力開始アドレスから固定レコード長で出力する］プロパティで［はい］を選択した場合		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (乱数) (-SPace=Random)	空きエリアに乱数を出力します。
		はい (データ指定) (-SPace=< 数値 >)	空きエリアに指定した 16 進数の数値を出力します。
		いいえ	空きエリアにデータを出力しません。

空き領域出力データ	空き領域への出力データを指定します。 リンカのオプション -space に相当します。 なお，本プロパティは，［出力範囲のメモリの空き領域をデータで充てんする］プロパティで［はい (データ指定) (-SPace=< 数値 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	FF（16 進数）	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	0 ～ FFFFFFFF（16 進数）	
アラインした出力開始アドレスから固定レコード長で出力する	アラインした出力開始アドレスから固定レコード長で出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -FIX_RECORD_LENGTH_AND_ALIGN に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合 - ［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティで［バイナリ・ファイル (-FOrm=Binary)］以外を選択した場合		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-FIX_RECORD_LENGTH_AND_ALIGN)	アラインした出力開始アドレスから固定レコード長で出力します。
		いいえ	アラインした出力開始アドレスから固定レコード長で出力しません。
出力開始アドレスのアライメント	出力開始アドレスのアライメントを指定します。 アライメントとして 1 以上の値を指定できます。 リンカのオプション -FIX_RECORD_LENGTH_AND_ALIGN に相当します。 なお，本プロパティは，［アラインした出力開始アドレスから固定レコード長で出力する］プロパティで［はい (-FIX_RECORD_LENGTH_AND_ALIGN)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	1	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	1 以上の 16 進数	

<table>
<tr><td>データ・レコードのバイト数を指定する</td><td colspan="3">データ・レコードのバイト数を指定するかどうかを選択します。
リンカのオプション -byte_count に相当します。
なお，本プロパティは，以下のどちらかの場合のみ表示します。
- CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合
- ［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティで［バイナリ・ファイル (-FOrm=Binary)］以外を選択した場合
- 上記以外の場合
- ［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティで［インテル拡張ヘキサ・ファイル (-FOrm=Hexadecimal)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td></td><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-BYte_count)</td><td>データ・レコードのバイト数を指定します。</td></tr>
<tr><td></td><td>いいえ</td><td>データ・レコードのバイト数を指定しません。</td></tr>
<tr><td>データ・レコードのバイト数最大値</td><td colspan="3">データ・レコードのバイト数の最大値を指定します。
リンカのオプション -byte_count に相当します。
なお，本プロパティは，［データ・レコードのバイト数を指定する］プロパティで［はい (-BYte_count)］を選択した場合のみ表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">- ［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティで［インテル拡張ヘキサ・ファイル (-FOrm=Hexadecimal)］を選択した場合
FF
- ［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティで［モトローラ・S タイプ・ファイル (-FOrm=Stype)］を選択した場合
10</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td colspan="2">1 ～ FF（16 進数）</td></tr>
<tr><td>CRC 演算</td><td colspan="3">1 つまたは複数の CRC 演算を表示，設定します。
rlink コマンドの -CRc オプションに相当します。
なお，本プロパティは，CC-RX V3.05.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.05.00 以上を選択した場合のみ表示します。
CC-RX V3.05.00 未満の場合は従来の -CRc 関連プロパティを表示します。
注意 -CRc オプションを複数設定したプロジェクトを CS+ V8.09.00 およびそれ以前のバージョンで開いて保存すると，2 番目以降の設定は消えます。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">CRC 演算 [定義数]</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，CRC 演算 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>CRC 演算結果を出力する</td><td>CRC 演算結果の出力を選択します。
リンカのオプション -crc に相当します。
なお，本プロパティは，［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティで［インテル拡張ヘキサ・ファイル (-Form=Hexadecimal)］，または［モトローラ・S レコード・ファイル (-Form=Stype)］を選択した場合のみ表示します（CC-RX V3.00.00 以上の場合は［バイナリ・ファイル (-FOrm=Binary)］選択時も表示します）。
また，以下の項目は，CC-RX V2.04.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 以上を選択した場合に表示します。
-［はい (-Crc)］

以下の項目は，CC-RX V2.04.00 未満をインストールした環境において，［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 未満を選択した場合に表示します。
-［はい (多項式 =CRC-CCITT、エンディアン = 自動)(-CRc)］
-［はい (多項式 =CRC-CCITT、エンディアン =Big-endian データ)(-CRc)］
-［はい (多項式 =CRC-CCITT、エンディアン =Little-endian データ)(-CRc)］
-［はい (多項式 =CRC-16、エンディアン = 自動)(-CRc)］
-［はい (多項式 =CRC-16、エンディアン =Big-endian データ)(-CRc)］
-［はい (多項式 =CRC-16、エンディアン =Little-endian データ)(-CRc)］

なお，本プロパティは，CC-RX V3.05.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.05.00 未満を選択した場合に表示します。
<table>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>はい (-Crc)</td><td>指定した範囲のヘキサ形式オブジェクトを，下位アドレスから上位アドレスの順で CRC 演算を行い，演算結果を指定したアドレスへ出力します。</td></tr>
<tr><td></td><td>はい (多項式 =CRC-CCITT，エンディアン = 自動) (-CRc)</td><td>多項式に CRC-CCITT を選択します。</td></tr>
<tr><td></td><td>はい (多項式 =CRC-CCITT，エンディアン =Big-endian データ) (-CRc)</td><td>多項式に CRC-CCITT，エンディアンに BIG を選択します。</td></tr>
<tr><td></td><td>はい (多項式 =CRC-CCITT，エンディアン =Little-endian データ) (-CRc)</td><td>多項式に CRC-CCITT，エンディアンに LITTLE を選択します。</td></tr>
<tr><td></td><td>はい (多項式 =CRC-16，エンディアン = 自動) (-CRc)</td><td>多項式に CRC-16 を選択します。</td></tr>
<tr><td></td><td>はい (多項式 =CRC-16，エンディアン =Big-endian データ) (-CRc)</td><td>多項式に CRC-16，エンディアンに BIG を選択します。</td></tr>
<tr><td></td><td>はい (多項式 =CRC-16，エンディアン =Little-endian データ) (-CRc)</td><td>多項式に CRC-16，エンディアンに LITTLE を選択します。</td></tr>
<tr><td></td><td>いいえ</td><td>CRC コードを出力しません。</td></tr>
</table>
</td></tr>
</table>

出力アドレス	CRC コードの出力位置のアドレスを指定します。 アドレスは 16 進数で指定します。 リンカのオプション -crc に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.05.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.05.00 未満を選択した場合 -［CRC 演算結果を出力する］プロパティで［いいえ］以外を選択した場合	
	デフォルト	0
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力
	指定可能値	0 ～ FFFFFFFE（16 進数）
計算範囲	CRC 計算範囲を指定します。 「*先頭アドレス - 終了アドレス*」，または「*セクション名*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。ただし，「*セクション名*」は CC-RX V2.04.00 以上でのみ指定可能です。 アドレスは 16 進数で指定します（例：400-ffff）。 リンカのオプション -crc に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.05.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.05.00 未満を選択した場合 -［CRC 演算結果を出力する］プロパティで［いいえ］以外を選択した場合	
	デフォルト	計算範囲 [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。

CRC 演算方法	CRC 演算方法を選択します。 それぞれの動作については，デバイスのユーザーズ・マニュアル，および「CC-RX コンパイラ ユーザーズマニュアル」を参照してください。 リンカのオプション -CRc に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - ［CRC 演算結果を出力する］プロパティで［はい (-CRc)］を選択した場合 - CC-RX V2.04.00 以上 V3.05.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 以上 V3.05.00 未満を選択した場合		
	デフォルト	CCITT 方式	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	CCITT 方式	CRC-16-CCITT-MSB First，初期値 0xffff，XOR 反転による演算結果を出力します。
		16	CRC-16-LSB First による演算結果を出力します。
		CRC-CCITT(MSB) 方式	CRC-16-CCITT-MSB First による演算結果を出力します。
		CRC-CCITT(MSB, LITTLE,4 バイト) 方式	入力を LITTLE エンディアン 4 バイト単位とし CRC-16-CCITT-MSB First による演算結果を出力します。
		CRC-CCITT(MSB, LITTLE,2 バイト) 方式	入力を LITTLE エンディアン 2 バイト単位とし CRC-16-CCITT-MSB First による演算結果を出力します。
		CRC-CCITT(LSB) 方式	CRC-16-CCITT-LSB First による演算結果を出力します。
		SENT(MSB) 方式	SENT 準拠による演算結果を出力します。
		32-ETHERNET 方式	CRC-32-ETHERNET による演算結果を出力します。
初期値	CRC 演算の初期値を「*初期値*」の形式で指定します。 リンカのオプション -CRc に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.05.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.05.00 未満を選択した場合 - ［CRC 演算結果を出力する］プロパティで［はい (-CRc)］を選択した場合		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	- ［CRC 演算方法］プロパティで［32-ETHERNET 方式］以外を選択した場合 0 ～ FFFF（16 進数） - ［CRC 演算方法］プロパティで［32-ETHERNET 方式］を選択した場合 0 ～ FFFFFFFF（16 進数）	

<table>
<tr><td>エンディアン</td><td colspan="3">CRC 出力時のエンディアンを選択します。
リンカのオプション -CRc に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V3.05.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.05.00 未満を選択した場合
-［CRC 演算結果を出力する］プロパティで［はい (-CRc)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">指定しない</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td>指定しない</td><td>エンディアンを指定しません。
入力オブジェクトのエンディアンに従います。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>リトル・エンディアン</td><td>リトル・エンディアンにて出力します。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>ビッグ・エンディアン</td><td>ビッグ・エンディアンにて出力します。</td></tr>
<tr><td>出力サイズ</td><td colspan="3">CRC コードの出力サイズを指定します。
リンカのオプション -CRc に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V3.05.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.05.00 未満を選択した場合
-［CRC 演算結果を出力する］プロパティで［はい (-CRc)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">空欄</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td colspan="2">2，4，または空欄</td></tr>
<tr><td>CRC の演算結果、および出力アドレスを表示する</td><td colspan="3">CRC の演算結果，および出力アドレスを出力パネルに表示するかどうかを選択します。
リンカのオプション -VERBOSE に相当します。
なお，本プロパティは，以下のいずれかの場合のみ表示します。
- CC-RX V3.05.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.05.00 以上を選択した場合
- CC-RX V3.03.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.03.00 以上を選択した場合，かつ［CRC 演算結果を出力する］プロパティで［はい (-CRc)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td>はい (-VERBOSE=CRC)</td><td>CRC の演算結果，および出力アドレスを出力パネルに表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>いいえ</td><td>CRC の演算結果，および出力アドレスを出力パネルに表示しません。</td></tr>
</table>

エンド・レコードの指定	モトローラ・S タイプ・ファイルのエンド・レコードを選択します。 リンカのオプション -END_RECORD に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合に表示します。 - CC-RX V2.07.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.07.00 以上を選択した場合 -［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティで［モトローラ・S タイプ・ファイル (-FOrm=Stype)］を選択した場合		
	デフォルト	指定しない (オプション指定なし)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	S7(-END_RECORD=S7)	32 ビット・S タイプ・エンド・レコードで出力します。
		S8(-END_RECORD=S8)	24 ビット・S タイプ・エンド・レコードで出力します。
		S9(-END_RECORD=S9)	16 ビット・S タイプ・エンド・レコードで出力します。
		指定しない (オプション指定なし)	エントリ・ポイント・アドレスに合わせてエンド・レコードを出力します。
S9 レコードを終端に出力する	S9 レコードを終端に出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -s9 に相当します。 なお，本プロパティは，［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティで［モトローラ・S タイプ・ファイル (-FOrm=Stype)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-S9)	S9 レコードを終端に出力します。
		いいえ	S9 レコードを終端に出力しません。
.OFFSET で作られる空き領域へのデータ出力を抑止する	.OFFSET で作られる空き領域へのデータ出力を抑止するかどうかを表示します。 本プロパティは，［アセンブル・オプション］タブ，または［個別アセンブル・オプション］タブの［オブジェクト］カテゴリの［.OFFSET で作られる空き領域へのデータ出力を抑止する］プロパティの選択により自動的に設定されます。 リンカのオプション -create_unfilled_area に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.03.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.03.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	変更不可	

(3) ［その他］

リンクに関するその他の詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

メッセージ関連の設定をリンク・オプション・タブと同じにする	メッセージ関連の設定を［リンク・オプション］タブと同じにするかどうかを選択します。		
	デフォルト	はい	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	メッセージ関連の設定を［リンク・オプション］タブと同じにします。
		いいえ	メッセージ関連の設定を［ヘキサ出力オプション］タブのプロパティで行います。
インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする	インフォメーションレベル・メッセージの出力を有効にするかどうかを選択します。 リンカのオプション -message，-nomessage に相当します。 なお，本プロパティは，［メッセージ関連の設定をリンク・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ (-NOMessage)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-Message)	インフォメーション・レベル・メッセージを出力します。
		いいえ (-NOMessage)	インフォメーション・レベル・メッセージを抑止します。
抑止するインフォメーションレベル・メッセージ番号	抑止するインフォメーションレベル・メッセージ番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 リンカのオプション -nomessage に相当します。 なお，本プロパティは，［メッセージ関連の設定をリンク・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］，および［インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする］プロパティで［いいえ (-NOMessage)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	

ウォーニング、エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更する	ウォーニング，エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更するかどうかを選択します。 リンカのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［メッセージ関連の設定をリンク・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-CHange_message=information)	すべてのウォーニング，エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-CHange_message=information=< エラー番号 >)	ウォーニング，エラーレベルの指定エラー番号のみインフォメーションレベルに変更します。
		いいえ	ウォーニング，エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更しません。
ウォーニング、エラーレベルのエラー番号	ウォーニング，エラーレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 リンカのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［メッセージ関連の設定をリンク・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］，および［ウォーニング、エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-CHange_message=information=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
インフォメーション、エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更する	インフォメーション，エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更するかどうかを選択します。 リンカのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［メッセージ関連の設定をリンク・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-CHange_message=warning)	すべてのインフォメーション，エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-CHange_message=warning=< エラー番号 >)	インフォメーション，エラーレベルの指定エラー番号のみウォーニングレベルに変更します。
		いいえ	インフォメーション，エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更しません。

インフォメーション、エラーレベルのエラー番号	インフォメーション，エラーレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 リンカのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［メッセージ関連の設定をリンク・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］，および［インフォメーション、エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-CHange_message=warning=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
インフォメーション、ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更する	インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更するかどうかを選択します。 リンカのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［メッセージ関連の設定をリンク・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-CHange_message=error))	すべてのインフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-CHange_message=error=< エラー番号 >)	インフォメーション，ウォーニングレベルの指定エラー番号のみエラーレベルに変更します。
		いいえ	インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更しません。
インフォメーション、ウォーニングレベルのエラー番号	インフォメーション，ウォーニングレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 リンカのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［メッセージ関連の設定をリンク・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］，および［インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-CHange_message=error=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	

その他の追加オプション	その他に追加するリンカのオプションを入力します。 なお，ここで設定したオプションは，リンカのオプション群の最後に付加されます。 次のプレースホルダに対応しています。 %ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。 %BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。 %MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。 %TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。 %WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。	
	デフォルト	空欄
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集
	指定可能値	259 文字までの文字列
コマンド・ライン	指定されているオプションを表示します。	
	デフォルト	コマンド・ライン [*定義数*]
	変更方法	変更不可

［ライブラリアン・オプション］タブ

本タブでは，リンク・フェーズに対して，次に示すカテゴリごとに詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

(1) ［入力］
(2) ［出力］
(3) ［リスト］
(4) ［その他］

注意 本タブは，アプリケーション用のプロジェクトの場合は表示しません。

［各カテゴリの説明］

(1) ［入力］

入力ファイルに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

オブジェクト・モジュール・ファイル	オブジェクト・モジュール・ファイルを指定します。 1 行に 1 ファイルずつ指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。 %BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。 %MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。 %TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。 %WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。 リンカのオプション -Input に相当します。 指定したファイル名はサブプロパティとして表示します。	
	デフォルト	オブジェクト・モジュール・ファイル [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。

使用するライブラリ・ファイル	ライブラリ・ファイルを指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。 %BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。 %MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。 %TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。 %WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。 リンカのオプション -library に相当します。 ライブラリ・ファイル名はサブプロパティとして表示します。	
	デフォルト	ライブラリ・ファイル [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。
システム・ライブラリ・ファイル	リンク時にシステムが設定するシステム・ライブラリ・ファイルの指定順を変更します。 リンカのオプション -library に相当します。	
	デフォルト	システム・ライブラリ・ファイル [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，システム・インクルード・パス順設定 ダイアログによる編集
	指定可能値	変更不可（システム・ライブラリ・ファイルの設定順の変更のみ可能）

<table>
<tr><td>バイナリ・データ・ファイル</td><td colspan="3">バイナリ・データ・ファイルを指定します。
「ファイル名 (セクション名 : アライメント数 / セクション属性 , シンボル名)」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。
「: アライメント数」,「/ セクション属性」,「, シンボル名」の部分は省略可能です。
「アライメント数」は，1，2，4，8，16，または 32 になります。
省略した場合は，定義値を 1 とします。
「セクション属性」は，CODE または DATA になります。
省略した場合は，書き込み，読み取り，実行，すべての属性が有効になります。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
リンカのオプション -binary に相当します。
バイナリ・データ・ファイル名はサブプロパティとして表示します。
なお，本プロパティは，［出力］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［リロケータブル・モジュール・ファイル (-FOrm=Relocate)］を選択した場合のみ表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">バイナリ・データ・ファイル指定 [定義数]</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td colspan="2">32767 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td>プレリンカを起動する</td><td colspan="3">プレリンカ（C++ テンプレート・インスタンスの自動生成）を起動するかどうかを選択します。
リンカのオプション -noprelink に相当します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">自動制御</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td></td><td rowspan="3">指定可能値</td><td>自動制御</td><td>リンカの入力ファイルに ii ファイルがなければ，プレリンカの起動を抑止します。</td></tr>
<tr><td>はい</td><td>プレリンカを起動します。</td></tr>
<tr><td>いいえ (-NOPRElink)</td><td>プレリンカの起動を抑止します。</td></tr>
</table>

重複モジュール名の許可	ライブラリ生成時に，複数の同じモジュール名を持つ入力ファイルの指定を許可するかどうかを選択します。 リンカのオプション -ALLOW_DUPLICATE_MODULE_NAME に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V3.02.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.02.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-ALLOW_DUPLICATE_MODULE_NAME)	重複モジュール名を許可します。
		いいえ	重複モジュール名を許可しません。

(2) ［出力］

出力ファイルに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

出力ファイル形式	出力ファイル形式を選択します。 リンカのオプション -form に相当します。		
	デフォルト	ユーザ・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=U)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	ユーザ・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=U)	ユーザ・ライブラリ・ファイルを出力します。
		システム・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=S)	システム・ライブラリ・ファイルを出力します。
		リロケータブル・モジュール・ファイル (-FOrm=Relocate)	リロケータブル・モジュール・ファイルを出力します。
デバッグ情報を出力する	デバッグ情報を出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -debug，-nodebug に相当します。 なお，本プロパティは，［出力ファイル形式］プロパティで［リロケータブル・モジュール・ファイル (-FOrm=Relocate)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	はい (出力ファイル内) (-DEBug)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (出力ファイル内) (-DEBug)	デバッグ情報を出力します（出力ファイル内）。
		いいえ (-NODEBug)	デバッグ情報を出力しません。

<table>
<tr><td>出力フォルダ</td><td colspan="3">出力フォルダを指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
空欄の場合は，プロジェクト・フォルダを指定したものとみなします。
リンカのオプション -output に相当します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">%BuildModeName%</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，フォルダの参照 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td colspan="2">247 文字までの文字列</td></tr>
<tr><td>出力ファイル名</td><td colspan="3">出力ファイル名を指定します。
拡張子を省略した場合は，［出力ファイル形式］プロパティに依存し自動的に付加します。
“ ユーザ・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=U)”：.lib
“ システム・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=S)”：.lib
“ リロケータブル・モジュール・ファイル (-FOrm=Relocate)”：.rel
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
リンカのオプション -output に相当します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">- ［出力ファイル形式］プロパティで，［ユーザ・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=U)］を選択した場合
%ProjectName%.lib
- ［出力ファイル形式］プロパティで，［システム・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=S)］を選択した場合
%ProjectName%.lib
- ［出力ファイル形式］プロパティで，［リロケータブル・モジュール・ファイル (-FOrm=Relocate)］を選択した場合
%ProjectName%.rel</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td colspan="2">259 文字までの文字列</td></tr>
<tr><td>インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする</td><td colspan="3">インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にするかどうかを選択します。
リンカのオプション -message，-nomessage に相当します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ (-NOMessage)</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td></td><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-Message)</td><td>インフォメーション・レベル・メッセージを出力します。</td></tr>
<tr><td></td><td>いいえ (-NOMessage)</td><td>インフォメーション・レベル・メッセージを抑止します。</td></tr>
</table>

抑止するインフォメーションレベル・メッセージ番号	抑止するインフォメーションレベル・メッセージ番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 リンカのオプション -nomessage に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする］プロパティで［いいえ (-NOMessage)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	

(3) ［リスト］

リストに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

リンケージ・リスト・ファイルを出力する	リンケージ・リスト・ファイルを出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -list，-show に相当します。		
	デフォルト	はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (リスト内容 = 指定なし) (-LISt -SHow)	リンケージ・リスト・ファイルに出力形式に従った情報を出力します。
		はい (リスト内容 = すべて) (-LISt -SHow=ALL)	リンケージ・リスト・ファイルに出力形式に従ったすべての情報を出力します。
		はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)	リンケージ・リスト・ファイルに指定した情報を出力します。
		いいえ	リンケージ・リスト・ファイルを出力しません。
シンボル情報を出力する	モジュール内シンボル名一覧を出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-SHow=SYmbol)	モジュール内シンボル名一覧を出力します。
		いいえ	モジュール内シンボル名一覧を出力しません。

モジュール内セクション一覧を出力する	モジュール内セクション一覧を出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)］，および［出力］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［ユーザ・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=U)］，または［システム・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=S)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-SHow=SEction)	モジュール内セクション一覧を出力します。
		いいえ	モジュール内セクション一覧を出力しません。
クロスリファレンス情報を出力する	クロスリファレンス情報を出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)］，および［出力］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［リロケータブル・モジュール・ファイル (-FOrm=Relocate)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-SHow=Xreference)	クロスリファレンス情報を出力します。
		いいえ	クロスリファレンス情報を出力しません。
セクションの合計サイズを表示する	セクションの合計サイズを表示するかどうかを選択します。 リンカのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)］，および［出力］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［ユーザ・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=U)］，または［システム・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=S)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-SHow=Total_size)	セクションの合計サイズを表示します。
		いいえ	セクションの合計サイズを表示しません。
ベクタ情報を出力する	ベクタ情報を出力するかどうかを選択します。 リンカのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (リスト内容 = 選択) (-LISt)］，および［出力］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［リロケータブル・モジュール・ファイル (-FOrm=Relocate)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-SHow=VECTOR)	ベクタ情報を出力します。
		いいえ	ベクタ情報を出力しません。

(4) ［その他］

ライブラリ・ジェネレータに関するその他の詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

メモリ使用量を削減する	入力ファイル・ロード時のメモリ使用量を削減するかどうかを選択します。 リンカのオプション -memory に相当します。 なお，本プロパティは，以下を選択した場合は表示しません。 - ［出力］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［ユーザ・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=U)］または［システム・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=S)］，および［ローカルシンボル名情報を消去する］プロパティで［はい (-Hide)］ - ［出力］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［リロケータブル・モジュール・ファイル (-FOrm=Relocate)］		
	デフォルト	いいえ (-MEMory=High)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-MEMory=Low)	入力ファイル・ロード時のメモリ使用量を削減します。
		いいえ (-MEMory=High)	入力ファイル・ロード時のメモリ使用量を削減しません。
ウォーニング、エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更する	ウォーニング，エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更するかどうかを選択します。 リンカのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-CHange_message=information)	すべてのウォーニング，エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-CHange_message=information=< エラー番号 >)	ウォーニング，エラーレベルの指定エラー番号のみインフォメーションレベルに変更します。
		いいえ	ウォーニング，エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更しません。
ウォーニング、エラーレベルのエラー番号	ウォーニング，エラーレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 リンカのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［ウォーニング、エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-CHange_message=information=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	

インフォメーション、エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更する	インフォメーション，エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更するかどうかを選択します。 リンカのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-CHange_message=warning)	すべてのインフォメーション，エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-CHange_message=warning=< エラー番号 >)	インフォメーション，エラーレベルの指定エラー番号のみウォーニングレベルに変更します。
		いいえ	インフォメーション，エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更しません。
インフォメーション、エラーレベルのエラー番号	インフォメーション，エラーレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 リンカのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーション、エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-CHange_message=warning=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
インフォメーション、ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更する	インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更するかどうかを選択します。 リンカのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-CHange_message=error))	すべてのインフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-CHange_message=error=< エラー番号 >)	インフォメーション，ウォーニングレベルの指定エラー番号のみエラーレベルに変更します。
		いいえ	インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更しません。

インフォメーション、ウォーニングレベルのエラー番号	インフォメーション，ウォーニングレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 リンカのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-CHange_message=error=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
ローカルシンボル名情報を消去する	ローカルシンボル名情報を消去するかどうかを選択します。 リンカのオプション -hide に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-Hide)	ローカルシンボル名情報を消去します。
		いいえ	ローカルシンボル名情報を消去しません。
合計セクション・サイズを表示する	合計セクション・サイズを表示するかどうかを選択します。 リンカのオプション -total_size に相当します。 なお，本プロパティは，［出力］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［リロケータブル・モジュール・ファイル (-FOrm=Relocate)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-Total_size)	合計セクション・サイズを表示します。
		いいえ	合計セクション・サイズを表示しません。
コピーライト情報を表示する	コピーライト情報を表示するかどうかを選択します。 リンカのオプション -logo，-nologo に相当します。		
	デフォルト	いいえ (-NOLOgo)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-LOgo)	コピーライト情報を表示します。
		いいえ (-NOLOgo)	コピーライト情報の表示を抑止します。

<table>
<tr><td>ライブラリアン前に実行するコマンド</td><td>ライブラリアン処理前に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%LibrarianFile% ：ライブラリアン処理時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，リンク処理前に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。
<table><tr><td>デフォルト</td><td>ライブラリアン前に実行するコマンド [定義数]</td></tr><tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr><tr><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr></table></td></tr>
</table>

ライブラリアン後に実行するコマンド	ライブラリアン処理後に実行するコマンドを指定します。 バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。 次のプレースホルダに対応しています。 %ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。 %BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。 %LibrarianFile% ：ライブラリアン処理時の出力ファイルの絶対パスに置換します。 %MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。 %OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。 %Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。 %ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。 %TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。 %WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。 先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，リンク処理後に Python コンソールで実行します。 なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。 指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。	
	デフォルト	ライブラリアン後に実行するコマンド [*定義数*]
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能
	指定可能値	1023 文字までの文字列 64 個まで指定可能です。
その他の追加オプション	その他に追加するライブラリ・ジェネレータのオプションを入力します。 なお，ここで設定したオプションは，ライブラリ・ジェネレータのオプション群の最後に付加されます。 次のプレースホルダに対応しています。 %ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。 %BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。 %MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。 %TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。 %WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。	
	デフォルト	空欄
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集
	指定可能値	259 文字までの文字列
コマンド・ライン	指定されているオプションを表示します。	
	デフォルト	コマンド・ライン [*定義数*]
	変更方法	変更不可

［ライブラリ・ジェネレート・オプション］タブ

本タブでは，ライブラリ・ジェネレート・フェーズに対して，次に示すカテゴリごとに詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

(1)［モード］
(2)［標準ライブラリ］
(3)［オブジェクト］
(4)［最適化］
(5)［その他］

注意 本タブは，ライブラリ用のプロジェクトの場合は表示しません。

［各カテゴリの説明］

(1) ［モード］

モードに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

標準ライブラリの使用・構築方法	標準ライブラリの使用・構築方法を選択します。		
	デフォルト	標準ライブラリ・ファイル作成 (オプション変更時)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	標準ライブラリ・ファイル作成 (常に作成)	標準ライブラリ・ファイルを作成します。
		標準ライブラリ・ファイル作成 (オプション変更時)	ビルド，リビルドに関わらず，オプションを変更した場合のみ，標準ライブラリ・ファイルを作成します。
		標準ライブラリ・ファイル指定なし	標準ライブラリ・ファイルを指定しません。

(2) ［標準ライブラリ］

標準ライブラリに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。
なお，本カテゴリは，［モード］カテゴリの［標準ライブラリの使用・構築方法］プロパティで［標準ライブラリ・ファイル指定なし］を選択した場合は表示しません。

ライブラリ構成	使用可能な C 言語標準ライブラリ関数の構成を選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -lang に相当します。		
	デフォルト	C(C89) (-lang=c)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	C(C89) (-lang=c)	C 言語の標準関数を C89 規格準拠のものだけで構成します。
		C99 (-lang=c99)	C 言語の標準関数を C89 規格および C99 規格準拠の内容で構成します。
構築対象のライブラリ	構築対象のライブラリを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。		
	デフォルト	カスタム (-head=<SubOption>)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	カスタム (-head=<SubOption>)	構築対象のライブラリを指定します。
		すべて有効 (-head=all)	すべてのライブラリ関数とランタイムライブラリを指定します。
		すべて無効 (-head=runtime)	構築対象のライブラリを指定しません。

ランタイム・ライブラリを有効にする	ランタイム・ライブラリを有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	はい (-head=runtime)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=runtime)	ランタイム・ライブラリを有効にします。
		いいえ	ランタイム・ライブラリを無効にします。
ctype.h(C89/C99) を有効にする	ctype.h(C89/C99) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=ctype)	ctype.h(C89/C99) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	ctype.h(C89/C99) を無効にします。
math.h(C89/C99) を有効にする	math.h(C89/C99) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=math)	math.h(C89/C99) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	math.h(C89/C99) を無効にします。
mathf.h(C89/C99) を有効にする	mathf.h(C89/C99) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=mathf)	mathf.h(C89/C99) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	mathf.h(C89/C99) を無効にします。
stdarg.h(C89/C99) を有効にする	stdarg.h(C89/C99) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=stdarg)	stdarg.h(C89/C99) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	stdarg.h(C89/C99) を無効にします。

stdio.h(C89/C99) を有効にする	stdio.h(C89/C99) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	はい (-head=stdio)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=stdio)	stdio.h(C89/C99) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	stdio.h(C89/C99) を無効にします。
stdlib.h(C89/C99) を有効にする	stdlib.h(C89/C99) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	はい (-head=stdlib)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=stdlib)	stdlib.h(C89/C99) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	stdlib.h(C89/C99) を無効にします。
string.h(C89/C99) を有効にする	string.h(C89/C99) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	はい (-head=string)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=string)	string.h(C89/C99) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	string.h(C89/C99) を無効にします。
ios(EC++) を有効にする	ios(EC++) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=ios)	ios(EC++) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	ios(EC++) を無効にします。
new(EC++) を有効にする	new(EC++) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	はい (-head=new)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=new)	new(EC++) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	new(EC++) を無効にします。

complex(EC++) を有効にする	complex(EC++) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=complex)	complex(EC++) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	complex(EC++) を無効にします。
string(EC++) を有効にする	string(EC++) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=cppstring)	string(EC++) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	string(EC++) を無効にします。
complex.h(C99) を有効にする	complex.h(C99) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［ライブラリ構成］プロパティで［C99 (-lang=c99)］，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=C99_complex)	complex.h(C99) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	complex.h(C99) を無効にします。
fenv.h(C99) を有効にする	fenv.h(C99) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［ライブラリ構成］プロパティで［C99 (-lang=c99)］，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=fenv)	fenv.h(C99) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	fenv.h(C99) を無効にします。

inttypes.h(C99) を有効にする	inttypes.h(C99) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［ライブラリ構成］プロパティで［C99 (-lang=c99)］，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=inttypes)	inttypes.h(C99) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	inttypes.h(C99) を無効にします。
wchar.h(C99) を有効にする	wchar.h(C99) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［ライブラリ構成］プロパティで［C99 (-lang=c99)］，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=wchar)	wchar.h(C99) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	wchar.h(C99) を無効にします。
wctype.h(C99) を有効にする	wctype.h(C99) を有効にするかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -head に相当します。 なお，本プロパティは，［ライブラリ構成］プロパティで［C99 (-lang=c99)］，［構築対象のライブラリ］プロパティで［カスタム (-head=<SubOption>)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-head=wctype)	wctype.h(C99) とランタイムライブラリを有効にします。
		いいえ	wctype.h(C99) を無効にします。

(3) ［オブジェクト］

オブジェクトに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

なお，本カテゴリは，［モード］カテゴリの［標準ライブラリの使用・構築方法］プロパティで［標準ライブラリ・ファイル指定なし］を選択した場合は表示しません。

<table>
<tr><td>出力フォルダ</td><td colspan="3">出力フォルダを指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。
ライブラリ・ジェネレータのオプション -output に相当します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">%BuildModeName%</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，フォルダの参照 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td colspan="2">247 文字までの文字列</td></tr>
<tr><td>出力ファイル名</td><td colspan="3">出力ファイル名を指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
ライブラリ・ジェネレータのオプション -output に相当します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">%ProjectName%.lib</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td colspan="2">32767 文字までの文字列</td></tr>
<tr><td>機能縮小版入出力関数を生成する</td><td colspan="3">機能縮小版入出力関数を生成するかどうかを選択します。
ライブラリ・ジェネレータのオプション -nofloat，-simple_stdio に相当します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td></td><td rowspan="3">指定可能値</td><td>はい (機能縮小版 1) (-nofloat)</td><td>浮動小数点変換 (%f，%e，%E，%g，%G) をサポートしない簡易入出力関数を生成します。</td></tr>
<tr><td>はい (機能縮小版 2) (-simple_stdio)</td><td>浮動小数点変換，long long 型の変換，2 バイトコードの変換をサポートしない簡易入出力関数を生成します。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>機能縮小版入出力関数を生成しません。</td></tr>
</table>

リエントラント・ライブラリを生成する	リエントラント・ライブラリを生成するかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -reent に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.03.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.03.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-reent)	リエントラント・ライブラリを生成します。
		いいえ	リエントラント・ライブラリを生成しません。
メモリの解放時にメモリ破壊を検出する	メモリの解放時にメモリ破壊を検出するかどうかを選択します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 本機能により，malloc などで動的に割り当てたメモリを解放または再割り当てする際，不正なアドレスが指定されたり，確保したメモリの領域外に書き込みがあったりした場合に，ユーザ定義の __heap_chk_fail() 関数を呼び出します。詳細はコンパイラのユーザーズ・マニュアルを参照してください。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -secure_malloc に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.05.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.05.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-secure_malloc)	メモリの解放時にメモリ破壊を検出します。
		いいえ	メモリの解放時にメモリ破壊を検出しません。
オブジェクト関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする	オブジェクト関連の設定を［コンパイル・オプション］タブと同じにするかどうかを選択します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	オブジェクト関連の設定を［コンパイル・オプション］タブと同じにします。
		いいえ	オブジェクト関連の設定を［コンパイル・オプション］タブと同じにしません。
プログラム領域のセクション名	プログラム領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。 なお，本プロパティは，［オブジェクト関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	P	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	

定数領域のセクション名	定数領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。 なお，本プロパティは，［オブジェクト関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	C	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
初期化データ領域のセクション名	初期化データ領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。 なお，本プロパティは，［オブジェクト関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	D	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
未初期化データ領域のセクション名	未初期化データ領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。 なお，本プロパティは，［オブジェクト関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	B	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
リテラル領域のセクション名	リテラル領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。 なお，本プロパティは，［オブジェクト関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	L	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
switch 文分岐テーブル領域のセクション名	switch 文分岐テーブル領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。 なお，本プロパティは，［オブジェクト関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	W	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置する	初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。 なお，本プロパティは，［オブジェクト関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=B)	初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置しません。

初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置する	初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。 なお，本プロパティは，［オブジェクト関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=D)	初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置しません。
const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置する	const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。 なお，本プロパティは，［オブジェクト関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=C)	const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置しません。
switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置する	switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。 なお，本プロパティは，［オブジェクト関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=W)	switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置しません。

分岐先の命令実行向け整合	分岐先の命令実行向け整合を選択します。 コンパイラのオプション -noinstalign，-instalign4，-instalign8 に相当します。 なお，本プロパティは，［オブジェクト関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	なし (-noinstalign)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	なし (-noinstalign)	分岐先を命令実行向け整合をしません。
		4 バイト整合 (-instalign4)	分岐先を 4 バイトで命令実行向け整合します。
		4 バイト整合 (各ループの先頭含む) (-instalign4=loop)	分岐先を 4 バイトで命令実行向け整合します (各ループの先頭含む)。
		4 バイト整合 (各最内周ループの先頭含む) (-instalign4=inmostloop)	分岐先を 4 バイトで命令実行向け整合します (各最内周ループの先頭含む)。
		8 バイト整合 (-instalign8)	分岐先を 8 バイトで命令実行向け整合します。
		8 バイト整合 (各ループの先頭含む) (-instalign8=loop)	分岐先を 8 バイトで命令実行向け整合します (各ループの先頭含む)。
		8 バイト整合 (各最内周ループの先頭含む) (-instalign8=inmostloop)	分岐先を 8 バイトで命令実行向け整合します (各最内周ループの先頭含む)。
ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整する	ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整するかどうかを選択します。 ストリング操作命令のデータ・プリフェッチで 4 バイト境界を跨ぐ読み出しを防止します。 コンパイラの -avoid_cross_boundary_prefetch オプションに相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.07.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.07.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-avoid_cross_boundary_prefetch)	ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整します。
		いいえ	ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整しません。
除算、剰余算を DIV,DIVU,FDIV 命令で生成する	除算，剰余算を DIV,DIVU,FDIV 命令で生成するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nouse_div_inst に相当します。 なお，本プロパティは，［オブジェクト関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	はい	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	除算，剰余算に DIV,DIVU,FDIV 命令を使ったコードを生成します。
		いいえ (-nouse_div_inst)	除算，剰余算に DIV,DIVU,FDIV 命令を使わないコードを生成します。

(4) ［最適化］

最適化に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。
なお，本カテゴリは，［モード］カテゴリの［標準ライブラリの使用・構築方法］プロパティで［標準ライブラリ・ファイル指定なし］を選択した場合は表示しません。

最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする	最適化関連の設定を［コンパイル・オプション］タブと同じにするかどうかを選択します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	最適化関連の設定を［コンパイル・オプション］タブと同じにします。
		いいえ	最適化関連の設定を［コンパイル・オプション］タブと同じにしません。
最適化レベル	最適化レベルを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -optimize に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	2 (-optimize=2)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	0 (-optimize=0)	最適化を実施しません。
		1 (-optimize=1)	自動変数のレジスタ割り付け，関数出口ブロックの統合，統合可能な複数命令の統合など，一部最適化を実施します。
		2 (-optimize=2)	全般的に最適化を実施します。
		Max (-optimize=max)	実施可能な最適化を最大限に行います。
モジュール間最適化用付加情報を出力する	モジュール間最適化用付加情報を出力するかどうかを選択します。 本オプションを指定したファイルは，リンク時にモジュール間最適化の対象になります。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -optimize に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-goptimize)	モジュール間最適化用付加情報を出力します。
		いいえ	モジュール間最適化用付加情報を出力しません。
最適化方法	最適化方法を選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -speed，-size に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	コード・サイズ重視の最適化 (-size)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	実行性能重視の最適化 (-speed)	実行性能重視の最適化を実施します。
		コード・サイズ重視の最適化 (-size)	コードサイズ重視の最適化を実施します。

<table>
<tr><td rowspan="5">ループ展開</td><td colspan="3">ループ文（for, while, do-while）を展開するかどうかを選択します。
ライブラリ・ジェネレータのオプション -loop に相当します。
なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">最適化レベル，最適化方法オプションに依存する</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>最適化レベル，最適化方法オプションに依存する</td><td>［最適化レベル］，［最適化方法］の指定に従います。</td></tr>
<tr><td>展開する (-loop=< 数値 >)</td><td>ループ文（for, while, do-while）を展開します。</td></tr>
<tr><td>最大展開数</td><td colspan="3">最大で何倍の展開を行うかを指定します。
ライブラリ・ジェネレータのオプション -loop に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- ［ループ展開］プロパティで［展開する (-loop=< 数値 >)］を選択した場合
- ［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">2（10 進数）</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">1 ～ 32（10 進数）</td></tr>
<tr><td rowspan="5">自動インライン展開を行う</td><td colspan="3">自動インライン展開を行うかどうかを選択します。
ライブラリ・ジェネレータのオプション -inline ，-noinline に相当します。
なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">最適化レベル，最適化方法オプションに依存する</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指定可能値</td><td>最適化レベル，最適化方法オプションに依存する</td><td>［最適化レベル］，［最適化方法］プロパティの指定に従います。</td></tr>
<tr><td>はい (-inline=< 数値 >)</td><td>自動インライン展開を行います。</td></tr>
<tr><td>いいえ (-noinline)</td><td>自動インライン展開を行いません。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">関数サイズの最大増加率</td><td colspan="3">関数サイズの最大増加率を指定します。
ライブラリ・ジェネレータのオプション -inline に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- ［自動インライン展開を行う］プロパティで［はい (-inline=< 数値 >)］を選択した場合
- ［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">100（10 進数）</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">テキスト・ボックスによる直接入力</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">1 ～ 65535（10 進数）</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">ファイル間インライン展開を行うファイル</td><td colspan="3">ファイル間インライン展開を行うファイルを指定します。
inline オプション，または #pragma inline を指定した場合のみ有効となります。
次のプレースホルダに対応しています。
%BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
コンパイラのオプション -file_inline に相当します。
ファイル名はサブプロパティとして表示します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">ファイル間インライン展開を行うファイル [定義数]</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログをオープン
→［参照］ボタンをクリックし，インライン展開ファイル追加 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">259 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">switch 文のコード展開方式</td><td colspan="3">switch 文のコード展開方式を選択します。
ライブラリ・ジェネレータのオプション -case に相当します。
なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイラが自動選択 (-case=auto)</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指定可能値</td><td>if_then 方式 (-case=ifthen)</td><td>switch 文を if_then 方式で展開します。</td></tr>
<tr><td>テーブル・ジャンプ方式 (-case=table)</td><td>switch 文をテーブル方式で展開します。</td></tr>
<tr><td>コンパイラが自動選択 (-case=auto)</td><td>if_then 方式，テーブル方式いずれかをコンパイラが自動的に選択します。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">外部変数を volatile 化する</td><td colspan="3">すべての外部変数を volatile 宣言したものとして扱うかどうかを選択します。
ライブラリ・ジェネレータのオプション -volatile，-novolatile に相当します。
なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ (-novolatile)</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-volatile)</td><td>すべての外部変数を volatile 宣言したものとして扱います。</td></tr>
<tr><td>いいえ (-novolatile)</td><td>volatile 修飾のない外部変数に対して最適化を行います。</td></tr>
</table>

volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスする	volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスするかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -type_size_access_to_volatile に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.04.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.04.00 以上を選択した場合 -［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-type_size_access_to_volatile)	volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスします。
		いいえ	volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスしません。
const 宣言された外部変数の定数伝播を実施する	const 宣言された外部変数の定数伝播を実施するかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -const_copy，-noconst_copy に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	最適化レベルオプションに依存する	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティに従います。
		はい (-const_copy)	const 修飾型外部変数についても定数伝播を行います。
		いいえ (-noconst_copy)	const 修飾型外部変数の定数伝播を抑止します。
整数型定数による除算および剰余算の変換方法	整数型定数による除算および剰余算の変換方法を選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -const_div，-noconst_div に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	最適化方法オプションに依存する	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化方法オプションに依存する	［最適化方法］プロパティに従います。
		乗算を用いた命令列に変換 (-const_div)	ソースファイル中の整数型定数による除算および剰余算を，乗算を用いた命令列に変換します。
		除算を用いた命令列に変換 (-noconst_div)	ソースファイル中の整数型定数による除算および剰余算を，除算を用いた命令列に変換します。

RX 命令に展開可能なライブラリ関数の実行方法	RX 命令に展開可能なライブラリ関数の実行方法を選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -library に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	RX 命令に展開 (-library=intrinsic)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	関数呼び出し (-library=function)	ライブラリ関数を関数呼び出しします。
		RX 命令に展開 (-library=intrinsic)	abs() を ABS 命令に置き換えるなど，ライブラリ関数に対応する機能を持つ RX 命令に置き換えます。
最適化範囲を複数に分割してコンパイルする	サイズの大きい関数について，最適化範囲を複数に分割してコンパイルするかどうかを指定します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -scope，-noscope に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	最適化レベルオプションに依存する	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティに従います。
		はい (-scope)	コンパイルの前にサイズの大きい関数について，最適化範囲を複数に分割します。
		いいえ (-noscope)	コンパイルの前に最適化範囲を分割しません。
パイプライン処理を考慮した命令並べ替えを行う	パイプライン処理を考慮した命令並べ替えを行うかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -schedule，-noschedule に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティに従います。
		はい (-schedule)	パイプライン処理を考慮した命令並べ替えを行います。
		いいえ (-noschedule)	命令並べ替えを行いません。
浮動小数点定数除算の乗算化を行う	浮動小数点定数除算の乗算化を行うかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -approxdiv に相当します。 なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-approxdiv)	浮動小数点定数除算の乗算化を行います。
		いいえ	浮動小数点定数除算の乗算化を行いません。

<table>
<tr><td rowspan="5">register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付ける</td><td colspan="3">register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付けるかどうかを選択します。
コンパイラのオプション -enable_register に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-enable_register)</td><td>register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付けます。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付けません。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">浮動小数点型 <-> 符号無し整数型の範囲チェックを省略する</td><td colspan="3">浮動小数点型 <-> 符号無し整数型の範囲チェックを省略するかどうかを選択します。
ライブラリ・ジェネレータのオプション -simple_float_conv に相当します。
なお，本プロパティは，［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合のみ表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-simple_float_conv)</td><td>浮動小数点型の型変換処理の一部を省略します。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>浮動小数点型の型変換処理の一部を省略しません。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">浮動小数点式の演算順序変更の最適化を行う</td><td colspan="3">浮動小数点演算式の演算順序変更の最適化を行うかどうかを選択します。
ライブラリ・ジェネレータのオプション -float_order に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［最適化レベル］プロパティで［2 (-optimize=2)］，または［Max (-optimize=max)］を選択した場合
-［最適化関連の設定をコンパイル・オプション・タブと同じにする］プロパティで［いいえ］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">いいえ</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-float_order)</td><td>浮動小数点演算式の演算順序変更の最適化を行います。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>浮動小数点演算式の演算順序変更の最適化を行いません。</td></tr>
</table>

相対分岐命令のコードサイズを削減する	相対分岐命令のコードサイズを削減するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -branch_chaining，-nobranch_chaining に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.03.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.03.00 以上を選択した場合 -［最適化レベル］プロパティで［2(-optimize=2)］または［Max(-optimize=max)］を選択した場合 -［最適化方法］プロパティで［コード・サイズ重視の最適化 (-size)］を選択した場合		
	デフォルト	最適化レベル，最適化方法オプションに依存する	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベル，最適化方法オプションに依存する	［最適化レベル］，［最適化方法］プロパティの指定に従います。
		はい (-branch_chaining)	相対分岐命令のコードサイズを削減します。
		いいえ (-nobranch_chaining)	相対分岐命令のコードサイズを削減しません。

(5) ［その他］

ライブラリ・ジェネレータに関するその他の詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

コピーライトを出力する	コピーライトを出力するかどうかを選択します。 ライブラリ・ジェネレータのオプション -nologo に相当します。 なお，本プロパティは，［モード］カテゴリの［標準ライブラリの使用・構築方法］プロパティで［標準ライブラリ・ファイル指定なし］を選択した場合は表示しません。		
	デフォルト	いいえ (-nologo)	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-logo)	コピーライトを出力します。
		いいえ (-nologo)	コピーライトの出力を抑止します。

<table>
<tr><td>ライブラリ・ジェネレート前に実行するコマンド</td><td>ライブラリ・ジェネレート処理前に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%LibraryFile% ：ライブラリ・ジェネレート処理時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，ライブラリ生成処理前に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。
<table><tr><td>デフォルト</td><td>ライブラリ・ジェネレート前に実行するコマンド [定義数]</td></tr><tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr><tr><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>ライブラリ・ジェネレート後に実行するコマンド</td><td colspan="2">ライブラリ・ジェネレート処理後に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%LibraryFile% ：ライブラリ・ジェネレート処理時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，ライブラリ生成処理後に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td>ライブラリ・ジェネレート後に実行するコマンド [定義数]</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td>その他の追加オプション</td><td colspan="2">その他に追加するライブラリ・ジェネレータのオプションを入力します。
なお，ここで設定したオプションは，ライブラリ・ジェネレータのオプション群の最後に付加されます。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
なお，本プロパティは，［モード］カテゴリの［標準ライブラリの使用・構築方法］プロパティで［標準ライブラリ・ファイル指定なし］を選択した場合は表示しません。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td>空欄</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td>テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td>259 文字までの文字列</td></tr>
</table>

コマンド・ライン	指定されているオプションを表示します。 なお，本プロパティは，［モード］カテゴリの［標準ライブラリの使用・構築方法］プロパティで［標準ライブラリ・ファイル指定なし］を選択した場合は表示しません。	
	デフォルト	コマンド・ライン [*定義数*]
	変更方法	変更不可

［ビルド設定］タブ

本タブでは，各 C ソース・ファイル，C++ ソース・ファイル，アセンブラ・ソース・ファイル，オブジェクト・モジュール・ファイル，ライブラリ・ファイルに対して，次に示すカテゴリごとに詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

(1) ［ビルド］

［各カテゴリの説明］

(1) ［ビルド］

ビルドに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

ビルドの対象とする	選択しているファイルをビルド対象とするかどうかを選択します。		
	デフォルト	はい	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	選択しているファイルをビルド対象とします。
		いいえ	選択しているファイルをビルド対象としません。
個別コンパイル・オプションを設定する	選択している C ソース・ファイルまたは C++ ソース・ファイルにプロジェクトの設定とは異なるコンパイル・オプションを設定するかどうかを選択します。 なお，本プロパティは，プロジェクト・ツリー パネルで C ソース・ファイルまたは C++ ソース・ファイルを選択し，［ビルドの対象とする］プロパティで［はい］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	選択している C ソース・ファイルまたは C++ ソース・ファイルにプロジェクトの設定とは異なるオプションを設定します。
		いいえ	選択している C ソース・ファイルまたは C++ ソース・ファイルにプロジェクトの設定とは異なるオプションを設定しません。
個別アセンブル・オプションを設定する	選択しているアセンブラ・ソース・ファイルにプロジェクトの設定とは異なるアセンブル・オプションを設定するかどうかを選択します。 なお，本プロパティは，プロジェクト・ツリー パネルでアセンブラ・ソース・ファイルを選択し，［ビルドの対象とする］プロパティで［はい］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	選択しているアセンブラ・ソース・ファイルにプロジェクトの設定とは異なるオプションを設定します。
		いいえ	選択しているアセンブラ・ソース・ファイルにプロジェクトの設定とは異なるオプションを設定しません。

ファイル形式	選択しているファイルの形式を表示します。	
	デフォルト	C 言語ソース（C ソース・ファイルを選択している場合） C++ 言語ソース（C++ ソース・ファイルを選択している場合） アセンブリ・ソース（アセンブラ・ソース・ファイルを選択している場合） オブジェクト（オブジェクト・モジュール・ファイルを選択している場合） ライブラリ（ライブラリ・ファイルを選択している場合）
	変更方法	変更不可

［個別コンパイル・オプション (C)］タブ

本タブでは，1 つの C ソース・ファイルに対して，次に示すカテゴリごとに詳細情報の表示，および設定の変更を行います。
なお，本タブは，［共通オプション］タブ，および［コンパイル・オプション］タブの設定内容を継承します。
これらのタブと異なる値を設定した場合は，プロパティが太字表示となります。

(1)［ソース］
(2)［オブジェクト］
(3)［品質向上関連］
(4)［リスト］
(5)［最適化］
(6)［出力ファイル］
(7)［MISRA C ルール検査］
(8)［その他］

備考　本タブは，［ビルド設定］タブの［ビルド］カテゴリの［個別コンパイル・オプションを設定する］プロパティで［はい］を選択した場合のみ表示します。

［各カテゴリの説明］

(1)　［ソース］
ソースに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

C ソース・ファイルの言語	C ソース・ファイルの言語を選択します。 コンパイラのオプション -lang に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	C(C89) (-lang=c)	C(C89) 言語ソースファイルとしてコンパイルします。
		C99 (-lang=c99)	C(C99) 言語ソースファイルとしてコンパイルします。
追加のインクルード・パス	インクルード・ファイルの存在するパス名を指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %ActiveProjectDir%　：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ActiveProjectName%　：アクティブ・プロジェクト名に置換します。 %BuildModeName%　：ビルド・モード名に置換します。 %MainProjectDir%　：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %MainProjectName%　：メイン・プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath%　：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectDir%　：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName%　：プロジェクト名に置換します。 %TempDir%　：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。 %WinDir%　：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。 なお，パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。 コンパイラのオプション -include に相当します。 指定したインクルード・パスはサブプロパティとして表示します。		
	デフォルト	追加のインクルード・パス [*定義数*]	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	247 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	

<table>
<tr><td rowspan="4">ビルド・ツールに指定した全体インクルード・パスも使用する</td><td colspan="3">使用するビルド・ツールの［コンパイル・オプション］タブの［ソース］カテゴリの［追加のインクルード・パス］プロパティで指定したインクルード・パスも使用してコンパイルするかどうかを選択します。
インクルード・パスは，以下の順で追加します。
- 本タブの［追加のインクルード・パス］プロパティに指定したパス
- ［コンパイル・オプション］タブの［ソース］カテゴリの［追加のインクルード・パス］プロパティで指定したパス
コンパイラのオプション -include に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">はい</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>はい</td><td>使用するビルド・ツールのプロパティで指定したインクルード・パスも使用してコンパイルします。</td></tr>
<tr><td></td><td>いいえ</td><td>使用するビルド・ツールのプロパティで指定したインクルード・パスを使用しません。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">コンパイル単位の先頭にインクルードするファイル</td><td colspan="3">コンパイル単位の先頭にインクルードするファイルを指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
なお，パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。
コンパイラのオプション -preinclude に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">259 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">マクロ定義</td><td colspan="3">定義したいマクロ名を指定します。
「マクロ名 = 文字列」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。
「= 文字列」の部分は省略可能で，省略した場合，そのマクロ名が定義されたものと仮定します。
コンパイラのオプション -define に相当します。
指定したマクロはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">32767 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
</table>

無効化するプリデファインド・マクロ	無効化するプリデファインド・マクロを指定します。 複数指定する場合は，マクロ名をカンマで区切って指定します（例：__DBL4,__SCHAR）。 コンパイラのオプション -undefine に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，無効化するマクロの指定 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする	インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にするかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -message，および -nomessage に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-message)	インフォメーション・レベル・メッセージを有効にします。
		いいえ (-nomessage)	インフォメーション・レベル・メッセージを無効にします。
抑止するインフォメーションレベル・メッセージ番号	抑止するインフォメーション・レベル・メッセージ番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -nomessage に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーション・レベル・メッセージを抑止する］プロパティで［いいえ (-nomessage)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
表示させないメッセージ	表示させないインフォメーション，ウォーニングレベルのメッセージの番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -no_warning に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	

ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更する	ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-change_message=information)	すべてのウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-change_message=information=< エラー番号 >)	ウォーニングレベルの指定エラー番号のみインフォメーションレベルに変更します。
		いいえ	ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更しません。
ウォーニングレベルのエラー番号	ウォーニングレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-change_message=information=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更する	インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-change_message=warning)	すべてのインフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-change_message=warning=< エラー番号 >)	インフォメーションレベルの指定エラー番号のみウォーニングレベルに変更します。
		いいえ	インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更しません。

インフォメーションレベルのエラー番号	インフォメーションレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-change_message=warning=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
インフォメーション、ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更する	インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-change_message=error))	すべてのインフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-change_message=error=< エラー番号 >)	インフォメーション，ウォーニングレベルの指定エラー番号のみエラーレベルに変更します。
		いいえ	インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更しません。
インフォメーション、ウォーニングレベルのエラー番号	インフォメーション，ウォーニングレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーション、ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-change_message=error=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	

<table>
<tr><td>ファイル間インライン展開ファイル取り込み先フォルダ</td><td colspan="3">ファイル間インライン展開ファイル取り込み先フォルダを指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ： アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ： アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ： メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ： メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ： プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ： テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ： Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
なお，パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。
コンパイラのオプション -file_inline_path に相当します。
指定したインクルード・パスはサブプロパティとして表示します。
なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合に表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td colspan="2">247 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td>コメント (/* */) のネストを許す</td><td colspan="3">コメント (/* */) のネストを許すかどうかを選択します。
コンパイラのオプション -comment に相当します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td></td><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-comment=nest)</td><td>コメント (/* */) のネストを許します。</td></tr>
<tr><td></td><td>いいえ (-comment=nonest)</td><td>コメント (/* */) のネストを許しません。</td></tr>
<tr><td>既存プログラムとの互換性をチェックする</td><td colspan="3">既存プログラムとの互換性をチェックするかどうかを選択します。
コンパイラのオプション -check に相当します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td></td><td rowspan="4">指定可能値</td><td>はい (NC コンパイラ) (-check=nc)</td><td>R8C,M16C ファミリ用 C コンパイラとの互換性をチェックします。</td></tr>
<tr><td>はい (H8 コンパイラ) (-check=ch38)</td><td>H8,H8S,H8SX ファミリ用 C/C++ コンパイラとの互換性をチェックします。</td></tr>
<tr><td>はい (SH コンパイラ) (-check=sh)</td><td>SuperH ファミリ用 C/C++ コンパイラとの互換性をチェックします。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>既存プログラムとの互換性をチェックしません。</td></tr>
</table>

入力プログラムの文字コード	入力プログラムの文字コードを選択します。 ［繁体中国語 (-big5)］と［簡体中国語 (-gb2312)］に関しては，［オブジェクト］カテゴリの［出力アセンブリ言語ファイルの文字コード］プロパティの値と同期します。 コンパイラのオプション -euc，-sjis，-latin1，-utf8，-big5，-gb2312 に相当します。 なお，［繁体中国語 (-big5)］，および［簡体中国語 (-gb2312)］は，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。 また，［UTF-8 コード (-utf8)］は，以下の場合は選択することができません。 - CC-RX V2.04.00 未満をインストールした環境において，［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 未満を選択した場合 -［C ソース・ファイルの言語］プロパティで［C(C89) (-lang=c)］を選択した場合		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	EUC コード (-euc)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を EUC で扱います。
		SJIS コード (-sjis)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を SJIS で扱います。
		ISO-Latin1 コード (-latin1)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を ISO-Latin1 で扱います。
		UTF-8 コード (-utf8)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を UTF-8 で扱います。
		繁体中国語 (-big5)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を繁体中国語で扱います。
		簡体中国語 (-gb2312)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を簡体中国語で扱います。

(2) ［オブジェクト］

オブジェクトに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

出力ファイル形式	出力ファイル形式を選択します。 コンパイラのオプション -output に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	オブジェクト・モジュール・ファイル (-output=obj)	オブジェクト・モジュール・ファイルを出力します。

出力フォルダ	出力フォルダを指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。 空欄の場合は，プロジェクト・フォルダを指定したものとみなします。 コンパイラのオプション -output に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，フォルダの参照ダイアログによる編集	
	指定可能値	247 文字までの文字列	
オブジェクト・ファイル名	コンパイル後に生成するオブジェクト・ファイルの名前を指定します。 “.obj” 以外の拡張子を指定することはできません。 拡張子を省略した場合は，“.obj” を自動的に付加します。 空欄の場合は，ソース・ファイル名の拡張子を “.obj” に置き換えたものとなります。 コンパイラのオプション -output に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	259 文字までの文字列	
デバッグ情報を出力する	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -debug，-nodebug に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-debug)	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力します。
		いいえ (-nodebug)	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力しません。
最適化時のデバッグ情報強化を行う	最適化時のデバッグ情報強化を行うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -g_line に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合に表示します。 - CC-RX V3.02.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.02.00 以上を選択した場合 -［デバッグ情報を出力する］プロパティで［はい (-debug)］を選択した場合		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-g_line)	最適化時のデバッグ情報強化を行います。
		いいえ	最適化時のデバッグ情報強化を行いません。

プログラム領域のセクション名	プログラム領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
定数領域のセクション名	定数領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
初期化データ領域のセクション名	初期化データ領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
未初期化データ領域のセクション名	未初期化データ領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
リテラル領域のセクション名	リテラル領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
switch 文分岐テーブル領域のセクション名	switch 文分岐テーブル領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置する	初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=B)	初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置しません。

初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置する	初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=D)	初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置しません。
const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置する	const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=C)	const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置しません。
switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置する	switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=W)	switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置しません。

分岐先の命令実行向け整合	分岐先の命令実行向け整合を選択します。 コンパイラのオプション -noinstalign，-instalign4，-instalign8 に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	なし (-noinstalign)	分岐先を命令実行向け整合をしません。
		4 バイト整合 (-instalign4)	分岐先を 4 バイトで命令実行向け整合します。
		4 バイト整合 (各ループの先頭含む) (-instalign4=loop)	分岐先を 4 バイトで命令実行向け整合します（各ループの先頭含む）。
		4 バイト整合 (各最内周ループの先頭含む) (-instalign4=inmostloop)	分岐先を 4 バイトで命令実行向け整合します（各最内周ループの先頭含む）。
		8 バイト整合 (-instalign8)	分岐先を 8 バイトで命令実行向け整合します。
		8 バイト整合 (各ループの先頭含む) (-instalign8=loop)	分岐先を 8 バイトで命令実行向け整合します（各ループの先頭含む）。
		8 バイト整合 (各最内周ループの先頭含む) (-instalign8=inmostloop)	分岐先を 8 バイトで命令実行向け整合します（各最内周ループの先頭含む）。
ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整する	ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整するかどうかを選択します。 ストリング操作命令のデータ・プリフェッチで 4 バイト境界を跨ぐ読み出しを防止します。 コンパイラの -avoid_cross_boundary_prefetch オプションに相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.07.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.07.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-avoid_cross_boundary_prefetch)	ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整します。
		いいえ	ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整しません。
除算、剰余算を DIV,DIVU,FDIV 命令で生成する	除算，剰余算を DIV,DIVU,FDIV,DDIV 命令で生成するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nouse_div_inst に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	除算，剰余算に DIV,DIVU,FDIV,DDIV 命令を使ったコードを生成します。
		いいえ (-nouse_div_inst)	除算，剰余算に DIV,DIVU,FDIV,DDIV 命令を使わないコードを生成します。

出力アセンブリ言語ファイルの文字コード	出力アセンブリ言語ファイルの文字コードを選択します。 ［繁体中国語 (-outcode=big5)］と［簡体中国語 (-outcode=gb2312)］に関しては，［ソース］カテゴリの［入力プログラムの文字コード］プロパティの値と同期します。 コンパイラのオプション -outcode に相当します。 なお，［繁体中国語 (-big5)］，および［簡体中国語 (-gb2312)］は，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。 また，［UTF-8 コード (-outcode=utf8)］は，以下の場合は選択することができません。 - CC-RX V2.04.00 未満をインストールした環境において，［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 未満を選択した場合 - ［ソース］カテゴリの［C ソース・ファイルの言語］プロパティで［C(C89) (-lang=c)］を選択した場合		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	EUC コード (-outcode=euc)	文字列，文字定数内の文字を EUC で出力します。
		SJIS コード (-outcode=sjis)	文字列，文字定数内の文字を SJIS で出力します。
		UTF-8 コード (-outcode=utf8)	文字列，文字定数内の文字を UTF-8 で出力します。
		繁体中国語 (-outcode=big5)	文字列，文字定数内の文字を繁体中国語で出力します。
		簡体中国語 (-outcode=gn2312)	文字列，文字定数内の文字を簡体中国語で出力します。

(3) ［品質向上関連］

品質向上関連に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

スタック破壊検出を行う	スタック破壊検出を行うかどうかを選択します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 スタック破壊検出は，関数に入る前に有効なスタック領域の外に値を書き込み，関数から出る前に値が書き換えられていないかをチェックする機能です。検出時，ユーザ定義の __stack_chk_fail() 関数を呼び出します。 ［はい (-stack_protector)］，［はい (すべて)(-stack_protector_all)］の違いについては，「CC-RX コンパイラ ユーザーズマニュアル」を参照してください。 コンパイラの -stack_protector と -stack_protector_all オプションに相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.04.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-stack_protector)	スタック破壊検出を行います。
		はい (すべて)(-stack_protector_all)	すべての関数に対して，スタック破壊検出を行います。
		いいえ (オプション指定なし)	スタック破壊検出を行いません。

スタック破壊検出用の埋め込み値	スタック破壊検出用の埋め込み値を指定します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 コンパイラの -stack_protector と -stack_protector_all オプションに相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合に表示します。 - CC-RX V2.04.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 以上を選択した場合 -［スタック破壊検出を行う］プロパティで［いいえ (オプション指定なし)］以外を選択した場合		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	0 ～ 4294967295（10 進数）	
不正な間接関数呼び出しを検出する	不正な間接関数呼び出しを検出するコードを出力するかどうかを選択します。 間接関数呼び出しの分岐先アドレスをチェックする機能です。 問題の検出時，ユーザ定義の __control_flow_chk_fail() 関数を呼び出します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 コンパイラの -control_flow_integrity オプションに相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-control_flow_integrity)	不正な間接関数呼び出しを検出するコードを出力します。
		いいえ	不正な間接関数呼び出しを検出するコードを出力しません。

(4) ［リスト］

リストに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

ソース・リスト・ファイルを出力する	ソース・リスト・ファイルを出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -listfile，-nolistfile に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-listfile)	ソース・リスト・ファイルを出力します。
		いいえ (-nolistfile)	ソース・リスト・ファイルを出力しません。
C/C++ ソースを出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 C/C++ ソースを出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=source)	C/C++ ソースを出力します。
		いいえ	C/C++ ソースを出力しません。

条件アセンブルで偽の行を出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 条件アセンブルで偽の行を出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=conditionals)	条件アセンブルで偽の行を出力します。
		いいえ	条件アセンブルで偽の行を出力しません。
.DEFINE 置換前の情報を出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 .DEFINE 置換前の情報を出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=definitions)	.DEFINE 置換前の情報を出力します。
		いいえ	.DEFINE 置換前の情報を出力しません。
アセンブラ・マクロ記述展開行を出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 アセンブラ・マクロ記述展開行を出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=expansions)	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力します。
		いいえ	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力しません。

(5) ［最適化］

最適化に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

最適化レベル	最適化レベルを選択します。 コンパイラのオプション -optimize に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	0 (-optimize=0)	最適化を実施しません。
		1 (-optimize=1)	自動変数のレジスタ割り付け，関数出口ブロックの統合，統合可能な複数命令の統合など，一部最適化を実施します。
		2 (-optimize=2)	全般的に最適化を実施します。
		Max (-optimize=max)	実施可能な最適化を最大限に行います。

モジュール間最適化用付加情報を出力する	モジュール間最適化用付加情報を出力するかどうかを選択します。 本オプションを指定したファイルは，リンク時にモジュール間最適化の対象になります。 コンパイラのオプション -goptimize に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-goptimize)	モジュール間最適化用付加情報を出力します。
		いいえ	モジュール間最適化用付加情報を出力しません。
最適化方法	最適化方法を選択します。 コンパイラのオプション -speed，-size に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	実行性能重視の最適化 (-speed)	実行性能重視の最適化を実施します。
		コード・サイズ重視の最適化 (-size)	コードサイズ重視の最適化を実施します。
ループ展開	ループ文（for, while, do-while）を展開するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -loop に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベル，最適化方法オプションに依存する	［最適化レベル］，［最適化方法］プロパティの指定に従います。
		展開する (-loop=< 数値 >)	ループ文（for, while, do-while）を展開します。
最大展開数	最大で何倍の展開を行うかを指定します。 コンパイラのオプション -loop に相当します。 なお，本プロパティは，［ループ展開］プロパティで［展開する (-loop=< 数値 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	1 ～ 32（10 進数）	
自動インライン展開を行う	自動インライン展開を行うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -inline，-noinline に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベル，最適化方法オプションに依存する	［最適化レベル］，［最適化方法］プロパティの指定に従います。
		はい (-inline=< 数値 >)	自動インライン展開を行います。
		いいえ (-noinline)	自動インライン展開を行いません。

関数サイズの最大増加率	関数サイズの最大増加率を指定します。 たとえば，100 を指定した場合，関数サイズが 100% 増加するまで (2 倍まで) インライン展開を行います。 コンパイラのオプション -inline に相当します。 なお，本プロパティは，［自動インライン展開を行う］プロパティで［はい (-inline=< 数値 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	1 ～ 65535（10 進数）	
ファイル間インライン展開を行うファイル	ファイル間インライン展開を行うファイルを指定します。 inline オプション，または #pragma inline を指定した場合のみ有効となります。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。 %ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 コンパイラのオプション -file_inline に相当します。 ファイル名はサブプロパティとして表示します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合 - ［オブジェクト］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［オブジェクト・モジュール・ファイル (-output=obj)］を選択した場合		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログをオープン →［参照］ボタンをクリックし，インライン展開ファイル追加 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	259 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	
switch 文のコード展開方式	switch 文のコード展開方式を選択します。 コンパイラのオプション -case に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	if_then 方式 (-case=ifthen)	switch 文を if_then 方式で展開します。
		テーブル・ジャンプ方式 (-case=table)	switch 文をテーブル方式で展開します。
		コンパイラが自動選択 (-case=auto)	if_then 方式，テーブル方式いずれかをコンパイラが自動的に選択します。

外部変数を volatile 化する	すべての外部変数を volatile 宣言したものとして扱うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -volatile，-novolatile に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-volatile)	すべての外部変数を volatile 宣言したものとして扱います。
		いいえ (-novolatile)	volatile 修飾のない外部変数に対して最適化を行います。
volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスする	volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスするかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -type_size_access_to_volatile に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V3.04.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.04.00 以上を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-type_size_access_to_volatile)	volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスします。
		いいえ	volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスしません。
const 宣言された外部変数の定数伝播を実施する	const 宣言された外部変数の定数伝播を実施するかどうかを選択します。 C++ 言語ソースファイルの const 修飾型変数については，本オプションで制御することはできません (常に定数伝播されます)。 コンパイラのオプション -const_copy，-noconst_copy に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティの指定に従います。
		はい (-const_copy)	const 修飾型外部変数についても定数伝播を行います。
		いいえ (-noconst_copy)	const 修飾型外部変数の定数伝播を抑止します。
整数型定数による除算および剰余算の変換方法	整数型定数による除算および剰余算の変換方法を選択します。 コンパイラのオプション -const_div，-noconst_div に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化方法オプションに依存する	［最適化方法］プロパティの指定に従います。
		乗算を用いた命令列に変換 (-const_div)	ソースファイル中の整数型定数による除算および剰余算を，乗算を用いた命令列に変換します。
		除算を用いた命令列に変換 (-noconst_div)	ソースファイル中の整数型定数による除算および剰余算を，除算を用いた命令列に変換します。

RX 命令に展開可能なライブラリ関数の実行方法	RX 命令に展開可能なライブラリ関数の実行方法を選択します。 コンパイラのオプション -library に相当します。 なお，本プロパティは，［オブジェクト］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティでオブジェクト・モジュール・ファイル (-output=obj) を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	関数呼び出し (-library=function)	ライブラリ関数を関数呼び出しします。
		RX 命令に展開 (-library=intrinsic)	abs() を ABS 命令に置き換えるなど，ライブラリ関数に対応する機能を持つ RX 命令に置き換えます。
三角関数演算器が利用可能なライブラリ関数の実行方法	三角関数演算器が利用可能なライブラリ関数の実行方法を選択します。 コンパイラのオプション -tfu に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.01.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.01.00 以上を選択した場合 - 三角関数演算器を持つデバイスの場合		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	三角関数演算器を利用しない (-tfu=intrinsic)	数学ライブラリ関数の呼び出しを，三角関数演算器を利用するコードに置き換えません。
		三角関数演算器を利用する (-tfu=intrinsic,mathlib)	数学ライブラリ関数の呼び出しを，三角関数演算器を利用するコードに置き換えます。
最適化範囲を複数に分割してコンパイルする	サイズの大きい関数について，最適化範囲を複数に分割してコンパイルするかどうかを指定します。 コンパイラのオプション -scope，-noscope に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティの指定に従います。
		はい (-scope)	コンパイルの前にサイズの大きい関数について，最適化範囲を複数に分割します。
		いいえ (-noscope)	コンパイルの前に最適化範囲を分割しません。

パイプライン処理を考慮した命令並べ替えを行う	パイプライン処理を考慮した命令並べ替えを行うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -schedule，-noschedule に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティの指定に従います。
		はい (-schedule)	パイプライン処理を考慮した命令並べ替えを行います。
		いいえ (-noschedule)	命令並べ替えを行いません。
外部変数アクセス最適化を行う	外部変数アクセス最適化を行うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nomap，-smap，-map に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (モジュール内で最適化) (-smap)	コンパイル対象ファイル内で定義された外部変数もしくは静的変数についてベースアドレスを設定し，アクセスをベースアドレス相対で行うコードを生成します。
		はい (モジュール間で最適化) (-map)	最適化リンケージエディタが生成する外部シンボル割り付け情報を元にベースアドレスを設定し，外部変数もしくは静的変数のアクセスをベースアドレス相対で行うコードを生成します。
		いいえ (-nomap)	外部変数アクセス最適化を行いません。
大域最適化を行う	大域最適化 (関数の統合など) を行うレベルを指定します。 コンパイラのオプション -whole_program，-merge_files，-ip_optimize に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (レベル 1)(最適化を行う)(-ip_optimize)	ソースファイル毎に，大域最適化を行います。
		いいえ	大域最適化を行いません。
浮動小数点定数除算の乗算化を行う	浮動小数点定数除算を，定数の逆数の乗算に変換するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -approxdiv に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-approxdiv)	浮動小数点定数除算を，定数の逆数の乗算に変換します。
		いいえ	浮動小数点定数除算を，定数の逆数の乗算に変換しません。

<table>
<tr><td rowspan="5">register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付ける</td><td colspan="3">register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付けるかどうかを選択します。
コンパイラのオプション -enable_register に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
-［オブジェクト］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［オブジェクト・モジュール・ファイル (-output=obj)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-enable_register)</td><td>register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付けます。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付けません。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">浮動小数点型 <-> 符号無し整数型の範囲チェックを省略する</td><td colspan="3">浮動小数点型 <-> 符号無し整数型の範囲チェックを省略するかどうかを選択します。
“ はい ” を選択した時，該当する型変換の処理に対するコード性能は向上しますが，変換結果が C,C++ 言語規格と異なる場合がありますので，ご注意ください。
コンパイラのオプション -simple_float_conv に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-simple_float_conv)</td><td>浮動小数点型の型変換処理の一部を省略します。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>浮動小数点型の型変換処理の一部を省略しません。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">ポインタ指示先の型を考慮した最適化を実施する</td><td colspan="3">ポインタ指示先の型を考慮した最適化を実施するかどうかを選択します。
“ はい ” を指定した場合，一般には，alias=noansi を指定した場合よりもオブジェクト性能が向上しますが，alias=ansi と alias=noansi とで実行結果が異なる場合があります。
コンパイラのオプション -alias に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指定可能値</td><td>最適化レベルオプションに依存する</td><td>［最適化レベル］プロパティの指定に従います。</td></tr>
<tr><td>はい (-alias=ansi)</td><td>ANSI 規格に基づき，ポインタ指示先の型を考慮した最適化を行います。</td></tr>
<tr><td>いいえ (-alias=noansi)</td><td>ANSI 規格に基づくポインタ指示先の型を考慮した最適化を行いません。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="5">浮動小数点式の演算順序変更の最適化を行う</td><td colspan="3">浮動小数点演算式の演算順序変更の最適化を行うかどうかを選択します。
“ はい ” を指定した場合，一般には，-float_order を指定しない場合よりもオブジェクト性能が向上しますが，演算の精度が -float_order を指定しなかった場合と異なることがあります。
コンパイラのオプション -float_order に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
- ［最適化レベル］プロパティで［2 (-optimize=2)］または［Max (-optimize=max)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-float_order)</td><td>浮動小数点演算式の演算順序変更の最適化を行います。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>浮動小数点演算式の演算順序変更の最適化を行いません。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">相対分岐命令のコードサイズを削減する</td><td colspan="3">相対分岐命令のコードサイズを削減するかどうかを選択します。
コンパイラのオプション -branch_chaining，-nobranch_chaining に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V3.03.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.03.00 以上を選択した場合
- ［最適化レベル］プロパティで［2(-optimize=2)］または［Max(-optimize=max)］を選択した場合
- ［最適化方法］プロパティで［コード・サイズ重視の最適化 (-size)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指定可能値</td><td>最適化レベル，最適化方法オプションに依存する</td><td>［最適化レベル］，［最適化方法］プロパティの指定に従います。</td></tr>
<tr><td>はい (-branch_chaining)</td><td>相対分岐命令のコードサイズを削減します。</td></tr>
<tr><td>いいえ (-nobranch_chaining)</td><td>相対分岐命令のコードサイズを削減しません。</td></tr>
</table>

(6) ［出力ファイル］

出力ファイルに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

アセンブリ・ソース・ファイルを出力する	C ソースのコンパイル結果のアセンブリ・ソース・ファイルを出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -output=src に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-output=src)	C ソースのコンパイル結果のアセンブリ・ソース・ファイルを出力します。
		いいえ	C ソースのコンパイル結果のアセンブリ・ソース・ファイルを出力しません。
プリプロセス処理したソースを出力する	ソース・ファイルに対して，プリプロセス処理を実行した結果をファイルに出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -output，-noline に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-output=prep)	ソースファイルに対して，プリプロセス処理を実行した結果をファイルに出力します。
		はい (#line 出力抑止)(-output=prep -noline)	ソースファイルに対して，プリプロセス処理 (#line 出力抑止) を実行した結果をファイルに出力します。
		いいえ	ソースファイルに対して，プリプロセス処理を実行した結果をファイルに出力しません。

(7) ［MISRA C ルール検査］

MISRA C ルール検査に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。
以下の表中の「20*XX*」は，具体的には「2012」，または「2004」が相当します。

MISRA-C 規格	MISRA-C の規格を選択します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.04.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	MISRA-C 2012	以下のプロパティで，MISRA-C 2012 の設定を行います。
		MISRA-C 2004	以下のプロパティで，MISRA-C 2004 の設定を行います。

<table>
<tr><td rowspan="11">適用するルール</td><td colspan="3">適用する MISRA C ルールを選択します。
本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。
misra2012 の場合，かつ CC-RX V2.05.00 またはそれ以前の場合は，［C ソース・ファイルの言語］プロパティで［C99(-lang=c99)］が選択されている場合でも，C89 の仕様の範囲内で MISRA C チェックを行います。
コンパイラのオプション -misra20XX に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="8">指定可能値</td><td>すべてのルールを適用 (-misra20XX=all)</td><td>サポートしているすべてのルールをチェック対象とします。</td></tr>
<tr><td>指定したルール番号を適用 (-misra20XX=apply)</td><td>サポートしているルールのうち，指定されたルール番号をチェック対象とします。</td></tr>
<tr><td>指定したルール番号を除外 (-misra20XX=ignore)</td><td>サポートしているルールのうち，指定されたルール番号以外のルールをチェック対象とします。</td></tr>
<tr><td>必須ルールを適用 (-misra20XX=required)</td><td>サポートしているルールのうち，ルールの分類が “required” になっているルールをチェック対象とします。</td></tr>
<tr><td>必須ルールと指定したルールを適用 (-misra20XX=required_add)</td><td>サポートしているルールのうち，ルールの分類が “required” になっているルールと指定されたルール番号をチェック対象とします。</td></tr>
<tr><td>必須ルールから指定したルール番号を除外 (-misra20XX=required_remove)</td><td>サポートしているルールのうち，ルールの分類が “required” になっているルールから指定されたルール番号を除いたルール番号をチェック対象とします。</td></tr>
<tr><td>指定ファイルに記載されたルール番号を適用 (-misra20XX=< ファイル名 >)</td><td>サポートしているルールのうち，指定されたファイル名に記載されたルール番号をチェック対象とします。</td></tr>
<tr><td>適用ルールなし</td><td>MISRA C ルールを適用しません。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">ルール番号記載ファイル</td><td colspan="2">ルール番号記載ファイル (misra20XX ルール・ファイル) を指定します。
本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。
misra2012 の場合のみ，ルール番号（13.6 17.3 17.4，CC-RX V2.06.00 以上は 9.1 17.6 も，CC-RX V2.07.00 以上は 12.5 21.13 も）は指定にかかわらず常にチェックします。
次のプレースホルダに対応しています。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
コンパイラのオプション -misra20XX に相当します。
なお，本プロパティは，［適用するルール］プロパティで［指定ファイルに記載されたルール番号を適用 (-misra20XX=< ファイル名 >)］を選択した場合のみ表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td>コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td>テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，Misra20XX ルール・ファイルの指定 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>259 文字までの文字列</td></tr>
</table>

ルール番号	ルール番号を指定します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 misra2012 の場合のみ，ルール番号（13.6 17.3 17.4，CC-RX V2.06.00 以上は 9.1 17.6 も，CC-RX V2.07.00 以上は 12.5 21.13 も）は指定にかかわらず常にチェックします。 ルール番号は，必ず 10 進数値で 1 つ以上指定してください。 コンパイラのオプション -misra20*XX* に相当します。 なお，本プロパティは，［適用するルール］プロパティで［指定したルール番号を適用 (-misra20*XX*=apply］を選択した場合のみ表示します。	
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，ルール番号の指定 ダイアログによる編集
	指定可能値	259 文字までの文字列
除外するルール番号	除外するルール番号を指定します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 misra2012 の場合のみ，ルール番号（13.6 17.3 17.4，CC-RX V2.06.00 以上は 9.1 17.6 も，CC-RX V2.07.00 以上は 12.5 21.13 も）は指定にかかわらず常にチェックします。 ルール番号は，必ず 10 進数値で 1 つ以上指定してください。 コンパイラのオプション -misra20*XX* に相当します。 なお，本プロパティは，［適用するルール］プロパティで［指定したルール番号を除外 (-misra20*XX*=ignore)］を選択した場合のみ表示します。	
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，ルール番号の指定 ダイアログによる編集
	指定可能値	259 文字までの文字列
必須ルールの他にチェックするルール番号	必須ルールの他にチェックするルール番号を指定します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 misra2012 の場合のみ，ルール番号（13.6 17.3 17.4，CC-RX V2.06.00 以上は 9.1 17.6 も，CC-RX V2.07.00 以上は 12.5 21.13 も）は指定にかかわらず常にチェックします。 ルール番号は，必ず 10 進数値で 1 つ以上指定してください。 コンパイラのオプション -misra20*XX* に相当します。 なお，本プロパティは，［必須ルールと指定したルールを適用 (-misra20*XX*=required_add)］を選択した場合のみ表示します。	
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，ルール番号の指定 ダイアログによる編集
	指定可能値	259 文字までの文字列

必須ルールから除外するルール番号	必須ルールの他にチェックするルール番号を指定します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 misra2012 の場合のみ，ルール番号（13.6 17.3 17.4，CC-RX V2.06.00 以上は 9.1 17.6 も，CC-RX V2.07.00 以上は 12.5 21.13 も）は指定にかかわらず常にチェックします。 ルール番号は，必ず 10 進数値で 1 つ以上指定してください。 コンパイラのオプション -misra20*XX* に相当します。 なお，本プロパティは，［適用するルール］プロパティで［必須ルールから指定したルール番号を除外 (-misra20*XX*=required_remove)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，ルール番号の指定 ダイアログによる編集	
	指定可能値	259 文字までの文字列	
ルール・チェック対象外のファイル	MISRA-C のルール・チェック対象外のファイルを指定します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。 コンパイラのオプション -ignore_files_misra に相当します。 なお，本プロパティは，［適用するルール］プロパティで［適用ルールなし］を選択した場合は表示されません。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	［...］ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログをオープン →［参照］ボタンをクリックし，対象外ファイルの追加 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	259 文字までの文字列 65535 個まで指定可能	
拡張キーワードや拡張仕様をメッセージ出力する	拡張キーワードや拡張仕様をメッセージ出力するかどうかを選択します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 コンパイラのオプション -check_language_extension に相当します。 なお，本プロパティは，［適用するルール］プロパティで［適用ルールなし］を選択した場合は表示されません。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-check_language_extension)	C/C++ 言語規格から独自に拡張した言語仕様が有効な場合に一部抑止される，MISRA-C ルールチェックを有効にします。
		いいえ	C/C++ 言語規格から独自に拡張した言語仕様が有効な場合に一部抑止される，MISRA-C ルールチェックを無効にします。

複数ファイルにまたがる検査を有効にする	複数ファイルにまたがる検査を有効にするかどうかを選択します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 コンパイラのオプション -misra_intermodule に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.01.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.01.00 以上を選択した場合 -［MISRA-C 規格］プロパティで［MISRA-C 2012］を選択した場合 -［適用するルール］プロパティで［適用ルールなし］以外を選択した場合 **注意** ［はい (-misra_intermodule)］選択中に，プロジェクトの C ソース・ファイルを削除またはリネームした場合，複数ファイルにまたがる検査用の情報がクリアされます。 正しい検査を行うにはプロジェクトをリビルドしてください。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-misra_intermodule)	複数ファイルにまたがる検査を有効にします。
		いいえ	複数ファイルにまたがる検査を有効にしません。

(8) ［その他］

コンパイルに関するその他の詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

コピーライトを出力する	コピーライトを出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nologo に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-logo)	コピーライトを出力します。
		いいえ (-nologo)	コピーライトの出力を抑止します。
クロス・リファレンス情報を出力する	クロス・リファレンス情報を出力するかどうかを選択します。 本オプションを変更するには，「プログラム解析」のプロパティの設定を変更する必要があります。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-Xcref)	クロス・リファレンス情報を出力します。
		いいえ	クロス・リファレンス情報を出力しません。

<table>
<tr><td>コンパイル前に実行するコマンド</td><td>コンパイル処理前に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%CompiledFile% ：コンパイル時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%InputFile% ：コンパイル対象ファイルの絶対パスに置換します（ただし，一括ビルドの場合は置換しません）。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，コンパイル処理前に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。
<table><tr><td>デフォルト</td><td>コンパイル・オプションの設定値</td></tr><tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr><tr><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">コンパイル後に実行するコマンド</td><td colspan="2">コンパイル処理後に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%CompiledFile% ：コンパイル時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%InputFile% ：コンパイル対象ファイルの絶対パスに置換します（ただし，一括ビルドの場合は置換しません）。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，コンパイル処理後に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td>コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">その他の追加オプション</td><td colspan="2">その他に追加するコンパイル・オプションを入力します。
なお，ここで設定したオプションは，コンパイル・オプション群の最後に付加されます。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td>コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td>テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>259 文字までの文字列</td></tr>
</table>

コマンド・ライン	指定されているオプションを表示します。	
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*
	変更方法	変更不可

［個別コンパイル・オプション (C++)］タブ

本タブでは，1 つの C++ ソース・ファイルに対して，次に示すカテゴリごとに詳細情報の表示，および設定の変更を行います。
なお，本タブは，［共通オプション］タブ，および［コンパイル・オプション］タブの設定内容を継承します。
これらのタブと異なる値を設定した場合は，プロパティが太字表示となります。

(1)［ソース］
(2)［オブジェクト］
(3)［品質向上関連］
(4)［リスト］
(5)［最適化］
(6)［出力ファイル］
(7)［その他］

備考　本タブは，［ビルド設定］タブの［ビルド］カテゴリの［個別コンパイル・オプションを設定する］プロパティで［はい］を選択した場合のみ表示します。

［各カテゴリの説明］

(1)　［ソース］
ソースに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

C++ ソース・ファイルの言語	C++ ソース・ファイルの言語を選択します。 コンパイラのオプション -lang に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	C++ (-lang=cpp)	C++ 言語ソースファイルとしてコンパイルします。
		EC++ (-lang=ecpp)	EC++ 言語ソースファイルとしてコンパイルします。
追加のインクルード・パス	インクルード・ファイルの存在するパス名を指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %ActiveProjectDir%　：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ActiveProjectName%　：アクティブ・プロジェクト名に置換します。 %BuildModeName%　：ビルド・モード名に置換します。 %MainProjectDir%　：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %MainProjectName%　：メイン・プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath%　：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectDir%　：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName%　：プロジェクト名に置換します。 %TempDir%　：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。 %WinDir%　：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。 なお，パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。 コンパイラのオプション -include に相当します。 指定したインクルード・パスはサブプロパティとして表示します。		
	デフォルト	追加のインクルード・パス [*定義数*]	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	247 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	

<table>
<tr><td rowspan="4">ビルド・ツールに指定した全体インクルード・パスも使用する</td><td colspan="3">使用するビルド・ツールの［コンパイル・オプション］タブの［ソース］カテゴリの［追加のインクルード・パス］プロパティで指定したインクルード・パスも使用してコンパイルするかどうかを選択します。
インクルード・パスは，以下の順で追加します。
- 本タブの［追加のインクルード・パス］プロパティに指定したパス
- ［コンパイル・オプション］タブの［ソース］カテゴリの［追加のインクルード・パス］プロパティで指定したパス
コンパイラのオプション -include に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">はい</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>はい</td><td>使用するビルド・ツールのプロパティで指定したインクルード・パスも使用してコンパイルします。</td></tr>
<tr><td></td><td>いいえ</td><td>使用するビルド・ツールのプロパティで指定したインクルード・パスを使用しません。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">コンパイル単位の先頭にインクルードするファイル</td><td colspan="3">コンパイル単位の先頭にインクルードするファイルを指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
なお，パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。
コンパイラのオプション -preinclude に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">259 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">マクロ定義</td><td colspan="3">定義したいマクロ名を指定します。
「マクロ名 = 文字列」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。
「= 文字列」の部分は省略可能で，省略した場合，そのマクロ名が定義されたものと仮定します。
コンパイラのオプション -define に相当します。
指定したマクロはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">32767 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
</table>

無効化するプリデファインド・マクロ	無効化するプリデファインド・マクロを指定します。 複数指定する場合は，マクロ名をカンマで区切って指定します（例：__DBL4,__SCHAR）。 コンパイラのオプション -undefine に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，無効化するマクロの指定 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする	インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にするかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -message，および -nomessage に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-message)	インフォメーション・レベル・メッセージを有効にします。
		いいえ (-nomessage)	インフォメーション・レベル・メッセージを無効にします。
抑止するインフォメーションレベル・メッセージ番号	抑止するインフォメーション・レベル・メッセージ番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -nomessage に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーション・レベル・メッセージを抑止する］プロパティで［いいえ (-nomessage)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
表示させないメッセージ	表示させないインフォメーション，ウォーニングレベルのメッセージの番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -no_warning に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	

ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更する	ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-change_message=information)	すべてのウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-change_message=information=< エラー番号 >)	ウォーニングレベルの指定エラー番号のみインフォメーションレベルに変更します。
		いいえ	ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更しません。
ウォーニングレベルのエラー番号	ウォーニングレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-change_message=information=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更する	インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-change_message=warning)	すべてのインフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-change_message=warning=< エラー番号 >)	インフォメーションレベルの指定エラー番号のみウォーニングレベルに変更します。
		いいえ	インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更しません。

インフォメーションレベルのエラー番号	インフォメーションレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-change_message=warning=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
インフォメーション、ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更する	インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (すべて) (-change_message=error))	すべてのインフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更します。
		はい (エラー番号指定) (-change_message=error=< エラー番号 >)	インフォメーション，ウォーニングレベルの指定エラー番号のみエラーレベルに変更します。
		いいえ	インフォメーション，ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更しません。
インフォメーション、ウォーニングレベルのエラー番号	インフォメーション，ウォーニングレベルのエラー番号を指定します。 複数指定する場合は，メッセージ番号をカンマで区切って指定します（例：23043,23042）。 また，ハイフンを使用して，区間設定を行うこともできます（例：23044-23045,23046-23048）。 コンパイラのオプション -change_message に相当します。 なお，本プロパティは，［インフォメーション、ウォーニング・メッセージをエラーレベルに変更する］プロパティで［はい (エラー番号指定) (-change_message=error=< エラー番号 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	

<table>
<tr><td rowspan="4">ファイル間インライン展開ファイル取り込み先フォルダ</td><td colspan="3">ファイル間インライン展開ファイル取り込み先フォルダを指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
なお，パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。
コンパイラのオプション -file_inline_path に相当します。
指定したインクルード・パスはサブプロパティとして表示します。
なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合に表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td colspan="2">247 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">コメント (/* */) のネストを許す</td><td colspan="3">コメント (/* */) のネストを許すかどうかを選択します。
コンパイラのオプション -comment に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>はい (-comment=nest)</td><td>コメント (/* */) のネストを許します。</td></tr>
<tr><td></td><td>いいえ (-comment=nonest)</td><td>コメント (/* */) のネストを許しません。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">既存プログラムとの互換性をチェックする</td><td colspan="3">既存プログラムとの互換性をチェックするかどうかを選択します。
コンパイラのオプション -check に相当します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>はい (NC コンパイラ) (-check=nc)</td><td>R8C,M16C ファミリ用 C コンパイラとの互換性をチェックします。</td></tr>
<tr><td></td><td>はい (H8 コンパイラ) (-check=ch38)</td><td>H8,H8S,H8SX ファミリ用 C/C++ コンパイラとの互換性をチェックします。</td></tr>
<tr><td></td><td>はい (SH コンパイラ) (-check=sh)</td><td>SuperH ファミリ用 C/C++ コンパイラとの互換性をチェックします。</td></tr>
<tr><td></td><td>いいえ</td><td>既存プログラムとの互換性をチェックしません。</td></tr>
</table>

入力プログラムの文字コード	入力プログラムの文字コードを選択します。 ［繁体中国語 (-big5)］と［簡体中国語 (-gb2312)］に関しては，［オブジェクト］カテゴリの［出力アセンブリ言語ファイルの文字コード］プロパティの値と同期します。 コンパイラのオプション -euc，-sjis，-latin1，-utf8，-big5，-gb2312 に相当します。 なお，［繁体中国語 (-big5)］，および［簡体中国語 (-gb2312)］は，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。 また，［UTF-8 コード (-utf8)］は，以下の場合は選択することができません。 - CC-RX V2.04.00 未満をインストールした環境において，［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 未満を選択した場合		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	EUC コード (-euc)	文字列，文字定数およびコメント内の文字を EUC で扱います。
		SJIS コード (-sjis)	文字列，文字定数およびコメント内の文字を SJIS で扱います。
		ISO-Latin1 コード (-latin1)	文字列，文字定数およびコメント内の文字を ISO-Latin1 で扱います。
		UTF-8 コード (-utf8)	文字列，文字定数およびコメント内の文字を UTF-8 で扱います。
		繁体中国語 (-big5)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を繁体中国語で扱います。
		簡体中国語 (-gb2312)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を簡体中国語で扱います。

(2) ［オブジェクト］

オブジェクトに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

出力ファイル形式	出力ファイル形式を選択します。 コンパイラのオプション -output に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	オブジェクト・モジュール・ファイル (-output=obj)	オブジェクト・モジュール・ファイルを出力します。
		プリプロセッサ展開後のソース・ファイル (-output=prep)	プリプロセッサ展開後のソースファイルを出力します。
		プリプロセッサ展開後のソース・ファイル (#line 出力抑止) (-output=prep -noline)	プリプロセッサ展開時に #line 出力を抑止します。

出力フォルダ	出力フォルダを指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。 空欄の場合は，プロジェクト・フォルダを指定したものとみなします。 コンパイラのオプション -output に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，フォルダの参照ダイアログによる編集	
	指定可能値	247 文字までの文字列	
オブジェクト・ファイル名	コンパイル後に生成するオブジェクト・ファイルの名前を指定します。 “.obj” 以外の拡張子を指定することはできません。 拡張子を省略した場合は，“.obj” を自動的に付加します。 空欄の場合は，ソース・ファイル名の拡張子を “.obj” に置き換えたものとなります。 コンパイラのオプション -output に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	259 文字までの文字列	
デバッグ情報を出力する	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -debug，-nodebug に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-debug)	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力します。
		いいえ (-nodebug)	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力しません。
最適化時のデバッグ情報強化を行う	最適化時のデバッグ情報強化を行うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -g_line に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合に表示します。 - CC-RX V3.02.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.02.00 以上を選択した場合 -［デバッグ情報を出力する］プロパティで［はい (-debug)］を選択した場合		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-g_line)	最適化時のデバッグ情報強化を行います。
		いいえ	最適化時のデバッグ情報強化を行いません。

プログラム領域のセクション名	プログラム領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
定数領域のセクション名	定数領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
初期化データ領域のセクション名	初期化データ領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
未初期化データ領域のセクション名	未初期化データ領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
リテラル領域のセクション名	リテラル領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
switch 文分岐テーブル領域のセクション名	switch 文分岐テーブル領域のセクション名を指定します。 コンパイラのオプション -section に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	32767 文字までの文字列	
初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置する	初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=B)	初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	初期値なし変数をアライメント 4 のセクションに配置しません。

初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置する	初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=D)	初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	初期値あり変数をアライメント 4 のセクションに配置しません。
const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置する	const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=C)	const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	const 修飾変数をアライメント 4 のセクションに配置しません。
switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置する	switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nostuff に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-nostuff=W)	switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置します。
		いいえ	switch 文分岐テーブルをアライメント 4 のセクションに配置しません。

分岐先の命令実行向け整合	分岐先の命令実行向け整合を選択します。 コンパイラのオプション -noinstalign，-instalign4，-instalign8 に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	なし (-noinstalign)	分岐先を命令実行向け整合をしません。
		4 バイト整合 (-instalign4)	分岐先を 4 バイトで命令実行向け整合します。
		4 バイト整合 (各ループの先頭含む) (-instalign4=loop)	分岐先を 4 バイトで命令実行向け整合します (各ループの先頭含む)。
		4 バイト整合 (各最内周ループの先頭含む) (-instalign4=inmostloop)	分岐先を 4 バイトで命令実行向け整合します (各最内周ループの先頭含む)。
		8 バイト整合 (-instalign8)	分岐先を 8 バイトで命令実行向け整合します。
		8 バイト整合 (各ループの先頭含む) (-instalign8=loop)	分岐先を 8 バイトで命令実行向け整合します (各ループの先頭含む)。
		8 バイト整合 (各最内周ループの先頭含む) (-instalign8=inmostloop)	分岐先を 8 バイトで命令実行向け整合します (各最内周ループの先頭含む)。
ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整する	ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整するかどうかを選択します。 ストリング操作命令のデータ・プリフェッチで 4 バイト境界を跨ぐ読み出しを防止します。 コンパイラの -avoid_cross_boundary_prefetch オプションに相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.07.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.07.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-avoid_cross_boundary_prefetch)	ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整します。
		いいえ	ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整しません。
除算、剰余算を DIV,DIVU,FDIV 命令で生成する	除算，剰余算を DIV,DIVU,FDIV 命令で生成するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nouse_div_inst に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	除算，剰余算に DIV,DIVU,FDIV 命令を使ったコードを生成します。
		いいえ (-nouse_div_inst)	除算，剰余算に DIV,DIVU,FDIV 命令を使わないコードを生成します。

出力アセンブリ言語ファイルの文字コード	出力アセンブリ言語ファイルの文字コードを選択します。 ［繁体中国語 (-outcode=big5)］と［簡体中国語 (-outcode=gb2312)］に関しては，［ソース］カテゴリの［入力プログラムの文字コード］プロパティの値と同期します。 コンパイラのオプション -outcode に相当します。 なお，［繁体中国語 (-big5)］，および［簡体中国語 (-gb2312)］は，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。 また，［UTF-8 コード (-outcode=utf8)］は，以下の場合は選択することができません。 - CC-RX V2.04.00 未満をインストールした環境において，［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 未満を選択した場合		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	EUC コード (-outcode=euc)	文字列，文字定数内の文字を EUC で出力します。
		SJIS コード (-outcode=sjis)	文字列，文字定数内の文字を SJIS で出力します。
		UTF-8 コード (-outcode=utf8)	文字列，文字定数内の文字を UTF-8 で出力します。
		繁体中国語 (-outcode=big5)	文字列，文字定数内の文字を繁体中国語で出力します。
		簡体中国語 (-outcode=gn2312)	文字列，文字定数内の文字を簡体中国語で出力します。

(3) ［品質向上関連］

品質向上関連に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

スタック破壊検出を行う	スタック破壊検出を行うかどうかを選択します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 スタック破壊検出は，関数に入る前に有効なスタック領域の外に値を書き込み，関数から出る前に値が書き換えられていないかをチェックする機能です。検出時，ユーザ定義の __stack_chk_fail() 関数を呼び出します。 ［はい (-stack_protector)］，［はい (すべて)(-stack_protector_all)］の違いについては，「CC-RX コンパイラ ユーザーズマニュアル」を参照してください。 コンパイラの -stack_protector と -stack_protector_all オプションに相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.04.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-stack_protector)	スタック破壊検出を行います。
		はい (すべて)(-stack_protector_all)	すべての関数に対して，スタック破壊検出を行います。
		いいえ (オプション指定なし)	スタック破壊検出を行いません。

スタック破壊検出用の埋め込み値	スタック破壊検出用の埋め込み値を指定します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 コンパイラの -stack_protector と -stack_protector_all オプションに相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合に表示します。 - CC-RX V2.04.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 以上を選択した場合 -［スタック破壊検出を行う］プロパティで［いいえ (オプション指定なし)］以外を選択した場合		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	0 ～ 4294967295（10 進数）	
不正な間接関数呼び出しを検出する	不正な間接関数呼び出しを検出するコードを出力するかどうかを選択します。 間接関数呼び出しの分岐先アドレスをチェックする機能です。 問題の検出時，ユーザ定義の __control_flow_chk_fail() 関数を呼び出します。 本プロパティは Professional 版でのみ使用可能です。 コンパイラの -control_flow_integrity オプションに相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.08.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.08.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-control_flow_integrity)	不正な間接関数呼び出しを検出するコードを出力します。
		いいえ	不正な間接関数呼び出しを検出するコードを出力しません。

(4) ［リスト］

リストに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

ソース・リスト・ファイルを出力する	ソース・リスト・ファイルを出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -listfile ， -nolistfile に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-listfile)	ソース・リスト・ファイルを出力します。
		いいえ (-nolistfile)	ソース・リスト・ファイルを出力しません。
C/C++ ソースを出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 C/C++ ソースを出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=source)	C/C++ ソースを出力します。
		いいえ	C/C++ ソースを出力しません。

条件アセンブルで偽の行を出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 条件アセンブルで偽の行を出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=conditionals)	条件アセンブルで偽の行を出力します。
		いいえ	条件アセンブルで偽の行を出力しません。
.DEFINE 置換前の情報を出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 .DEFINE 置換前の情報を出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=definitions)	.DEFINE 置換前の情報を出力します。
		いいえ	.DEFINE 置換前の情報を出力しません。
アセンブラ・マクロ記述展開行を出力する	ソース・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 アセンブラ・マクロ記述展開行を出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［ソース・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=expansions)	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力します。
		いいえ	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力しません。

(5) ［最適化］

最適化に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

最適化レベル	最適化レベルを選択します。 コンパイラのオプション -optimize に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	0 (-optimize=0)	最適化を実施しません。
		1 (-optimize=1)	自動変数のレジスタ割り付け，関数出口ブロックの統合，統合可能な複数命令の統合など，一部最適化を実施します。
		2 (-optimize=2)	全般的に最適化を実施します。
		Max (-optimize=max)	実施可能な最適化を最大限に行います。

モジュール間最適化用付加情報を出力する	モジュール間最適化用付加情報を出力するかどうかを選択します。 本オプションを指定したファイルは，リンク時にモジュール間最適化の対象になります。 コンパイラのオプション -goptimize に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-goptimize)	モジュール間最適化用付加情報を出力します。
		いいえ	モジュール間最適化用付加情報を出力しません。
最適化方法	最適化方法を選択します。 コンパイラのオプション -speed，-size に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	実行性能重視の最適化 (-speed)	実行性能重視の最適化を実施します。
		コード・サイズ重視の最適化 (-size)	コードサイズ重視の最適化を実施します。
ループ展開	ループ文 (for, while, do-while) を展開するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -loop に相当します		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベル，最適化方法オプションに依存する	［最適化レベル］，［最適化方法］プロパティの指定に従います。
		展開する (-loop=< 数値 >)	ループ文 (for, while, do-while) を展開します。
最大展開数	最大で何倍の展開を行うかを指定します。 コンパイラのオプション -loop に相当します。 なお，本プロパティは，［ループ展開］プロパティで［展開する (-loop=< 数値 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	1 ～ 32（10 進数）	
自動インライン展開を行う	自動インライン展開を行うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -inline，-noinline に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベル，最適化方法オプションに依存する	［最適化レベル］，［最適化方法］プロパティの指定に従います。
		はい (-inline=< 数値 >)	自動インライン展開を行います。
		いいえ (-noinline)	自動インライン展開を行いません。

関数サイズの最大増加率	関数サイズの最大増加率を指定します。 たとえば，100 を指定した場合，関数サイズが 100% 増加するまで (2 倍まで) インライン展開を行います。 コンパイラのオプション -inline に相当します。 なお，本プロパティは，［自動インライン展開を行う］プロパティで［はい (-inline=< 数値 >)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	1 ～ 65535（10 進数）	
ファイル間インライン展開を行うファイル	ファイル間インライン展開を行うファイルを指定します。 inline オプション，または #pragma inline を指定した場合のみ有効となります。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ： ビルド・モード名に置換します。 %ProjectName% ： プロジェクト名に置換します。 %MicomToolPath% ： 本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 コンパイラのオプション -file_inline に相当します。 ファイル名はサブプロパティとして表示します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合 - ［オブジェクト］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［オブジェクト・モジュール・ファイル (-output=obj)］を選択した場合		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログをオープン →［参照］ボタンをクリックし，インライン展開ファイル追加 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	259 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	
switch 文のコード展開方式	switch 文のコード展開方式を選択します。 コンパイラのオプション -case に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	if_then 方式 (-case=ifthen)	switch 文を if_then 方式で展開します。
		テーブル・ジャンプ方式 (-case=table)	switch 文をテーブル方式で展開します。
		コンパイラが自動選択 (-case=auto)	if_then 方式，テーブル方式いずれかをコンパイラが自動的に選択します。

外部変数を volatile 化する	すべての外部変数を volatile 宣言したものとして扱うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -volatile，-novolatile に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-volatile)	すべての外部変数を volatile 宣言したものとして扱います。
		いいえ (-novolatile)	volatile 修飾のない外部変数に対して最適化を行います。
volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスする	volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスするかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -type_size_access_to_volatile に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V3.04.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.04.00 以上を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-type_size_access_to_volatile)	volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスします。
		いいえ	volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスしません。
const 宣言された外部変数の定数伝播を実施する	const 宣言された外部変数の定数伝播を実施するかどうかを選択します。 C++ 言語ソースファイルの const 修飾型変数については，本オプションで制御することはできません (常に定数伝播されます)。 コンパイラのオプション -const_copy，-noconst_copy に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティの指定に従います。
		はい (-const_copy)	const 修飾型外部変数についても定数伝播を行います。
		いいえ (-noconst_copy)	const 修飾型外部変数の定数伝播を抑止します。
整数型定数による除算および剰余算の変換方法	整数型定数による除算および剰余算の変換方法を選択します。 コンパイラのオプション -const_div，-noconst_div に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化方法オプションに依存する	［最適化方法］プロパティの指定に従います。
		乗算を用いた命令列に変換 (-const_div)	ソースファイル中の整数型定数による除算および剰余算を，乗算を用いた命令列に変換します。
		除算を用いた命令列に変換 (-noconst_div)	ソースファイル中の整数型定数による除算および剰余算を，除算を用いた命令列に変換します。

RX 命令に展開可能なライブラリ関数の実行方法	RX 命令に展開可能なライブラリ関数の実行方法を選択します。 コンパイラのオプション -library に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	関数呼び出し (-library=function)	ライブラリ関数を関数呼び出しします。
		RX 命令に展開 (-library=intrinsic)	abs() を ABS 命令に置き換えるなど，ライブラリ関数に対応する機能を持つ RX 命令に置き換えます。
三角関数演算器が利用可能なライブラリ関数の実行方法	三角関数演算器が利用可能なライブラリ関数の実行方法を選択します。 コンパイラのオプション -tfu に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V3.01.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.01.00 以上を選択した場合 - 三角関数演算器を持つデバイスの場合		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	三角関数演算器を利用しない (-tfu=intrinsic)	数学ライブラリ関数の呼び出しを，三角関数演算器を利用するコードに置き換えません。
		三角関数演算器を利用する (-tfu=intrinsic,mathlib)	数学ライブラリ関数の呼び出しを，三角関数演算器を利用するコードに置き換えます。
最適化範囲を複数に分割してコンパイルする	サイズの大きい関数について，最適化範囲を複数に分割してコンパイルするかどうかを指定します。 コンパイラのオプション -scope，-noscope に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティの指定に従います。
		はい (-scope)	コンパイルの前にサイズの大きい関数について，最適化範囲を複数に分割します。
		いいえ (-noscope)	コンパイルの前に最適化範囲を分割しません。
パイプライン処理を考慮した命令並べ替えを行う	パイプライン処理を考慮した命令並べ替えを行うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -schedule，-noschedule に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティの指定に従います。
		はい (-schedule)	パイプライン処理を考慮した命令並べ替えを行います。
		いいえ (-noschedule)	命令並べ替えを行いません。

外部変数アクセス最適化を行う	外部変数アクセス最適化を行うかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nomap，-smap，-map に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (モジュール内で最適化) (-smap)	コンパイル対象ファイル内で定義された外部変数もしくは静的変数についてベースアドレスを設定し，アクセスをベースアドレス相対で行うコードを生成します。
		はい (モジュール間で最適化) (-map)	最適化リンケージエディタが生成する外部シンボル割り付け情報を元にベースアドレスを設定し，外部変数もしくは静的変数のアクセスをベースアドレス相対で行うコードを生成します。
		いいえ (-nomap)	外部変数アクセス最適化を行いません。
大域最適化を行う	大域最適化 (関数の統合など) を行うレベルを指定します。 コンパイラのオプション -whole_program，-merge_files，-ip_optimize に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (レベル 1)(最適化を行う)(-ip_optimize)	ソースファイル毎に，大域最適化を行います。
		いいえ	大域最適化を行いません。
浮動小数点定数除算の乗算化を行う	浮動小数点定数除算を，定数の逆数の乗算に変換するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -approxdiv に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-approxdiv)	浮動小数点定数除算を，定数の逆数の乗算に変換します。
		いいえ	浮動小数点定数除算を，定数の逆数の乗算に変換しません。

register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付ける	register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付けるかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -enable_register に相当します。 なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。 - CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合 -［オブジェクト］カテゴリの［出力ファイル形式］プロパティで［オブジェクト・モジュール・ファイル (-output=obj)］を選択した場合		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-enable_register)	register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付けます。
		いいえ	register 記憶クラスを指定した変数を優先的にレジスタ割り付けません。
浮動小数点型 <-> 符号無し整数型の範囲チェックを省略する	浮動小数点型 <-> 符号無し整数型の範囲チェックを省略するかどうかを選択します。 “ はい ” を選択した時，該当する型変換の処理に対するコード性能は向上しますが，変換結果が C,C++ 言語規格と異なる場合がありますので，ご注意ください。 コンパイラのオプション -simple_float_conv に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-simple_float_conv)	浮動小数点型の型変換処理の一部を省略します。
		いいえ	浮動小数点型の型変換処理の一部を省略しません。
ポインタ指示先の型を考慮した最適化を実施する	ポインタ指示先の型を考慮した最適化を実施するかどうかを選択します。 “ はい ” を指定した場合，一般には，alias=noansi を指定した場合よりもオブジェクト性能が向上しますが，alias=ansi と alias=noansi とで実行結果が異なる場合があります。 コンパイラのオプション -alias に相当します		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	最適化レベルオプションに依存する	［最適化レベル］プロパティの指定に従います。
		はい (-alias=ansi)	ANSI 規格に基づき，ポインタ指示先の型を考慮した最適化を行います。
		いいえ (-alias=noansi)	ANSI 規格に基づくポインタ指示先の型を考慮した最適化を行いません。

<table>
<tr><td rowspan="5">浮動小数点式の演算順序変更の最適化を行う</td><td colspan="3">浮動小数点演算式の演算順序変更の最適化を行うかどうかを選択します。
“ はい ” を指定した場合，一般には，-float_order を指定しない場合よりもオブジェクト性能が向上しますが，演算の精度が -float_order を指定しなかった場合と異なることがあります。
コンパイラのオプション -float_order に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合
- ［最適化レベル］プロパティで［2 (-optimize=2)］または［Max (-optimize=max)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">指定可能値</td><td>はい (-float_order)</td><td>浮動小数点演算式の演算順序変更の最適化を行います。</td></tr>
<tr><td>いいえ</td><td>浮動小数点演算式の演算順序変更の最適化を行いません。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">相対分岐命令のコードサイズを削減する</td><td colspan="3">相対分岐命令のコードサイズを削減するかどうかを選択します。
コンパイラのオプション -branch_chaining，-nobranch_chaining に相当します。
なお，本プロパティは，以下の場合のみ表示します。
- CC-RX V3.03.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.03.00 以上を選択した場合
- ［最適化レベル］プロパティで［2(-optimize=2)］または［Max(-optimize=max)］を選択した場合
- ［最適化方法］プロパティで［コード・サイズ重視の最適化 (-size)］を選択した場合</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td colspan="2">コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td colspan="2">ドロップダウン・リストによる選択</td></tr>
<tr><td rowspan="3">指定可能値</td><td>最適化レベル，最適化方法オプションに依存する</td><td>［最適化レベル］，［最適化方法］プロパティの指定に従います。</td></tr>
<tr><td>はい (-branch_chaining)</td><td>相対分岐命令のコードサイズを削減します。</td></tr>
<tr><td>いいえ (-nobranch_chaining)</td><td>相対分岐命令のコードサイズを削減しません。</td></tr>
</table>

(6) ［出力ファイル］

出力ファイルに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

アセンブリ・ソース・ファイルを出力する	C ソースのコンパイル結果のアセンブリ・ソース・ファイルを出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -output=src に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-output=src)	C ソースのコンパイル結果のアセンブリ・ソース・ファイルを出力します。
		いいえ	C ソースのコンパイル結果のアセンブリ・ソース・ファイルを出力しません。
プリプロセス処理したソースを出力する	ソース・ファイルに対して，プリプロセス処理を実行した結果をファイルに出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -output，-noline に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-output=prep)	ソースファイルに対して，プリプロセス処理を実行した結果をファイルに出力します。
		はい (#line 出力抑止)(-output=prep -noline)	ソースファイルに対して，プリプロセス処理 (#line 出力抑止) を実行した結果をファイルに出力します。
		いいえ	ソースファイルに対して，プリプロセス処理を実行した結果をファイルに出力しません。

(7) ［その他］

コンパイルに関するその他の詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

コピーライトを出力する	コピーライトを出力するかどうかを選択します。 コンパイラのオプション -nologo に相当します。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-logo)	コピーライトを出力します。
		いいえ (-nologo)	コピーライトの出力を抑止します。
クロス・リファレンス情報を出力する	クロス・リファレンス情報を出力するかどうかを選択します。 本オプションを変更するには，「プログラム解析」のプロパティの設定を変更する必要があります。		
	デフォルト	*コンパイル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-Xcref)	クロス・リファレンス情報を出力します。
		いいえ	クロス・リファレンス情報を出力しません。

<table>
<tr><td>コンパイル前に実行するコマンド</td><td>コンパイル処理前に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%CompiledFile% ：コンパイル時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%InputFile% ：コンパイル対象ファイルの絶対パスに置換します（ただし，一括ビルドの場合は置換しません）。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，コンパイル処理前に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。
<table><tr><td>デフォルト</td><td>コンパイル・オプションの設定値</td></tr><tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr><tr><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="4">コンパイル後に実行するコマンド</td><td colspan="2">コンパイル処理後に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%CompiledFile% ：コンパイル時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%InputFile% ：コンパイル対象ファイルの絶対パスに置換します（ただし，一括ビルドの場合は置換しません）。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，コンパイル処理後に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td>コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">その他の追加オプション</td><td colspan="2">その他に追加するコンパイル・オプションを入力します。
なお，ここで設定したオプションは，コンパイル・オプション群の最後に付加されます。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。</td></tr>
<tr><td>デフォルト</td><td>コンパイル・オプションの設定値</td></tr>
<tr><td>変更方法</td><td>テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集</td></tr>
<tr><td>指定可能値</td><td>259 文字までの文字列</td></tr>
</table>

コマンド・ライン	指定されているオプションを表示します。	
	デフォルト	コマンド・ライン [*定義数*]
	変更方法	変更不可

［個別アセンブル・オプション］タブ

本タブでは，1 つのアセンブラ・ソース・ファイルに対して，次に示すカテゴリごとに詳細情報の表示，および設定の変更を行います。
なお，本タブは，［共通オプション］タブおよび［アセンブル・オプション］タブの設定内容を継承します。
これらのタブと異なる値を設定した場合は，プロパティが太字表示となります。

(1)［ソース］
(2)［オブジェクト］
(3)［リスト］
(4)［最適化］
(5)［その他］

備考　本タブは，［ビルド設定］タブの［ビルド］カテゴリの［個別アセンブル・オプションを設定する］プロパティで［はい］を選択した場合に表示されます。

［各カテゴリの説明］

(1)　［ソース］
ソースに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

<table>
<tr><td>追加のインクルード・パス</td><td colspan="2">インクルード・ファイルの存在するパス名を指定します。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir%　：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName%　：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName%　：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir%　：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName%　：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath%　：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir%　：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName%　：プロジェクト名に置換します。
%TempDir%　：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir%　：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
なお，パスはプロジェクト・フォルダを基点とします。
アセンブラのオプション -include に相当します。
指定したインクルード・パスはサブプロパティとして表示します。</td></tr>
<tr><td></td><td>デフォルト</td><td>追加のインクルード・パス [定義数]</td></tr>
<tr><td></td><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，パス編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr>
<tr><td></td><td>指定可能値</td><td>247 文字までの文字列
65536 個まで指定可能です。</td></tr>
</table>

ビルド・ツールに指定した全体インクルード・パスも使用する	使用するビルド・ツールの［アセンブル・オプション］タブの［ソース］カテゴリの［追加のインクルード・パス］プロパティで指定したインクルード・パスも使用してアセンブルするかどうかを選択します。 インクルード・パスは，以下の順で追加します。 - 本タブの［追加のインクルード・パス］プロパティに指定したパス -［アセンブル・オプション］タブの［ソース］カテゴリの［追加のインクルード・パス］プロパティで指定したパス アセンブラのオプション -include に相当します。		
	デフォルト	はい	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい	使用するビルド・ツールのプロパティで指定したインクルード・パスも使用してコンパイルします。
		いいえ	使用するビルド・ツールのプロパティで指定したインクルード・パスを使用しません。
マクロ定義	定義したいマクロ名を指定します。 「*マクロ名 = 文字列*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 アセンブラのオプション -define に相当します。 指定したマクロはサブプロパティとして表示します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	
入力プログラムの文字コード	入力プログラムの文字コードを選択します。 アセンブラのオプション -euc，-sjis，-latin1，-big5，-gb2312 に相当します。 なお，［繁体中国語 (-big5)］，および［簡体中国語 (-gb2312)］は，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。 また，［UTF-8 コード (-utf8)］は，CC-RX V2.04.00 以上をインストールした環境において，［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.04.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	EUC コード (-euc)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を EUC で扱います。
		SJIS コード (-sjis)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を SJIS で扱います。
		ISO-Latin1 コード (-latin1)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を ISO-Latin1 で扱います。
		UTF-8 コード (-utf8)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を UTF-8 で扱います。
		繁体中国語 (-big5)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を繁体中国語で扱います。
		簡体中国語 (-gb2312)	文字列，文字定数，およびコメント内の文字を簡体中国語で扱います。

(2) ［オブジェクト］
オブジェクトに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

出力フォルダ	出力フォルダを指定します。 次のプレースホルダに対応しています。 %BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。 %MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。 %ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。 空欄の場合は，プロジェクト・フォルダを指定したものとみなします。 アセンブラのオプション -output に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 未満をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 未満を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，フォルダの参照 ダイアログによる編集	
	指定可能値	247 文字までの文字列	
オブジェクト・ファイル名	アセンブル後に生成するオブジェクト・ファイルの名前を指定します。 “.obj” 以外の拡張子を指定することはできません。 拡張子を省略した場合は，“.obj” を自動的に付加します。 空欄の場合は，ソース・ファイル名の拡張子を “.obj” に置き換えたものとなります。 アセンブラのオプション -output に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.00.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.00.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，フォルダの参照 ダイアログによる編集	
	指定可能値	259 文字までの文字列	
デバッグ情報を出力する	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力するかどうかを選択します。アセンブラのオプション -debug，-nodebug に相当します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-debug)	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力します。
		いいえ (-nodebug)	デバッグ情報をオブジェクト・モジュール・ファイルに出力しません。

.OFFSET で作られる空き領域へのデータ出力を抑止する	.OFFSET で作られる空き領域へのデータ出力を抑止するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -create_unfilled_area に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V2.03.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V2.03.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-create_unfilled_area)	.OFFSET で作られる空き領域へのデータ出力を抑止します。
		いいえ	.OFFSET で作られる空き領域へのデータ出力を抑止しません。

(3) ［リスト］

リストに関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

アセンブル・リスト・ファイルを出力する	アセンブル・リスト・ファイルを出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -listfile，-nolistfile に相当します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-listfile)	アセンブル・リスト・ファイルを出力します。
		いいえ (-nolistfile)	アセンブル・リスト・ファイルを出力しません。
条件アセンブルで偽の行を出力する	アセンブル・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 条件アセンブルで偽の行を出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［アセンブル・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=conditionals)	条件アセンブルで条件が偽となった行を出力します。
		いいえ	条件アセンブルで条件が偽となった行を出力しません。
.DEFINE 置換前の情報を出力する	アセンブル・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 .DEFINE 置換前の情報を出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［アセンブル・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=definitions)	.DEFINE 置換前の情報を出力します。
		いいえ	.DEFINE 置換前の情報を出力しません。

アセンブラ・マクロ記述展開行を出力する	アセンブル・リスト・ファイルの内容の設定を行います。 アセンブラ・マクロ記述展開行を出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -show に相当します。 なお，本プロパティは，［アセンブル・リスト・ファイルを出力する］プロパティで［はい (-listfile)］を選択した場合のみ表示します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-show=expansions)	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力します。
		いいえ	アセンブラ・マクロ記述展開行を出力しません。

(4) ［最適化］

最適化に関する詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

モジュール間最適化用付加情報を出力する	モジュール間最適化用付加情報を出力するかどうかを選択します。 本オプションを指定したファイルは，リンク時にモジュール間最適化の対象になります。 アセンブラのオプション -goptimize に相当します。		
	デフォルト	いいえ	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-goptimize)	モジュール間最適化用付加情報を出力します。
		いいえ	モジュール間最適化用付加情報を出力しません。

(5) ［その他］

アセンブルに関するその他の詳細情報の表示，および設定の変更を行います。

特権命令をチェックする	特権命令をチェックするかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -chkpm に相当します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-chkpm)	特権命令をチェックします。
		いいえ	特権命令をチェックしません。
単精度浮動小数点処理命令をチェックする	単精度浮動小数点処理命令をチェックするかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -chkfpu に相当します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-chkfpu)	単精度浮動小数点処理命令をチェックします。
		いいえ	単精度浮動小数点処理命令をチェックしません。

倍精度浮動小数点処理命令をチェックする	倍精度浮動小数点処理命令をチェックするかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -chkdpfpu に相当します。 なお，本プロパティは，CC-RX V3.01.00 以上をインストールした環境において，［共通オプション］タブの［バージョン選択］カテゴリの［使用するコンパイラ・パッケージのバージョン］プロパティで［常にインストール済みの最新版］または V3.01.00 以上を選択した場合に表示します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-chkdpfpu)	倍精度浮動小数点処理命令をチェックします。
		いいえ	倍精度浮動小数点処理命令をチェックしません。
DSP 機能命令をチェックする	DSP 機能命令をチェックするかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -chkdsp に相当します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-chkdsp)	DSP 機能命令をチェックします。
		いいえ	DSP 機能命令をチェックしません。
コピーライトを出力する	コピーライトを出力するかどうかを選択します。 アセンブラのオプション -logo，-nologo に相当します。		
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	はい (-logo)	コピーライトを出力します。
		いいえ (-nologo)	コピーライトの出力を抑止します。

<table>
<tr><td>アセンブル前に実行するコマンド</td><td>アセンブル処理前に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%AssembledFile% ：アセンブル時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%InputFile% ：アセンブル対象ファイルの絶対パスに置換します（ただし，一括ビルドの場合は置換しません）。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，アセンブル処理前に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。
<table><tr><td>デフォルト</td><td>アセンブル・オプションの設定値</td></tr><tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr><tr><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr></table></td></tr>
</table>

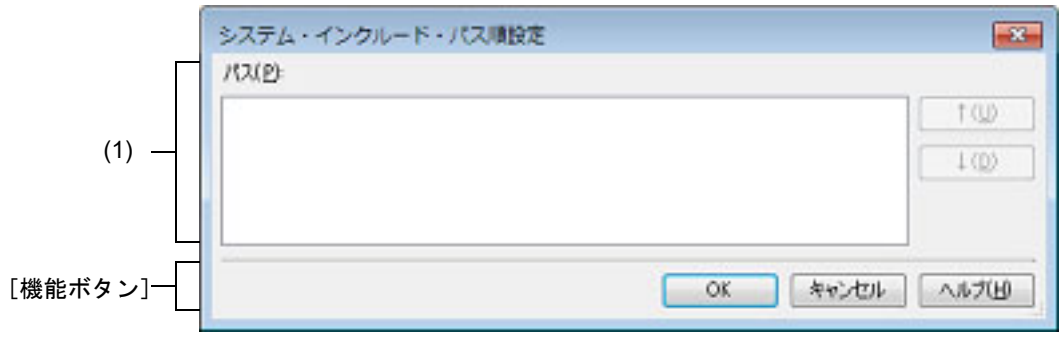
<table>
<tr><td>アセンブル後に実行するコマンド</td><td>アセンブル処理後に実行するコマンドを指定します。
バッチファイルを指定する場合は，call 命令を使用してください（例：call a.bat）。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%AssembledFile% ：アセンブル時の出力ファイルの絶対パスに置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%InputFile% ：アセンブル対象ファイルの絶対パスに置換します（ただし，一括ビルドの場合は置換しません）。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputDir% ：出力フォルダの絶対パスに置換します。
%OutputFile% ：出力ファイルの絶対パスに置換します。
%Program% ：実行中のプログラム・ファイル名の絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
先頭行に “#!python” と記述すると，2 行目から最終行までの内容を Python コンソールのスクリプトと判断し，アセンブル処理後に Python コンソールで実行します。
なお，スクリプト中にはプレースホルダの記述も可能です。
指定したコマンドはサブプロパティとして表示します。
<table><tr><td>デフォルト</td><td>アセンブル・オプションの設定値</td></tr><tr><td>変更方法</td><td>[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集
サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能</td></tr><tr><td>指定可能値</td><td>1023 文字までの文字列
64 個まで指定可能です。</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>その他の追加オプション</td><td>その他に追加するアセンブラのオプションを入力します。
なお，ここで設定したオプションは，アセンブラのオプション群の最後に付加されます。
次のプレースホルダに対応しています。
%ActiveProjectDir% ：アクティブ・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ActiveProjectName% ：アクティブ・プロジェクト名に置換します。
%BuildModeName% ：ビルド・モード名に置換します。
%MainProjectDir% ：メイン・プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%MainProjectName% ：メイン・プロジェクト名に置換します。
%MicomToolPath% ：本製品のインストール・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectDir% ：プロジェクト・フォルダの絶対パスに置換します。
%ProjectName% ：プロジェクト名に置換します。
%TempDir% ：テンポラリ・フォルダの絶対パスに置換します。
%WinDir% ：Windows システム・フォルダの絶対パスに置換します。
注意 ［共通オプション］タブの［ビルド方法］カテゴリの［一括ビルドを行う］プロパティで［はい］が選択されている場合，本プロパティにはオプションを 1 個のみ指定できます。
<table><tr><td>デフォルト</td><td>アセンブル・オプションの設定値</td></tr><tr><td>変更方法</td><td>テキスト・ボックスによる直接入力，または［...］ボタンをクリックし，文字列入力 ダイアログによる編集</td></tr><tr><td>指定可能値</td><td>259 文字までの文字列</td></tr></table></td></tr>
</table>

コマンド・ライン	指定されているオプションを表示します。	
	デフォルト	*アセンブル・オプションの設定値*
	変更方法	変更不可

システム・インクルード・パス順設定 ダイアログ

コンパイラに対して指定するシステム・インクルード・パスの参照，および指定順の設定を行います。

図 A.2　システム・インクルード・パス順設定 ダイアログ



ここでは，次の項目について説明します。

- ［オープン方法］
- ［各エリアの説明］
- ［機能ボタン］

［オープン方法］

- プロパティ パネルにおいて，以下のプロパティを選択したのち，［...］ボタンをクリック
  - ［共通オプション］タブの［よく使うオプション（コンパイル）］カテゴリの［システム・インクルード・パス］，［よく使うオプション（アセンブル）］カテゴリの［システム・インクルード・パス］
  - ［コンパイル・オプション］タブの［プリプロセス］カテゴリの［システム・インクルード・パス］
  - ［アセンブル・オプション］タブの［プリプロセス］カテゴリの［システム・インクルード・パス］

［各エリアの説明］

(1)　パス一覧表示エリア
コンパイラに対して指定するシステム・インクルード・パスの一覧を表示します。

(a)　［パス］
システム・インクルード・パス名の一覧を，コンパイラへの指定順に表示します。
デフォルトでは，プロジェクトに登録している順番となります。
パスの表示順を変更することにより，コンパイラへの指定順を設定することができます。
表示順の変更は，［↑］，および［↓］ボタン，またはパス名のドラッグ・アンド・ドロップにより行います。

備考 1.　パス名にマウス・カーソルをあわせると，そのパスを絶対パスでポップアップ表示します。

備考 2.　新規に追加したシステム・インクルード・パスは，一覧の最後のパスの次に追加します。

備考 3.　パス名をドラッグ・アンド・ドロップする際，連続して並んでいるパス名のみ複数選択することができます。

(b)　ボタン

↑	選択しているパスを上へ移動します。
↓	選択しているパスを下へ移動します。

備考　上記のボタンは，パスを選択していない場合は無効となります。

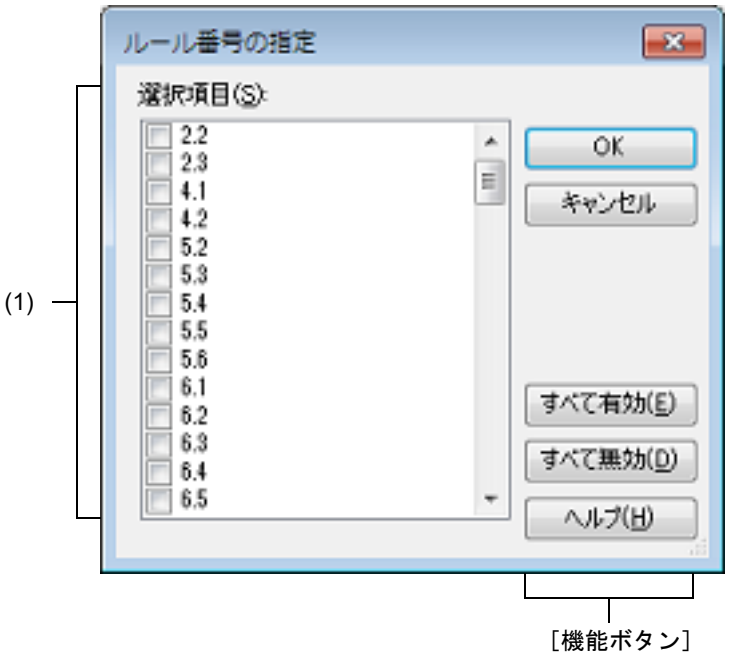
［機能ボタン］

ボタン	機能
OK	コンパイラへのパスの指定順をパス一覧表示エリアの表示順に設定し，本ダイアログをクローズします。
キャンセル	パスの指定順の設定をキャンセルし，本ダイアログをクローズします。
ヘルプ	本ダイアログのヘルプを表示します。

ルール番号の指定 ダイアログ

本ダイアログの呼び出し元に設定する MISRA-C ルール番号の選択を行います。

図 A.3 ルール番号の指定 ダイアログ



ここでは，次の項目について説明します。

- [オープン方法]
- [各エリアの説明]
- [機能ボタン]

[オープン方法]

- プロパティ パネルにおいて，以下のプロパティを選択したのち，[...] ボタンをクリック
  - [コンパイル・オプション] タブの［MISRA-C ルール検査］カテゴリの［ルール番号］，［除外するルール番号］，［必須ルールの他にチェックするルール番号］，［必須ルールから除外するルール番号］
  - [個別コンパイル・オプション (C)] タブの［MISRA-C ルール検査］カテゴリの［ルール番号］，［除外するルール番号］，［必須ルールの他にチェックするルール番号］，［必須ルールから除外するルール番号］

[各エリアの説明]

(1) ［選択項目］

本ダイアログの呼び出し元に指定可能な MISRA-C ルール番号の一覧を表示します（昇順）。
設定するルール番号をチェック・ボックスにより選択します。

備考 本ダイアログの呼び出し元において，すでにルール番号を設定していた場合は，該当するルール番号のチェック・ボックスはデフォルトでチェック状態となります。

［機能ボタン］

ボタン	機能
OK	本ダイアログをクローズし，選択したルール番号を呼び出し元に設定します。
キャンセル	ルール番号の選択をキャンセルし，本ダイアログをクローズします。
すべて有効	［選択項目］において，すべてのルール番号を選択します。
すべて無効	［選択項目］において，すべてのルール番号の選択を解除します。
ヘルプ	本ダイアログのヘルプを表示します。

セクション設定 ダイアログ

セクションの追加，変更，削除を行います。

図 A.4　セクション設定 ダイアログ

ここでは，次の項目について説明します。

- ［オープン方法］
- ［各エリアの説明］
- ［機能ボタン］

［オープン方法］

- プロパティ パネルにおいて，以下のプロパティを選択したのち，［...］ボタンをクリック
  - ［共通オプション］タブの［よく使うオプション（リンク）］カテゴリの［セクションの開始アドレス］
  - ［リンク・オプション］タブの［セクション］カテゴリの［セクションの開始アドレス］

［各エリアの説明］

(1)　アドレス - セクション・エリア
現在設定しているセクション配置の一覧を表示します。

(a)　［アドレス］
セクションの開始アドレスを表示します。

(b)　［セクション］
セクション名を表示します。

(c)　［オーバーレイ *n*］
オーバーレイ配置されたセクション名を表示します（*n* : 1 で始まる数字）。

(d) ボタン

追加 ...	- 本エリアでアドレスを選択している場合 セクションのアドレス ダイアログをオープンします。 ダイアログ上で指定したアドレスを本エリアのアドレス昇順となる位置に挿入します（セクションは空欄）。 - 本エリアでセクションを選択している場合 セクション追加 ダイアログをオープンします。 ダイアログ上で指定したセクションを本エリアに追加します。 指定したセクションが属するセクション・グループ（アドレスと属するセクション）の該当列に空欄がない場合は，そのセクション・グループの最下部に新しいセクション行を追加します。 空欄がある場合は，そこにセクションを設定します。
変更 ...	- 本エリアでアドレスを選択している場合 セクションのアドレス ダイアログをオープンします。 ダイアログ上で指定したアドレスに応じて，セクション・グループを本エリアのアドレス昇順となる位置に移動します。 - 本エリアでセクションを選択している場合 セクション編集 ダイアログをオープンします。 本エリアで選択しているセクション名をダイアログ上で指定したセクション名に置き換えます。 なお，本ボタンは選択しているセルが空欄の場合は無効となります。
複数割り付け ...	オーバーレイ配置セクションの追加 ダイアログをオープンします。 本エリアに［オーバーレイ *n*］列を追加し，ダイアログ上で指定したセクションを選択しているセクション・グループの該当列に設定します。
削除	- 本エリアでアドレスを選択している場合 削除するセクション ダイアログをオープンします。 ダイアログ上で選択したセクションを本エリアから削除します。 セクション・グループに属するセクションがなくなる場合は，そのセクション・グループを削除します。 - 本エリアでセクションを選択している場合 選択しているセクションを本エリアから削除します。 セクション・グループに属するセクションがなくなる場合は，そのセクション・グループを削除します。 ［オーバーレイ *n*］列に属するセクション名がなくなる場合は，その列を削除します。 なお，本ボタンは選択しているセルが空欄の場合は無効となります。
↑	選択しているセクションを上へ移動します。 ただし，選択しているセクションの上が空欄の場合は移動できません。あらかじめ上の欄にセクション名を入力しておいてください。 なお，本ボタンはアドレスを選択している場合，および空欄のセクション欄を選択している場合は無効となります。
↓	選択しているセクションを下へ移動します。 ただし，選択しているセクションの下が空欄の場合は移動できません。あらかじめ下の欄にセクション名を入力しておいてください。 なお，本ボタンはアドレスを選択している場合，および空欄のセクション欄を選択している場合は無効となります。
インポート ...	インポートするファイルを選択 ダイアログをオープンします。 ダイアログ上で指定したファイルからセクション設定を取得し，本エリアに反映します。
エクスポート ...	エクスポートするファイルを選択 ダイアログをオープンします。 本エリアの内容をダイアログ上で指定したファイルに出力します。

［機能ボタン］

ボタン	機能
OK	設定したセクションを本ダイアログをオープンしたテキスト・ボックスに反映し，本ダイアログをクローズします。
キャンセル	設定を無効とし，本ダイアログをクローズします。
ヘルプ	本ダイアログのヘルプを表示します。

セクション追加 ダイアログ
セクション編集 ダイアログ
オーバーレイ配置セクションの追加 ダイアログ

セクションの追加，編集，複数割り付けを行う際のセクション名の設定を行います。

図 A.5 セクション追加 ダイアログ

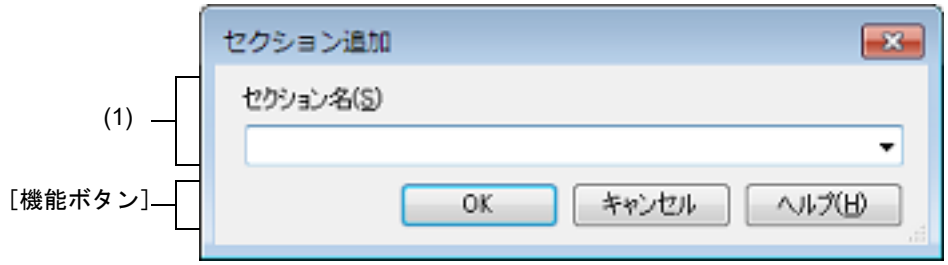


図 A.6 セクション編集 ダイアログ

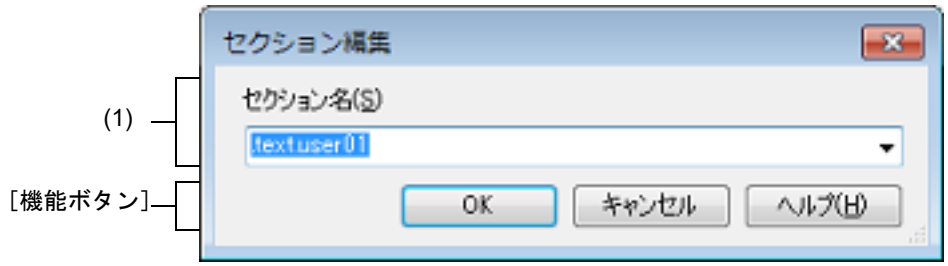
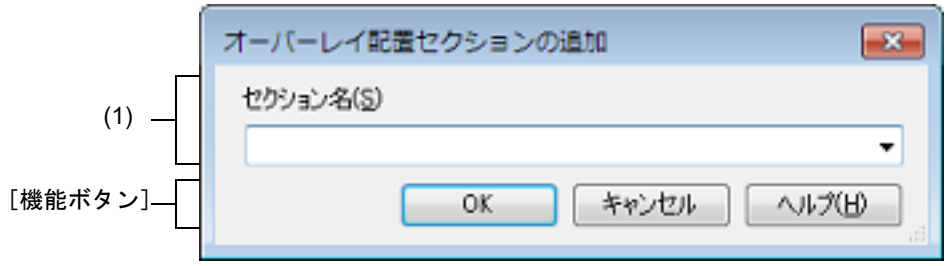


図 A.7 オーバーレイ配置セクションの追加 ダイアログ



ここでは，次の項目について説明します。

- ［オープン方法］
- ［各エリアの説明］
- ［機能ボタン］

［オープン方法］

- セクション追加 ダイアログ
  - セクション設定 ダイアログにおいて，アドレス - セクション・エリア内のセクションを選択したのち，［追加 ...］ボタンをクリック
- セクション編集 ダイアログ
  - セクション設定 ダイアログにおいて，アドレス - セクション・エリア内のセクションを選択したのち，［変更 ...］ボタンをクリック
- オーバーレイ配置セクションの追加 ダイアログ
  - セクション設定 ダイアログにおいて，［複数割り付け ...］ボタンをクリック

[各エリアの説明]

(1) [セクション名]

セクション名を指定します。
セクション名をテキスト・ボックスに直接入力，またはドロップダウン・リストにより選択します。
使用可能な文字は，英大文字（A ～ Z），英小文字（a ～ z），数字（0 ～ 9），アットマーク（@），アンダスコア（_），アスタリスク（*），ドット（.）です。
また，ワイルドカード（*）も使用可能です。
なお，セクション名の先頭文字に数字（0 ～ 9），ドット（.）を使用することはできません。
ドロップダウン・リストには，以下の予約セクションが設定されています。

.bss，.const，.data，.text

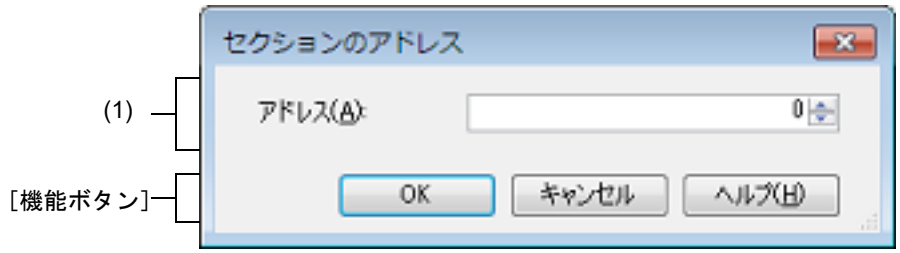
[機能ボタン]

ボタン	機能
OK	- セクション追加 ダイアログの場合 本ダイアログをクローズし，指定したセクションをセクション設定 ダイアログのアドレス - セクション・エリアに追加します。 指定したセクションが属するセクション・グループ（アドレスと属するセクション）の該当列に空欄がない場合は，そのセクション・グループの最下部に新しいセクション行を追加します。空欄がある場合は，そこにセクションを設定します。 - セクション編集 ダイアログの場合 本ダイアログをクローズし，セクション設定 ダイアログのアドレス - セクション・エリアで選択しているセクション名を指定したセクション名に置き換えます。 - オーバーレイ配置セクションの追加 ダイアログの場合 本ダイアログをクローズし，セクション設定 ダイアログのアドレス - セクション・エリアに［オーバーレイ *n*］列（*n* : 1 で始まる数字）を追加します。 指定したセクションを選択しているセクション・グループの該当列に設定します。
キャンセル	設定を無効とし，本ダイアログをクローズします。
ヘルプ	本ダイアログのヘルプを表示します。

セクションのアドレス ダイアログ

セクションの追加，または変更時のアドレスの設定を行います。

図 A.8 セクションのアドレス ダイアログ



ここでは，次の項目について説明します。

- ［オープン方法］
- ［各エリアの説明］
- ［機能ボタン］

［オープン方法］

- セクション設定 ダイアログにおいて，アドレス - セクション・エリア内のアドレスを選択したのち，［追加 ...］，または［変更 ...］ボタンをクリック

［各エリアの説明］

(1) ［アドレス］
セクションの開始アドレスを指定します。
アドレスをテキスト・ボックスに直接入力，または ボタンにより選択します。
指定可能な値の範囲は，0 ～ FFFFFFFF（16 進数）です（デフォルト：0）。

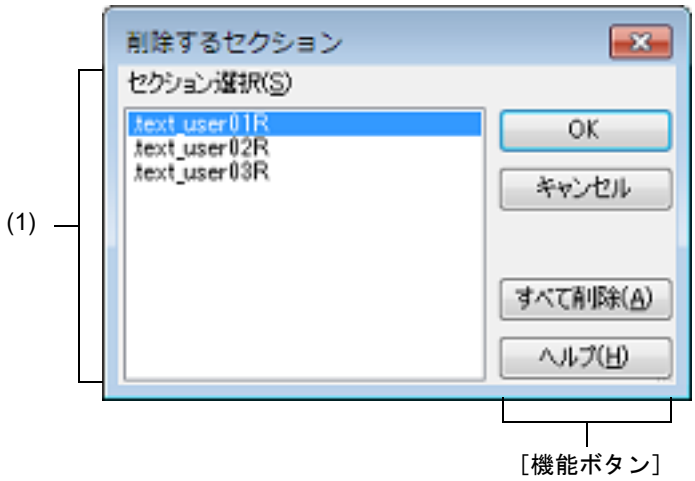
［機能ボタン］

ボタン	機能
OK	- セクション設定 ダイアログの［追加 ...］ボタンからオープンした場合 本ダイアログをクローズし，指定したアドレスをセクション設定 ダイアログのアドレス - セクション・エリアの適切な位置に挿入します（セクションは空欄）。 - セクション設定 ダイアログの［変更 ...］ボタンからオープンした場合 本ダイアログをクローズし，指定したアドレスに応じて，セクション・グループ（アドレスと属するセクション）をセクション設定 ダイアログのアドレス - セクション・エリアの適切な位置に移動します。
キャンセル	設定を無効とし，本ダイアログをクローズします。
ヘルプ	本ダイアログのヘルプを表示します。

削除するセクション ダイアログ

セクションの削除を行います。

図 A.9 削除するセクション ダイアログ



ここでは，次の項目について説明します。

- [オープン方法]
- [各エリアの説明]
- [機能ボタン]

[オープン方法]

- セクション設定 ダイアログにおいて，アドレス - セクション・エリア内のアドレスを選択したのち，[削除 ...] ボタンをクリック

[各エリアの説明]

(1) [セクション選択]
セクション設定 ダイアログで選択しているアドレスに属するすべてのセクション名を表示します。
セクション名をクリックすることにより，削除するセクションを選択します。
[Ctrl] キー＋左クリック，または [Shift] キー＋左クリックにより，複数選択することができます。

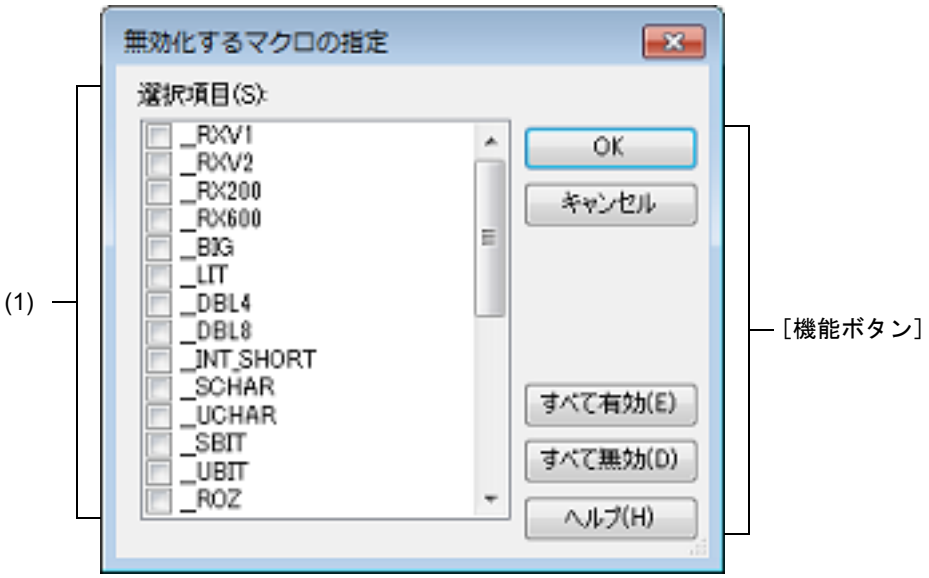
[機能ボタン]

ボタン	機能
OK	本ダイアログをクローズし，選択したセクションをセクション設定 ダイアログのアドレス - セクション・エリアから削除します。 セクション・グループ（アドレスと属するセクション）に属するセクションがなくなる場合は，そのセクション・グループを削除します。 アドレス - セクション・エリアの [オーバーレイ *n*] 列に属するセクション名がなくなる場合は，その列を削除します。
キャンセル	設定を無効とし，本ダイアログをクローズします。
すべて削除	本ダイアログをクローズし，すべてのセクション（セクション設定 ダイアログのアドレス - セクション・エリアで選択しているセクション・グループ）を削除します。
ヘルプ	本ダイアログのヘルプを表示します。

無効化するマクロの指定 ダイアログ

本ダイアログの呼び出し元に設定する無効化するプリデファインド・マクロを選択します。

図 A.10 無効化するマクロの指定 ダイアログ



ここでは，次の項目について説明します。

- [オープン方法]
- [各エリアの説明]
- [機能ボタン]

[オープン方法]

- プロパティ パネルの以下のプロパティにおいて，以下のプロパティを選択したのち，[...] ボタンをクリック
  - [コンパイル・オプション] タブの［ソース］カテゴリの［無効化するプリデファインド・マクロ］
  - [個別コンパイル・オプション (C)] タブの［ソース］カテゴリの［無効化するプリデファインド・マクロ］
  - [個別コンパイル・オプション (C++)] タブの［ソース］カテゴリの［無効化するプリデファインド・マクロ］

[各エリアの説明]

(1) ［選択項目］エリア
無効化が可能なプリデファインド・マクロの一覧を表示します。
本ダイアログの呼び出し元に設定する無効化するプリデファインド・マクロをチェック・ボックスにより選択します。

備考 このダイアログの呼び出し元で，すでに無効化するプリデファインド・マクロを設定していた場合は，該当するプリデファインド・マクロのチェック・ボックスはデフォルトでチェック状態となります。

[機能ボタン]

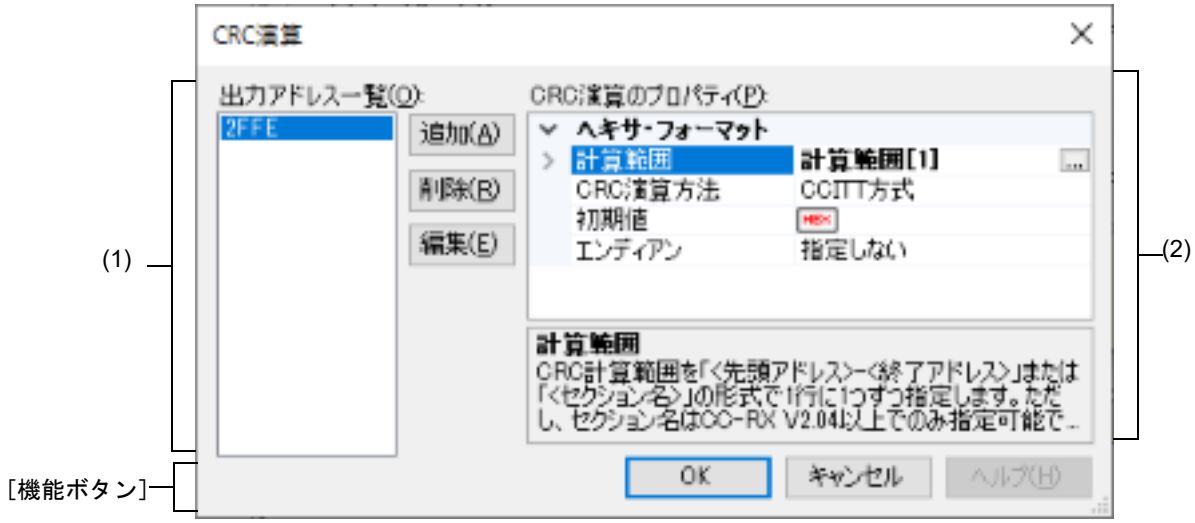
ボタン	機能
OK	本ダイアログをクローズし，選択した無効化するプリデファインド・マクロを呼び出し元に設定します。

ボタン	機能
キャンセル	無効化するプリデファインド・マクロの選択をキャンセルし，本ダイアログをクローズします。
すべて有効	すべてのチェック・ボックスを選択状態にします。
すべて無効	すべてのチェック・ボックスを非選択状態にします。
ヘルプ	本ダイアログのヘルプを表示します。

CRC 演算 ダイアログ

CRC 演算の設定を行います。

図 A.11 CRC 演算 ダイアログ



ここでは，次の項目について説明します。

- ［オープン方法］
- ［各エリアの説明］
- ［機能ボタン］

［オープン方法］

- プロパティ パネルにおいて，以下のプロパティを選択したのち，［...］ボタンをクリック
  - ［ヘキサ出力オプション］タブの［CRC 演算］カテゴリの［CRC 演算］

［各エリアの説明］

(1) ［出力アドレス一覧］エリア

(a) 出力アドレス一覧
出力アドレスの一覧を表示します。
複数の CRC 演算を表示 / 設定する際のキーが出力アドレスです。

(b) ボタン

追加	文字列入力ダイアログをオープンします。 ダイアログ上で指定したアドレスを一覧の末尾に追加します。 0 ～ FFFFFFFE の 16 進数で入力します。
削除	選択している出力アドレスを一覧から削除します。
編集	選択している出力アドレスを変更するための文字列入力ダイアログを表示します。 0 ～ FFFFFFFE の 16 進数で入力します。

(2) ［CRC 演算のプロパティ］
［出力アドレス一覧］エリアで選択している出力アドレスに対して，CRC 演算のプロパティの表示・設定を行います。

(a) CRC 演算
CRC 演算に関する情報の表示，および設定の変更を行います。

計算範囲	CRC 計算範囲を指定します。 「*先頭アドレス - 終了アドレス*」，または「*セクション名*」の形式で 1 行に 1 つずつ指定します。 アドレスは 16 進数で指定します（例：400-ffff）。 アドレスとして指定可能な値の範囲は，0 ～ FFFFFFFF です。 リンカのオプション -crc に相当します。		
	デフォルト	計算範囲 [*定義数*]	
	変更方法	[...] ボタンをクリックし，テキスト編集 ダイアログによる編集 サブプロパティはテキスト・ボックスによる直接入力も可能	
	指定可能値	32767 文字までの文字列 65536 個まで指定可能です。	
CRC 演算方法	CRC 演算方法を選択します。 それぞれの動作については，デバイスのユーザーズ・マニュアル，および「CC-RX コンパイラ ユーザーズマニュアル」を参照してください。 リンカのオプション -CRc に相当します。		
	デフォルト	CCITT 方式	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	CCITT 方式	CRC-16-CCITT-MSB First，初期値 0xffff，XOR 反転による演算結果を出力します。
		16	CRC-16-LSB First による演算結果を出力します。
		CRC-CCITT(MSB) 方式	CRC-16-CCITT-MSB First による演算結果を出力します。
		CRC-CCITT(MSB, LITTLE,4 バイト) 方式	入力を LITTLE エンディアン 4 バイト単位とし CRC-16-CCITT-MSB First による演算結果を出力します。
		CRC-CCITT(MSB, LITTLE,2 バイト) 方式	入力を LITTLE エンディアン 2 バイト単位とし CRC-16-CCITT-MSB First による演算結果を出力します。
		CRC-CCITT(LSB) 方式	CRC-16-CCITT-LSB First による演算結果を出力します。
		SENT(MSB) 方式	SENT 準拠による演算結果を出力します。
		32-ETHERNET 方式	CRC-32-ETHERNET による演算結果を出力します。
初期値	CRC 演算の初期値を「*初期値*」の形式で指定します。 リンカのオプション -CRc に相当します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	- ［CRC 演算方法］プロパティで［32-ETHERNET 方式］以外を選択した場合 0 ～ FFFF（16 進数） - ［CRC 演算方法］プロパティで［32-ETHERNET 方式］を選択した場合 0 ～ FFFFFFFF（16 進数）	

エンディアン	CRC 出力時のエンディアンを選択します。 リンカのオプション -CRc に相当します。		
	デフォルト	指定しない	
	変更方法	ドロップダウン・リストによる選択	
	指定可能値	指定しない	エンディアンを指定しません。 入力オブジェクトのエンディアンに従います。
		リトル・エンディアン	リトル・エンディアンにて出力します。
		ビッグ・エンディアン	ビッグ・エンディアンにて出力します。
出力サイズ	CRC コードの出力サイズを指定します。 リンカのオプション -CRc に相当します。		
	デフォルト	空欄	
	変更方法	テキスト・ボックスによる直接入力	
	指定可能値	2，4，または空欄	

［機能ボタン］

ボタン	機能
OK	本ダイアログをクローズし，設定内容を呼び出し元に反映します。
キャンセル	設定をキャンセルし，本ダイアログをクローズします。
ヘルプ	本ダイアログのヘルプを表示します。

改訂記録

Rev.	発行日	改定内容	
		ページ	ポイント
1.00	2015.08.01	-	初版発行
1.01	2016.03.01	41	「図 2.66 プロパティパネル：［ライブラリ・ジェネレート・オプション］タブ」を差し替え
		84	「(1) ［ソース］」の［入力プログラムの文字コード］プロパティの説明を修正
		88	「(2) ［オブジェクト］」の［出力アセンブリ言語ファイルの文字コード］プロパティの説明を修正
		89	「(3) ［品質向上関連］」において，以下のように修正 -Xstack_protector → -stack_protector -Xstack_protector_all → -stack_protector_all
		115	「(2) ［出力］」の［インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする］プロパティの説明を修正 また，指定可能値から以下の項目を削除 はい (参照されない定義シンボルの通知) (-Message -MSg_unused)
		116	「(2) ［出力］」の［インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする］プロパティの下に以下のプロパティを追加 参照されない定義シンボルの通知
		152	「(2) ［出力］」の［出力ファイル形式］プロパティの指定可能値［ユーザ・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=U)］，および［システム・ライブラリ・ファイル (-FOrm=Library=S)］の説明を修正
		153	「(2) ［出力］」の［インフォメーションレベル・メッセージ出力を有効にする］プロパティの説明を修正 また，指定可能値から以下の項目を削除 はい (参照されない定義シンボルの通知) (-Message -MSg_unused)
		161	「図 A.8 プロパティパネル：［ライブラリ・ジェネレート・オプション］タブ」を差し替え
		168	「(3) ［オブジェクト］」の［リエントラント・ライブラリを生成する］プロパティの下に以下のプロパティを追加 メモリの解放時にメモリ破壊を検出する
		189	「(1) ［ソース］」の［入力プログラムの文字コード］プロパティの説明を修正
		194	「(2) ［オブジェクト］」の［出力アセンブリ言語ファイルの文字コード］プロパティの説明を修正
		195	「(3) ［品質向上関連］」において，以下のように修正 -Xstack_protector → -stack_protector -Xstack_protector_all → -stack_protector_all
		215	「(1) ［ソース］」の［入力プログラムの文字コード］プロパティの説明を修正
		220	「(2) ［オブジェクト］」の［出力アセンブリ言語ファイルの文字コード］プロパティの説明を修正
		220, 221	「(3) ［品質向上関連］」において，以下のように修正 -Xstack_protector → -stack_protector -Xstack_protector_all → -stack_protector_all
1.02	2016.12.01	98	「(7) ［MISRA C ルール検査］」の［適用するルール］プロパティの説明を修正

Rev.	発行日	改定内容	
		ページ	ポイント
		99-100	「(7) ［MISRA-C ルール検査］」の以下のプロパティの説明を修正 ルール番号記載ファイル ルール番号 除外するルール番号 必須ルールの他にチェックするルール番号 必須ルールから除外するルール番号
		145	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」の［CRC 演算方法］プロパティの説明を修正
		145	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」の［CRC 演算方法］プロパティの指摘可能値の順番を変更
		205	「(7) ［MISRA C ルール検査］」の［適用するルール］プロパティの説明を修正
		205-206	「(7) ［MISRA-C ルール検査］」の以下のプロパティの説明を修正 ルール番号記載ファイル ルール番号 除外するルール番号 必須ルールの他にチェックするルール番号 必須ルールから除外するルール番号
1.03	2017.06.01	11	「図 2.4 ［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティ］プロパティ」を差し替え
		15	「図 2.16 ［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティ」を差し替え
		17	「図 2.19 プロパティ パネル : ［コンパイル・オプション］タブ」を差し替え
		24	「図 2.35 プロパティ パネル : ［リンク・オプション］タブ」を差し替え
		35	「図 2.56 プロパティ パネル : ［ヘキサ出力オプション］タブ」を差し替え
		36	「図 2.58 ［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティ」を差し替え
		38	以下の図を差し替え 図 2.62 ［出力範囲のメモリの空き領域をデータで充てんする］プロパティ 図 2.63 ［出力範囲のメモリの空き領域をデータで充てんする］, および［空き領域出力データ］プロパティ
		78	「図 A.3 プロパティ パネル : ［コンパイル・オプション］タブ」を差し替え
		88	「(2) ［オブジェクト］」に以下のプロパティを追加 ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整する
		100-101	「(7) ［MISRA-C ルール検査］」の以下のプロパティの説明を修正 ルール番号記載ファイル ルール番号 除外するルール番号 必須ルールの他にチェックするルール番号 必須ルールから除外するルール番号
		113	「図 A.5 プロパティ パネル : ［リンク・オプション］タブ」を差し替え
		128	「(4) ［リスト］」に以下のプロパティを追加 セクションに対応する再配置属性を出力する
		139	「図 A.6 プロパティ パネル : ［ヘキサ出力オプション］タブ」を差し替え
		147	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」に以下のプロパティを追加 エンド・レコードの指定
		196	「(2) ［オブジェクト］」に以下のプロパティを追加 ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整する

Rev.	発行日	改定内容	
		ページ	ポイント
		207-209	「(7) ［MISRA-C ルール検査］」の以下のプロパティの説明を修正 ルール番号記載ファイル ルール番号 除外するルール番号 必須ルールの他にチェックするルール番号 必須ルールから除外するルール番号
		222	「(2) ［オブジェクト］」に以下のプロパティを追加 ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整する
1.04	2017.11.01	15	「図 2.16 ［リンケージ・リスト・ファイルを出力する］プロパティ」を差し替え
		16	「(1) ロード・モジュール・ファイルの場合」に以下の項目を追加 (f) セクションに対応する再配置属性の出力設定 (g) 不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストの出力設定
		18	「図 2.19 プロパティパネル：［コンパイル・オプション］タブ」を差し替え
		25	「図 2.35 プロパティ パネル：［リンク・オプション］タブ」を差し替え
		36	「図 2.56 プロパティ パネル：［ヘキサ出力オプション］タブ」を差し替え
		37	「2.7.2 空き領域を充てんする」の冒頭文章を修正
		46, 47	以下の図を差し替え 図 2.71 プロパティ パネル：［個別コンパイル・オプション (C)］タブ 図 2.74 プロパティ パネル：［個別コンパイル・オプション (C++)］タブ
		79	「図 A.3 プロパティパネル：［コンパイル・オプション］タブ」を差し替え また，備考を修正
		82	「(1) ［ソース］」に以下のプロパティを追加 表示させない警告メッセージ
		90	「(2) ［オブジェクト］」に以下のプロパティを追加 消費電流測定用の NOP 命令挿入を使用する 消費電流測定用 NOP 命令挿入のパラメータ
		92	「(3) ［品質向上関連］」に以下のプロパティを追加 不正な間接関数呼び出しを検出する
		115	「図 A.5 プロパティ パネル：［リンク・オプション］タブ」を差し替え また，備考を修正
		121-122	「(2) ［出力］」に以下のプロパティを追加 不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを生成する 関数リストに追加する関数シンボルまたはアドレス 関数リストから除外するモジュール
		131	「(4) ［リスト］」に以下のプロパティを追加 不正な間接関数呼び出し検出で用いる関数リストを出力する

Rev.	発行日	改定内容	
		ページ	ポイント
		137- 138	「(8) ［その他］」の以下のプロパティの名称，および説明を修正 　ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更する 　→ウォーニング、エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更する 　ウォーニングレベルのエラー番号 　→ウォーニング、エラーレベルのエラー番号 　インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更する 　→インフォメーション、エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更する 　インフォメーションレベルのエラー番号 　→インフォメーション、エラーレベルのエラー番号
		143	「図 A.6 プロパティ パネル：［ヘキサ出力オプション］タブ」を差し替え また，備考を修正
		145	「(1) ［出力ファイル］」の［分割出力ファイル］プロパティの説明に注意を追加
		147	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」に以下のプロパティを追加 　アラインした出力開始アドレスから固定レコード長で出力する 　出力開始アドレスのアライメント
		148	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」の［データ・レコードのバイト数を指定する］プロパティの表示条件を修正
		148	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」の以下のプロパティのデフォルトを修正 　データ・レコードのバイト数最大値
		154- 155	「(3) ［その他］」の以下のプロパティの名称，および説明を修正 　ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更する 　→ウォーニング、エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更する 　ウォーニングレベルのエラー番号 　→ウォーニング、エラーレベルのエラー番号 　インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更する 　→インフォメーション、エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更する 　インフォメーションレベルのエラー番号 　→インフォメーション、エラーレベルのエラー番号
		164- 165	「(4) ［その他］」の以下のプロパティの名称，および説明を修正 　ウォーニング・メッセージをインフォメーションレベルに変更する 　→ウォーニング、エラー・メッセージをインフォメーションレベルに変更する 　ウォーニングレベルのエラー番号 　→ウォーニング、エラーレベルのエラー番号 　インフォメーション・メッセージをウォーニングレベルに変更する 　→インフォメーション、エラー・メッセージをウォーニングレベルに変更する 　インフォメーションレベルのエラー番号 　→インフォメーション、エラーレベルのエラー番号
		191	「図 A.14 プロパティパネル：［個別コンパイル・オプション (C)］タブ」を差し替え また，備考を追加
		194	「(1) ［ソース］」に以下のプロパティを追加 　表示させない警告メッセージ

Rev.	発行日	改定内容	
		ページ	ポイント
		204	「(3) ［品質向上関連］」に以下のプロパティを追加 　不正な間接関数呼び出しを検出する
		218	「図 A.15 プロパティパネル：［個別コンパイル・オプション (C++)］タブ」を差し替え また，備考を追加
		221	「(1) ［ソース］」に以下のプロパティを追加 　表示させない警告メッセージ
		231	「(3) ［品質向上関連］」に以下のプロパティを追加 　不正な間接関数呼び出しを検出する
1.05	2018.06.01	11	「図 2.4 ［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティ」を差し替え
		13	以下の図を差し替え 　図 2.8 ［出力ファイル名］プロパティ（ヘキサ・ファイルの場合） 　図 2.9 ［出力ファイル名］プロパティ（S レコード・ファイルの場合）
		18	「図 2.19 プロパティパネル：［コンパイル・オプション］タブ」を差し替え
		25	「図 2.35 プロパティ パネル：［リンク・オプション］タブ」を差し替え
		36, 37	以下の図を差し替え 　図 2.56 プロパティ パネル：［ヘキサ出力オプション］タブ 　図 2.57 ［ヘキサ・ファイルを出力する］プロパティ 　図 2.58 ［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティ
		46, 47	以下の図を差し替え 　図 2.71 プロパティ パネル：［個別コンパイル・オプション (C)］タブ 　図 2.74 プロパティ パネル：［個別コンパイル・オプション (C++)］タブ
		55	「(2) ［CPU］」の［命令セット・アーキテクチャ］プロパティの指定可能値に以下を追加 　RXv3 アーキテクチャ (-isa=rxv3)
		79	「図 A.3 プロパティパネル：［コンパイル・オプション］タブ」を差し替え また，備考を修正
		82	「(1) ［ソース］」の以下のプロパティの名称，および説明を修正 　表示させない警告メッセージ 　→表示させないメッセージ
		105-106	「(8) ［その他］」の以下のプロパティの説明において，プレースホルダ %InputFile% の説明を修正 　コンパイル前に実行するコマンド 　コンパイル後に実行するコマンド
		106	「(8) ［その他］」の［その他の追加オプション］プロパティの説明にプレースホルダを追加
		114-115	「(5) ［その他］」の以下のプロパティの説明において，プレースホルダ %InputFile% の説明を修正 　アセンブル前に実行するコマンド 　アセンブル後に実行するコマンド
		115	「(5) ［その他］」の［その他の追加オプション］プロパティの説明にプレースホルダを追加
		117	「図 A.5 プロパティ パネル：［リンク・オプション］タブ」を差し替え また，備考を修正
		124	「(2) ［出力］」の［関数リストから除外するモジュール］プロパティの説明において，指定形式の説明を修正

Rev.	発行日	改定内容	
		ページ	ポイント
		125	「(2) ［出力］」に以下のプロパティを追加 　ベクタ・テーブル・セクションの分割生成
		143	「(8) ［その他］」の［その他の追加オプション］プロパティの説明にプレースホルダを追加
		145	「図 A.6 プロパティ パネル：［ヘキサ出力オプション］タブ」を差し替え また，備考を修正
		146	「(1) ［出力ファイル］」に以下のプロパティを追加 　ロード・アドレス
		147	「(1) ［出力ファイル］」の［分割出力ファイル］プロパティの説明において，指定形式の説明を修正
		151	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」の［CRC 演算結果を出力する］プロパティの表示条件を修正
		158	「(3) ［その他］」の［その他の追加オプション］プロパティの説明にプレースホルダを追加
		170	「(4) ［その他］」の［その他の追加オプション］プロパティの説明にプレースホルダを追加
		189	「(5) ［その他］」の［その他の追加オプション］プロパティの説明にプレースホルダを追加
		194	「図 A.14 プロパティパネル：［個別コンパイル・オプション (C)］タブ」を差し替え また，備考を追加
		197	「(1) ［ソース］」の以下のプロパティの名称，および説明を修正 　表示させない警告メッセージ 　→表示させないメッセージ
		219-220	「(8) ［その他］」の以下のプロパティの説明において，プレースホルダ %InputFile% の説明を修正 　コンパイル前に実行するコマンド 　コンパイル後に実行するコマンド
		220	「(8) ［その他］」の［その他の追加オプション］プロパティの説明にプレースホルダを追加
		222	「図 A.15 プロパティパネル：［個別コンパイル・オプション (C++)］タブ」を差し替え また，備考を追加
		225	「(1) ［ソース］」の以下のプロパティの名称，および説明を修正 　表示させない警告メッセージ 　→表示させないメッセージ
		244-245	「(7) ［その他］」の以下のプロパティの説明において，プレースホルダ %InputFile% の説明を修正 　コンパイル前に実行するコマンド 　コンパイル後に実行するコマンド
		245	「(7) ［その他］」の［その他の追加オプション］プロパティの説明にプレースホルダを追加
		253-254	「(5) ［その他］」の以下のプロパティの説明において，プレースホルダ %InputFile% の説明を修正 　アセンブル前に実行するコマンド 　アセンブル後に実行するコマンド

Rev.	発行日	改定内容	
		ページ	ポイント
		254	「(5) ［その他］」の［その他の追加オプション］プロパティの説明にプレースホルダを追加
1.06	2018.11.01	7	「2.1.1 ロード・モジュールを作成する」の「(7) ビルドの実行」に注意を追加
		8	「2.1.2 ユーザ・ライブラリを作成する」の「(6) ビルドの実行」に注意を追加
		11	「図 2.4 ［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティ」を差し替え
		13	「図 2.9 ［出力ファイル名］プロパティ（S レコード・ファイルの場合）」を差し替え
		18	「図 2.19 プロパティ パネル : ［コンパイル・オプション］タブ」を削除
		21	「図 2.28 プロパティ パネル : ［アセンブル・オプション］タブ」を削除
		24	「図 2.35 プロパティ パネル : ［リンク・オプション］タブ」を削除
		34	「図 2.56 プロパティ パネル : ［ヘキサ出力オプション］タブ」を削除
		35	「図 2.54 ［ヘキサ・ファイル・フォーマット］プロパティ」を差し替え
		36, 37	以下の図を差し替え 図 2.58 ［出力範囲のメモリの空き領域をデータで充てんする］プロパティ 図 2.59 ［出力範囲のメモリの空き領域をデータで充てんする］，および［空き領域出力データ］プロパティ
		38	「図 2.64 プロパティ パネル : ［ライブラリアン・オプション］タブ」を削除
		39	「図 2.66 プロパティ パネル : ［ライブラリ・ジェネレート・オプション］タブ」を削除
		42-43	以下の図を削除 図 2.71 プロパティ パネル : ［個別コンパイル・オプション (C)］タブ 図 2.74 プロパティ パネル : ［個別コンパイル・オプション (C++)］タブ 図 2.77 プロパティ パネル : ［個別アセンブル・オプション］タブ
		49	「図 A.2 プロパティ パネル : ［共通オプション］タブ」を削除
		51	「(2) ［CPU］」の以下のプロパティの名称，および説明を修正 浮動小数点演算命令を使用する →単精度浮動小数点処理命令を使用する
		51	「(2) ［CPU］」に以下のプロパティを追加 倍精度浮動小数点処理命令を使用する
		74	「図 A.3 プロパティ パネル : ［コンパイル・オプション］タブ」を削除
		84	「(2) ［オブジェクト］」の［除算、剰余算を DIV,DIVU,FDIV 命令で生成する］プロパティの説明，および指定可能値の説明を修正
		86	「(3) ［品質向上関連］」の［スタック破壊検出を行う］プロパティのデフォルト，および指定可能値を修正 いいえ (なし) →いいえ (オプション指定なし)
		91	「(5) ［最適化］」の以下のプロパティの名称を修正 ライブラリ関数の展開方法 → RX 命令に展開可能なライブラリ関数の実行方法 それに伴い，プロパティ説明，および指定可能値の説明も修正
		95	「(6) ［出力ファイル］」の［アセンブリ・ソース・ファイルを出力する］プロパティの説明から以下を削除 コンパイラのオプション -output=src に相当します。

Rev.	発行日	改定内容	
		ページ	ポイント
		99	「(7) ［MISRA-C ルール検査］」に以下のプロパティを追加 　複数ファイルにまたがる検査を有効にする
		103	「図 A.4 プロパティ パネル : ［アセンブル・オプション］タブ」を削除
		107	「(5) ［その他］」の以下のプロパティ名を修正 　浮動小数点演算命令をチェックする 　→単精度浮動小数点処理命令をチェックする
		107	「(5) ［その他］」に以下のプロパティを追加 　倍精度浮動小数点処理命令をチェックする
		111	「図 A.5 プロパティ パネル : ［リンク・オプション］タブ」を削除
		124	「(3) ［ロード・モジュール・ファイル変換］」の［出力アドレス］プロパティの指定可能値を修正 　0 ～ FFFFFFFF（16 進数） 　→ 0 ～ FFFFFFFE（16 進数）
		138	「図 A.6 プロパティ パネル : ［ヘキサ出力オプション］タブ」を削除
		145	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」の［出力アドレス］プロパティの指定可能値を修正 　0 ～ FFFFFFFF（16 進数） 　→ 0 ～ FFFFFFFE（16 進数）
		147	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」の［エンディアン］プロパティのデフォルトを修正 　リトル・エンディアン 　→指定しない
		147	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」の［エンディアン］プロパティの指定可能値を修正 　指定なし (なし) 　→指定しない
		147	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」の［エンド・レコードの指定］プロパティのデフォルト，および指定可能値を修正 　指定しない (なし) 　→指定しない (オプション指定なし)
		152	「図 A.7 プロパティ パネル : ［ライブラリアン・オプション］タブ」を削除
		163	「図 A.8 プロパティ パネル : ［ライブラリ・ジェネレート・オプション］タブ」を削除
		176	「(4) ［最適化］」の以下のプロパティの名称を修正 　ライブラリ関数の展開方法 　→ RX 命令に展開可能なライブラリ関数の実行方法 それに伴い，プロパティ説明，および指定可能値の説明も修正
		183	以下の図を削除 　図 A.9 プロパティ パネル : ［ビルド設定］タブ（C ソース・ファイルを選択した場合） 　図 A.10 プロパティ パネル : ［ビルド設定］タブ（C++ ソース・ファイルを選択した場合） 　図 A.11 プロパティ パネル : ［ビルド設定］タブ（アセンブラ・ソース・ファイルを選択した場合） 　図 A.12 プロパティ パネル : ［ビルド設定］タブ（オブジェクト・モジュール・ファイルを選択した場合） 　図 A.13 プロパティ パネル : ［ビルド設定］タブ（ライブラリ・ファイルを選択した場合）

Rev.	発行日	改定内容	
		ページ	ポイント
		185	「図 A.14 プロパティ パネル：[個別コンパイル・オプション (C)] タブ」を削除
		195	「(2) [オブジェクト]」の［除算、剰余算を DIV,DIVU,FDIV 命令で生成する］プロパティの説明，および指定可能値の説明を修正
		196	「(3) [品質向上関連]」の［スタック破壊検出を行う］プロパティの指定可能値を修正 いいえ (なし) →いいえ (オプション指定なし)
		201	「(5) [最適化]」の以下のプロパティの名称を修正 ライブラリ関数の展開方法 → RX 命令に展開可能なライブラリ関数の実行方法 それに伴い，プロパティ説明，および指定可能値の説明も修正
		209	「(7) [MISRA-C ルール検査]」に以下のプロパティを追加 複数ファイルにまたがる検査を有効にする
		213	「図 A.15 プロパティ パネル：[個別コンパイル・オプション (C++)] タブ」を削除
		224	「(3) [品質向上関連]」の［スタック破壊検出を行う］プロパティの指定可能値を修正 いいえ (なし) →いいえ (オプション指定なし)
		229	「(5) [最適化]」の以下のプロパティの名称を修正 ライブラリ関数の展開方法 → RX 命令に展開可能なライブラリ関数の実行方法 それに伴い，プロパティ説明，および指定可能値の説明も修正
		237	「図 A.16 プロパティ パネル：[個別アセンブル・オプション] タブ」を削除
		241	「(5) [その他]」の以下のプロパティ名を修正 浮動小数点演算命令をチェックする →単精度浮動小数点処理命令をチェックする
		242	「(5) [その他]」に以下のプロパティを追加 倍精度浮動小数点処理命令をチェックする

Rev.	発行日	改定内容	
		ページ	ポイント
V1.07	2019.11.01	51	「(2) ［CPU］」の［倍精度浮動小数点処理命令を使用する］プロパティの指定可能値［はい (-dpfpu)］の説明を修正
		70	「(10) ［ビルド方法］」の以下のプロパティのデフォルトを修正 一括ビルドを行う パラレル・ビルドを行う
		82	「(2) ［オブジェクト］」に以下のプロパティを追加 最適化時のデバッグ情報強化を行う
		94	「(5) ［最適化］」の［大域最適化を行う］プロパティの指定可能値を修正
		96	「(5) ［最適化］」の［浮動小数点式の演算順序変更の最適化を行う］プロパティの表示条件を修正
		110	「(5) ［その他］」の［その他の追加オプション］プロパティの説明に注意を追加
		156	「(1) ［入力］」に以下のプロパティを追加 重複モジュール名の許可
		181	「(4) ［最適化］」の［浮動小数点式の演算順序変更の最適化を行う］プロパティの表示条件を修正
		194	「(2) ［オブジェクト］」に以下のプロパティを追加 最適化時のデバッグ情報強化を行う
		206	「(5) ［最適化］」の［浮動小数点式の演算順序変更の最適化を行う］プロパティの表示条件を修正
		222	「(2) ［オブジェクト］」に以下のプロパティを追加 最適化時のデバッグ情報強化を行う
		234	「(5) ［最適化］」の［浮動小数点式の演算順序変更の最適化を行う］プロパティの表示条件を修正
		246	「(5) ［その他］」の［その他の追加オプション］プロパティの説明に注意を追加
V1.08	2020.11.01	93, 96	「(5) ［最適化］」に以下のプロパティを追加 三角関数演算器が利用可能なライブラリ関数の実行方法 相対分岐命令のコードサイズを削減する
		149	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」に以下のプロパティを追加 CRC の演算結果、および出力アドレスを表示する
		206, 209, 235, 238	「(5) ［最適化］」に以下のプロパティを追加 三角関数演算器が利用可能なライブラリ関数の実行方法 相対分岐命令のコードサイズを削減する
V1.09	2021.11.01	60	「(4) ［出力ファイルの種類と場所］」の［中間ファイル出力フォルダ］プロパティにプロパティの設定の影響についての説明を追加
		93, 207, 236	「(5) ［最適化］」に以下のプロパティを追加 volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスする
		130	「(5) ［最適化］」の［最適化方法］プロパティに備考を追加
		146	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」の［出力開始アドレスのアライメント］プロパティの指定可能値を修正
		182	「(4) ［最適化］」に以下のプロパティを追加 volatile を指定した変数に、変数の型のサイズでアクセスする

Rev.	発行日	改定内容	
		ページ	ポイント
V1.10	2022.12.01	94	「(5) ［最適化］」の ［パイプライン処理を考慮した命令並べ替えを行う］のデフォルトを " 最適化レベルオプションに依存する " に修正
		97	「(5) ［最適化］」の ［ポインタ指示先の型を考慮した最適化を実施する］の指定可能値に追加，デフォルトを以下に修正 最適化レベルオプションに依存する
		145	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」の［出力範囲のメモリの空き領域をデータで充てんする］プロパティの表示条件を修正
		178	「(3) ［オブジェクト］」に以下のプロパティを追加 ストリング操作命令の読み出し開始アドレスを調整する
		184	「(4) ［最適化］」の以下のプロパティを削除 ポインタ指示先の型を考慮した最適化を実施する
		185	「(4) ［最適化］」に以下のプロパティを追加 相対分岐命令のコードサイズを削減する
		210, 239	「(5) ［最適化］」の ［ポインタ指示先の型を考慮した最適化を実施する］の指定可能値に以下を追加。 最適化レベルオプションに依存する
V1.11	2023.12.01	45	表 A.1 に [CRC 演算] ダイアログを追加
		129	「(4) ［リスト］」に以下のプロパティを追加 構造体 / 共用体のメンバ情報を出力する
		132	「(5) ［最適化］」に以下のプロパティを追加 実行開始シンボルより前に配置されている領域を最適化の対象にする
		147	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」に以下のプロパティを追加 CRC 演算
		148 ~151	「(2) ［ヘキサ・フォーマット］」の [CRC 演算結果を出力する] ～［CRC の演算結果、および出力アドレスを表示する］プロパティの表示条件を修正
		267 ~269	CRC 演算 ダイアログを追加
V1.12	2024.11.01	51	「(2) ［CPU］」の［倍精度浮動小数点処理命令を使用する］プロパティのデフォルトを変更
		71	「(10) ［ビルド方法］」に以下のプロパティを追加 パラレル・ビルドでメッセージを各ソース・ファイル／ターゲット毎にグループ化する
		75	「(13) ［その他］」の［その他の追加オプション］プロパティに注意事項を追加
		101	「(7) ［MISRA C ルール検査］」の［ルール・チェック対象外のファイル］プロパティの変更方法を変更
		128, 129	「(4) ［リスト］」の以下のプロパティのデフォルトを変更 シンボル情報を出力する セクションの合計サイズを出力する
		215	「(7) ［MISRA C ルール検査］」の［ルール・チェック対象外のファイル］プロパティの変更方法を変更

CS+ ユーザーズマニュアル
CC-RX ビルド・ツール操作編

発行年月日　2015年 8月 1日　Rev.1.00
　　2024年11月 1日　Rev.1.12

発行　　ルネサス エレクトロニクス株式会社
　　〒135-0061　東京都江東区豊洲3-2-24（豊洲フォレシア）

CS+

RENESAS

ルネサス エレクトロニクス株式会社

R20UT3478JJ0112